

仙台市文化財調査報告書第 403 集

桜ヶ岡公園遺跡Ⅱ

– 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書IX –

2012 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

仙台市文化財調査報告書第 403 集

桜ヶ岡公園遺跡Ⅱ

– 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書IX –

2012 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会



西公園高架橋等Ⅱ区 III a 層上面全景（北西から）



西公園高架橋等 II 区 SX40 (南から)



西公園高架橋等 II 区 SX77 (北から)



西公園高架橋等Ⅰ区 II層上面 SD1周辺（南から）



西公園高架橋等Ⅰ区 VI・VII層完掘全景（南から）



IVa層 SX52出土 一分判金



V層出土 金箔軒平瓦



IVb層出土 金箔飾瓦



IIIb層出土 金箔土師質土器



撲乱出土 虎瓦



IVa層 SK46出土 ガラス製品



西公園高架橋等II区 出土遺物

序 文

仙台市の文化財保護につきまして、日頃から多大なご協力を賜り、まことに感謝にたえません。

さて、当市では、高速鉄道東西線事業を推進し、高速鉄道南北線や、JR、バスと連携した公共交通ネットワークを形成することにより、暮らしやすく環境にやさしい新しい都市づくりを進めております。

高速鉄道東西線の計画路線内には仙台城跡や関連した遺跡があり、さらに新しい遺跡が発見されることも予測されたことから、仙台市教育委員会では事業主体者の仙台市交通局と協議を重ね、平成16～18年度に試掘確認調査を実施し、その結果に基づき本発掘調査を行ってまいりました。このうち桜ヶ岡公園遺跡は、仙台城跡の広瀬川対岸に位置し、平成16年から17年にかけて実施した試掘調査により、平成19年度に新たに遺跡登録され、平成19年度から本格的な発掘調査を実施してきました。これまでの調査では、仙台城跡の対岸に位置する武家屋敷の様相や近代の桜ヶ岡公園の状況を知る為の貴重な資料が得られております。本報告書は平成19・21・22年度の本発掘調査の成果をまとめたもので、高速鉄道東西線関係の本報告書としては9冊目となります。

これまで、先人たちが残してきた貴重な文化遺産を保護し、活用しながら市民の宝として、次の世代に引き継いでいくことは、これから「まちづくり」に欠かせない大切なことであると考えております。ここに報告する調査成果が地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、昨年3月11日の東日本大震災では、仙台市内も大きな被害を受けております。震災から1年を経て、仙台市では震災からの復興に向け、「ともに、前へ仙台～3・11からの再生～」を掲げて、復興計画を進めているところです。そうした中、発掘調査及び調査報告書の刊行に際しまして、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

平成24年3月

仙台市教育委員会

教育長 青沼 一民

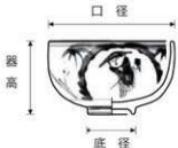
例 言

1. 本書は高速鉄道東西線建設事業に伴い実施された、桜ヶ岡公園遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、仙台市教育委員会が、平成 19・21 年度は国際文化財株式会社、平成 22 年度は大成エンジニアリング株式会社へ委託して実施した。
3. 本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 渡部紀・工藤信一郎・水野一夫の監理のもとに、国際文化財株式会社 山本信夫・土橋尚起・武田芳雅が担当した。
4. 本書の第 3 図の絵図の掲載にあたっては、所蔵機関の許可を得ている。
5. 本調査の実施及び報告書の作成に際し、次の諸氏・機関よりご指導、ご教示、さまざまなご協力を賜った。
記して謝意を表す次第である（敬称略順不同）
松本秀明（東北学院大学） 酒井昌一郎（仙台市博物館）
仙台市交通局 仙台市建設局 仙台市博物館 喬藤報恩会 宮城県図書館
6. 発掘調査に関わる一切の資料は、仙台市教育委員会が保管している。
7. 報告書掲載陶磁器の年代等の確認は佐藤洋（仙台市教育委員会文化財課）の協力を得た。

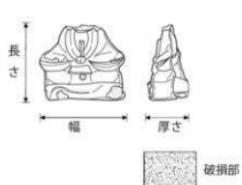
凡 例

1. 本書の土色は、新版標準土色帖（農林水産省農林水産技術会議事務局 1998 年版）に準拠している。
2. 本書中の第 1 図は国土地理院発行の 5 万分の 1 地形図「仙台」と 1 万分の 1 地形図「青葉山」「仙台駅」を合成した。
3. 図中の座標値は日本測地系座標を使用した。座標値は 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災前のものを使用している。
4. 本文図版等で使用した方位は真北を基準としている。
5. 標高値は、海拔高度(T.P)を示している。標高値は 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災前のものを使用している。
6. 遺構図は 1/40 縮尺を基本とした。その他については各図のスケールを参照されたい。
7. 基本層の表記は、表土層からローマ数字用い、遺構堆積土についてはアラビア数字で表記した。
8. 遺構平面図において、■（トーン）は機能時において元位置を保っている礫を示し、裏込め、根固め石はトーンを使用していない。また、遺構断面図においては断面にかかる全ての礫をトーンで示している。
■（トーン）は地山および柱痕を示している。
9. 遺構・遺物の登録・整理及び報告書での表示には、以下の分類と略号を使用した。
SA：柱列跡、SB：建物跡、SD：溝跡、SE：井戸跡、SK：土坑、P：ピット、SX：その他の遺構
F：丸瓦・軒丸瓦、G：平瓦・軒平瓦、H：その他の瓦、I：陶器・瓦質土器・土師質土器、J：磁器、
K：石器・石製品、L：木製品、N：金属製品、P：土製品、X：その他の遺物
10. 遺物実測図は原則として縮尺 1/3 としたが、瓦および木製品の一部（下駄等）は 1/4、金属製品・石製品・土製品は 2/3、錢貨および金属製品の一部（小柄）は原寸で表示した。小柄は左から見た断面を示す。
11. 遺物実測図において、外形線・中心線・稜線は実線、施釉範囲は一点鎖線で表した。中心線が一点鎖線のものは、展開し図上復元したものである。
12. 遺物観察表で陶磁器類の成形技法は、大部分がロクロ成形であるために、他の技法を記載した。法量の記載で（）書きの数字は残存値を示している。
13. 報告書内で使用している尺・寸の長さは「1 尺 = 30.3cm」、「1 寸 = 3.03cm」とした。

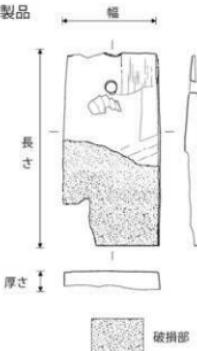
陶磁器 土師質土器 瓦質土器



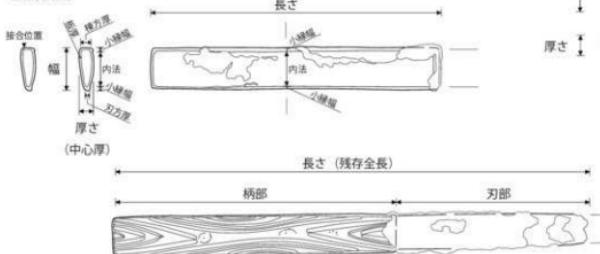
土製品



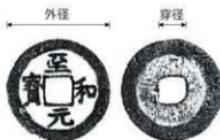
石製品



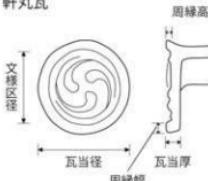
金属製品



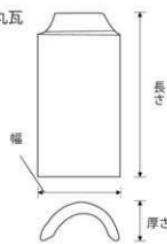
錢貨



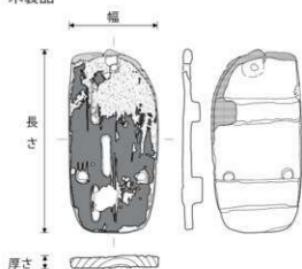
軒丸瓦



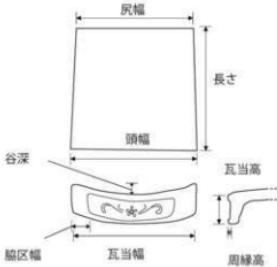
丸瓦



木製品



平瓦 軒平瓦



本文目次

第1章 調査概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査要項	1
第3節 調査概要	3
1 現地調査	3
2 整理作業	3
第2章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	6
第3章 調査方法	10
第1節 調査方法	10
1 現地調査	10
2 整理作業	10
3 遺構名称について	10
第2節 調査区グリッドの設定	11
第4章 基本層序	12
第5章 検出遺構と遺物	21
第1節 西公園高架橋等I区	21
1 VII層上面検出遺構	21
2 II層上面検出遺構	27
第2節 西公園高架橋等II区	38
1 VI・VII層上面検出遺構	38
2 V層上面検出遺構	49
3 IV b層上面検出遺構	74
4 IV a層上面検出遺構	101
5 III b層上面検出遺構	126
6 III a層上面検出遺構	148
第3節 西公園高架橋等I区(排水管部)	166
1 トレンチ1	167
2 トレンチ2	171
3 トレンチ3	174
第6章 自然科学分析	175
第1節 樹種同定	175
第2節 獣骨同定	179
第7章 出土遺物と検出遺構について	188
第1節 出土遺物について	188
1 陶磁器	188

2	瓦質土器	192
3	土師質土器	193
4	金属製品	193
5	出土小柄の製作技法について	193
6	土製品	199
7	木製品	199
8	石製品	200
9	ガラス製品	200
10	瓦	201
11	舗瓦	201
12	出土遺物のまとめ	204
第2節 検出遺構について		205
1	VI・VII層上面検出遺構	205
2	V層上面検出遺構	205
3	IV b 層上面検出遺構	206
4	IV a 層上面検出遺構	206
5	III b 層上面検出遺構	206
6	III a 層上面検出遺構	208
7	II層上面検出遺構	209
8	検出遺構のまとめ	209
第8章 まとめ		211
引用・参考文献		212

挿図目次

第 1 図 調査区位置図	4	第 19 図 SX8 性格不明遺構平面図・断面図	25
第 2 図 河岸段丘分布図・断面模式図	5	第 20 図 SX19 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	26
第 3 図 絵図・地図における調査区周辺	7	第 21 図 SX21 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	27
第 4 図 周辺跡分布図	8	第 22 図 II 層上面遺構配置図	28
第 5 図 これまでの調査地点	9	第 23 図 SA3 柱列跡・SA4 柱列跡・SD1・1号道路状遺構・1号建物跡・1号竹籠平面図	29
第 6 図 グリッド設定図	11	第 24 図 SA3 柱列跡・SA4 柱列跡・SD1・1号道路状遺構・1号建物跡・1号竹籠断面図	31
第 7 図 土層柱状図	13	第 25 図 SD1・1号道路状遺構・1号建物跡・1号竹籠出土遺物	32
第 8 図 西公園高架橋等 I 区壁面土層図	15	第 26 図 SK2 土坑・SK9 土坑・SX3 石敷・SX5 性格不明遺構平面図・断面図	33
第 9 図 西公園高架橋等 II 区壁面土層図 (1)	16	第 27 図 SK6 土坑平面図・断面図	34
第 10 図 西公園高架橋等 II 区壁面土層図 (2)	17	第 28 図 SK7 土坑平面図・断面図	35
第 11 図 西公園高架橋等 II 区壁面土層図 (3)	19	第 29 図 SX6 土坑平面図・断面図	35
第 12 図 VII層上面遺構配置図	21	第 30 図 遺構外出土遺物 (1)	36
第 13 図 SA1 柱列跡平面図・断面図	22	第 31 図 遺構外出土遺物 (2)	37
第 14 図 SA1 柱列跡出土遺物	23	第 32 図 VI・VII層上面検出遺構	38
第 15 図 SA2 柱列跡平面図・断面図	23	第 33 図 SD23 溝跡平面図・断面図	39
第 16 図 SK5 土坑平面図・断面図	24		
第 17 図 SK11 土坑平面図・断面図	24		
第 18 国 SK12 土坑平面図・断面図	25		

第 34 図 SE2 井戸跡平面図・断面図	39
第 35 図 SK53・56・58・59・68・70 土坑平面図	41
第 36 図 SK58・68・70 土坑断面図	42
第 37 図 SK56 土坑出土遺物（1）	43
第 38 図 SK56 土坑出土遺物（2）	44
第 39 図 SK66・SK67・SK72 土坑平面図・断面図	44
第 40 図 SK69 土坑平面図・断面図	45
第 41 図 SK71・SK73 土坑平面図・断面図	45
第 42 図 SK74 ~ 78 土坑平面図・断面図・出土遺物	47
第 43 図 SX47・SX50 性格不明遺構平面図・断面図	48
第 44 図 SX50 性格不明遺構出土遺物	49
第 45 図 V層上面検出遺構	50
第 46 図 SA1 柱列跡平面図・断面図	51
第 47 図 SK47・SK50 土坑平面図・断面図	52
第 48 図 SK52 土坑・SX38 性格不明遺構平面図・断面図	53
第 49 図 SK63 土坑平面図・断面図	53
第 50 図 SK64・65・79 ~ 83 土坑平面図	55
第 51 図 SX64・65・79 ~ 83 土坑断面図	56
第 52 図 SK64 土坑出土遺物	58
第 53 図 SK79 土坑出土遺物（1）	58
第 54 図 SK79 土坑出土遺物（2）	59
第 55 図 SK80 土坑出土遺物	59
第 56 図 SK81 土坑出土遺物	60
第 57 図 SK82 土坑出土遺物	61
第 58 図 SK85 土坑平面図・断面図	62
第 59 図 SX10・SX11 性格不明遺構平面図・断面図	63
第 60 図 SK51 土坑・SX36・SX48 石組遺構平面図	64
第 61 図 SK51 土坑・SX36・SX48 石組遺構断面図	65
第 62 図 SX37 石組遺構平面図・断面図	65
第 63 図 SX49 性格不明遺構平面図・断面図	66
第 64 図 SX49 性格不明遺構出土遺物（1）	67
第 65 図 SX49 性格不明遺構出土遺物（2）	68
第 66 図 SX51 性格不明遺構平面図・断面図	69
第 67 図 SX68 性格不明遺構平面図・断面図	69
第 68 図 V層出土遺物（1）	70
第 69 図 V層出土遺物（2）	71
第 70 図 V層出土遺物（3）	72
第 71 図 V層出土遺物（4）	73
第 72 図 IV b 層上面検出遺構	74
第 73 図 SA3 柱列跡平面図・断面図	75
第 74 図 SD3・4・5 溝跡平面図・断面図	76
第 75 図 SD22 溝跡平面図・断面図	76
第 76 図 SD24 溝跡平面図・断面図	77
第 77 図 SK6 土坑平面図・断面図	77
第 78 図 SD22 出土遺物	78
第 79 図 SK8・9 土坑平面図・断面図	79
第 80 図 SK13・14 土坑平面図・断面図	79
第 81 図 SK29 土坑平面図・断面図・出土遺物	80
第 82 図 SK41 土坑平面図・断面図	81
第 83 図 SK43 土坑平面図・断面図	81
第 84 図 SK41 土坑出土遺物（1）	82
第 85 図 SK41 土坑出土遺物（2）	83
第 86 図 SK43 土坑出土遺物	84
第 87 図 SK44・54・60・61 土坑・SX66 性格不明遺構 平面図・断面図・出土遺物	85
第 88 図 SK55 土坑・SX43 性格不明遺構平面図・断面図	86
第 89 図 SX43 性格不明遺構出土遺物	87
第 90 国 SX3 性格不明遺構平面図・断面図・出土 遺物（1）	88
第 91 国 SX3 性格不明遺構出土遺物（2）	89
第 92 国 SX19 石組遺構平面図・断面図	90
第 93 国 SX26・SX27・SX28 性格不明遺構平面図・断 面図	91
第 94 国 SX40 整地跡平面図・断面図	92
第 95 国 SX44 性格不明遺構平面図・断面図	93
第 96 国 SX77 道路状遺構・SD21 溝跡平面図・断面図	93
第 97 国 IV b 層出土遺物（1）	94
第 98 国 IV b 層出土遺物（2）	95
第 99 国 IV b 層出土遺物（3）	96
第 100 国 IV b 層出土遺物（4）	97
第 101 国 IV b 層出土遺物（5）	98
第 102 国 IV b 層出土遺物（6）	99
第 103 国 IV b 層出土遺物（7）	100
第 104 国 IV a 層上面検出遺構	101
第 105 国 SD16・17 溝跡平面図・断面図	102
第 106 国 SE1 井戸跡平面図	103
第 107 国 SE1 井戸跡断面図	104
第 108 国 SE1 井戸跡出土遺物	105
第 109 国 SK28 土坑平面図・断面図・出土遺物	106
第 110 国 SK31・SK35 土坑平面図・断面図	107
第 111 国 SK42・SK46 土坑平面図・断面図	108
第 112 国 SK46 土坑出土遺物（1）	109
第 113 国 SK46 土坑出土遺物（2）	110
第 114 国 SK49 土坑平面図	110
第 115 国 SK49 土坑断面図・出土遺物（1）	111
第 116 国 SK49 土坑出土遺物（2）	112
第 117 国 SK49 土坑出土遺物（3）	113
第 118 国 SK49 土坑出土遺物（4）	114
第 119 国 SK49 土坑出土遺物（5）	115
第 120 国 SK49 土坑出土遺物（6）	116
第 121 国 SX7 性格不明遺構平面図・断面図	117
第 122 国 SX20 性格不明遺構平面図・断面図	118
第 123 国 SX21 性格不明遺構平面図・断面図	118
第 124 国 SX21 性格不明遺構出土遺物	119
第 125 国 SX33 性格不明遺構平面図・断面図	119
第 126 国 SX42 性格不明遺構平面図・断面図	120
第 127 国 SX46 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	120
第 128 国 SX52 祭祀遺構古錢分布状況	121

第 129 図 SX52 祭祀遺構出土遺物	122
第 130 図 IV a 層出土遺物（1）	123
第 131 図 IV a 層出土遺物（2）	124
第 132 図 IV a 層出土遺物（3）	125
第 133 図 III b 層上面検出遺構	126
第 134 図 SD7・SX18 平面図・断面図	127
第 135 図 SD7 溝跡出土遺物	128
第 136 図 SX18 性格不明遺構出土遺物	129
第 137 図 SD19 潟跡・SK25 土坑平面図・断面図・出土遺物	130
第 138 図 SD20 潟跡・SK36・SK39・SK40 土坑平面図・断面図	131
第 139 図 SD20 潟跡出土遺物	131
第 140 図 SK36 土坑出土遺物	132
第 141 図 SK2 土坑平面図・断面図・出土遺物	132
第 142 図 SK24 土坑平面図・断面図・出土遺物	133
第 143 図 SK26 土坑平面図・断面図	133
第 144 図 SK32 土坑平面図・断面図	133
第 145 図 SK37・SK38 土坑平面図・断面図・出土遺物	134
第 146 図 SK84 土坑平面図・断面図・出土遺物（1）	135
第 147 図 SK84 土坑出土遺物（2）	136
第 148 図 SX1 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物（1）	137
第 149 図 SX1 性格不明遺構出土遺物（2）	138
第 150 図 SX1 性格不明遺構出土遺物（3）	139
第 151 図 SX2 性格不明遺構平面図・断面図	140
第 152 図 SX25 石組遺構平面図・断面図	140
第 153 図 SX25 石組遺構覆り方平面図・出土遺物（1）	141
第 154 図 SX25 石組遺構出土遺物（2）	142
第 155 図 SX25 石組遺構出土遺物（3）	143
第 156 図 SX29 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	143
第 157 図 SX32・SX35・SX39 性格不明遺構平面図・断面図	144
第 158 図 III b 層出土遺物（1）	145
第 159 図 III b 層出土遺物（2）	146
第 160 国 III b 層出土遺物（3）	147
第 161 国 III a 層上面検出遺構	148
第 162 国 SA2 柱列跡平面図・断面図	149
第 163 国 SB1 建物跡平面図・断面図・出土遺物	150
第 164 国 SD1 溝跡平面図・断面図	151
第 165 国 SD10 溝跡平面図・断面図	152
第 166 国 SD11 溝跡平面図・断面図	152
第 167 国 SK3・4 土坑平面図・断面図	153
第 168 国 SK17・SK18 土坑平面図・断面図	154
第 169 国 SX4 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	154
第 170 国 SX12 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	155
第 171 国 SX15 性格不明遺構平面図・断面図	156
第 172 国 SX17 性格不明遺構平面図・断面図	156
第 173 国 SX22 性格不明遺構平面図・断面図	157
第 174 国 SX31 性格不明遺構平面図・断面図	157
第 175 国 III a 層出土遺物（1）	158
第 176 国 III a 層出土遺物（2）	159
第 177 国 III a 層出土遺物（3）	160
第 178 国 III a 層出土遺物（4）	161
第 179 国 I 層・II 層・擾乱出土遺物（1）	162
第 180 国 I 层・II 层・擾乱出土遺物（2）	163
第 181 国 鮫瓦（1）	164
第 182 国 鮫瓦（2）	165
第 183 国 西公園高架橋等 I 区（排水管部）トレーン 手配図	166
第 184 国 トレーン I VII 層上面遺構平面図・断面図	167
第 185 国 トレーン I III a2 層上面遺構断面図	168
第 186 国 トレーン I III a2 層上面遺構平面図	169
第 187 国 トレーン I III a1 層上面遺構平面図	170
第 188 国 トレーン I III a1 層上面遺構平面図	171
第 189 国 トレーン I II 层上面遺構平面図	172
第 190 国 SK10 土坑出土遺物	173
第 191 国 トレーン 2 出土遺物	173
第 192 国 トレーン 3 平面図	174
第 193 国 桜ヶ岡公園遺跡出土木製品の顕微鏡写真 1	180
第 194 国 桜ヶ岡公園遺跡出土木製品の顕微鏡写真 2	181
第 195 国 桜ヶ岡公園遺跡出土木製品の顕微鏡写真 3	182
第 196 国 桜ヶ丘公園遺跡の動物遺体	186
第 197 国 漢州城磁器青花鳳凰文皿	192
第 198 国 桜ヶ岡公園遺跡出土の小柄（1）	195
第 199 国 桜ヶ岡公園遺跡出土の小柄（2）	197
第 200 国 桜ヶ岡公園遺跡出土の小柄（3）	198
第 201 国 鮫瓦定位名称	202
第 202 国 鮫瓦	203
第 203 国 VI・VII 層上面遺構分布図	205
第 204 国 V 層上面遺構分布図	206
第 205 国 IV b 層上面遺構分布図	207
第 206 国 IV a 層上面遺構分布図	207
第 207 国 III b 層上面遺構分布図	208
第 208 国 III a 层上面遺構分布図	208
第 209 国 桜ヶ岡公園遺跡遺構変遷図	210

表目次

第 1 表 遺跡地名表	8
第 2 表 調査区基本土層注記表(1)	13
第 3 表 調査区基本土層注記表(2)	14
第 4 表 桜ヶ岡公園遺跡出土木製品樹種同定結果(1)	176
第 5 表 桜ヶ岡公園遺跡出土木製品樹種同定結果(2)	177
第 6 表 桜ヶ岡公園遺跡出土木製品器種別集計表	178
第 7 表 桜ヶ岡公園遺跡出土動物遺体種名表	183
第 8 表 桜ヶ岡公園遺跡出土動物遺体種名表(1)	184
第 9 表 桜ヶ岡公園遺跡出土動物遺体種名表(2)	185
第 10 表 出土遺物集計表	189
第 11 表 产地別出土遺物集計表	189
第 12 表 機能別出土遺物集計表	191
第 13 表 瓦質土器出土集計表	192
第 14 表 土師質土器出土集計表	193
第 15 表 小柄鋤型表	199
第 16 表 金属製品出土集計表	199
第 17 表 土製品出土集計表	200
第 18 表 木製品出土集計表	201
第 19 表 石製品出土集計表	201
第 20 表 検出遺構の方位の移り変わり	209

写真図版目次

図版 1 西公園高架橋等 I 区 全景	215
図版 2 西公園高架橋等 I 区 VII 層上面(1)	216
図版 3 西公園高架橋等 I 区 VII 層上面(2)	217
図版 4 西公園高架橋等 I 区 VI 層上面(3)・II 層上面(1)	218
図版 5 西公園高架橋等 I 区 II 層上面(2)	219
図版 6 西公園高架橋等 I 区 II 層上面(3)	220
図版 7 西公園高架橋等 II 区 全景(1)	221
図版 8 西公園高架橋等 II 区 全景(2)	222
図版 9 西公園高架橋等 II 区 壁面(1)	223
図版 10 西公園高架橋等 II 区 壁面(2)	224
図版 11 西公園高架橋等 II 区 VI・VII 層上面(1)	225
図版 12 西公園高架橋等 II 区 VI・VII 層上面(2)	226
図版 13 西公園高架橋等 II 区 VI・VII 層上面(3)	227
図版 14 西公園高架橋等 II 区 V 層上面(1)	228
図版 15 西公園高架橋等 II 区 V 層上面(2)	229
図版 16 西公園高架橋等 II 区 V 层上面(3)	230
図版 17 西公園高架橋等 II 区 V 层上面(4)	231
図版 18 西公園高架橋等 II 区 V 层上面(5)	232
図版 19 西公園高架橋等 II 区 VI・VII 層上面(1)	233
図版 20 西公園高架橋等 II 区 IV b 層上面(2)	234
図版 21 西公園高架橋等 II 区 IV b 层上面(3)	235
図版 22 西公園高架橋等 II 区 IV b 层上面(4)	236
図版 23 西公園高架橋等 II 区 IV b 层上面(5)	237
図版 24 西公園高架橋等 II 区 IV b 层上面(6)	238
図版 25 西公園高架橋等 II 区 IV b 层上面(7)	239
図版 26 西公園高架橋等 II 区 IV b 层上面(8)	240
図版 27 西公園高架橋等 II 区 IV a 层上面(1)	241
図版 28 西公園高架橋等 II 区 IV a 层上面(2)	242
図版 29 西公園高架橋等 II 区 IV a 层上面(3)	243
図版 30 西公園高架橋等 II 区 IV a 层上面(4)	244
図版 31 西公園高架橋等 II 区 IV a 层上面(5)	245
図版 32 西公園高架橋等 II 区 IV a 层上面(6)・III b 层上面(1)	246
図版 33 西公園高架橋等 II 区 III b 层上面(2)	247
図版 34 西公園高架橋等 II 区 III b 层上面(3)	248
図版 35 西公園高架橋等 II 区 III b 层上面(4)	249
図版 36 西公園高架橋等 II 区 III b 层上面(5)・III a 层上面(1)	250
図版 37 西公園高架橋等 II 区 III a 层上面(2)	251
図版 38 西公園高架橋等 II 区 III a 层上面(3)	252
図版 39 西公園高架橋等 II 区 III a 层上面(4)	253
図版 40 西公園高架橋等 I 区 排水管部(1)	254
図版 41 西公園高架橋等 I 区 排水管部(2)	255
図版 42 西公園高架橋等 I 区 VII 层上面遺構出土遺物(1)	256
図版 43 西公園高架橋等 I 区 VII 层・II 层上面遺構出土遺物・遺構外出土遺物(1)	257
図版 44 西公園高架橋等 I 区 遺構外出土遺物(2)	258
図版 45 西公園高架橋等 I 区 遺構外出土遺物(3)	259
図版 46 西公園高架橋等 II 区 VI・VII 层上面遺構出土遺物(1)	260
図版 47 西公園高架橋等 II 区 VI・VII 层上面遺構出土遺物(2)・V 层上面遺構出土遺物(1)	261
図版 48 西公園高架橋等 II 区 V 层上面遺構出土遺物(2)	262
図版 49 西公園高架橋等 II 区 V 层上面遺構出土遺物(3)	263
図版 50 西公園高架橋等 II 区 V 层上面遺構出土遺物(4)	264
図版 51 西公園高架橋等 II 区 V 层上面遺構出土遺物(5)・遺構外出土遺物(1)	265
図版 52 西公園高架橋等 II 区 V 层上面遺構外出土遺物(2)	266
図版 53 西公園高架橋等 II 区 V 层上面遺構外出土遺物(3)	267
図版 54 西公園高架橋等 II 区 V 层上面遺構外出土遺物(4)	268
図版 55 西公園高架橋等 II 区 V 层上面遺構外出土遺物(5)・IV b 层上面遺構出土遺物(1)	269
図版 56 西公園高架橋等 II 区 IV b 层上面遺構出土遺物(2)	270
図版 57 西公園高架橋等 II 区 IV b 层上面遺構出土遺物(3)	271
図版 58 西公園高架橋等 II 区 IV b 层上面遺構出土遺物(4)	272
図版 59 西公園高架橋等 II 区 IV b 层上面遺構出土遺物(5)	273

- | | |
|---|-----|
| 图版 60 西公园高架桥等 II 区 IV b 层上面道桥出土遗物
（6）・道桥外出土遗物（1）····· | 274 |
| 图版 61 西公园高架桥等 II 区 IV b 层道桥外出土遗物（2）··· | 275 |
| 图版 62 西公园高架桥等 II 区 IV b 层道桥外出土遗物（3）··· | 276 |
| 图版 63 西公园高架桥等 II 区 IV b 层道桥外出土遗物（4）··· | 277 |
| 图版 64 西公园高架桥等 II 区 IV b 层道桥外出土遗物（5）··· | 278 |
| 图版 65 西公园高架桥等 II 区 IV b 层道桥外出土遗物（6）··· | 279 |
| 图版 66 西公园高架桥等 II 区 IV b 层道桥外出土遗物
（7）・IV a 层上面道桥出土遗物（1）····· | 280 |
| 图版 67 西公园高架桥等 II 区 IV a 层上面道桥出土遗物（2）··· | 281 |
| 图版 68 西公园高架桥等 II 区 IV a 层上面道桥出土遗物（3）··· | 282 |
| 图版 69 西公园高架桥等 II 区 IV a 层上面道桥出土遗物（4）··· | 283 |
| 图版 70 西公园高架桥等 II 区 IV a 层上面道桥出土遗物（5）··· | 284 |
| 图版 71 西公园高架桥等 II 区 IV a 层上面道桥出土遗物（6）··· | 285 |
| 图版 72 西公园高架桥等 II 区 IV a 层上面道桥出土遗物（7）··· | 286 |
| 图版 73 西公园高架桥等 II 区 IV a 层上面道桥出土遗物
（8）・道桥外出土遗物（1）····· | 287 |
| 图版 74 西公园高架桥等 II 区 IV a 层道桥外出土遗物（2）··· | 288 |
| 图版 75 西公园高架桥等 II 区 IV a 层道桥外出土遗物（3）··· | 289 |
| 图版 76 西公园高架桥等 II 区 IV a 层道桥外出土遗物（4）··· | 290 |
| 图版 77 西公园高架桥等 II 区 IV a 层上面道桥出土遗物
（5）・III b 层上面道桥出土遗物（1）····· | 291 |
| 图版 78 西公园高架桥等 III b 层上面道桥出土遗物（2）··· | 292 |
| 图版 79 西公园高架桥等 III b 层上面道桥出土遗物（3）··· | 293 |
| 图版 80 西公园高架桥等 III b 层上面道桥出土遗物（4）··· | 294 |
| 图版 81 西公园高架桥等 III b 层上面道桥出土遗物（5）··· | 295 |
| 图版 82 西公园高架桥等 III b 层上面道桥出土遗物（6）··· | 296 |
| 图版 83 西公园高架桥等 III b 层上面道桥出土遗物（7）··· | 297 |
| 图版 84 西公园高架桥等 II 区 III b 层上面道桥出土
遗物（8）・道桥外出土遗物（1）····· | 298 |
| 图版 85 西公园高架桥等 II 区 III b 层道桥外出土遗物（2）··· | 299 |
| 图版 86 西公园高架桥等 II 区 III a 层上面道桥出土
遗物・道桥外出土遗物（1）····· | 300 |
| 图版 87 西公园高架桥等 II 区 III a 层道桥外出土遗物（2）··· | 301 |
| 图版 88 西公园高架桥等 II 区 III a 层道桥外出土遗物（3）··· | 302 |
| 图版 89 西公园高架桥等 II 区 III a 层道桥外出土遗物（4）··· | 303 |
| 图版 90 西公园高架桥等 II 区 I 层・II 层・混乱出土遗物（1） | 304 |
| 图版 91 西公园高架桥等 II 区 I 层・II 层・混乱出土遗物（2） | 305 |
| 图版 92 西公园高架桥等 II 区 I 层・II 层・混乱出土遗物（3） | 306 |
| 图版 93 西公园高架桥等 II 区 I 层・II 层・混乱出土遗物（4）・
西公园高架桥等 I 区（排水管部）トレンチ 2 出土遗物··· | 307 |
| 图版 94 烧结资料・漳州窑····· | 308 |

第1章 調査概要

第1節 調査に至る経緯

平成 11 年 5 月、仙台市教育委員会と当時、事業主管局であった仙台市都市整備局との間で、高速鉄道東西線建設事業に伴う遺跡の取り扱いについての第 1 回目の協議が持たれた。その後、事業主管局が仙台市交通局に移され、平成 15 年度より仙台市教育委員会との本格的な協議が行われた。その結果、高速鉄道東西線事業計画予定路線内における周知の遺跡及び遺跡範囲外の状況把握のため、先ず確認調査及び試掘調査を実施し、その結果を踏まえて本調査を実施する箇所を決定し、これを基に発掘調査を順次、事業計画に沿いながら進めていくことが両者間で確認された。

以上の協議事項に基づき、平成 16 年度より確認調査及び試掘調査を開始した。平成 16 年度の対象地域は、高速鉄道東西線西部の川内地区、青葉山地区、西公園地区で、18 箇所の調査区を設定し、総面積 448m² の調査を実施した。

平成 17 年度の調査対象地域は仙台城跡及びその周辺地区、川内 A 遺跡隣接地区、西公園地区で、22 箇所の調査区を設定し、総面積 421m² の調査を実施した。このうち、西公園地区（この確認・試掘調査での便宜的区割りの D 区）は、平成 16 年 9 月 6 日から 9 月 17 日までの間に、1 箇所 (70m²) の試掘調査が行われ、翌平成 17 年 9 月 12 日から 9 月 27 日の間、3 箇所 (51m²) の試掘調査が実施された。その結果、近世を中心とした時期の遺構・遺物の存在が確認されたことから、平成 19 年 1 月に「桜ヶ岡公園遺跡」として登録された。これを受け、仙台市教育委員会は仙台市交通局と協議を行い、平成 19 年度に桜ヶ岡公園遺跡のトンネル・駅部 I 区、大銀杏部、交番部の本調査、平成 20 年度には桜ヶ岡公園のトンネル・駅部 II 区の本調査を実施している。このうち、駅部 I ・ II 区、大銀杏部、交番部の調査成果については、仙台市文化財調査報告書 384 集で報告している。平成 21 年度はトンネル部東側を対象に、7 月 13 日から、平成 22 年度は橋梁部を対象に 5 月 25 日から本調査を開始した。

第2節 調査要項

調査要項

遺跡名：桜ヶ岡公園遺跡（宮城県遺跡登録番号 01562）

所在地：仙台市青葉区桜ヶ岡公園 1-1 地内

調査原因：高速鉄道東西線路線工事に伴う事前調査

調査主体：仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課）

調査担当：文化財調査係 主査 原河英二・主査 佐藤洋・主査 広瀬真理子（平成 19 年度）

文化財調査係 主任 渡部紀・主査 加藤隆則・文化財教諭 志賀雄一（平成 21 年度）

文化財調査指導係 主任 渡部紀・文化財教諭 菊地貴博（平成 22 年度）

調査組織：

平成 19 年度 国際航業株式会社

主任調査員 守谷健吾（平成 19 年 5 月 10 日～平成 19 年 8 月 15 日）

調査員 栗木 寧（平成 19 年 5 月 10 日～平成 19 年 8 月 15 日）

第2節 調査要項

調査員 関 美男（平成 19 年 5 月 10 日～平成 19 年 8 月 15 日）
平成 21 年度 国際文化財株式会社

主任調査員 土橋尚起（平成 21 年 7 月 13 日～平成 22 年 1 月 6 日）
調査員 田中美穂（平成 21 年 7 月 13 日～平成 22 年 1 月 6 日）
調査員 水上匡彦（平成 21 年 7 月 13 日～平成 22 年 1 月 6 日）
平成 22 年度 大成エンジニアリング株式会社
調査員 蒲 明男（平成 22 年 5 月 25 日～平成 22 年 6 月 10 日）
調査補助員 土沼章一（平成 22 年 5 月 25 日～平成 22 年 6 月 10 日）
調査期間：平成 19 年 5 月 10 日～平成 19 年 8 月 15 日（平成 19 年度現地調査）
平成 21 年 7 月 13 日～平成 22 年 1 月 6 日（平成 21 年度現地調査）
平成 22 年 5 月 26 日～平成 22 年 6 月 10 日（平成 22 年度現地調査）
調査面積：西公園高架橋・広瀬川橋梁橋台部 I 区：248m²
西公園高架橋・広瀬川橋梁橋台部 II 区：789m²
西公園高架橋・広瀬川橋梁橋台部 I 区（排水管部）：25m²

報告書作成要項

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：文化財課 調査指導係主任 渡部紀・文化財教諭 菊地貴博（平成 22 年度）

文化財課 調査指導係主任 工藤信一郎・主事 水野一夫（平成 23 年度）

調査組織：国際文化財株式会社

調査員 土橋尚起（平成 22 年 5 月 10 日～平成 23 年 3 月 11 日、
平成 23 年 6 月 13 日～平成 23 年 10 月 1 日）
調査員 山本信夫（平成 23 年 11 月 1 日～平成 24 年 3 月 9 日）
調査補助員 武田芳雅（平成 23 年 6 月 13 日～平成 24 年 3 月 9 日）
作成期間：平成 22 年 5 月 10 日～平成 23 年 3 月 11 日
平成 23 年 6 月 13 日～平成 24 年 3 月 9 日

第3節 調査概要

1 現地調査

平成19年度調査は西公園高架橋等Ⅰ区を対象とし、平成19年5月10日から8月15日までの期間に実施した。調査面積は248m²である。調査区現況は西公園プール西側の駐車場となっており、初めにアスファルト・碎石層を重機で掘削・除去した。その後人力による遺構調査を行い、排土は人力で調査用地内に仮置きした。調査区内で2面の遺構面を確認し、各面毎に記録をとりながら調査を実施した。

平成21年度調査は西公園高架橋等Ⅱ区を対象とし、平成21年7月13日から平成22年1月15日までの期間に実施した。調査面積は789m²である。調査区現況は西公園プール東側のタイル敷き遊歩道となっており、初めに碎石・遊歩道タイルを除去し、盛土を重機で掘削した。その後、人力による遺構調査を行い、排土はベルトコンベアを併用して調査用地内に仮置きした。各工区で複数面の遺構面を確認し、各面毎に記録をとりながら調査を実施した。調査区を縱断する水道管が確認されたため、その範囲をベルトとして残して調査を進めた。調査の工程上、便宜的に対象範囲を1区～3区に分けて実施した。3区は東西線本体工事工程との関係で、先に引き渡す必要があつたため先行して調査し、9月9日に調査を終了した。1区・2区は、9月初旬より遺構検出を開始し、調査区内で6面の遺構面を確認し、順次調査を行った。12月22日までに概ねの作業を終了し、平成22年1月6日には重機による井戸の断ち割りを実施した。その後、埋め戻しと撤収工を開始し、1月15日に引渡し完了となった。

平成22年度調査は西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）を対象とし、平成22年5月26日から6月9日までの期間に実施した。調査面積は25m²である。調査区現況は西公園プール西側の駐車場および遊歩道となっており、初めに上部アスファルト・碎石層を重機で掘削・除去した。その後人力による遺構調査を行い、排土は人力で調査用地内に仮置きした。排水管敷設のための人坑部分を対象に3箇所のトレーニングを設定し調査を行った。トレーニング1では2面の遺構面を確認した。トレーニング2では1面の遺構面および、近世と考えられる整地層を確認した。トレーニング3は深くまで削平され、近世の遺構は確認されなかった。

調査区には平成17年度に設定した東西線関連遺跡（川内地区）のグリッド原点を基準に10mメッシュのグリッドを設置し、計測作業には、トータルステーションを使用し、写真測量を併用して遺構平面・立面・断面等の図面を作成した。遺物は通し番号と出土地点・日付等を記した遺物カードを用いて記録・取り上げを行った。写真撮影は35mmモノクロ・リバーサルフィルムおよびデジタルカメラを用いて撮影・記録を行なった。

2 整理作業

遺物量はコンテナ（内法54.5cm×33.6cm×15cm）368箱である（西公園高架橋等Ⅰ区98箱、西公園高架橋等Ⅱ区264箱、西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）6箱）。近世～近現代の陶磁器、瓦、瓦質土器が主体である。

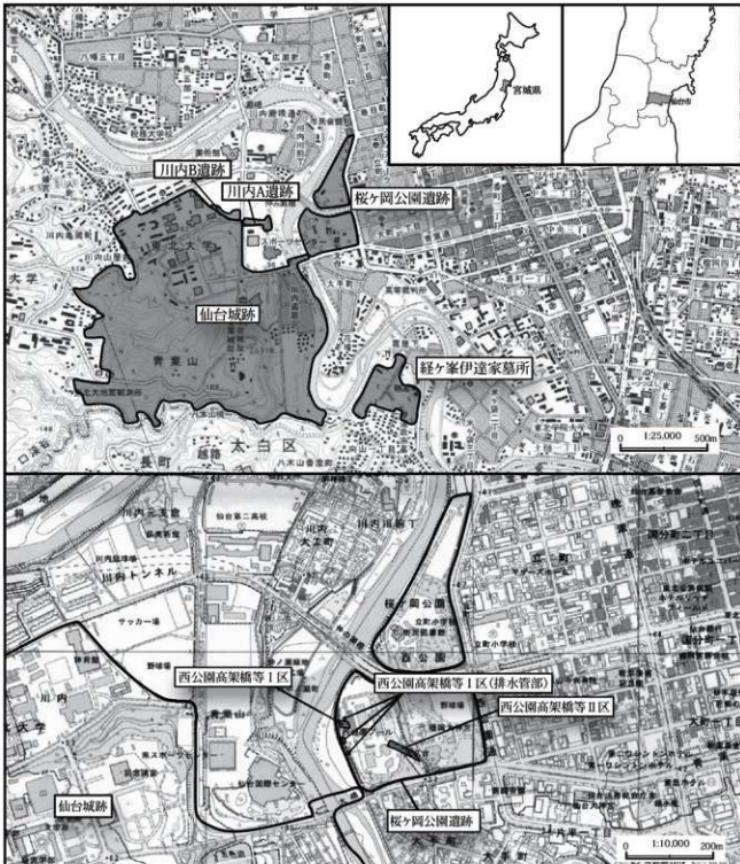
遺物は洗浄を行い、終了したものは十分な乾燥の後に、接合関係を確認し注記・接合を行った。注記は、宮城県遺跡番号（01562）、遺物番号の記述を基本とした。注記・接合作業の後、遺物の全点撮影を行い、写真管理ソフトを使用して抽出遺物候補の絞込み、産地別集計等を行った。それらの中で時期の判別可能な破片など主要な遺物は選別し遺物の登録を行った。遺物写真は1000万画素級のデジタル一眼レフを用いて撮影した。陶器、磁器は、見込み、高台内文様、高台の形態の撮影を行った。撮影した遺物の点数は個別写真で600カットにおよんだ。

遺構平面図は現地で計測したデータを福井コンピュータ社製のブルートレンド上で編集して、DXFデータ形式で保存した。DXFデータをAI形式に変換した後に、変換で生じる線種の不具合などを修正した上で、編集を行った。

第2節 調査要項

手実測、写真計測による土層断面図は、それぞれデジタルトレース化した。

遺物実測図にはオルソイメージャー（完全正射投影・深焦点撮影システム）で撮影したデジタル写真を用い実測図を作成した。また、アドビシステムズ社製のアプリケーション「Photoshop」を用いてデジタル正射投影写真から、文様を抽出した。トレース作業には同社のアプリケーション「Illustrator」を用いたデジタルトレースを実施し、同時に「Photoshop」で抽出した文様を貼り込む作業を行った。レイアウト作業は同社のアプリケーション「InDesign」を用いた。



第1図 調査区位置図

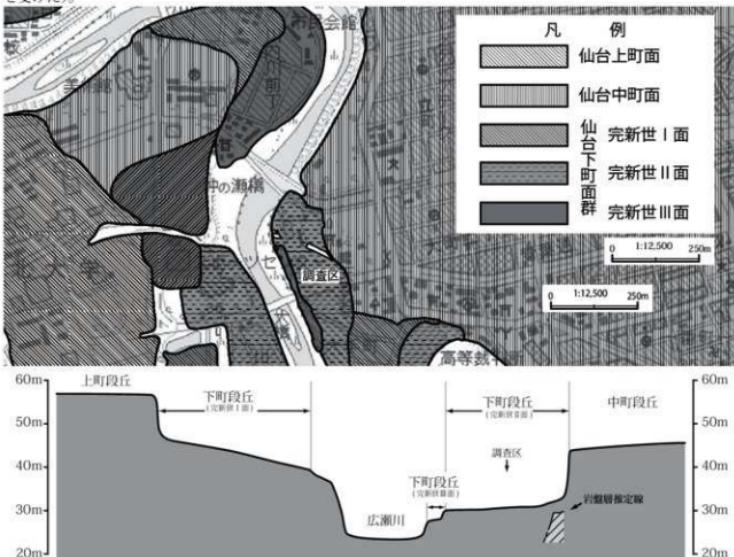
第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

桜ヶ岡公園遺跡は仙台中町面、仙台下町面に所在し、今回報告する平成19年・21年・22年度調査地点は仙台下町面群【完新世Ⅲ面～完新世Ⅲ面】上に位置する。平成21年度調査区のすぐ東側に標高差約10mをはかる仲の町崖があり、その上面は仙台中町面となる。広瀬川の形成した河岸段丘は上位より青葉山面群・台ノ原面群・仙台中町面・仙台下町面【完新世Ⅰ面～Ⅲ面】の順に7面に区分される。仙台下町面の形成時期は完新世Ⅰ面が約9100～9500年前、完新世Ⅱ面が約2010年前とされており、完新世Ⅲ面は完新世Ⅱ面の形成から近世期の間に形成されたものと考えられる（松本・熊谷2010）。

調査範囲の標高は約32m、崖面に近い箇所では32.5mを測る。東側の仲の町崖から15m西側の地点では黄褐色粘土質シルト層の河岸段丘堆積物（ローム）下層に、礫層（標高30.2m）および岩盤層（標高29.6m）が確認された。しかし、岩盤層は崖面から23m離れた深掘地点では標高25.6mでも確認できなかった。

のことから、広瀬川が侵食と堆積を繰り返していた様相が伺える。崖付近では比較的深い位置で礫層と岩盤層が確認され、少し離れると厚く粘土質シルト層が堆積していることから、①広瀬川の浸食が深くまで至り、②縁辺に近い部分に厚く氾濫土（黄褐色粘土質シルト層）が堆積し、③本流が西側に移り現在の場所まで後退して平坦面を形成する、という地形の形成過程が推察される（侵食～堆積の過程については、東北学院大学松本教授のご教示を受けた）。



第2図 河岸段丘分布図・断面模式図（松本・熊谷2010の図を一部改変して使用した）

第2節 歴史的環境

桜ヶ岡公園遺跡の位置は仙台城本丸跡から北に約850m、二の丸跡から東北東へ約700mに位置する。遺跡の範囲は東側の西公園通り、西側の広瀬川、南側の大町から仙台市博物館に抜ける大町通り、北側の仙台市民会館に囲まれた一帯をさし、ほぼ現在の西公園と重複する範囲である。桜ヶ岡公園遺跡周辺には仙台城跡（第4図-2）、川内A遺跡（第4図-3）、川内B遺跡（第4図-4）等が所在する。

慶長5年（1600）以降に伊達政宗が仙台城の縄張り、城下の町割りを行う。今回報告する調査区は、仲の町堀の西側にあたり、中間・御小人屋敷として使われたことが、仙台城関連の絵図資料等からわかる。これらの資料をもとに、西公園高架橋等II区のおおよその変遷を追ってみると、まず正保2・3年の「奥州仙台城下絵図」（第3図-1）では「中間屋敷」として記されている。堀の上の「侍屋敷」には比較的上級の武士が住んでいたのに対し、武家奉公人の居住域であったことが推定できる。なお、西公園高架橋等II区の西側にあたる広瀬川緑辺部の、西公園高架橋等I区および西公園高架橋等II区（排水管部）は、近世を通じて表記がないか、川原の記述が見られるのみである。

次に寛文4年（1664）の「仙台城下絵図」（第3図-2）では「御小人衆」の表記が見られ、以後は安政年間の絵図（第3図-4「安政補正改革仙府絵図」）までこの表記が認められる。元禄4・5年（1691・1692）の「仙台城下五盤掛絵図」（第3図-3）以降は、「御小人衆」の西側に「御作事方会所」の表記がみられるようになる。宝曆・明和年間（1751～1771）の「仙台城下絵図」（第3図-5上図）では、「御小人衆」の敷地に挟まれて「伊藤善郎」「丹野大助」「御坊主」の名が記され、これは足軽級の身分と考えられる。天明6年～寛政元年（1786～1789）の「仙台城下絵図」も同様である。

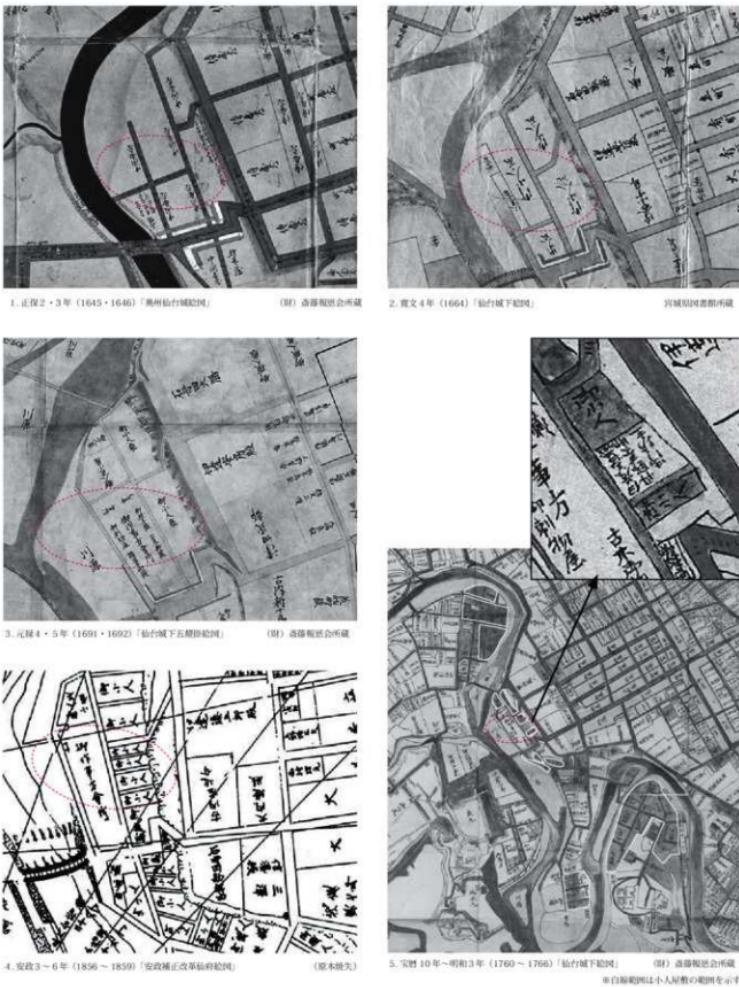
西公園高架橋等II区の南西側は、御小人衆居宅の隣地に相当し、宝曆・明和の絵図では「古木御蔵」の記述があり、元禄の絵図には「諸道具御蔵」「御剣物小屋」、安政の絵図では「御紙蔵」も記されていて、上記「作事方会所」などを含め、各工房や倉庫群の一定区域が存在したと考えられる。ただし、この部分は今回の調査範囲外と思われる。

御小人・中間はいわゆる武家奉公人とされ、脇差のみ帯刀を許され、足銭の下に位置づけられていた。御小人屋敷は当該地区のほかに、川内・御靈屋下・米ヶ袋にある（第3図-5下図白線範囲）。

また、天保6年（1835）の洪水では、広瀬川の増水により大橋・中の瀬橋・評定橋・長町橋が流れ、川沿いの被災地家屋として鍛町・中の瀬町・川内・琵琶首と共に「小人町」の表記が見られる（『天保七年凶年日記』『仙台市史』通史編5近世3：P136）。

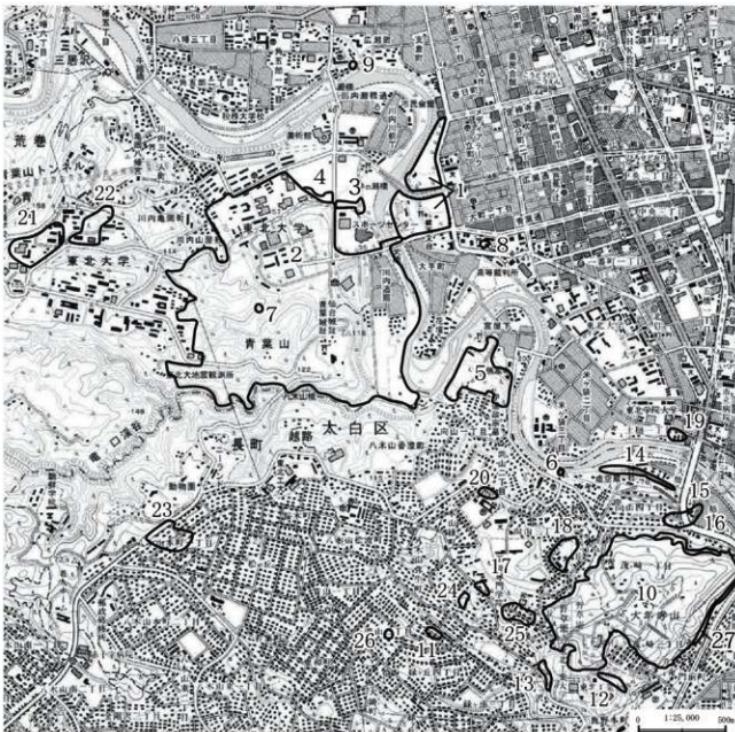
西公園高架橋等II区の東側の堀上は武家屋敷地となっていた。仙台市旧天文台、桜ヶ岡大神宮、源吾茶屋の付近では、寛文の頃（17世紀中頃）は片倉小十郎が、延宝～享保年間（17世紀後半から18世紀前半）にかけては津田民部、宝曆年間（18世紀後半）以降は古内要人などの屋敷地が絵図で記されている（第1次調査地点（駅部・大銀杏部・交番部）：仙台市2011b）。北側の旧西公園野球場（現在は公園として再整備されている）付近は藩政時代を通して亘理伊達氏（伊達安房）の屋敷地であった（第2次調査地点および第3次調査地点：仙台市2007b・仙台市2008）。中ノ瀬通りを挟んでさらに北側の地区の北半部は、藩政時代を通して涌谷伊達氏（伊達安藝）の屋敷地であり、南半部は寛文～元禄年間（17世紀代）は石母田氏、享保年間（18世紀前半）以降は柴田氏の屋敷地となっていた（第4次調査地点：仙台市2010a）。

明治時代以降は、「中ノ町」「仲ノ町」「中ノ町川前丁」といった地名と、「宮城流木会社」「早坂製鉄所」といった会社の存在がまとめられる。昭和20年の仙台空襲で崖上の仙台市公会堂などと共に焼失し、戦後は一時期住宅地として使われていたが、昭和37年に西公園市民プールを含む公園用地として再整備され、現在にいたる。



第3図 絵図・地図における調査区周辺（赤破線範囲が調査区推定位置）（高倉ほか 1994・2005）

第2節 歷史的環境



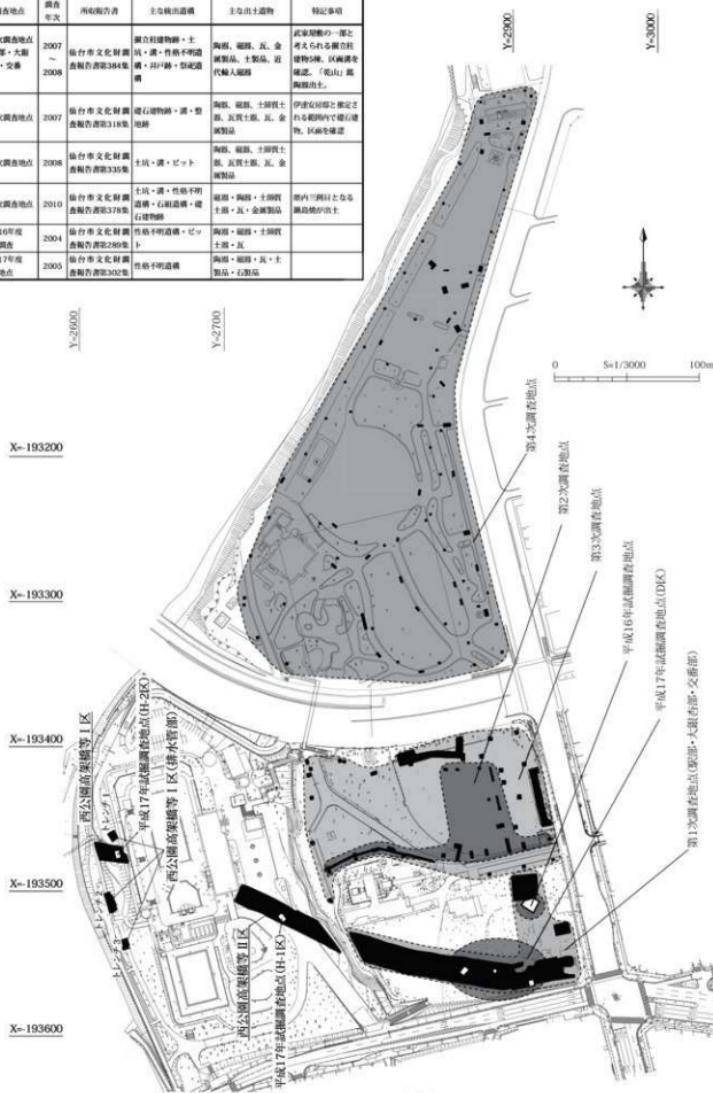
第4図 周辺遺跡分布図

番号	遺跡名稱	時代	所在地	性質
1	城ヶ崎公園道路	縄文・近世	青葉区城ヶ崎公園	武家街道・散布地
2	仙台城跡	中世・近世	青葉区川内・荒巻	城跡跡
3	川内A遺跡	縄文・近世	青葉区青嶺山2丁目	武家街道・散布地
4	川内B遺跡	縄文・近世	青葉区青嶺山	武家街道
5	耕ヶ峯(伊達家所)	近世	青葉区裏屋下	墓所
6	長徳寺跡	中世	青葉区向山2丁目	板碑
7	山内古墳群	中世	青葉区川内・荒巻	板碑
8	片平山古神宮の石碑	中世	青葉区片平1丁目	板碑
9	不動尊文永十年板碑	中世	青葉区広瀬町	板碑
10	渡ヶ崎城跡	中世	太白区渡ヶ崎1丁目	城跡跡
11	青山二ノ目遺跡	奈良・平安	太白区青山2丁目	横穴墓
12	渡ヶ崎城穴墓群	古墳末・奈良	太白区二ノ目	横穴墓
13	二ツ沢城穴墓群	古墳	太白区二ノ目	横穴墓
14	愛宕山櫛穴墓群A	古墳	太白区向山4丁目他	櫛穴墓 地点

第1表

遺跡地名表

調査地点	調査年次	所用報告書	主な出土遺物	特記事項
第1次調査地(伊勢・大崩 宇治谷・安藤 園)	2007 ~ 2008	「府市文化財 監修報告書384号」	鐵立柱建物跡、土 器、陶、滑石、骨格等の國 葬品、羽衣、須冠、須冠 形耳輪、鉄輪、須冠形 耳輪、輪状耳環等	本調査は、既存の立柱 式古墳から、その構造を 復元するための調査で、國 葬品は、羽衣、須冠、須冠 形耳輪、輪状耳環等が 出土。
第2次調査地	2007	「府市文化財 監修報告書318号」	鐵立柱建物跡、骨、質 板、須冠、土器、瓦、金の耳 環等	本調査は、既存の立柱 式古墳から、その構造を 復元するための調査で、國 葬品は、須冠、土器、質 板、瓦質土器、瓦、金の耳 環等が出土。
第3次調査地	2008	「府市文化財 監修報告書335号」	土坑、鑿、ヒット 鉄、須冠、土器、瓦、金の耳 環等	本調査は、既存の立柱 式古墳から、その構造を 復元するための調査で、國 葬品は、土坑、鑿、ヒット 鉄、須冠、土器、瓦、金の耳 環等が出土。
第4次調査地	2010	「府市文化財 監修報告書370号」	土坑、溝、竹柄不明 遺物、石器、須冠、須冠 形耳環等	本調査は、既存の立柱 式古墳から、その構造を 復元するための調査で、國 葬品は、土坑、溝、竹柄不明 遺物、石器、須冠、須冠 形耳環等が出土。
平成10年度 平成10年度	2004	「府市文化財 監修報告書262号」	滑石明鏡遺物、ヒツ 鉄、須冠、土器等	本調査は、既存の立柱 式古墳から、その構造を 復元するための調査で、國 葬品は、滑石明鏡遺物、ヒツ 鉄、須冠、土器等が出土。
平成14年度 調査地点	2008	「府市文化財 監修報告書362号」	滑石明鏡遺物、瓦、土 器等	本調査は、既存の立柱 式古墳から、その構造を 復元するための調査で、國 葬品は、滑石明鏡遺物、瓦、土 器等が出土。



第5図 これまでの調査地点

第1節 調査方法

桜ヶ岡公園遺跡調査について

桜ヶ岡公園遺跡を対象とした高速鉄道東西線路線及び西公園駅舎建設に伴う発掘調査は、今回報告するトンネル部調査を含め平成19年度から平成22年度にかけて第1次調査として実施している。その他、仙台市建設局百年の杜推進部公園課が担当する西公園再整備事業に伴う調査が第2次調査から第4次調査として実施されている（第5図）。

第2次調査は、桜ヶ岡大神宮北側の旧野球場を対象とした試掘確認調査として実施した結果、近世の武家屋敷や近代の旧立町小学校に関わる遺構・遺物が良好な状態で確認された。第3次調査は、第2次調査で確認された遺構のうち工事掘削の影響を受ける範囲について本調査を実施している。第4次調査は、公園北半部において園内施設の老朽化に伴う新設工事により実施している。各調査成果については、発掘調査報告書にまとめられ刊行されている。

第3章 調査方法

第1節 調査方法

1 現地調査

掘削作業は、現地表である西公園プールの盛土層（1層）を重機で除去し、近世の堆積であるⅢ層以下は人力掘削にて調査を実施した。計測作業は、日本測地系座標に基づいて設置された基準点から、今回の調査で必要な位置に新点を設置し、グリッドの設定及び、遺構の計測・遺物出土地点の計画を行った。使用機材はトータルステーション：TOPCON社GPT7000、電子平板：福井コンピュータ社BlueTrend Vを使用した。

写真撮影は、作業開始前、遺構検出状況、土層断面、遺物出土状況、遺構完掘状況、全景写真を35mm一眼レフカメラを使用してカラーリバーサル及びモノクロの2種類のフィルムで撮影した。また、補助として500万画素以上のデジタルカメラで、調査写真と同一カットのほか、作業状況等を撮影した。また、調査区の全景撮影を高所作業車を使用して撮影を行った。

2 整理作業

出土遺物は、調査区毎に1番から取り上げ番号を付し、遺物カードに調査区・出土地点（グリッド・遺構No.）・層位・内容・出土年月日等の情報を記載した。

整理作業では、出土遺物を水洗し十分乾燥させた後、遺物カードの内容を注記し、接合を行った。破片の接合には、セメダインC及びパラロイドB72を使用した。接合作業後、遺物の器種、産地等を分類しながら破片数を数え、出土遺構や土層の性格を判断できる主要遺物を抽出し、遺物の登録を実施した。欠損部は、必要に応じてプライトンを芯材とし、モビニール、エレホン等の樹脂を用いて充填・復元を行った。遺物写真は、1000万画素級のデジタル一眼レフカメラを用いて、正面のほか、見込み、高台内文様等必要に応じて複数の方向から撮影を実施した。遺物実測は、外形及び断面を実測・トレースを行った。染付等の文様は、オルソイメージヤー（完全正射影・深焦点撮影システム）の撮影画像を、デジタル処理して使用した。遺物のデジタルトレース及び編集にはAdobe社製Illustratorを、画像処理には同社のPhotoShopを使用した。

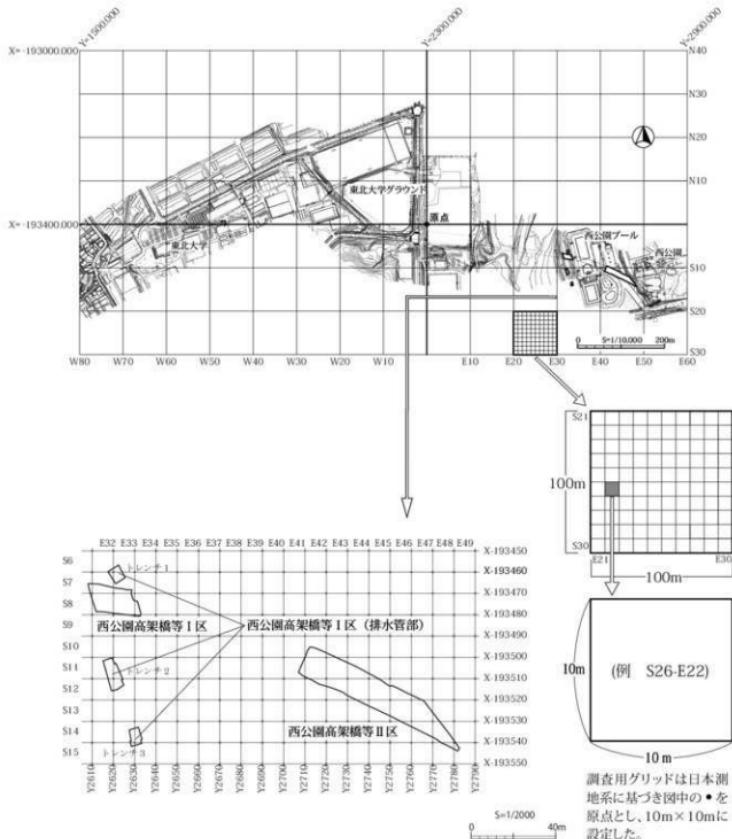
遺構平面図・断面図は、現場で計測・描画した図面データをAdobe社製Illustratorで編集・調整を行い作成した。また、遺構・遺物の図版、写真図版のレイアウト及び報告書の編集作業にはAdobe社製InDesignを使用した。

3 遺構名称について

遺構番号は、遺構種別毎、検出順に1番から通し番号を付した。遺構の種類を表す略号は凡例に示したとおりである。平成19年度調査、平成21年度調査、平成22年度調査でそれぞれ個別に番号を付している。

第2節 調査区グリッドの設定

高速鉄道東西線計画路線に係わる青葉山地区、川内地区、西公園地区の全域を網羅するグリッドが既に設定されており、今回の調査もそのグリッドに準拠して調査を実施した。日本測地系 X=193400m, Y=2300m の座標点を原点として、10m 単位の方眼を設定し、東西南北それぞれの方向へ E1・E2…、N1・N2…のように方位記号と番号を順に付した。S-N 方向の番号と E-W 方向の番号 2 つを組み合わせ、N1-W6 のようにグリッド名を設定した。



第6図 グリッド設定図

第4章 基本層序

確認された基本層序は西公園高架橋等II区の結果からI層からVII層の大別7層にわけられる。I層およびII層は近現代の盛土・整地層で、西公園高架橋等I区で遺構を検出している。III層からV層は近世の盛土・整地層で、西公園高架橋等II区および西公園高架橋等I区（排水管部）で確認されている。西公園高架橋等II区ではIII層において2面、IV層において2面の遺構面を検出し、V層上面とあわせて5面の整地面を確認した。VI層およびVII層は自然堆積層で、VII層が下町段丘の河岸段丘堆積物であり、その上面にあるVI層は近世の整地前の旧表土と考えられる。VI層は西公園高架橋等II区で部分的に確認され、V層による整地前の掘り込みを検出した。西公園高架橋等I区、西公園高架橋等I区（排水管部）ではVI層は確認されなかった。VII層上面で確認した遺構も、本来はVI層上面から掘りこまれた遺構と思われる。以下、各地区的様相を記す。

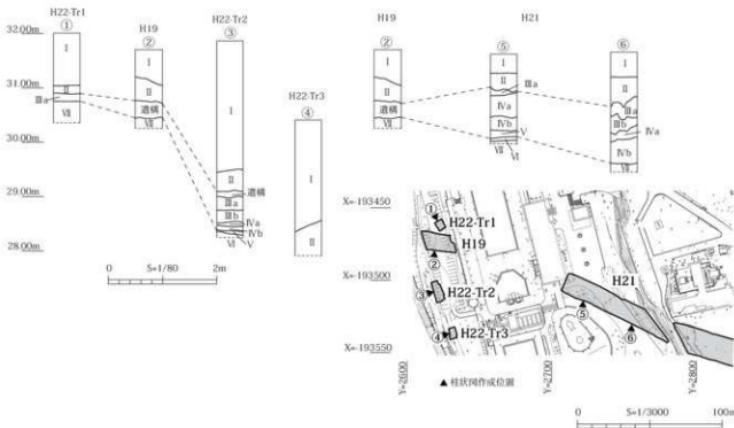
西公園高架橋等I区においては、近世の整地土は大部分が近代以降の整地の際に削平されているものと思われ、I層・II層・VII層の3層が確認された。I層は戦後におけるブルー駐車場造成のための盛土層と考えられ、層厚は70～130cmを測る。II層は近代以降の盛土整地層と考えられ、層厚は20～50cmを測る。近代遺構の建物跡・溝跡などの遺構はII層上面で確認された。VII層は広瀬川河岸段丘堆積物のうちの黄褐色シルト層で、上面で近世の可能性のある遺構が検出されている。西公園高架橋等I区でのVII層確認面の標高は31m前後である。

西公園高架橋等II区においては、近世の整地層は良好な状態で遺存していた。遺構面はIII a層上面、III b層上面、IV a層上面、IV b層上面、V層上面、VI層・VII層上面の6面で確認された。III a層は調査区の北西側でI層・II層に削平されているところがあるが、全体として均一に堆積しており、層厚は40～50cm。調査区中央部のもつとも厚い箇所で80cmを測る。III b層は層厚20～30cmを測り、III a層より薄く、ほぼ調査区全域でみとめられる。調査区中央部では約70cmの厚さがある。

IV a層は層厚15～50cmを測り、ほぼ調査区の全域で認められる。層の上面はゆるく南側に傾斜しており、約50cmの比高差がある。IV b層は層厚50～70cmを測り、ほぼ調査区の全域で認められる。調査区北側では7層の細分層からなる版築状堆積がみられる。この版築状堆積は第5章で述べるSX40の付近で確認できる。その南側は約15cmの段がある。さらによるやかに南側に傾斜しており、段差部分から約20cmの比高差がある。V層は層厚15～20cmを測り、ほぼ調査区の全域で認められる。層の上面はゆるく南側に傾斜しており、約30cmの比高差がある。

西公園高架橋等II区では、調査区の壁面において遺構や地面の窪みに別の整地土を埋めたような部分もみられた。調査区内ではこれらの平面プランを確実に把握出来なかつたことから、基本上層とは別に①～⑩の番号を付けている。調査区南東部の南壁（第10図：C断面図）では落ち込み状の①～④がある。①～③はピット状をなし、④は整地からの窪み状をなす。調査区中央部南壁（第10図：D断面図）において、⑤はIV a層から、⑥はV層から土坑状の窪みをなす。調査区北部の西壁（第10図：F断面図）においても土坑状の窪みをなす⑦がみられた。調査区東西ベルト北壁（第11図：G断面図）では、⑧は土坑状をなし、⑨の窪みはIV a層整地に伴うものかもしれない。東西ベルト南壁（第11図：H断面図）ではIV a層から壁状の線をなす⑩があり、直下にはIV b層から切るSK41もある。同じような位置で土坑がつくられた可能性がある。調査区南北ベルト東壁（第11図：I断面図）では、⑪～⑬の土坑状の落ち込みがみられる。また、⑭～⑯の層では、⑯の堆積土にブロック状の崩落したような痕跡が見られ、⑯～⑰は広く窪んだような土層を示していて、複数の大型土坑などが埋められた可能性もある。V層上面で検出された土坑群（p55 第50図参照）など、不整形を呈する土坑が多く見られる位置でもある。南北ベルト西壁（第11図：J断面図）では、ピット状の窪、土坑状の窪、⑯、整地に伴うと思われる⑰が見られる。

西公園高架橋等I区（排水管部）は3箇所のトレンチによる調査を行った。トレントではII層上面とIII a層上



第7図 土層柱状図

西園高架橋等Ⅱ区基本層序土層注記

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
I	10YR2/2 黒褐色	シルト	なし	なし	瓦礫多量 黃褐色土粒少量 細粒色シルトとの混合土
II	10YR5/6 黄褐色	シルト	あり	あり	黄褐色土粒・珪藻土粒・珪藻5～10cm以下の細色多量
III a1	10YR5/1 浅灰色	シルト	なし	あり	珪藻土粒・珪藻5～10cm以下の細少量
III a2'	2.5Y6/4 にぶい黄色	シルト	あり	ややあり	黄褐色土粒・珪藻5～10cm以下の細少量
III a3	7.5YR5/1 浅灰色	砂質シルト	なし	ややあり	珪藻土粒・珪藻5～10cm以下の細少量
III a4	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	あり	ややあり	珪5cm以下の中少量
III b1	10YR4/1 浅灰色	シルト	なし	あり	砂質多量
III b2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	あり	ややあり	炭化物粒・燒土粒少量 硅1～3cmの礫少量
III b3	10YR1/1 黑褐色	シルト	あり	ややあり	荷物シルト・燒土粒・白色粒子少量
III b4	10YR3/2 黑褐色	砂質シルト	なし	あり	褐色シルト・燒土粒・白色粒子少量
III b5	7.5YR5/1 浅灰色	砂質シルト	なし	あり	にぶい黄褐色ブロックやや多量 硫化鉄 硫化物粒少量
III b6	10YR4/1 浅灰色	砂質シルト	なし	ややあり	
III b7	10YR4/1 浅灰色	シルト	あり	ややあり	
III b8	7.5YR5/1 浅灰色	粘土質シルト	あり	あり	炭化物粒・燒土粒少量 硅1～3cmの礫少量
III b9	2.5Y5/4 黄褐色	砂質シルト	なし	あり	炭化物粒・燒土粒少量 硅1～3cmの礫少量
IV a1	10YR5/2 灰黃褐色	砂質シルト	なし	あり	
IV a2	10YR4/2 灰黃褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	
IV a3	2.5Y6/4 にぶい黄色	シルト	あり	あり	
IV a4	2.5Y5/2 灰黃褐色	砂質シルト	あり	ややあり	炭化物粒・燒土粒少量 硅1～3cmの礫少量
IV a5	10YR4/2 灰黃褐色	砂質シルト	なし	あり	
IV a6	2.5Y6/4 にぶい黄色	粘土質シルト	あり	あり	不純物少なく均質な整地層
IV a7	10YR3/2 黑褐色	砂質シルト	あり	あり	
IV a8	10YR3/1 黑褐色	シルト	あり	あり	
IV a9	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	あり	あり	
IV b1	10YR4/2 灰黃褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	炭化物粒・燒土粒少量 硅1～3cmの礫少量
IV b2	10YR5/2 灰黃褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	
IV b3	2.5Y6/6 明黄褐色	シルト・質粘土	あり	あり	
IV b4	10YR4/2 灰黃褐色	粘土質シルト	あり	あり	
IV b5	2.5Y6/3 オリーブ褐色	シルト質粘土	なし	あり	硅5cm以下の礫少量
IV b6	7.5YR5/1 浅灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	
IV b7	10YR5/2 灰黃褐色	粘土質シルト	あり	あり	
V 1	2.5Y5/4 黑褐色	シルト質粘土	あり	あり	硅5cm以下の礫少量
V 2	7.5Y3/2 黑褐色	粘土質シルト	あり	あり	
V 3	10YR3/2 黑褐色	シルト	あり	ややあり	硅5cm以下の礫少量
V 4	10YR5/2 灰黃褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然体積層(近世以前の田表土)
V 5	10YR4/2 灰黃褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然地盤層(段丘面)
V 6	10YR5/6 黄褐色	シルト質粘土	あり	あり	

第2表 調査区基本土層注記表 (1)

面で遺構を検出している。その下はⅦ層自然堆積層となる。トレンチ2では、Ⅲa層上面で遺構を検出している。その下はⅣ層の整地層が大別2層、細別5層確認された。トレンチ3は全面削平されており、遺構・整地層は確認できていない。西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）のトレンチ2で確認された近世の整地層は、西公園高架橋等Ⅰ区・西公園高架橋等Ⅱ区に比べて約2m近く低い箇所で確認されている（第7図）。

西公园高架桥第Ⅱ区①~⑩土质注释

種名	学名	土 質	粘性	じりり	備 考	
①	I 10VR4/1	黑褐色	シルト	ややあり	あり 3cm 以下 の 濕少量	
②	I 10VR4/2	灰 黑褐色	砂質シルト	なし	ややあり 1 - 3cm 以下の 濕少量	
③	I 10VR3/2	黑褐色	シルト	なし	ややあり 1 - 3cm 以下の 濕少量	
④	I 10VR4/3	灰 黑褐色	砂質シルト	なし	ややあり 1 - 3cm 以下の 濕少量	
⑤	I 25Y3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり 1cm 以下の 濕少量	
⑥	I 25Y3/2	黑褐色	砂質シルト	なし	ややあり 1cm 以下の 濕少量	
⑦	I 25Y3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり 1cm 以下の 濕少量	
	I 10VR4/2	灰 黑褐色	砂質シルト	なし	ややあり 1 - 3cm の 硬化物 ブロック 1cm 以下の 濕少量	
⑧	2	25Y3/2	灰 黑褐色	砂質シルト	なし	ややあり 1 - 3cm の 硬化物 ブロック 少量
3	10VR5/2	灰 黑褐色	砂質シルト	なし	ややあり 白色粒子 植物	
4	10VR4/2	灰 黑褐色	砂質シルト	なし	ややあり 白色粒子 植物 1cm 以下の 濕少量	
1	10VR4/2	灰 黑褐色	シルト	ややあり	あり 硬化物 濕量	
2	10VR3/3	暗褐色	シルト	ややあり	あり 硬化物 濕量	
3	10VR4/3	灰 黑褐色	シルト	ややあり	あり 硬化物 濕量	
⑨	1	25Y4/1	暗灰色	砂質シルト	なし	ややあり 10cm 以下の 濕多量 硬化物 少量
⑩	1	10VR5/3	灰 黑褐色	シルト	ややあり ややあり 硬化物 濕量	
11	1	10VR3/2	黑褐色	シルト	ややあり ややあり 土壌粒子 植物 1cm 以下の 濕少量	
12	1	10VR3/2	黑褐色	シルト	ややあり あり 約 3 - 5cm の 暗褐色シルト ブロック 多量	
13	1	10VR3/3	灰 黑褐色	シルト 黃質	なし 約 1 - 3cm の 濕少量	
2	10Y4/2	灰 黑褐色	砂質シルト	なし	ややあり 黑褐色シルト ブロック 1cm 以下の 濕少量	
1	10VR5/3	灰 黑褐色	砂質シルト	なし	ややあり 1 - 3cm の 濕少量	
2	10Y4/2	灰 黑褐色	砂質シルト	なし	ややあり 1 - 3cm の 濕少量	
3	25Y5/2	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり 黑褐色シルト ブロック 多量 硬化物 少量	
4	25Y5/4	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり 黑褐色シルト ブロック 多量	
5	10Y4/2	灰 黑褐色	砂質シルト	なし	ややあり 1 - 3cm の 濕少量	
6	10VR4/3	灰 黑褐色	砂質シルト	なし	ややあり 1cm 以下の 濕多量	
7	25Y5/2	暗褐色	シルト 黃質	あり ややあり		
1	10Y4/1	灰 黑褐色	シルト	なし	あり 10cm より 多量	
2	25Y5/2	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり 1 - 3cm の 濕少量	
3	25Y3/1	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり 5cm 以下 の 濕多量	
4	25Y5/2	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり 5 - 10cm の 濕少量	
5	25Y4/1	暗褐色	粘土砂質土	あり ややあり 黑褐色の 植物 に 多量 纖 5cm 以下の 濕多量		
1	25Y3/1	黑褐色	シルト	ややあり	あり 硬化物 濕量 1cm 以下の 濕少量	
2	25Y5/2	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり 10cm 以下の 濕多量	
3	10Y4/1	灰 黑褐色	シルト 黃質	なし	ややあり 10cm 以下の 濕少量	
⑩	1	25Y3/2	黑褐色	砂質シルト	なし	ややあり 1cm 以下の 濕少量 硬化物 少量
11	1	10VR4/3	灰 黑褐色	シルト	ややあり あり 白色粒子 植物 1cm 以下の 濕少量	
12	1	25Y3/1	黑褐色	シルト	ややあり あり 硬化物 濕量 1cm 以下の 濕少量	
13	1	10VR5/3	灰 黑褐色	シルト 黃質	なし 約 1 - 3cm の 濕少量	

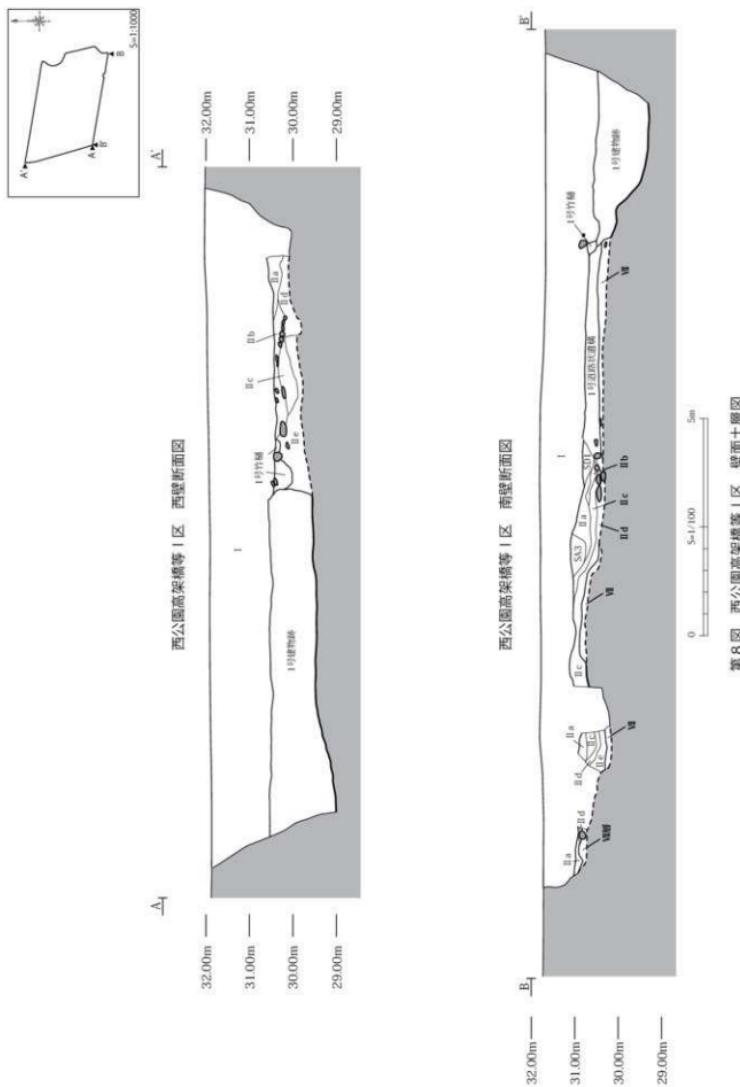
西公園高架橋等1区基本層序土層注記

属名	土色	土質	粘性	しまり	備考	
					瓦融多量	瓦融少量
I	10YR2/8 黑褐色	シルト質	なし	なし	黄褐色土粒・ 粘土粒	黄褐色土粒・ 粘土粒
II a	10YR6/8 明褐色	砂質シルト	あり	あり	黄褐色土粒・ 砂粒	黄褐色土粒・ 砂粒
II b	10YR6/8 明褐色	シルト	なし	あり	粘化物粒・ 砂土粒	粘化物粒・ 砂土粒
II c	10YR4/4 褐色	シルト	なし	あり	粘化物粒・ 砂土粒	粘化物粒・ 砂土粒
II d	10YR4/3 にふく黄褐色	砂質シルト	なし	あり		
II e	10YR4/4 褐色	シルト	なし	あり		
II f	10YR4/4 褐色	砂質シルト	なし	あり		
VI	10YR5/4 にふく黄褐色	砂質	なし	ややあり	自然堆積層(段丘耕層)	砂質と1~3cm程度の疊かなる

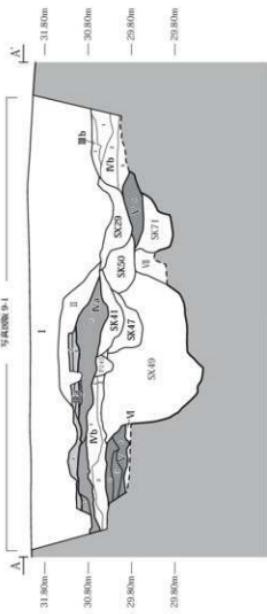
西公园高架桥等1区（排水管部）基本届序

層名	土 色	土 質	粘性	しまり	備 考
I	10YR2/2	褐紅色	シント	なし	褐紅多種。黃褐色土色少種。暗褐色シルトとの混合土
II	10YR5/6	黃褐色	砂	あり	あり 成化物土質 粘少量
III a	10YR4/1	褐灰色	粘土	なし	あり 3~5cmの細少量 往1~3mmの炭化物粒子微量 砂質シルトブロック少量
IV a1	10YR4/1	褐紅色	粘土質シルト	あり	あり 成化物土質 往5~10cm前後の薄少量
IV a2	10YR3/1	褐紅色	粘土質シルト	なし	あり 成化物土質 往5cm前後 IVa2薄少量
IV a3	10YR4/2	灰褐紅色	粘土質シルト	あり	あり 成化物土質 暗褐色土色ブロック微量 往5cm前後 IVa3薄少量
IV a4	10YR5/6	灰褐紅色	粘土質シルト やや砂質	あり	なし 下層にSY7/2灰白色土質シルト層約1cm堆積 10YR4/1褐紅色粘土シルトとの混合土
IV b	10YR5/1	褐紅色	粘土質シルト やや砂質	あり	10YR6/8明黄色ブロック 非褐色鉄分 往2~3cmの砂礫多量
VII	2.5Y5/3	黃褐色	シント	なし	自然堆積層

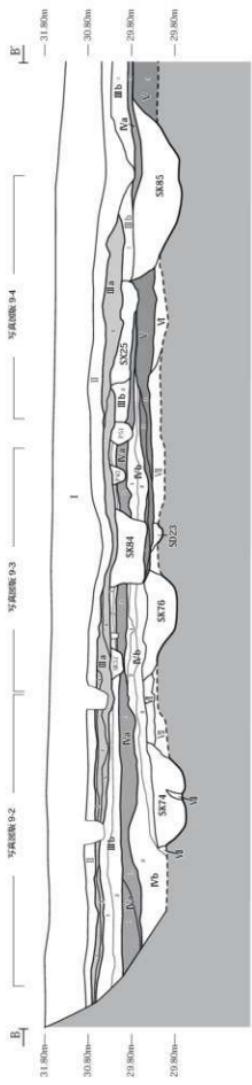
第3表 調査区基本土層注記表（2）



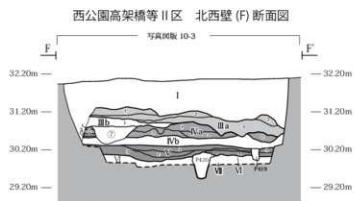
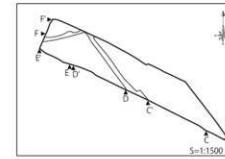
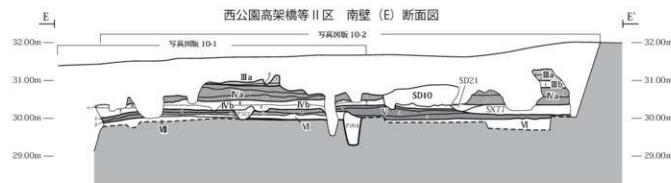
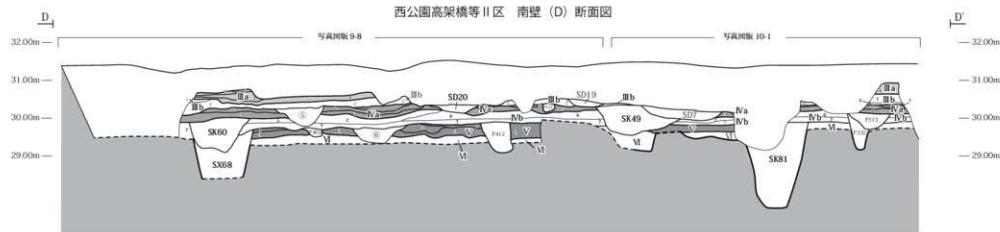
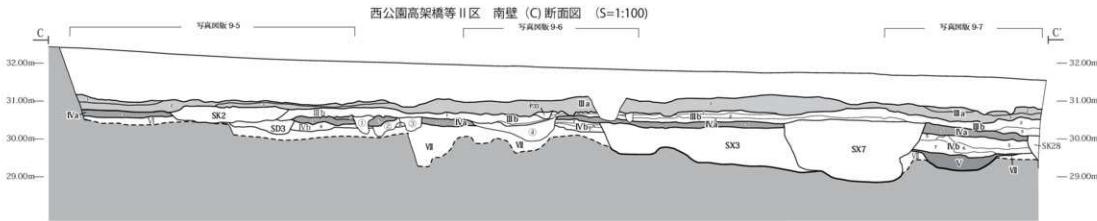
西公園高架橋等II区 北壁(A) 斷面図



西公園高架橋等II区 北壁(B) 断面図

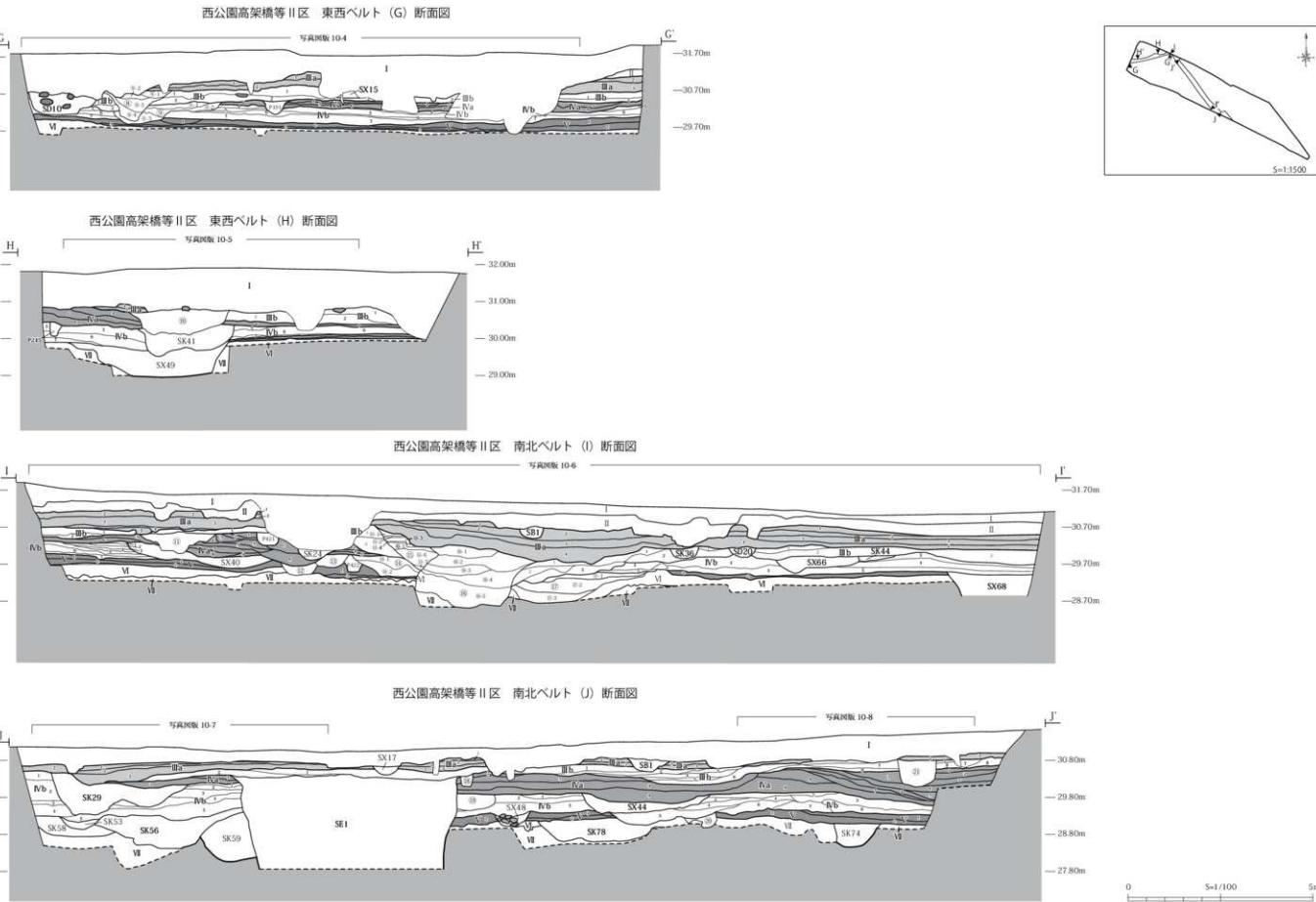


第9図 西公園高架橋等II区 望面土層図(1)



0 $S=1:100$ 5m

第 10 図 西公園高架橋等 II 区 壁面土層図 (2)



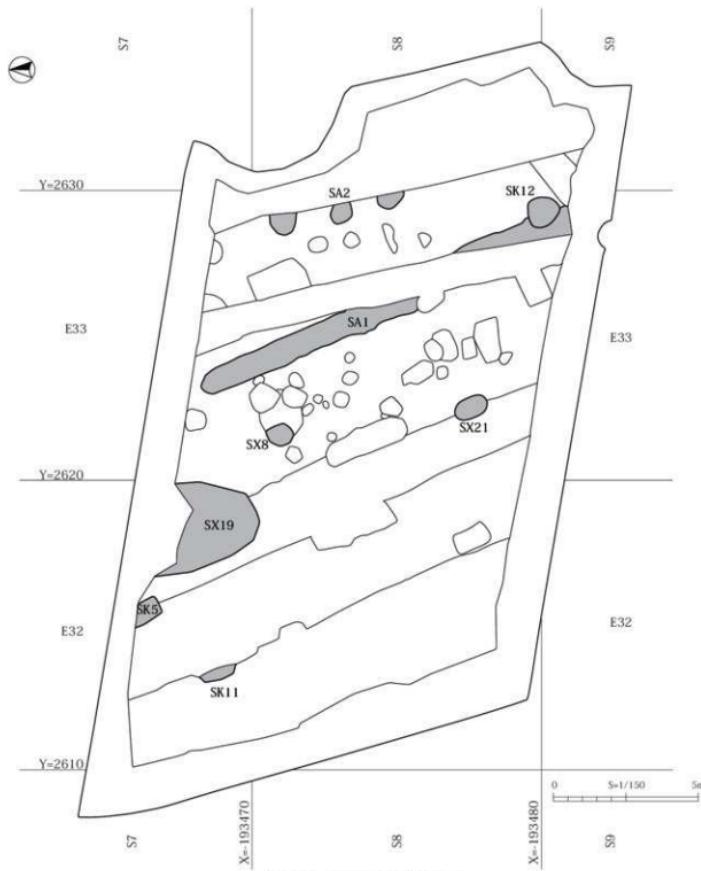
第11図 西公園高架橋等II区 壁面土層図(3)

第5章 検出遺構と遺物

第1節 西公園高架橋等Ⅰ区

1 VII層上面検出遺構

VII層上面で検出された遺構は、柱列跡2列、土坑6基である。直上には近代の盛土整地層であるⅡ層が分布する。出土した遺物の年代から近世の遺構面と考えられる。



第12図 VII層上面遺構配置図

第1節 西公園高架橋等I区

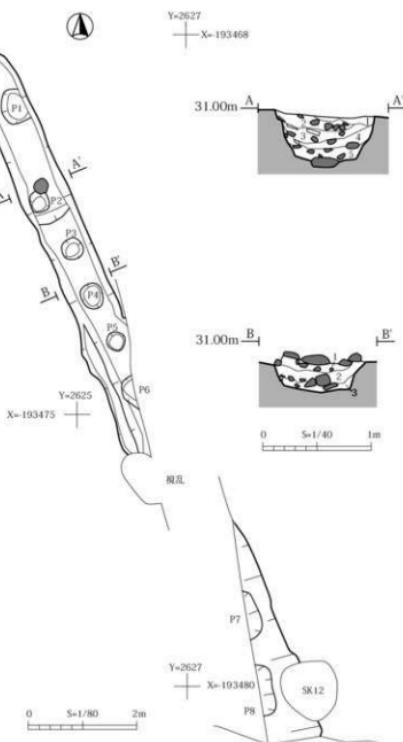
1) SA1柱列跡 (第13～14図、図版2-3～2-5、3-1)

S6-E33 グリッドに位置する。北西から南東方向に直線的に延びる布掘り状の溝の底面に8基の柱穴が並ぶ。主軸方位はN-25°-Wを示す。残存範囲の中央部を搅乱に削平され、南東端でSK12と重複し、SK12より古い。南東側は調査区外へ延びる。P1～P8において柱痕は確認されなかったが、P2の北側で根石と思われる平石が検出されている。

残存する溝の規模は、長さ約13.97m、上端幅約83cm、下端幅約65cm、深さ約26～42cmを測る。柱間の寸法は、91cm(P1～P2間)・54cm(P2～P3間)・46cm(P3～P4間)・47cm(P4～P5間)・46cm(P5～P6間)であり、P3からP6の間で1尺5寸(45.9cm)である他は間隔にばらつきがある。また、P7とP8については立ち上がり部分の検出にとどまり、柱間寸法は判然としない。

溝の断面形は逆台形を呈し、底面はやや起伏する。堆積土は5層からなり、1層から3層、5層は砂質シルト、4層はシルトである。ピットの規模は長軸約35～64cm、短軸約34～46cm、深さ約8～14cmを測る。ピットの断面形はP1～P5は逆台形を呈し、底面は平坦である。P6～P8は残存状態が悪く、判然としない。

遺物は18世紀後半から19世紀代の陶器(小野相馬・大堀相馬等)、19世紀中頃以前の磁器(肥前・瀬戸美濃等)、瓦、瓦質土器、土師質土器が出土している。



番号	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	なし
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし 径5cm以下の疊多量
3	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	なし 径5cm以下の疊少量
4	10YR3/4	暗褐色	シルト	なし	ややあり にせい黄褐色砂質シルト・灰黄褐色砂質シルトブロック 炭化物・桃土少量
5	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	ややあり 径1cm以下の疊多量

第13図 SA1柱列跡平面図・断面図

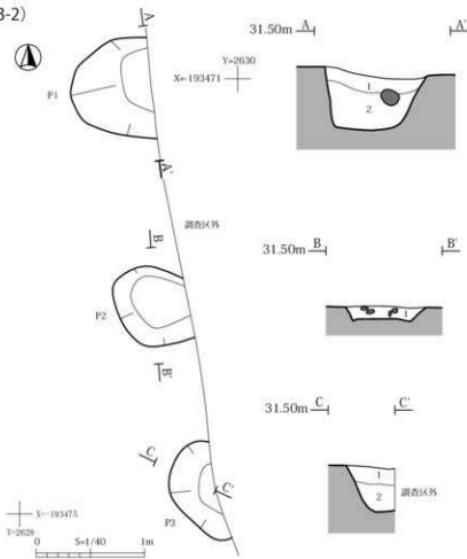
図版番号	写真図版番号	層位	種類	器種	部位	出土	法量(cm)	产地	時期	文様・備考	登録番号
1	42-1	2層	陶器	皿	口縁～底部	密	3.4 (13.4) 3.9	大瓶相馬	19世紀前半	鉄船	I-4
2	42-2	2層	磁器	端反側	口縁～底部	密	5.2 (9.5) (3.6)	瀬戸・美濃	19世紀前半	花唐草文	J-1
3	42-3	3層	軒平瓦							調水瓦	G-1

第14図 SA1柱列跡出土遺物

2) SA2柱列跡 (第15図、図版3-2)

S6-E33 グリッドに位置する。北西から南東方向に延びる柱列跡である。残存する規模は、総長 473cm を測り、柱間の寸法は 180 ~ 212cm(5 尺 9 寸 ~ 7 尺)、主軸方位は N-13°-W を示す。東は調査区外へ延びる。P1 ~ P3 において柱痕は確認されなかった。掘り方の規模は、長軸が 75 ~ 96cm、短軸 51 ~ 89cm、深さ 13 ~ 54cm を測る。柱穴の平面形は不整円形で、断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。柱穴の堆積土はおおむね砂質シルトである。1 層は酸化鉄を多く含む。

遺物は P1 から 19 世紀中頃の陶磁器片、瓦片、土師質土器片、鉄釘等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。P2、P3 からは遺物は出土していない。



第15図 SA2柱列跡平面図・断面図

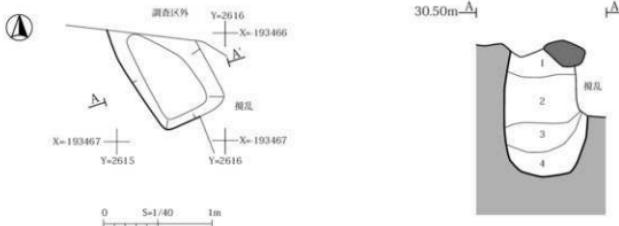
第1節 西公園高架橋等I区

SA2 土質注記表

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/2	灰黃褐色	砂質シルト	なし	ややあり 機械鉄分多量
2	10YR6/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり

3) SK5 土坑 (第16図、図版3-3～3-4)

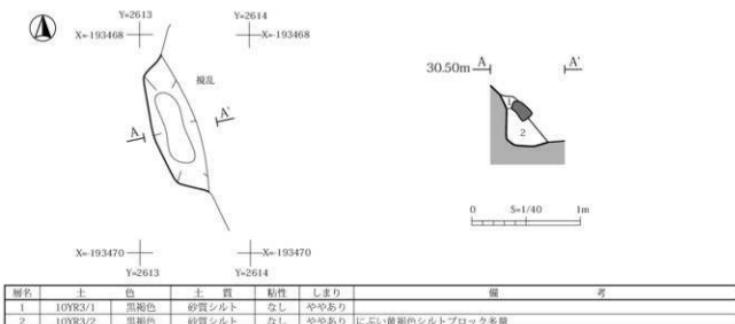
S7-E32 グリッドに位置する。北側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸 98cm、短軸 70cm、深さ 123cm を測る。平面形は隅丸長方形で、断面形は U 字形を呈す。底面は平坦である。堆積土は 4 層からなり、1 層から 3 層は砂質シルト、4 層はシルトである。遺物は 18 世紀代の瀬戸美濃鉄軸皿、肥前磁器片、瓦片、鉄釘等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



第16図 SK5 土坑平面図・断面図

4) SK11 土坑 (第17図、図版3-5)

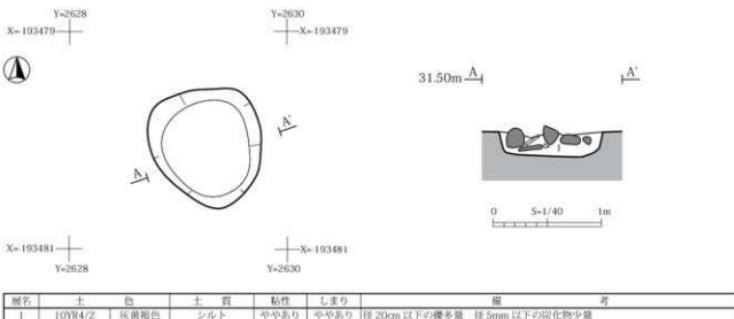
S7-E32 グリッドに位置する。東側を搅乱に削平されている。残存する規模は、長軸 128cm、短軸 41cm、深さ 48cm を測る。平面形は不整長楕円で、断面形は U 字形を呈すと思われる。底面は平坦である。堆積土は 2 層からなり、おむね砂質シルトである。遺物は出土していない。



第17図 SK11 土坑平面図・断面図

5) SK12 土坑 (第18図、図版3-6)

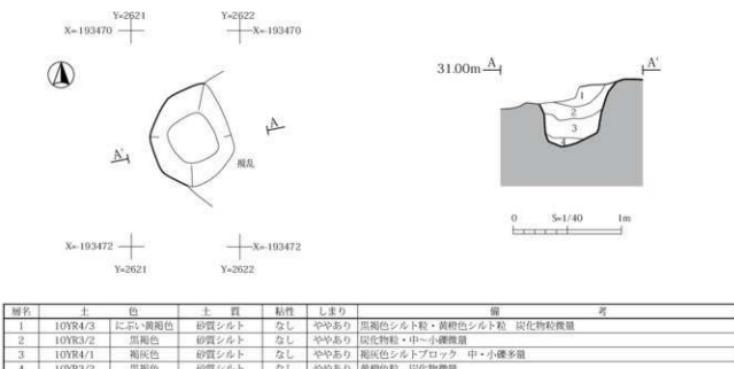
S9-E33 グリッドに位置する。SA1 と重複し、SA1 より新しい。残存する規模は、長軸 114cm、短軸 100cm、深さ 21cm を測る。平面形は不整円形で、断面形は浅い逆台形を呈す。底面は平坦である。堆積土は灰黄褐色シルトの単層で、礫を多く含む。遺物は瓦片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



第18図 SK12 土坑平面図・断面図

6) SX8 性格不明遺構 (第19図、図版3-7～3-8)

S6-E33 グリッドに位置する。東側を搅乱に削平されている。残存する規模は、長軸 83cm、短軸 74cm、深さ 62cm を測る。平面形は不整円形で、断面形は U 字形を呈す。底面は平坦である。堆積土は 4 層からなり、おおむね砂質シルトである。遺物は 16 世紀末～17 世紀初頭の美濃・志野皿の細片ほか、18～19 世紀代の陶磁器片、瓦片、鉄釘が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



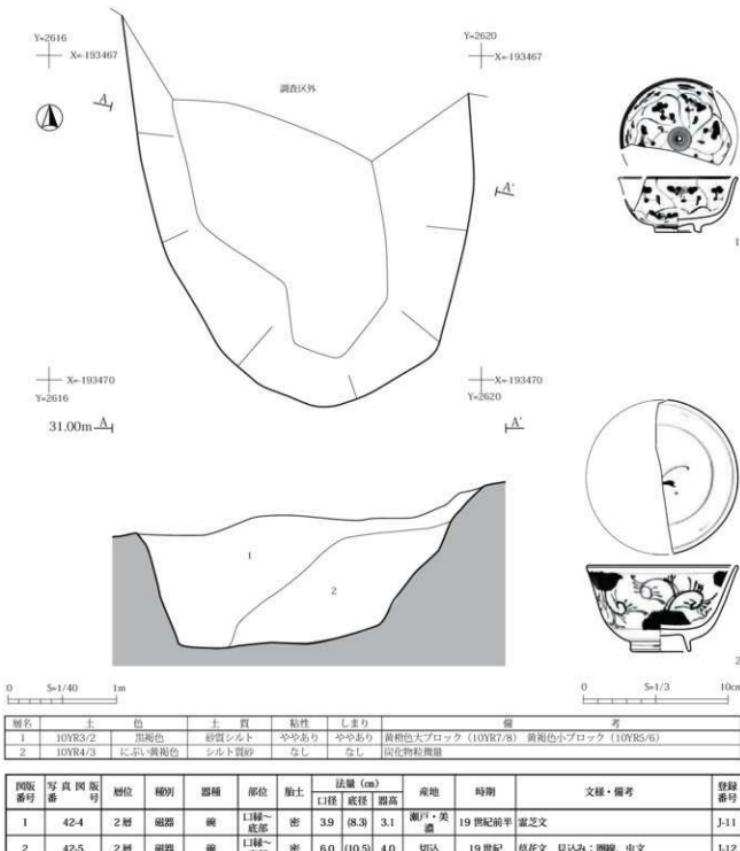
第19図 SX8 性格不明遺構平面図・断面図

第1節 西公園高架橋等I区

7) SX19 性格不明遺構 (第20図、図版4-1)

S7-E32 グリッドに位置する。北側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸 340cm、短軸 297cm、深さ 153cm を測る。平面形は不整梢円形で、断面形は不整な逆台形を呈す。底面は起伏している。堆積土は2層からなり、1層は砂質シルト、2層はシルト質砂である。

遺物は18世紀代の肥前磁器片、19世紀代の瀬戸美濃磁器片などの磁器、19世紀中頃の堤産焰熔片、大堀相馬產瓶片、18世紀代の大堀相馬產掛分碗片などの陶器、土師質土器片、瓦片、鉄釘等が出土している。そのうち、2層から出土した瀬戸美濃磁器の碗1点、切込磁器の碗1点を図示した。



第20図 SX19 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

8) SX21 性格不明遺構 (第21図、図版4-2)

S6-E33 グリッドに位置する。西側を上層遺構のSD1 に削平される。残存する規模は、長軸 120cm、短軸 69cm、深さ 38cm を測る。平面形は橢円形で、断面形は浅い逆台形を呈し、底面は平坦である。堆積土は灰黄褐色シルト質砂の単層である。遺物は出土していない。



第21図 SX21 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

(2) II層上面検出遺構

II層上面で検出された遺構は、柱列跡 2列、溝 1条、建物跡 1棟、土坑 4基、性格不明遺構 3基、道路状遺構 1条、竹籠 1条である。II層から出土した遺物の年代から近代から現代の遺構面と考えられる。

1) SA3 石列 (第23～24図、図版4-3～4-4)

S8-E33 グリッドに位置する。北東から南西へ直線的に延びる、石列跡である。残存範囲中央を搅乱に削平される。残存する規模は、長さ約 11m、掘り方上端幅 38cm、掘り方下端幅 21cm、深さ 17cm を測り、主軸方位は N-27°-W を示す。断面形は U字形を呈す。堆積土は灰黄褐色シルトの単層である。遺物は掘り方から近現代の陶磁器片、瓦片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

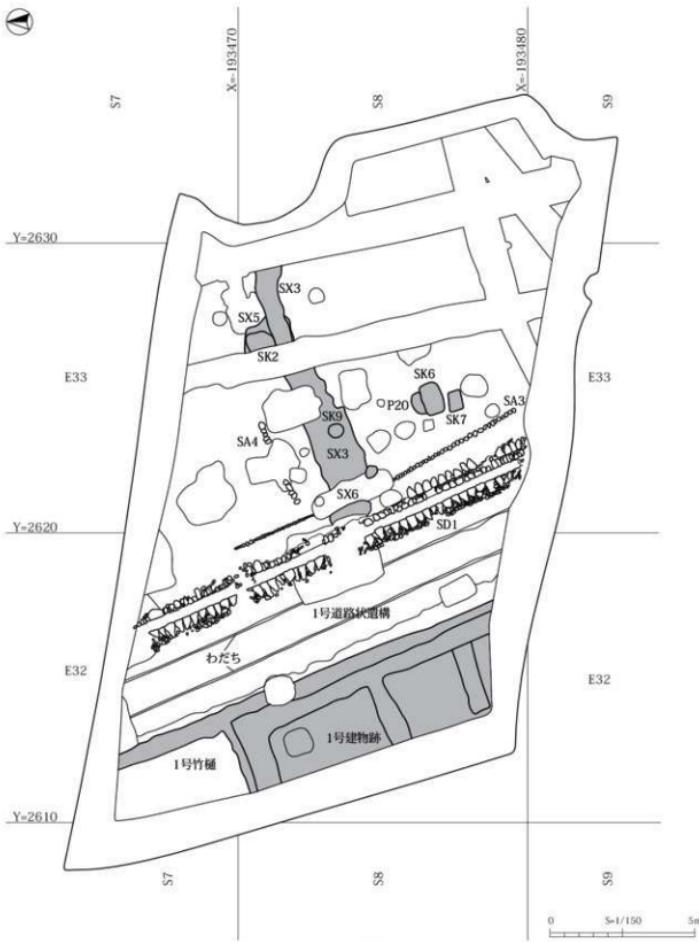
2) SA4 石列 (第23～24図、図版5-1)

S8-E33 グリッドに位置する。北西から南東へ直線的に延びる、石列跡である。残存範囲中央を搅乱に削平される。残存する規模は、長さ 310cm、掘り方上端 33cm、掘り方下端 26cm、深さ 9 cm を測り、主軸方位は N-66°-E を示す。断面形は浅い皿型を呈す。堆積土は灰黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

3) SD1 石組溝 (第23～25図、図版4-3～4-4)

S8-E33 グリッドに位置する。北西から南東へ直線的に走る石組溝跡である。北側および南側は調査区外へ延びる。側面には長さ 32～55cm、幅 25～35cm、厚さ 20～25cm の間知石が使われ、1段分積まれている。残存する規模は、総長約 15m、石組内溝幅 31cm、掘り方上端 1.6m、掘り方下端 90cm、深さ 40cm を測り、主軸方位は N-25°-W を示す。掘り方の断面形は U字形を呈す。底面形はほぼ平坦である。堆積土は 2層からなり、1層は石組溝内の堆積土で粘質シルト、2層は裏込めの埋土で砂質シルトである。溝内の堆積土は、遺物は各層から陶磁器片、土師質土器片、瓦質土器片、瓦片、鉄釘、土製品等が出土しているが、近現代の製品が主体を占める。そのうち、肥前磁器のみじん唐草文蓋 1点を図示した。

第1節 西公園高架橋等I区



第22図 II層上面遺構配置図

4) 1号道路状遺構 (第23～25図、図版4-3～4-4)

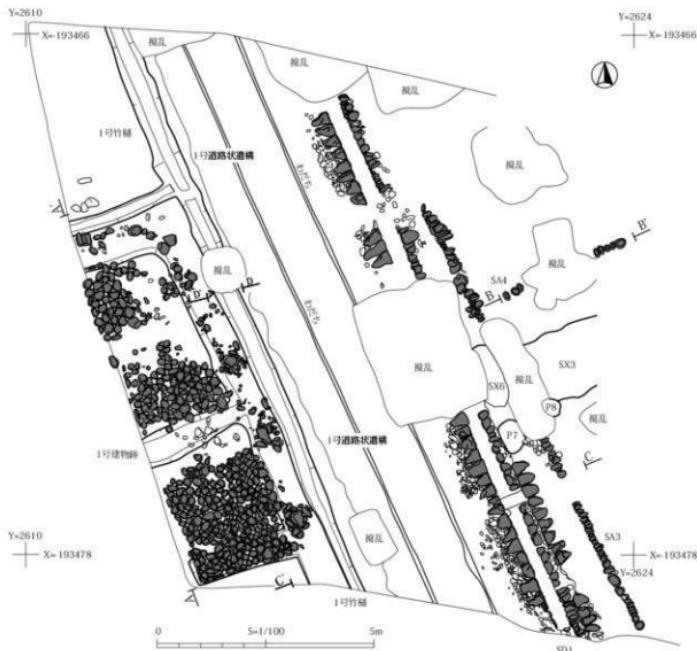
S8-E32グリッドに位置する。北東から南西へ直線的に延びる、道路状整地跡である。北東側、南西側ともに調査区外へ延びる。残存範囲中央東側および、北壁際を搅乱に削平される。残存する規模は、総長約14.7m、幅約3.3m、層厚約21cmを測り、主軸方位はN-25°-Wを示す。幅7cm、深さ10cm前後のわだち跡が2条確認された。1層

はわだちの堆積土で、2～4層は版塗層である。遺物は各層から大堀相馬、堤、岸などの陶器片、肥前、瀬戸美濃などの磁器片の他、土師質土器片、瓦質土器片、瓦片、鉄釘等が出土している。そのうち、17世紀中頃の肥前繩目文皿1点を図示した。

5) 1号竹樋 (第23～25図、図版5-2)

S7-E32 グリッドに位置する。北西から南東へ直線的に延びる、竹樋溝跡である。竹樋は残存状態が悪く、一部分でのみ確認された。竹樋の直径は6cmを測る。北側および南側は調査区外へ延び、残存範囲の中央よりやや北寄りで西に分岐するT字型を呈す。分岐した西側は調査区外へ延びる。残存する規模は、総長南北約14m、分岐した東西長約2.5m、上端幅28～73cm、下端幅15～25cm、深さ28cmを測り、主軸方位はN-23°-Wを示す。断面形はU字形を呈す。掘り方理土は4層で、1層、2層、4層は砂質シルトで、3層のみシルトである。1号建物跡に付随する利水施設と考えられる。

遺物は19世紀中頃を中心とした陶器片、土師質土器片、瓦質土器片、瓦片、鉄釘等が出土している。そのうち、18世紀代と思われる肥前紅皿1点を図示した。



第23図 SA3柱列跡・SA4柱列跡・SD1・1号道路状遺構・1号建物跡・1号竹樋平面図

第1節 西公園高架橋等1区

6) 1号建物跡 (第23～25図、図版5-3～5-4)

S6-E32 グリッドに位置する。長方形に展開する、建物の基礎跡である。西側と南側は調査区外へ延びる。残存する規模は、南北9.82m、東西3.31m、深さ約82～120cmを測る。構築土の5層を除去した段階で礫敷を検出し、建物跡と判断し調査を行なった。第23図は礫検出時の平面図である。礫敷は径12～15cmの礫を平坦に敷き詰めている。敷範囲の外側には溝がめぐらされている。南東から北西に向けて延びる長軸部分と、北東から南西に向かって延びる分岐部分が3箇所認められた。溝は構築土の6層で埋まっており、その上位にさらに構築土が見られることから溝として機能していたとは考えにくく、基礎の礫を埋設するために、構築の過程で掘られたものと思われる。一番南側の溝は礫が充填されており、調査区内で収束している。この溝状掘り込みの外縁は、1号竹籠と重複しており、基礎となる礫を配置して埋め戻した後に1号竹籠を構築しているものと思われる。溝の南北部分の長さ約9.5m、上幅72～81cm以上、下幅52～75cm以上、深さ40cmを測る。主軸方位はN-23°-Eを示す。4箇所の礫集中箇所を検出し、建物跡の基礎の一部を構成するものと考えられる。それぞれの礫は1.87m～2m間隔で配置されている。東西分岐箇所の規模は、[北]長さ約2.6m、上幅86～90cm以上、下幅78cm以上、深さ26cm、主軸方位N-70°-E、[中央]長さ約2.2m、上幅58～78cm、下幅35～52cm、深さ35cm、主軸方位はN-67°-E、[南]長さ約2.4m、上幅63～68cm、下幅46～55cm、深さ30cm、主軸方位N-71°-Eを測る。

構築土は14層からなり、1層から7層は砂質シルト、8層から14層はシルトである。1層から6層および9層は炭化物を含む。6層上面で礫を敷いている。堆積土は、全体的に傾斜堆積であり、基礎敷設のための盛土と考えられる。遺物は各層から19世紀中頃以降を中心とした陶磁器片、土師質土器片、瓦質土器片、瓦片、鉄釘等が出土している。そのうち、19世紀前半の瀬戸美濃磁器2点と18世紀代の肥前磁器1点を図示した。瀬戸美濃磁器碗の1点は焼錆痕がある。

SD1 土被付記表

編名	土 色	土 質	黏性	しまり	備 考
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	なし 灰黄褐色沙 (10YR4/2) との左端地盤 硫化鉄分をやや多量
2	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり 灰褐色質シルト (10YR5/1) 径10cm以下の礫

SA3 行列 土被付記表

編名	土 色	土 質	黏性	しまり	備 考
1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	ややあり	ややあり

SA4 石列 土被付記表

編名	土 色	土 質	黏性	しまり	備 考
1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	ややあり	なし

1号道筋状遺構 土被付記表

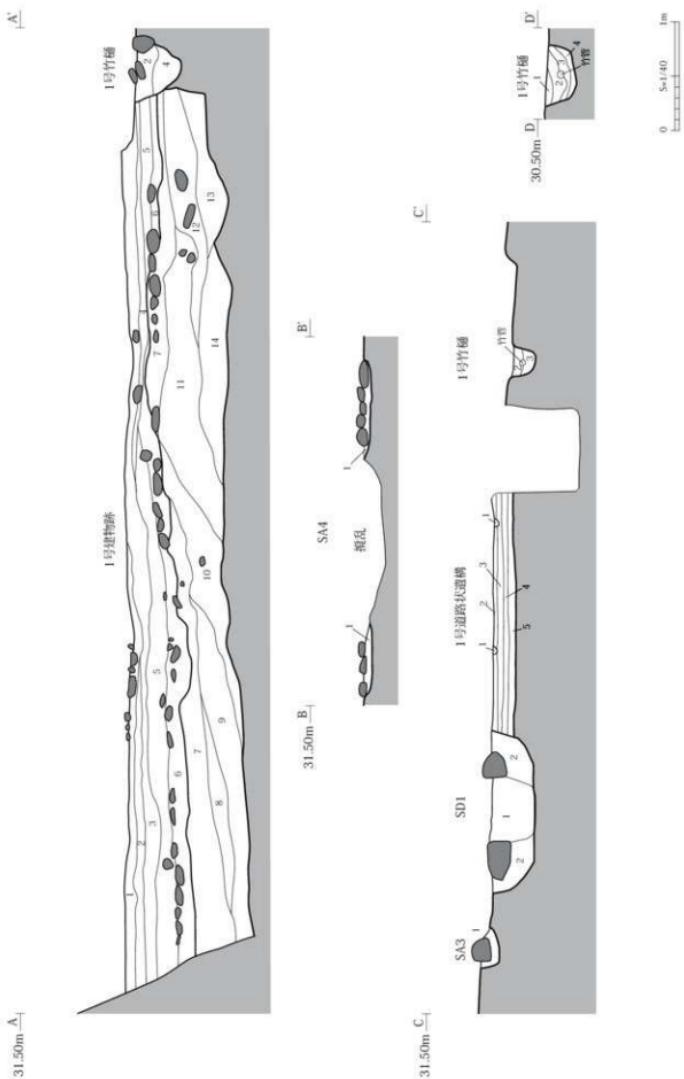
編名	土 色	土 質	黏性	しまり	備 考
1	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり 灰黄褐色大ブロック (10YR4/2) 大・中塊少量
2	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	なし	ややあり 黄褐色小ブロック (10YR7/8) 黑褐色小ブロック (10YR3/2)
3	10YR4/1	褐灰色	シルト	ややあり	あり 灰黄褐色小ブロック (10YR6/7) 黑褐色粒子 (10YR7/8)
4	10YR7/8	褐褐色	シルト	あり	あり 黄褐色小ブロック (10YR4/1) 黑褐色小ブロック (10YR6/6)
5	10YR7/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし 明黄褐色粒子 (10YR7/6) にぶい黄褐色粒子 (10YR5/4)

1号竹籠 土被付記表

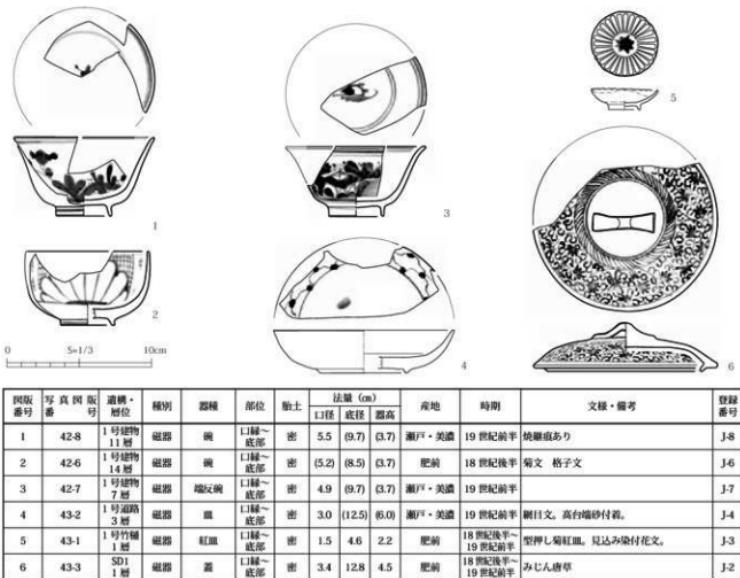
編名	土 色	土 質	黏性	しまり	備 考
1	3Y5/3	暗灰黄色	砂質土	なし	ややあり 灰白色沙 (2.5Y7/1) 硫化物少量 硫化鉄分を少量
2	3Y5/2	暗灰黄色	砂質土	なし	ややあり 灰白色土ブロック (2.5Y7/1) 硫化物、硫化鉄分を少量
3	3Y6/4	にぶい黄色	シルト	ややあり	ややあり 径30mm以下の礫を少量 硫化物を少量 硫化鉄分をやや多量
4	10YR6/2	灰黄褐色	砂質シルト	あり	ややあり 黄褐色シルトブロック (2.5Y6/1) 硫化物少量

1号建物跡 土被付記表

編名	土 色	土 質	黏性	しまり	備 考
1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり 明黄褐色粒子 固化物 小・中塊少量
2	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	あり	ややあり 固化物微量
3	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	あり	ややあり 固化物微量
4	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり 固化物微量
5	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり 固化物少量 小塊
6	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり 灰黄褐色小ブロック 固化物粒 中・小塊少量
7	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり 小塊少量
8	10YR2/2	黒褐色	シルト	あり	ややあり 黄褐色小ブロック にぶい黄褐色小ブロック (10YR7/2)
9	10YR2/2	黒褐色	シルト	あり	ややあり 黄褐色ブロック 固化物微量
10	10YR2/2	黒褐色	シルト	あり	なし 黄褐色小ブロック にぶい黄褐色粒子 (10YR4/3)
11	10YR2/2	黒褐色	シルト	あり	ややあり 黄褐色小ブロック にぶい黄褐色粒子 (10YR7/2) 大塊
12	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	あり	ややあり 小・大塊少量
13	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	なし 小・大塊微量
14	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	ややあり 中・小塊微量



第24図 SA3柱列跡・SAA4柱列跡・SD1・1号道路状遺構・1号建物跡・1号竹橋断面図



第25図 SD1、1号道路状遺構・1号建物跡・1号竹筒出土遺物

7) SK2 土坑 (第26図、図版5-5～5-7)

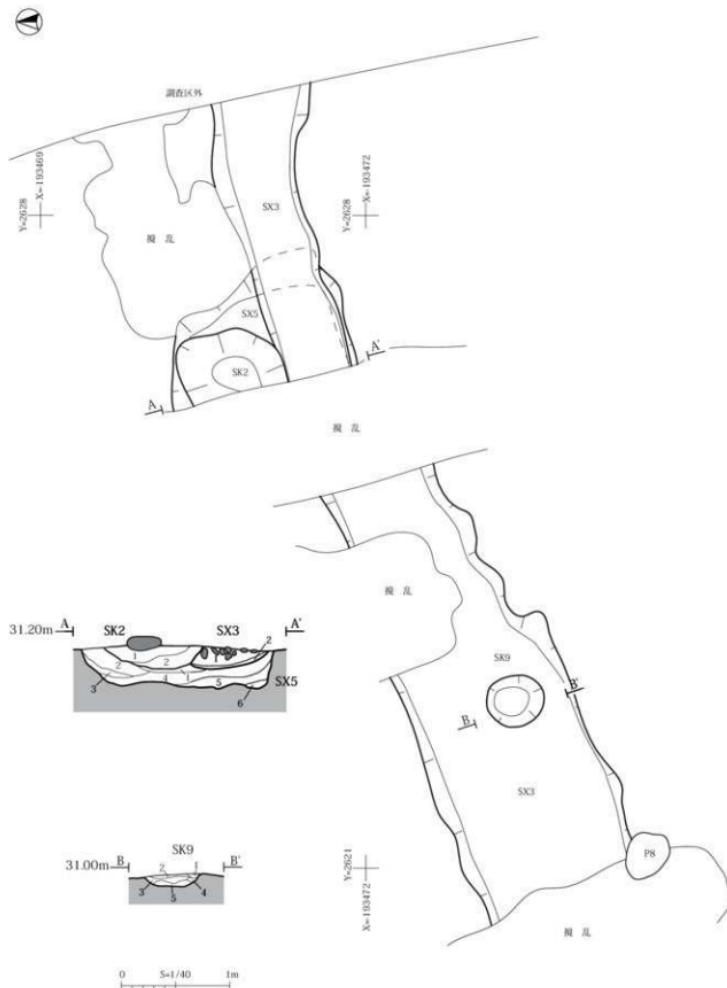
S6-E32 グリッドに位置する。南側を掘乱に削平され、東側はSX3と重複しており、SK2が新しい。残存する規模は、長軸 91cm、短軸 58cm、深さ 21cm を測る。平面形は不整円形を呈し、断面形は浅いU字形を呈す。底面にはやや起伏がある。堆積土は2層からなり、1層は粘質シルト、2層は砂質シルトである。遺物は近現代の陶磁器片、瓦片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

8) SK9 土坑 (第26図、図版6-1～6-2)

S8-E33 グリッドに位置する。SX3と重複しており、SK9が新しい。残存する規模は、長軸 53cm、短軸 47cm、深さ 12cm を測る。平面形は不整円形を呈し、断面形は浅いU字形を呈す。底面は平坦である。堆積土は5層からなり、おおむね砂質シルトである。遺物は出土していない。

9) SX3 石敷 (第26図、図版5-5～5-6)

S8-E33 グリッドに位置する。北東から南西へ直線的に延びる、石敷遺構である。上面に径 3～5 cm の礫を敷き詰めている。北東端および中央と、南西端を掘乱に削平される。残存する規模は、長さ約 7.80m、幅 64～160cm、深さ 21cm を測り、主軸方位は N-69°-E を示す。平面形は蛇行する溝状で、断面形は浅いU字形を呈す。堆積土



第26図 SK2土坑・SK9土坑・SX3石敷・SX5性格不明遺構平面図・断面図

第1節 西公園高架橋等1区

は2層からなり、おおむね砂質シルトである。遺物は近現代の陶磁器片、瓦片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

10) SX5 性格不明遺構 (第26図、図版5-5～5-6、5-8)

S8-E33 グリッドに位置する。西側を擾乱に削平され、SK2、SX3と重複し、SX5が最も古く、上層を削平される。残存する規模は、長軸177cm、短軸117cm、深さ39cmを測る。平面形は不整方形で、断面形は逆台形を呈し、底面にはやや起伏がある。堆積土は6層からなり、1層および6層は砂、2層及び3層は砂質シルト、4層及び5層はシルトである。5層は炭化物を多量に含む。遺物は近現代の陶磁器片、瓦片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

SK2 土壌柱記表

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR2/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化物分多量
2	10YR4/2 灰黃褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径10mm以下の礫・酸化物分少量

SK9 土壌柱記表

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR2/3 灰褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	炭化物 小中礫少量
2	10YR2/3 灰褐色	砂質シルト	あり	ややあり	炭化物微量
3	10YR2/3 灰褐色	砂質シルト	あり	ややあり	炭化物少量
4	10YR2/3 灰褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	炭化物微量
5	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	炭化物少量 小礫微量

SK3 土壌柱記表

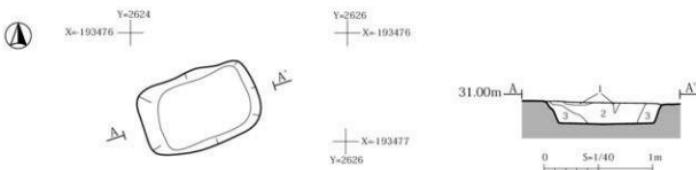
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質土	なし	ややあり	上面に径20cm以下の礫多量
2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質土	なし	ややあり	砂粉多量

SK5 土壌柱記表

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂	なし	なし	径30mmの礫少量
2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質土	なし	なし	径30mmの礫少量
3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質土	なし	ややあり	径30mm以下の礫・炭化物少量
4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	径20mm以下の礫・炭化物少量
5	10YR4/2 灰褐色	シルト	あり	ややあり	径30mm以下の炭化物多量
6	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂	なし	あり	径30mmの礫少量

11) SK6 土坑 (第27図、図版6-5～6-6)

S8-E33 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸110cm、短軸72cm、深さ21cmを測る。平面形は隅丸長方形で、断面形は浅い逆台形を呈す。底面は平坦である。堆積土は4層からなり、1層から3層は砂質シルト、4層は粘土質シルトである。1層は根攪乱、2層および3層は遺物は瓦片、鉄釘が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



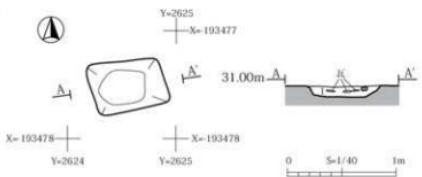
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/3 明褐色	砂質シルト	ややあり	なし	炭化物微量
2	10YR3/4 明褐色	砂質シルト	ややあり	なし	炭化物微量
3	10YR3/4 明褐色	砂質シルト	ややあり	なし	灰褐色粒子 (10YR5/2) 炭化物・小礫微量
4	10YR3/1 明褐色	粘土質シルト	あり	なし	灰褐色粒子 (10YR3/2) 炭化物微量

第27図 SK6 土坑平面図・断面図

12) SK7 土坑 (第28図、図版6-3~6-4)

S8-E33 グリッドに位置する。残存する規

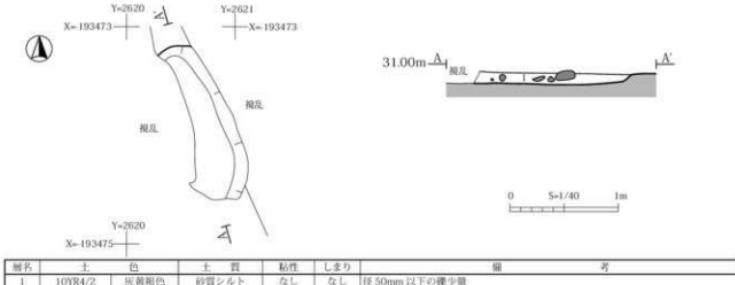
模は、長軸 67cm、短軸 48cm、深さ 10cm を測る。平面形は隅丸長方形で、断面形は浅い逆台形を呈す。底面は平坦である。堆積土は1層からなり、おむね砂質シルトである。遺物は近現代の陶器片、瓦片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



第28図 SK7 土坑平面図・断面図

13) SX6 性格不明遺構 (第29図、図版6-7~6-8)

S8-E33 グリッドに位置する。東西両側を複雑に削平される。残存する規模は、長軸 153cm、短軸 57cm、深さ 11cm を測る。平面形は不整梢円形で、断面形は浅い皿形を呈す。底面は平坦である。堆積土は1層で、おむね砂質シルトである。遺物は出土していない。



第29図 SX6 土坑平面図・断面図

14) 遺構外出土遺物 (第30~31図)

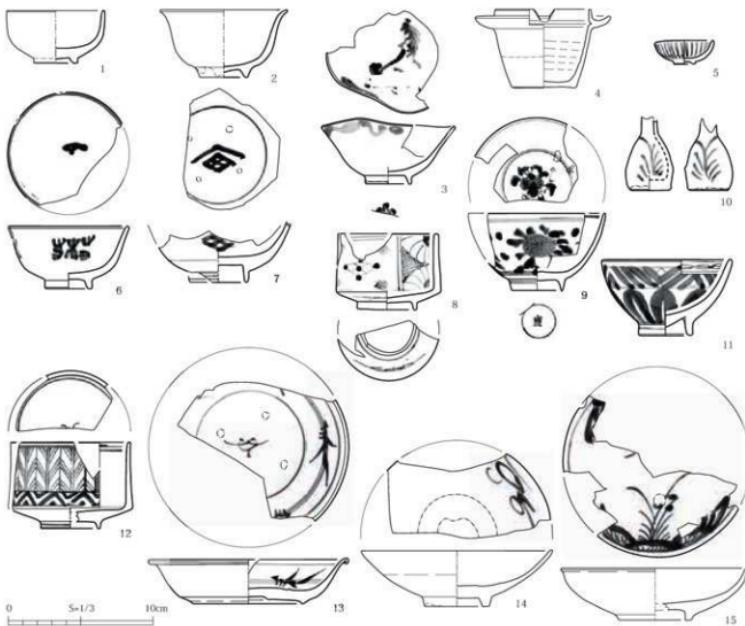
I・II層の出土遺物点数は瓦 90 点、陶器 850 点、土師質土器 135 点、瓦質土器 46 点、磁器 901 点、石製品 5 点、金属製品 34 点、骨 5 点、その他 60 点、合計 2126 点である。

陶器を産地別にみると、堤 3 点、嬉野 2 点、大堀相馬 54 点、小野相馬 1 点、近代以降の所産と思われる産地不明製品 790 点となる。また、磁器を産地別にみると、肥前 76 点、瀬戸美濃 217 点、近代以降の所産と思われる産地不明製品 406 点、不明 202 点である。このうち、近世の所産と思われる陶器 4 点、磁器 14 点、金属製品 4 点を図示した。

複乱出土の出土遺物点数は、瓦 166 点、陶器 602 点、土師質土器 118 点、瓦質土器 36 点、磁器 788 点、石製品 3 点、金属製品 48 点、錢貨 1 点、土製品 1 点、骨 20 点、その他 78 点、合計 1861 点である。

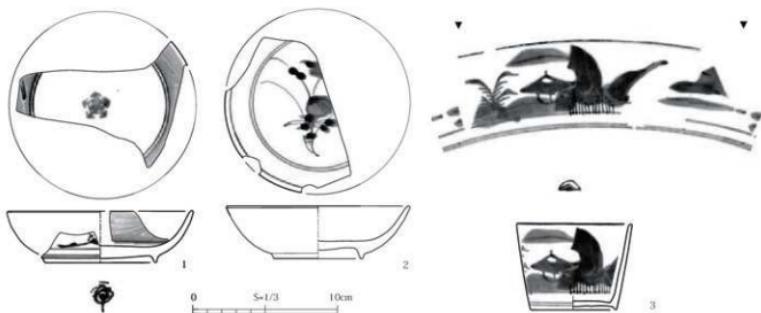
陶器を産地別にみると、嬉野 1 点、唐津 2 点、堤 4 点、近代以降の所産と思われる産地不明製品 24 点、大堀相馬 53 点、不明 495 点、肥前陶器 1 点、その他在地 22 点となる。また、磁器を産地別にみると、肥前 50 点、瀬戸美濃 257 点、不明 80 点、近代以降の所産と思われる産地不明製品 401 点である。

第1節 西公園高架橋等I区

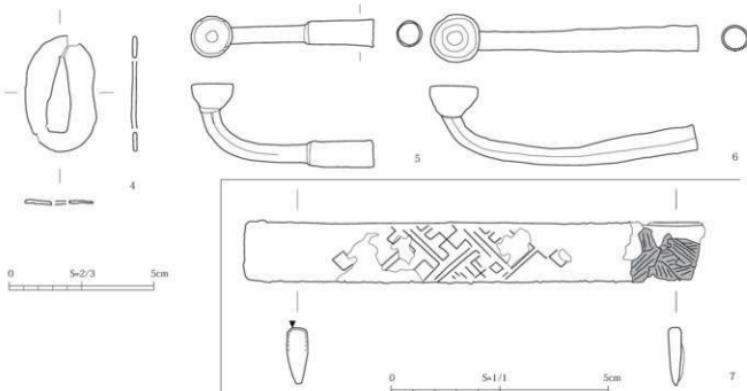


番号	写真番号	図版番号	グリッピング・部位	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)	備考	登録番号		
1	43-5	SB-E33 II層	陶器	碗	口縁～底部	密	3.6	6.6	3.1 大頬粗面	1-2		
2	43-4	SB-E33 II層	陶器	碗	口縁～底部	密	16.9	8.8	3.4 潟戸・美濃道	1-1		
3	43-6	SB-E33 II層	陶器	丸付	口縁～底部	密	4.6	9.2	3.1 大頬粗面	1-3		
4	43-7	SB-E32 II層	陶器	油皿曲	口縁～底部	密	5.4	6.6	4.2 堀	1-5		
5	43-10	SB-E33 II層	磁器	紅皿	口縁～底部	密	1.7	4.2	1.4 肥前	19世紀前半	J-9	
6	43-11	S7-E32 II層	磁器	端反側	口縁～底部	密	4.4	(8.4)	3.2 潟戸・美濃道	19世紀前半	J-14	
7	43-8	SB-E33 II層	磁器	瓶	体部～底部	密	(4.2)	(9.9)	(3.9) 平溜水	19世紀中葉	外面部：山形武田菱 日跡4箇所	J-5
8	44-3	S7-E32 II層	磁器	筒型瓶	口縁～底部	密	(5.3)	(7.0)	(4.0) 肥前	18世紀後半～19世紀前半	外面部：格子地菊花	J-18
9	44-5	SB-E33 II層	磁器	瓶	口縁～底部	密	(5.4)	(9.5)	(3.5) 肥前	18世紀後半～19世紀前半	外面部：牡丹唐草文 見込み：二重輪郭 牡丹唐草文 外底：「宣」路	J-15
10	44-2	SB-E32 II層	御神酒池利	壺	口縁～底部	密	(5.1)	(1.1)	(2.6) 肥前	18世紀後半～19世紀前半	外面部：草文	J-10
11	44-1	SB-E32 II層	磁器	瓶	口縁～底部	密	5.3	9.0	(3.5) 肥前	18世紀後半～19世紀前半	外面部：草文	J-16
12	44-4	SB-E33 II層	磁器	筒型瓶	口縁～底部	密	6.0	8.3	4.0 肥前	18世紀後半～19世紀前半	外面部：矢羽櫻文 見込み：虫文	J-21
13	45-2	S7-E33 II層	磁器	瓶	口縁～底部	密	3.1	(13.9)	7.5 切込	19世紀中葉	内面部：團扇 草文 見込み：目跡あり 団扇底	J-19
14	44-7	SB-E33 II層	磁器	瓶	口縁～底部	密	(3.9)	(13.3)	(4.4) 肥前	17世紀後半	内面部：草文 見込み：蛇の目輪削。	J-23
15	44-6	S7-E32 II層	磁器	瓶	口縁～底部	密	(3.6)	(13.1)	(5.0) 肥前	18世紀後半～19世紀前半	内面部：草文 目跡あり。	J-17

第30図 遺構出土遺物(1)



図版番号	写真番号	図版番号	グリット・層位	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)	产地	時期	文様・備考	登録番号
1	45-1	S7-E32 Ⅱ層	磁器	皿	口縁～底部	密	(3.6) (12.9) (7.7)		肥前	18世紀後葉～中葉	外面：唐草文 内面：コンニャク五弁花 外底：溝底	J-22
2	45-3	S8-E33 Ⅱ層	磁器	皿	口縁～底部	密	(3.7) (12.7) (6.1)		肥前	18世紀後半～19世紀初半	内面：草花文 二重團線	J-20
3	43-9	S8-E32 Ⅱ層	磁器	盤L	口縁～底部	密	6.0 8.0 5.8		肥前	19世紀前半	外面：横闊山水文 見込み：虫文	J-13



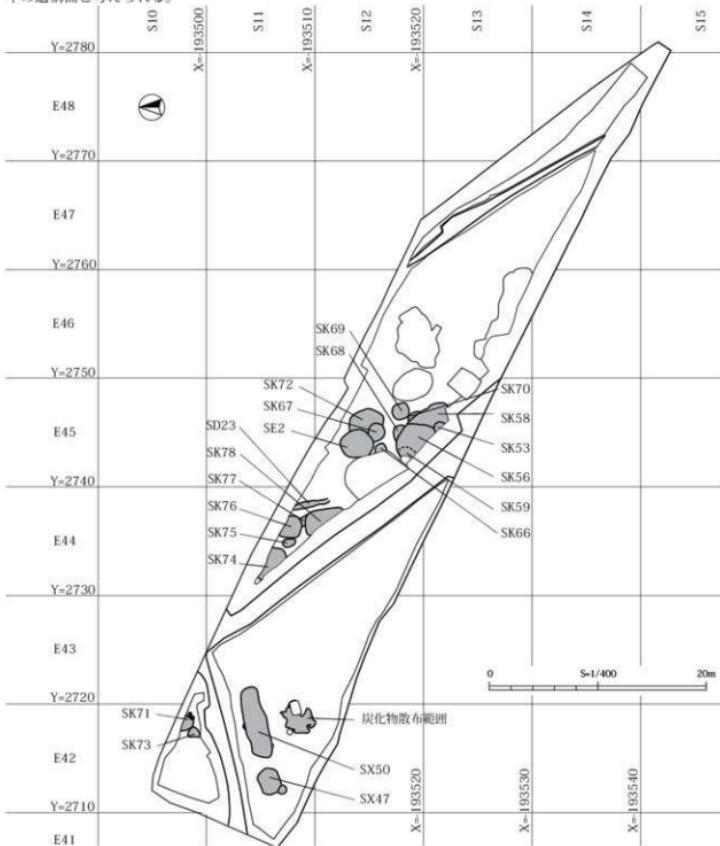
図版番号	写真番号	図版番号	グリット・層位	種類	法量(cm)			備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ		
4	45-6	S8-E33 Ⅱ層	金属製品	(4.0)	2.5	0.2		切羽(削切)	N-3
5	45-4	S8-E33 Ⅱ層	金属製品	6.4	1.5	2.9		埋管(削切)	N-1
6	45-5	S8-E32 Ⅱ層	金属製品	9.3	1.7	2.8		埋管(削切)	N-2
7	45-7	S7-E32 Ⅱ層	金属製品	10.6	1.4	0.5		小柄 紗綾紋 刀削付け根に木質一部残存 第15表(P199)参照	N-4

第31図 遺構外出土遺物（2）

第2節 西公園高架橋等Ⅱ区

1 VI・VII層上面検出遺構

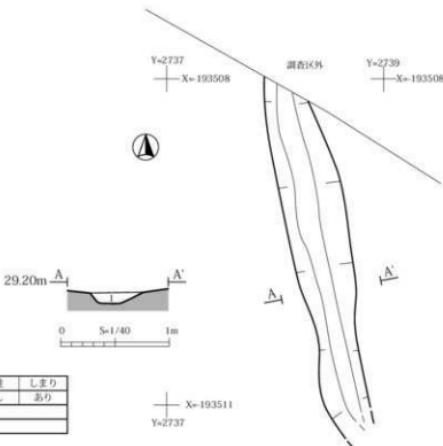
VI層・VII層上面で検出された遺構は、溝1条、井戸1基、土坑13基、性格不明遺構3基、合計18基である。また、調査区の北西側では、炭化物が東西3m、南北2.8mの範囲に分布している箇所が検出された。SK58などのSD23溝跡、SE2井戸跡のほか、炭化物分布範囲のものと近似した質の炭化物を堆積土に含むSX47およびSX50が検出された。遺物はSK56から比較的まとまった量が出土しており、その年代から17世紀代～18世紀前半の遺構面と考えられる。



第32図 VI・VII層上面検出遺構

1) SD23 溝跡（第33図、図版11-1）

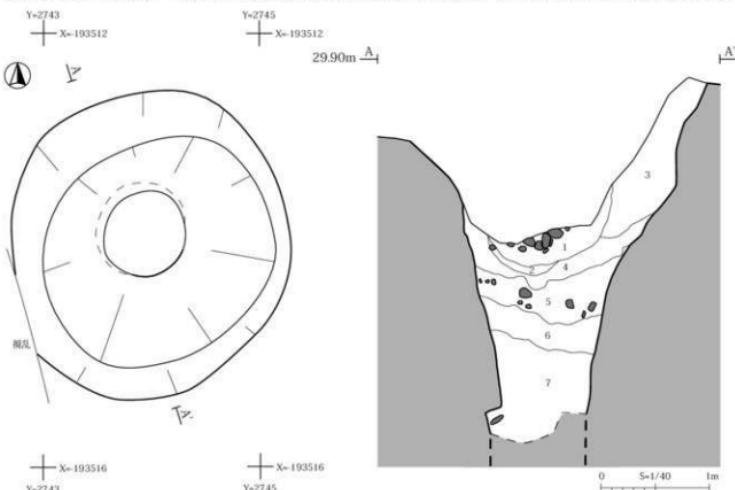
S11・12-E44 グリッドに位置する。北東から南西へ直線的に延びる素掘りの溝跡である。北側は調査区外へ延びる。南側はV層の遺構（SK51）に削平される。残存する規模は、長さ320cm、上幅35～60cm、下幅12～20cm、深さ5cmを測り、主軸方位はN12°-Wを示す。断面形は浅い逆台形を呈す。南側に向かって傾斜する。堆積土は暗オリーブ色の砂で、上位整地層による埋め戻し土と思われる。遺物は出土していない。



第33図 SD23 溝跡平面図・断面図

2) SE2 井戸跡（第34図、図版11-2～11-3）

S12-E45 グリッドに位置する素掘りの井戸跡である。北側の一部をIVa層の遺構（SE1）に削平される。SK67、SK72と重複し、SE2が一番新しい。検出面から257cmまで掘り下げたが、安全のためそれ以下の掘削は行わず。



第34図 SE2 井戸跡平面図・断面図

第2節 西公園高架橋等Ⅱ区

そのため、底面は確認していない。確認された規模は、長軸 294cm、短軸 285cm を測る。平面形は不整円で、断面形は円錐状を呈す。堆積土は 7 層からなり、1 層から 4 層はシルト、5 層から 6 層は粘土質シルト、7 層はシルト質粘土である。遺物は出土していない。

SE2 土層性記表

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1 10YR4/4	褐色	シルト	なし	なし	径1mm以下の暗褐色土粒少量 黄褐色土粒多量
2 10YR4/2	灰褐色	シルト	なし	なし	径5mm以下の黄褐色土粒少量
3 10YR2/1	褐色	シルト	なし	なし	径3mm以下の黄褐色土粒少量
4 5Y6/3	オリーブ褐色	シルト	あり	なし	
5 10YR4/3	にじく黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径3～7cmの礫多量
6 2.5Y6/4	にじく黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	
7 2.5Y6/6	樹液褐色	シルト質粘土	あり	あり	

3) SK53 土坑（第 35 ~ 36 図、図版 11-4 ~ 11-5）

S12・13-E45 グリッドに位置する。SK56、SK58 と重複し、SK53 が一番新しい。南西側は調査区外に延びる。SK53、56、58、59 は調査時は一つの遺構として完掘したが、土層観察、検出状況の検討により複数の遺構が切りあっていることがわかった。

残存する規模は、長軸 115cm、短軸 56cm、深さ 19cm を測る。平面形は楕円形で、断面形は U 字状を呈す。堆積土は 2 層の黒褐色砂質シルトからなり、礫、炭化物粒を含む。遺物は出土していない。

4) SK56 土坑（第 35 ~ 38 図、図版 11-4 ~ 11-5）

S12・13-E45 グリッドに位置する。SK53、SK58、SK59、SK68 と重複し、SK53 より古く、その他の遺構より新しい。残存する規模は、長軸 366cm、短軸 236cm、深さ 85cm、平面形は不整形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形はすり鉢状を呈す。北西側から北東側にかけてテラス状の高まりをもつ。堆積土は 6 層からなり、1 層から 2 層は砂質シルト、3 層はシルト質砂、4 層はシルト、5 層から 6 層はシルト質粘土である。炭化物、礫、VII 層ブロック等を含む。遺物は、瓦片、飾り瓦、陶器、磁器、土師質土器、瓦質土器、金属製品が出土している。陶器は、16 世紀末～17 世紀代の志野、嬉野、瀬戸美濃、肥前陶器、岸、唐津等がある。磁器では、16 世紀末～18 世紀初頭の福建省系磁器、景德鎮、肥前等がある。そのうち、陶器 1 点、磁器 5 点、土師質土器 1 点、飾り瓦 1 点、金属製品 2 点を図示した。

5) SK58 土坑（第 35 ~ 36 図、図版 11-4 ~ 11-5）

S12・13-E45 グリッドに位置する。SK53・SK56・SK70 と重複し、SK53・SK56 より古く、SK70 より新しい。残存する規模は、長軸 420cm、短軸 214cm、深さ 128cm、平面形は楕円形を呈し、底面はほぼ平坦で、断面形は U 字形を呈す。北西側から南東側にかけてテラス状の高まりをもつ。堆積土は 2 層の粘土質シルトからなり、グライ化が顕著に認められる。遺物は、瓦片、陶器、磁器、土師質土器が出土しているが、細片のため図化し得なかつた。

6) SK59 土坑（第 35 ~ 36 図、図版 11-4 ~ 11-5）

S12・13-E45 グリッドに位置する。上面を SK56 により削平される。残存する規模は、長軸 140cm、短軸 116cm、深さ 50cm、平面形は不整形形を呈し、底面は平坦で、断面形は皿状を呈す。堆積土は 4 層からなり、一部でグライ化が認められる。遺物は出土していない。

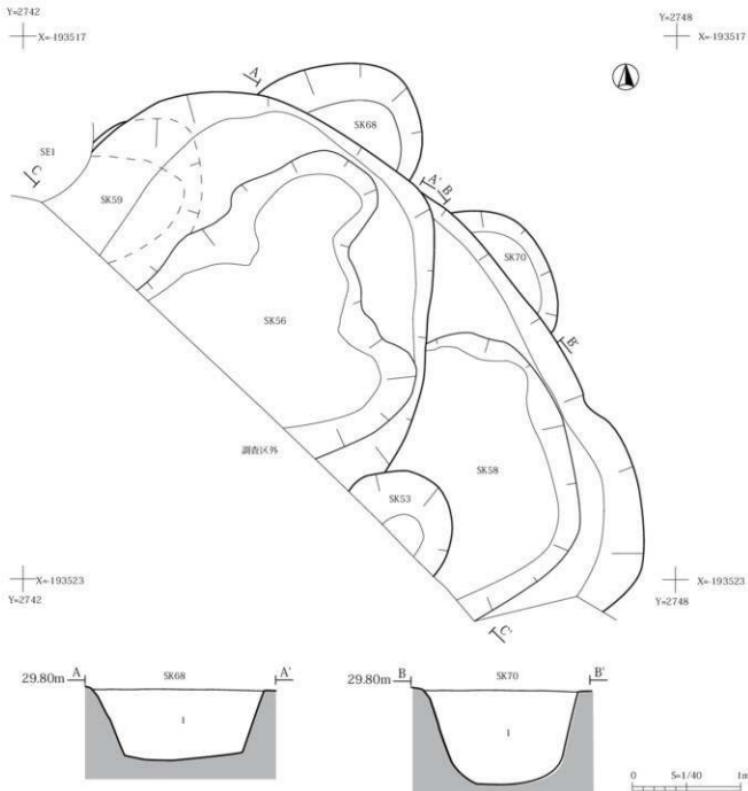
7) SK68 土坑（第 35 ~ 36 図、図版 11-4 ~ 11-5）

S12-E45 グリッドに位置する。SK56 と重複し、SK56 より古い。残存する規模は、長軸 127cm、短軸 110cm、

深さ 64cm を測る。平面形は不整円を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土は灰黄褐色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

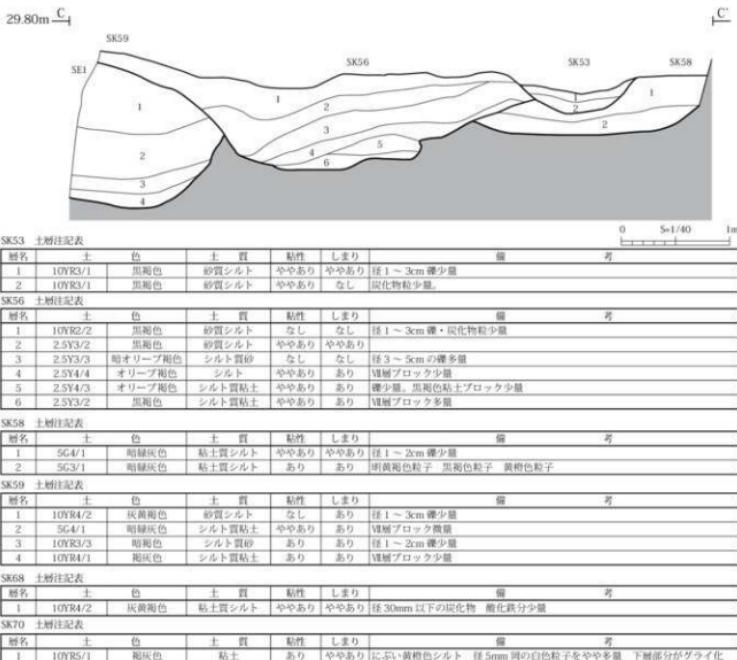
8) SK70 土坑（第35～36図、図版11-4～11-5）

S12-E45 グリッドに位置する。SK58 と重複し、SK58 より古い。残存する規模は、長軸 140cm、短軸 43cm、深さ 80cm を測る。平面形は不整円を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土は褐灰色粘土の単層である。遺物は出土していない。



第35図 SK53・56・58・59・68・70 土坑平面図

第2節 西公園高架橋等 II区



第 36 図 SK58・68・70 土坑断面図

9) SK66 土坑 (第 39 図、図版 11-6)

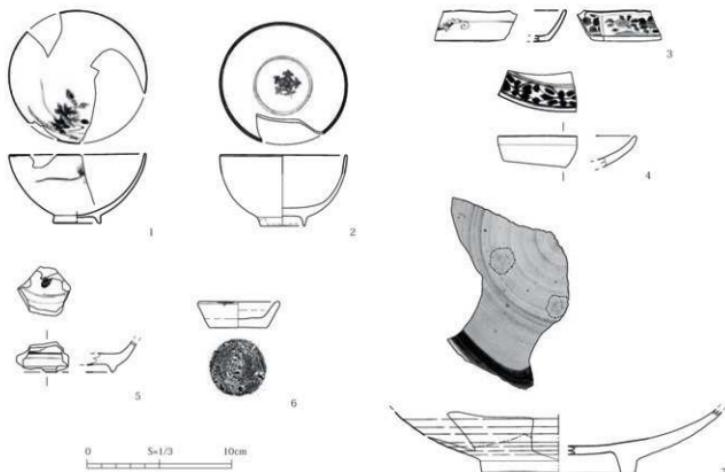
S12-E45 グリッドに位置する。北側をIV a 層の遺構 (SE1) に削平される。残存する規模は、長軸 108cm、短軸 70cm、深さ 30cm を測る。平面形は不整円形を呈し、底面は西側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は浅い逆台形を呈す。堆積土は褐灰色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

10) SK67 土坑 (第 39 図、図版 11-6)

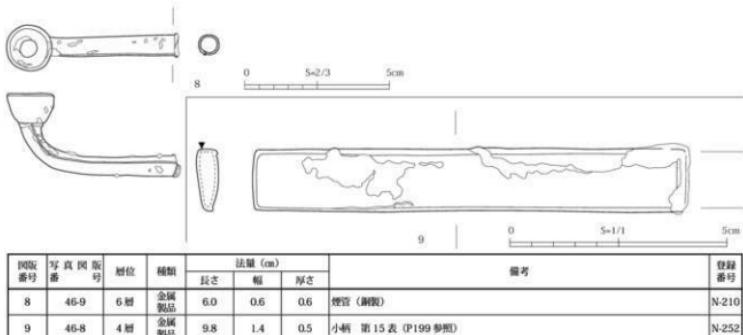
S12-E45 グリッドに位置する。SE2、SK72 と重複し、SE2 より古く SK72 より新しい。残存する規模は、長軸 154cm、短軸 152cm、深さ 57cm を測る。平面形は不整円形を呈し、底面は東側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は鉢状を呈す。堆積土は褐灰色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

11) SK72 土坑 (第 39 図、図版 11-6)

S12-E45 グリッドに位置する。SE2、SK67 と重複し、SK72 が一番古い。残存する規模は、長軸 317cm、短軸 214cm、深さ 26cm を測る。平面形は不整円形を呈し、底面は西側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は皿状を呈す。堆積土は褐灰色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

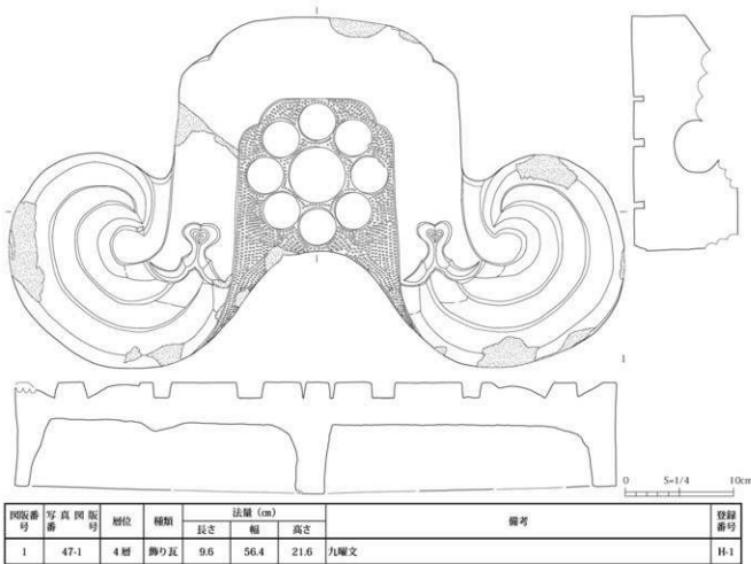


図版番号	写真	図版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
								口径	底径	器高				
1	46-3	4層	磁器	碗	口縁	口縁～底部	密	4.8	9.4	3.2	肥前	18世紀前半か	色絵花文	J-32
2	46-4	4層	磁器	碗	口縁	口縁～底部	密	4.9	8.8	3.1	肥前	18世紀前半か	青磁染付、口縁、見込み：コンニヤク五弁花	J-26
3	46-7	4層	磁器	皿	口縁部	密	(2.5)	-	-	-	肥前	17世紀後半	内面：草文、亀甲文、外側：草文	J-25
4	46-6	3層	磁器	皿	口縁部	密	(1.9)	-	-	-	肥前	17世紀後半	内面：花文、外側：團繩	J-28
5	46-5	3層	磁器	皿	底部	密	4.9	8.8	3.1	-	津州窯	16世紀末～17世紀初	見込み：色絵花文、外側：色絵團繩	J-38
6	46-2	4層	土師質土器	灯明皿	口縁～底部	密	1.8	5.5	4.0	-	在地	17世紀～18世紀	底部系切り	J-6
7	46-1	4層	陶器	皿	全体部	底部	密	(10.0)	-	4.3	唐津	17世紀後半	見込み：刷毛目+跳ね	I-10

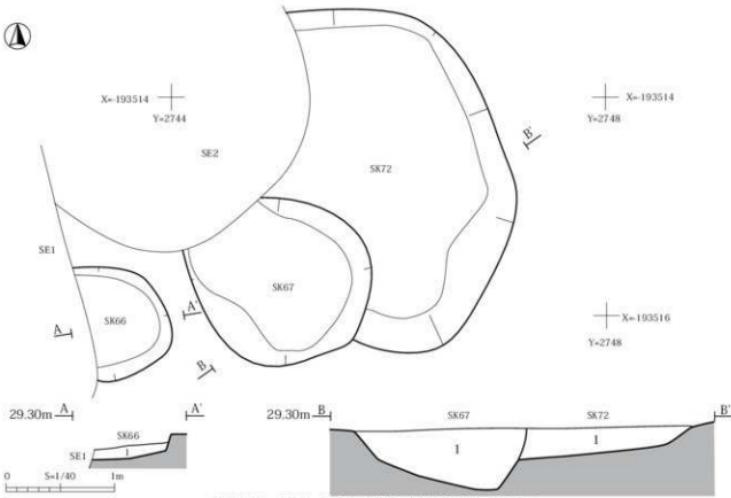


第37図 SK56 土坑出土遺物（1）

第2節 西公園高架橋等II区



第38図 SK56 土坑出土遺物(2)



第39図 SK66・SK67・SK72 土坑平面図・断面図

SK66 土質注記表

番号	土 色	土 質	粘性	しまり	備考
1 10YR8/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	にふい黄褐色シルト 径 5mm の白色粘土粒や多量

SK67 土質注記表

番号	土 色	土 質	粘性	しまり	備考
1 10YR8/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	にふい黄褐色シルト 径 5mm の白色粘土粒や多量

SK72 土質注記表

番号	土 色	土 質	粘性	しまり	備考
1 10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	径 5mm の白色粘土粒や多量

12) SK69 土坑 (第40図、図版11-7、12-1)

S12-E45 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 157cm、短軸 140cm、深さ 50cm を測る。平面形は不整円形を呈し、底面はやや起伏し、断面形は逆台形を呈す。堆積土は褐灰色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

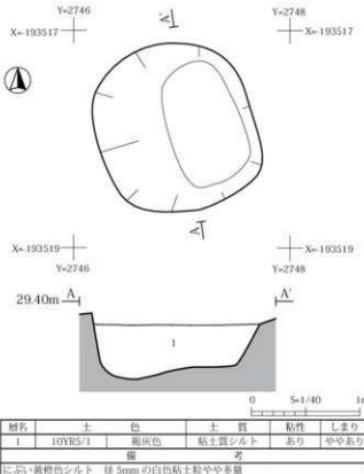
13) SK71 土坑 (第41図、図版12-2～12-3)

S10-E42 グリッドに位置する。北側は調査区外へ延びる。P422 と重複し、P422 より古い。残存する規模は、長軸 140cm、短軸 98cm、深さ 89cm を測る。平面形は不整円形を呈し、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は不整逆台形を呈し東側に段をもつ。堆積土は2層からなり、1層は粘土質シルト、2層はシルトである。遺物は出土していない。

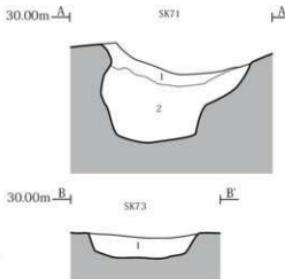
14) SK73 土坑 (第41図、図版12-2、12-4)

S10-E42 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸

111cm、短軸 90cm、深さ 21cm を測る。平面形は不整形を呈し、底面は平坦で、断面形は皿状を呈す。堆積土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。



第40図 SK69 土坑平面図・断面図



第41図 SK71・SK73 土坑平面図・断面図

第2節 西公園高架橋等 II 区

SK71 土層注記表

層名	土色	土質	黏性	しまり	備考
1 10YR2/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	にふく黄褐色シルト、径 5mm 回の白色粒子をやや多量
2 10YR2/3	暗褐色	シルト	あり	あり	明黄褐色粒子、黒褐色粒子、黄褐色粒子

SK73 土層注記表

層名	土色	土質	黏性	しまり	備考
1 10YR3/3	明褐色	シルト	あり	あり	明黄褐色粒子、黒褐色粒子、黄褐色粒子

15) SK74 土坑 (第 42 図、図版 12-5 ~ 13-2)

S11-E44 グリッドに位置する。北側と南側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸 343cm、短軸 145cm、深さ 38cm を測る。平面形は不整形を呈し、底面は南東側がテラス状に高まり、断面形は皿状を呈す。堆積土は暗オリーブ色砂質シルトの単層である。遺物は志野丸皿、瀬戸美濃、肥前陶器、肥前磁器、瓦、骨器、木製品が出土している。そのうち、漆器碗 2 点と箸 1 点を図示した。

16) SK75 土坑 (第 42 図、図版 12-5)

S11-E44 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 124cm、短軸 72cm、深さ 20cm を測る。平面形は不整橢円形を呈し、底面は平坦で、断面形は皿状を呈す。堆積土は暗オリーブ色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。

17) SK76 土坑 (第 42 図、図版 12-5、13-3)

S11-E44 グリッドに位置する。東側は調査区外へ延びる。SK77 と重複し、SK77 より新しい。残存する規模は、長軸 201cm、短軸 178cm、深さ 70cm を測る。平面形は不整円形を呈し、底面は北側に高まりをもち、断面形は浅い U 字状を呈す。堆積土は 4 層からなり、1 層から 2 層は砂質シルト、3 層は粘土質シルト、4 層はシルトである。遺物は出土していない。

18) SK77 土坑 (第 42 図、図版 12-5)

S11-E44 グリッドに位置する。SK76、SK78 と重複し、SK77 が一番占い。残存する規模は、長軸 88cm、短軸 75cm、深さ 30cm を測る。平面形は橢円形を呈するが、残存状態が悪く判然としない。主軸方位は N-22°-W を示す。底面は平坦で、断面形は皿状を呈す。堆積土は暗オリーブ色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。

19) SK78 土坑 (第 42 図、図版 12-5、13-4)

S12-E44 グリッドに位置する。西側は調査区外へ延びる。SK77 と重複し、SK77 より新しい。残存する規模は、長軸 359cm、短軸 208cm、深さ 64cm を測る。平面形は不整長方形を呈し、底面は起伏をもち、断面形は深皿状を呈し、底面の起伏が著しい。堆積土は 7 層からなり、1 層から 2 層および 6 層は砂質シルト、3 層は砂、4 層から 5 層および 7 層はシルトである。遺物は出土していない。

SK74 土層注記表

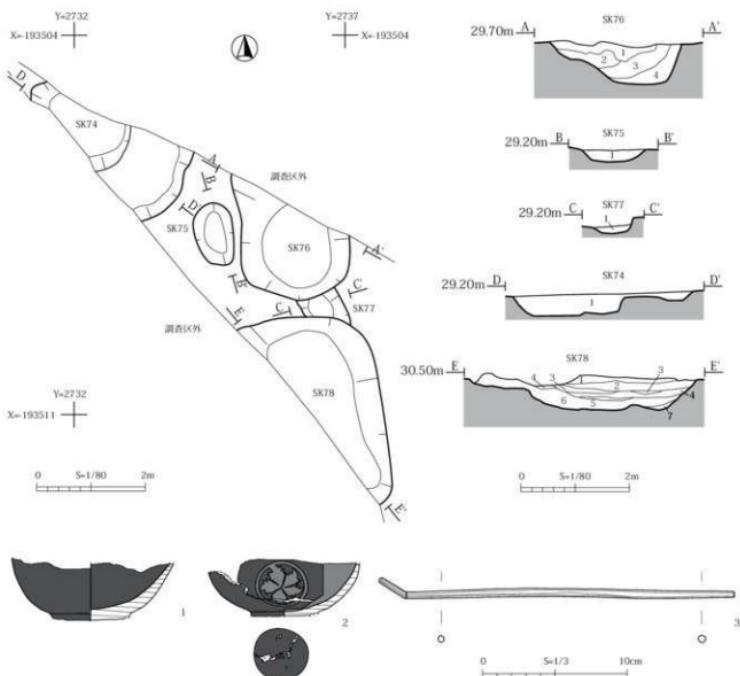
層名	土色	土質	黏性	しまり	備考
1 2.5Y4/3	暗オリーブ色	砂質シルト	なし	あり	径 5cm 以下の褐色砂質シルトブロック多量

SK75 土層注記表

層名	土色	土質	黏性	しまり	備考
1 2.5Y4/3	暗オリーブ色	砂質シルト	なし	あり	径 5cm 以下の褐色砂質シルトブロック多量

SK76 土層注記表

層名	土色	土質	黏性	しまり	備考
1 10YR2/1	黒褐色	砂質シルト	あり	ややあり	明黄褐色小シルトブロック、中・小礫大量
2 10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	あり	なし	にふく黄褐色大ブロック、黄褐色小ブロック、炭化物少量
3 10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	ややあり	にふく黄褐色シルト、径 5mm 回の白色粒子をやや多量
4 10YR3/3	暗褐色	シルト	あり	あり	明黄褐色粒子、黒褐色粒子、黄褐色粒子



SK77 土層注記表				
層名	土 色	土 質	粘性	しまり
1 2.5Y4/3	暗オリーブ色	砂質シルト	なし	あり 径5mm以下の褐色砂質シルトブロック多量

SK78 土層注記表				
層名	土 色	土 質	粘性	しまり
1 10YR2/1	黒褐色	砂質シルト	あり	ややあり 明黄色色小シルトブロック 中・小塊大量
2 10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	あり	なし にふく黄色色大ブロック 黄褐色小ブロック。炭化物少量
3 2.5Y4/3	暗オリーブ色	シルト	なし	あり 径5mm以下の褐色砂質シルトブロック多量
4 10YR2/1	褐灰色	シルト	あり	ややあり にふく黄色色シルト 程5mm程の白色粒子をやや多量
5 10YR2/3	暗褐色	シルト	あり	あり 明黄色色粒子 黑褐色粒子 黃褐色粒子
6 10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし にふく黃褐色シルト粒 炭化物少量
7 10YR2/3	暗褐色	シルト	あり	明黄色色粒子 黑褐色粒子 黃褐色粒子

図版番号	写真 図版番号	遺構・部位	種類	法線(cm)			樹種	備考	登録番号
				口径	底径	器高			
1	47-3	SK74 1層	漆器	(4.3)	(11.3)	(5.3)	ブナ属	桺 内外面: 黒漆	L-562
2	47-2	SK74 1層	漆器	(4.0)	(10.7)	(4.6)	ブナ属	桺 内面: 朱漆 外面: 黒漆; 朱漆斑子?文	L-561
図版番号	写真 図版番号	遺構・部位	種類	法線(cm)			樹種	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ			
3	47-4	SK74 1層	木製品	24.6	1.5	0.6	ブナ属	著	L-565

第42図 SK74～78 土坑平面図・断面図・出土遺物

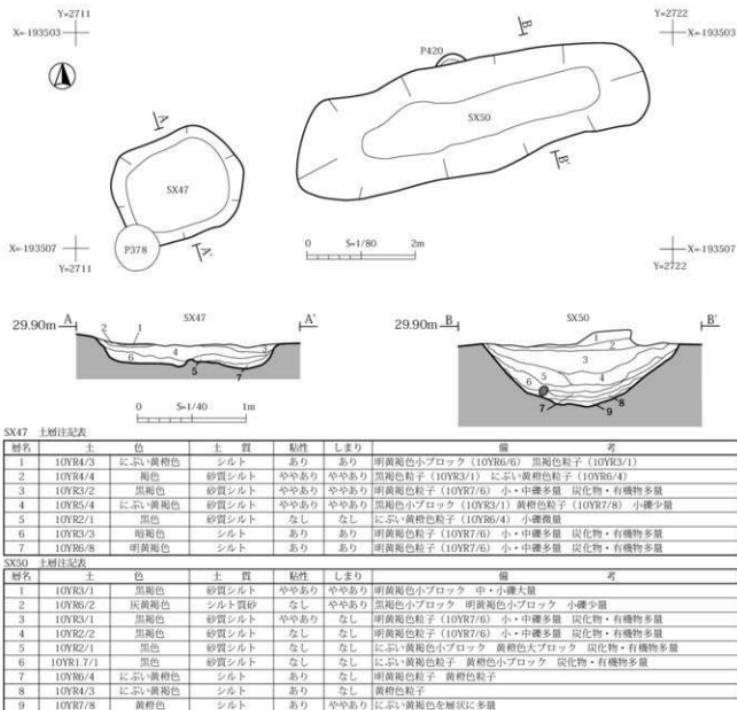
第2節 西公園高架橋等Ⅱ区

20) SX47 性格不明遺構 (第43図、図版13-5～13-6)

S11-E42 グリッドに位置する。P378 と重複し、P378 より古い。残存する規模は、長軸 246cm、短軸 195cm、深さ 19cm を測る。平面形は不整形で、底面は起伏をもち、断面形は皿状を呈す。堆積土は 7 層からなり、1 層および 6 層から 7 層はシルト、2 層から 5 層は砂質シルトである。3 層、6 層、7 層は炭化物が多く含まれている。遺物は瓦、陶器片、磁器片、土師質土器片、瓦質土器片が出土しているが細片のため図化し得なかった。

21) SX50 性格不明遺構 (第43図、図版13-5、13-7)

S11-E42 グリッドに位置する溝状の遺構である。P420 と重複し、P420 より新しい。残存する規模は、長軸 668cm、短軸 210cm、深さ 60cm を測り、主軸方位は N-77°E を示す。平面形は長楕円形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は半円状を呈す。堆積土は 9 層からなり、1 層および 3 層から 6 層は砂質シルト、2 層はシルト質砂、7 層から 9 層はシルトである。3 層から 6 層は炭化物が多く含まれている。遺物は瓦、陶器片、土師質土器、瓦質土器、鉄釘等が出土している。そのうち軒瓦 2 点を図示した。



第43図 SX47・SX50 性格不明遺構平面図・断面図



第44図 SX50 性格不明遺構出土遺物

2 V層上面検出遺構

V層上面で検出された遺構は、柱跡跡1条、土坑13基、性格不明遺構9基、合計23基である。調査区の中央西側部～北側で検出された土坑群は、いずれも規模が大きく、平面形、断面形が不整形なものが多い。これらは土取りなどの整地に伴う土坑の落ち込みと考えられるが、多くの遺物が出土している。また、中央部東側では石組方形土坑が検出された。

1) SA 1柱跡 (第46図、図版14-1～14-5)

S13・14-E47 グリッドに位置する、南北に延びる柱跡である。IV b層の遺構(SD3・SD5)に削平される。4基の柱穴からなる1列(SA1a)と、3基の柱穴からなる1列(SA1b)の計2列の柱跡が検出された。残存する規模は、総長613cmで、主軸方位はSA1aがN-15°-W、SA1bはN-13°-Wを示す。また、SA1aと、SA1bの間は62cm(2尺)である。この2列は直接の重複関係がなく、同時存在か作り替えによるものかははっきりしない。

各柱穴の規模は以下のとおりである。【P1】長軸39cm、短軸30cm、深さ9cm。【P2】長軸49cm、短軸44cm、深さ20cm。【P3】長軸58cm、短軸46cm、深さ45cm。【P4】長軸46cm、短軸38cm、深さ37cm。【P5】長軸41cm、短軸39cm、深さ18cm。【P6】長軸51cm、短軸42cm、深さ21cm。【P7】長軸45cm、短軸43cm、深さ18cm。P3は径12cmの柱根が残存していた。

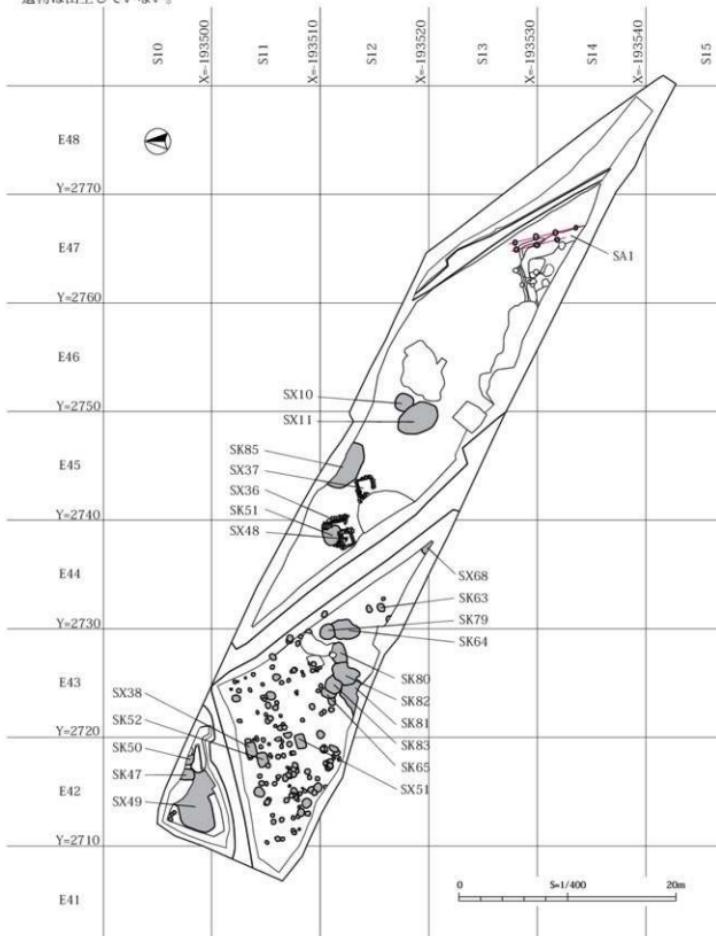
柱間寸法はP1-P2間1.95m(6尺4寸)、P2-P3間1.83m(6尺1寸)、P3-P4間2m(6尺6寸)、P5-P6間1.98m(6尺5寸)、P6-P7間1.93m(6尺4寸)を測る。

ビット	層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
P1	1	5B3/1	暗青灰色	粘土質シルト	ややあり	なし 柱痕 グライ化
	1	N2/	黒色	粘土質シルト	ややあり	なし 柱痕 柱材の痕跡部分に砂が入り込んでいる
P2	2	N2/	黒色	粘土質シルト	ややあり	なし 柱痕 柱材の痕跡部分に砂が入り込んでいる
	1	N2/	黒色	粘土質シルト	ややあり	なし 柱痕 柱材の痕跡部分に砂が入り込んでいる
P3	2	2.5Y4/1	黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり 柱痕 オリーブ色粘土ブロック 径5cm以下の礫・砂少
	3	2.5Y4/1	黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり 柱痕 オリーブ色粘土小ブロック 径3mm以下のシルトストーン少
P4	1	2.5Y4/1	黄褐色	砂質シルト	なし	なし 柱痕 オリーブ色粘土小ブロック 径3cm以下の礫・砂少
	2	2.5Y4/1	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり 柱痕 オリーブ色粘土小ブロック 径3cm以下の礫・砂少
P5	3	2.5Y4/1	黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり 柱痕 オリーブ色粘土小ブロック 径3cm以下の礫・砂少
	1	N2/	黒色	粘土質シルト	ややあり	なし 柱痕 黄褐色 径5cm以下の礫・砂少
P6	1	N2/	黒色	粘土質シルト	ややあり	なし 柱痕 柱材現存
	2	2.5Y4/1	黄褐色	粘土質シルト	なし	ややあり 柱痕 オリーブ色粘土ブロック 径5cm以下の礫・砂少
	3	2.5Y4/1	黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり 柱痕 オリーブ色粘土小ブロック 径3mm以下のシルトストーン少
P7	1	N2/	黒色	粘土質シルト	ややあり	なし 柱痕 柱材現存
	2	2.5Y4/1	黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり 柱痕 オリーブ色粘土ブロック 径5cm以下の礫・砂少
	3	2.5Y4/1	黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり 柱痕 オリーブ色粘土小ブロック 径3mm以下のシルトストーン少

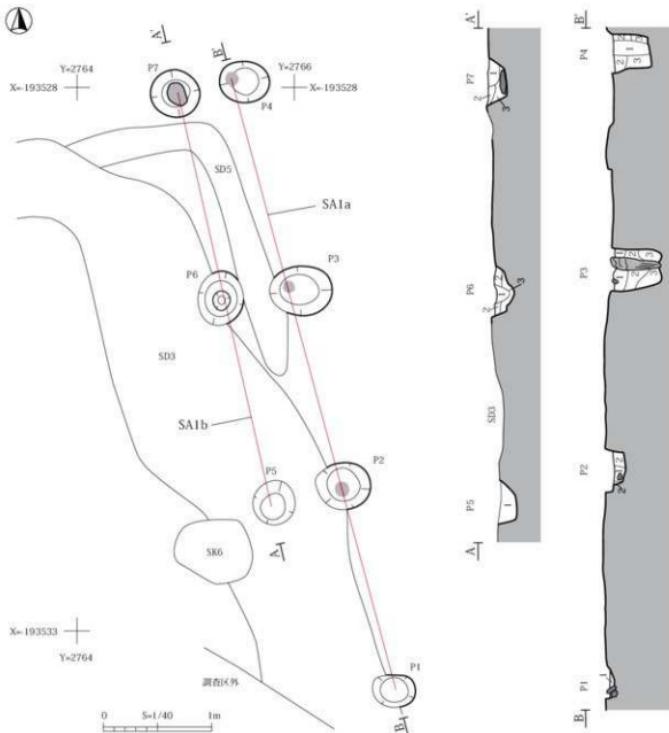
第2節 西公園高架橋Ⅱ区

掘り方の堆積土は黄灰色の粘土質シルトもしくは砂質シルトからなり、柱痕部分はおおむね黒色粘土質シルトである。柱穴の平面形は円形ないし楕円形で、断面形は逆台形ないしU字状を呈す。

遺物は出土していない。



第45図 V層上面検出遺構



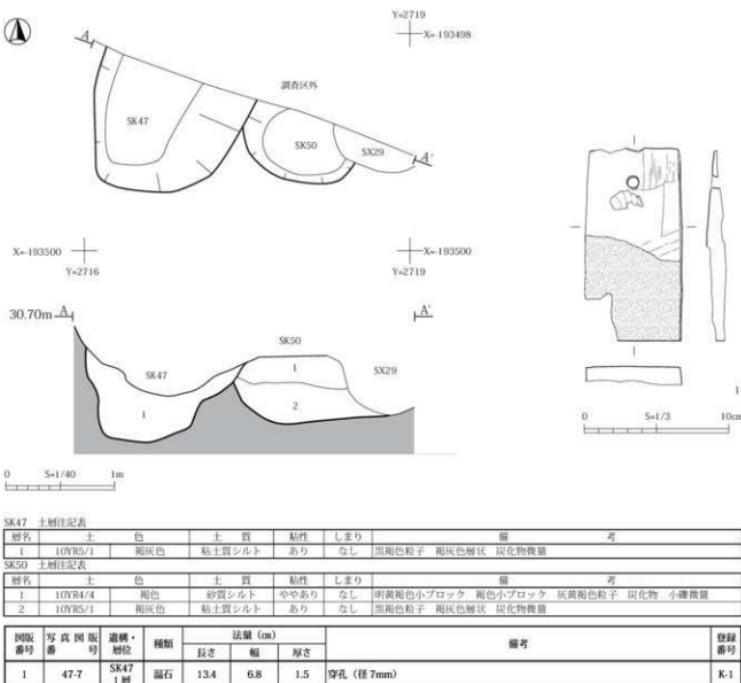
第46図 SA1柱跡平面図・断面図

2) SK47土坑 (第47図、図版14-6～14-7)

S10-E42グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。SK50と重複し、SK50より新しい。残存する規模は、長軸120cm、短軸102cm、深さ80cmを測る。平面形は不整長方形を呈し、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は不整逆台形を呈す。堆積土は褐灰色粘土質シルトの単層である。遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片、石製品、鉄釘等が出土している。そのうち、石製品1点を図示した。

3) SK50土坑 (第47図、図版14-7)

S10-E42グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。北東側をIVb層の遺構(SX29)に削平される。SK47と重複し、SK47より古い。残存する規模は、長軸85cm、短軸59cm、深さ64cmを測る。平面形は不整円形を呈し、底面は平坦で、断面形はU字形を呈す。堆積土は2層からなり、1層は褐色砂質シルト、2層は褐灰色粘土質シルトである。遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片、瓦質土器片等が出土しているが、細片のため図化しなかった。



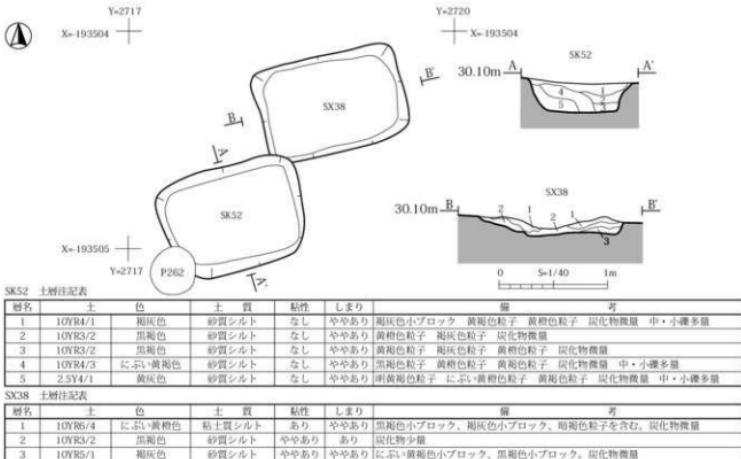
第47図 SK47・SK50土坑平面図・断面図

4) SK52土坑（第48図、図版15-1～15-2）

S11-E42グリッドに位置する。P262、SX38と重複し、P262より古く、SX38より新しい。残存する規模は、長軸133cm、短軸98cm、深さ26cmを測る。平面形は隅丸長方形を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土は5層の砂質シルト層からなり。遺物は出土していない。

5) SX38性格不明遺構（第48図、図版15-3～15-4）

S11-E42グリッドに位置する。SK52と重複し、SK52より古い。残存する規模は、長軸134cm、短軸89cm、深さ32cmを測る。平面形は隅丸長方形を呈し、底面はやや起伏があるが概ね平坦で、断面形は皿状を呈す。堆積土は3層からなり、1層は粘土質シルト、2層から3層は砂質シルトである。遺物は出土していない。



第48図 SK52土坑・SX38性格不明遺構平面図・断面図

6) SK63土坑（第49図、図版15-5）

S12-E44グリッドに位置する。残存する規模は、長軸73cm、短軸69cm、深さ8cmを測る。平面形は不整梢円を呈し、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は暗青灰色粘土質シルトの單層である。

遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片等が出土しているが細片のため図化し得なかった。

題名	土 色	土 質	粘性	しまり	備考
I 5B4/1	暗青灰色	粘土質シルト	あり	少々あり	青灰色土質シルト小ブロック 径5mm以下の白色シルストーンや多量

第49図 SK63土坑平面図・断面図

7) SK64土坑（第50～52図、図版16-4～16-5）

S12-E43グリッドに位置する。SK79と重複し、SK79より古い。残存する規模は、長軸222cm、短軸182cm、深さ121cmを測る。平面形は不整形を呈し、底面は起伏があり、北側がテラス状に高まり、断面形は概ね逆台形を呈す。堆積土は9層からなり、3層から7層、9層は粘土質シルト、1層から2層は砂質シルト、8層はシルトである。5層以下はグラウイ化し変色している。

遺物は、各層から瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、土製品、石製品、木製品、金属製品等が出土している。そのうち陶器2点と漆器1点を図示した。

8) SK65土坑（第50～51図、図版15-6、16-5）

S12-E43グリッドに位置する。SK83と重複し、SK83より古い。残存する規模は、長軸140cm、短軸61cm、深さ31cmを測る。平面形は不整梢円を呈し、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形はU字状を呈す。堆積土は3層の砂質シルトからなる。遺物は出土していない。

第2節 西公園高架橋等II区

9) SK79 土坑 (第 50 ~ 51、53 ~ 54 図、図版 16-3、16-5)

S12-E43 グリッドに位置する。SK64 と重複し、SK79 が新しい。残存する規模は、長軸 252cm、短軸 148cm、深さ 89cm を測る。平面形は不整円を呈し、底面は平坦で、東側がテラス状に高まる。断面形は逆凸字状を呈する。堆積土は 11 層からなり、1 層から 4 層、7 層、10 層、11 層は砂質シルト、5 層、6 層、9 層は粘土質シルト、8 層はシルトである。4 层下面、および 6 层下面で層が分離できることから、少なくとも 3 段階の掘り直しがなされた可能性がある。

遺物は、各層から瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、石製品等が出土している。そのうち、18 世紀前半の肥前草花文碗、17 世紀後半の瀬戸美濃菊皿、焼塩壺、金象嵌のある小柄を図示した。

10) SK80 土坑 (第 50 ~ 51、55 図、図版 16-2、16-5)

S12-E43 グリッドに位置する。北側を IV b 層の遺構(SX43)に削平される。P276、SK82 と重複し、SK80 が一番古い。残存する規模は、長軸 191cm、短軸 136cm、深さ 115cm を測る。平面形は不整長方形で、西側に溝状の落ち込みを有する。底面は平坦をなす。断面形は逆台形を呈す。堆積土は 9 層からなり、1 層はシルト、2 層、4 層、6 層から 9 層は粘土質シルト、3 層および 5 層は砂質シルトである。

遺物は、各層から瓦片、陶磁器片、土師質土器片、木製品等が出土している。そのうち、17 世紀代の岸すり鉢、唐津鉄絵皿、唐津型押菊文皿、漆器椀 2 点を図示した。

11) SK81 土坑 (第 50 ~ 51、56 図、図版 15-7、16-5)

S12-E43 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。SK82、SK83 と重複し、SK81 が一番古い。残存する規模は、長軸 260cm、短軸 192cm、深さ 191cm を測る。平面形は不整形で、南側は円錐状に深く落ち込む。底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、北側はテラス状に高まる。側面は起伏が著しい。断面形は深い U 字状を呈し、北側に段を有する。堆積土は 13 層からなり、1 層から 3 層、5 層から 7 層、9 層、10 層、12 層は砂質シルト、4 層、7 層、11 層はシルト、13 層は粘土質シルトである。4 层下面、9 层下面で層が分離できることから、少なくとも 3 段階の掘り直しがなされた可能性がある。

遺物は、各層から瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片等が出土している。そのうち、16 世紀末～17 世紀初頭の志野丸皿、17 世紀前半の志野鉄絵皿、瀬戸美濃天目碗、瓦質土器火鉢、煙管、小柄を図示した。

12) SK82 土坑 (第 50 ~ 51、57 図、図版 16-1、16-5)

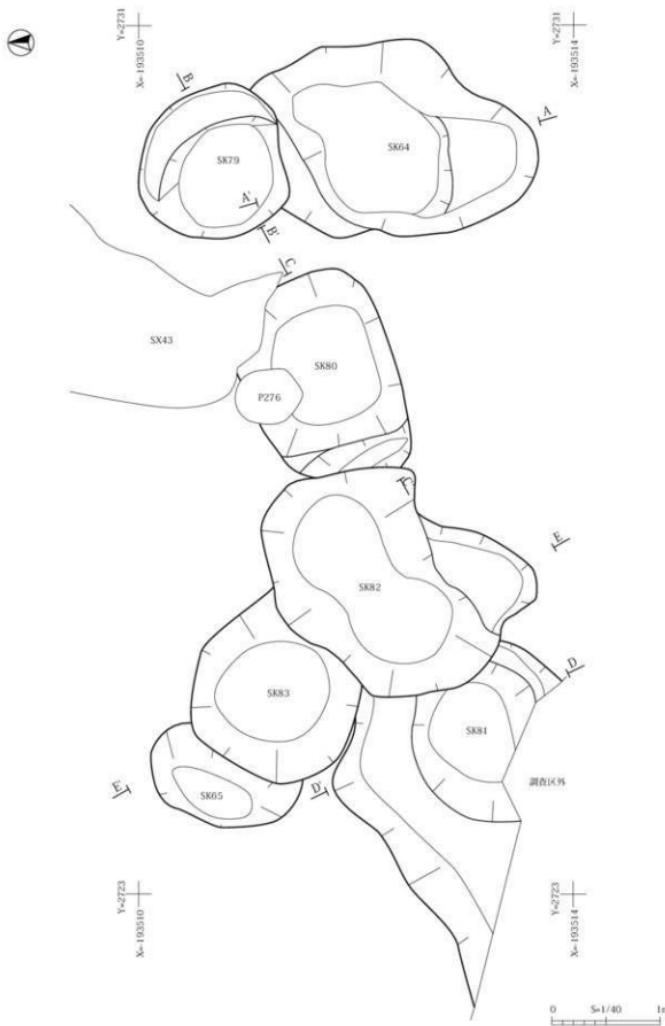
S12-E43 グリッドに位置する。SK80、SK81、SK83 と重複し、SK82 が一番新しい。残存する規模は、長軸 246cm、短軸 159cm、深さ 244cm を測る。平面形は不整形を呈し、底面は平坦で、断面形は深い U 字状を呈す。南側に段を有する。堆積土は 7 層からなり、1 層および 4 層から 7 層は粘土質シルト、2 層はシルト、3 層は砂質シルトである。1 层および 2 層で層が分離できることから、少なくとも 2 段階の掘り直しがなされた可能性がある。

遺物は、各層から瓦片、陶磁器片、土師質土器片、金属製品等が出土している。そのうち、18 世紀前半の肥前碗、肥前陶器碗、瓦 1 点を図示した。

13) SK83 土坑 (第 50 ~ 51 図、図版 15-6、16-5)

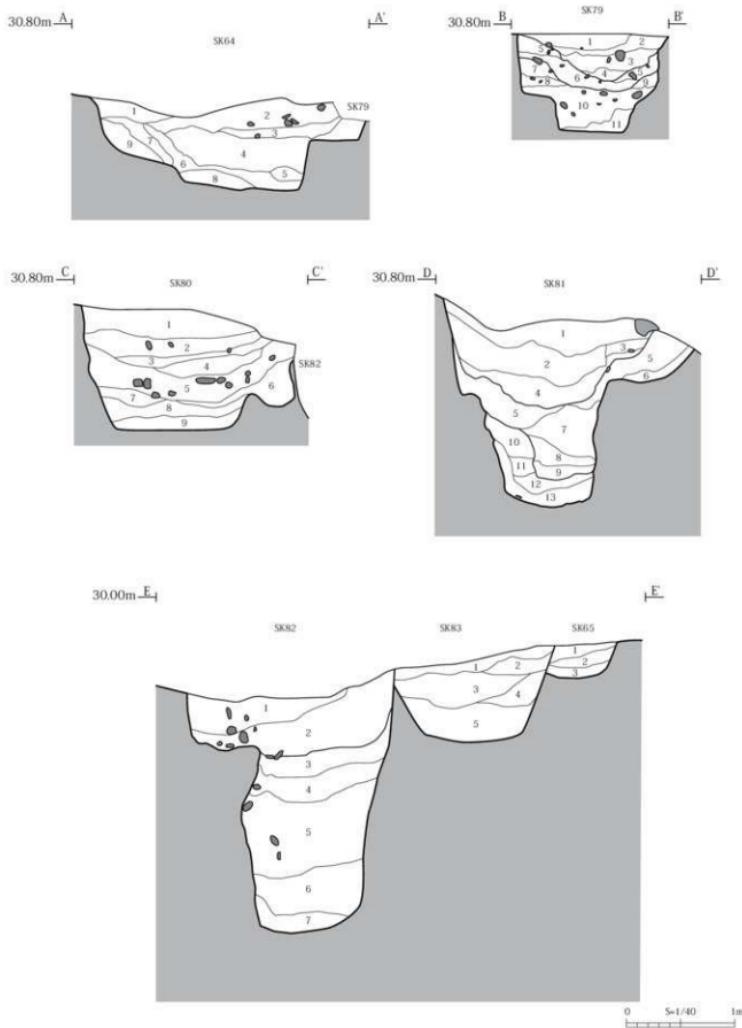
S12-E43 グリッドに位置する。SK65、SK82 と重複し、SK82 より古く、SK65 より新しい。残存する規模は、長軸 162cm、短軸 136cm、深さ 87cm を測る。平面形は不整円で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は逆台形を呈す。堆積土は 5 層の粘土質シルト層からなる。

遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



第50図 SK64・65・79～83 土坑平面図

第2節 西公園高架橋等II区



第51図 SX64・65・79～83 土坑断面図

SK64 土層注記表

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/2	灰黃褐色	砂質シルト	なし	ややあり 径3cm以下の礫少種
2	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	ややあり 径3cm以下の礫少種
3	5B2/1	青黒色	粘土質シルト	あり	ややあり 径25cm以下の礫・鐵錆な白色粒子少種
4	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり 海灰色粘土質シルトブロック 青灰色砂ブロックとの互層状堆積 鹽化鉄分
5	5PB3/1	暗青灰色	粘土質シルト	なし	ややあり 青灰色粘土質シルトブロック 青灰色砂ブロック 径10cm以下の礫少種
6	5B6/1	青灰色	粘土質シルト	あり	ややあり 海灰色粘土質シルト小ブロック
7	5PB2/1	青黒色	粘土質シルト	あり	なし 木質・動物遺体を多量
8	5PB2/1	青黒色	シルト	あり	なし 木質・動物遺体を多量
9	5PB2/1	青黒色	粘土質シルト	あり	なし 青灰色粘土質シルトブロック 動植物遺体少種

SK65 土層注記表

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/2	褐灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり 灰白砂色 径10~40cm程度の礫多種 硫化物・鈷化鉄分少種
2	2.5Y5/2	褐灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり 褐白砂色ブロック 径10cm以下の礫・硫化物・鈷化鉄分少種
3	2.5Y5/2	褐灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり 地山ブロック(浅黄色シルト2.5Y7(3)) 硫化物・鈷化鉄分少種

SK79 土層注記表

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/2	灰黃褐色	砂質シルト	なし	ややあり にぶい黄褐色砂質シルト 黑褐色シルト シルトストーン 鹽化鉄分少種
2	10YR5/3	にぶい黃褐色	砂質シルト	なし	なし にぶい黄褐色砂質シルトとの互層状堆積 径5cm以下の礫少種
3	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	なし	なし にぶい黄褐色砂質シルト
4	10YR5/2	灰黃褐色	砂質シルト	なし	ややあり にぶい黄褐色砂質シルト にぶい黄褐色砂のブロック 径5cm以下の礫少種
5	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	あり	ややあり 灰黃褐色砂質シルト にぶい黄褐色粘土質シルト 硫化物少種
6	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり 微黄色砂質シルト
7	10YR5/2	灰黃褐色	砂質シルト	ややあり	なし 黑褐色粘土質シルト 径5cm以下の礫 シルトストーン多種
8	10YR2/2	黑褐色	シルト	あり	ややあり 灰黃褐色砂質シルト 径7cm以下の中・鈷化鉄分
9	3PB2/1	青黒色	粘土質シルト	あり	あり 鹽化鉄分 径2cm以下の地山ブロック少種
10	10YR5/2	灰黃褐色	砂質シルト	なし	なし にぶい黄褐色小ブロック(10YR7(3)) 径5cm以下の礫少種
11	10YR5/3	にぶい黃褐色	砂質シルト	なし	ややあり にぶい黄褐色砂 黑褐色粘土質シルトとの互層状堆積

SK80 土層注記表

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/4	にぶい黃褐色	シルト	ややあり	海灰色粘土質シルトブロック 径5cm以下のシルトストーン少種
2	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	ややあり	海灰色粘土質シルト大ブロック 径5cm以下の礫少種 シルトストーン多種
3	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	ややあり 海灰色粘土質シルトブロック
4	N2/2	黒色	粘土質シルト	あり	なし 植物体含有層
5	10YR4/2	灰黃褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり 海灰色シルトブロック 径10cm以下のシルトストーン
6	10YR3/1	黑褐色	粘土質シルト	あり	なし 径10cm以下の礫多種 有機質存査含育層 固化物多種
7	N2/1	黑色	粘土質シルト	あり	ややあり 青灰色粘土質シルトブロック(グリナ化したV面)
8	10B6/1	青灰色	粘土質シルト	あり	なし 青灰色粘土質シルトブロック(グリナ化したV面) 多種
9	N2/1	黑色	粘土質シルト	あり	ややあり 青灰色粘土質シルトブロック(グリナ化したV面) 多種

SK81 土層注記表

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/2	褐灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり 褐白色的 径10~40cm程度の礫多種 硫化物・鈷化鉄分少種
2	2.5Y5/2	褐灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり 褐白色的ブロック 径10cm以下の礫・硫化物・鈷化鉄分少種
3	2.5Y5/2	褐灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり 地山ブロック(浅黄色シルト2.5Y7(3)) 硫化物・鈷化鉄分少種
4	2.5Y6/4	にぶい黃褐色	シルト	ややあり	ややあり 黃褐色シルトブロック 径3cm以下の中・硫化物・鈷化鉄分少種
5	10YR6/2	灰黃褐色	砂質シルト	あり	ややあり 黃褐色シルトブロック 径2cm以下の中・硫化物・鈷化鉄分少種
6	10YR6/2	灰黃褐色	砂質シルト	なし	ややあり 黃褐色シルトブロック 径2cm以下の中・硫化物・鈷化鉄分少種
7	10YR6/2	灰黃褐色	砂質シルト	なし	ややあり 黃褐色シルトブロック シルトストーン 硫化物・鈷化鉄分少種
8	2.5Y6/4	にぶい黃褐色	シルト	なし	ややあり 褐黃褐色砂質シルト 褐灰色シルト シルトストーン 硫化物・鈷化鉄分少種
9	10YR6/2	灰黃褐色	砂質シルト	なし	ややあり 褐黃褐色シルト小ブロック 白色粒子をやや多種
10	10YR5/2	灰黃褐色	砂質シルト	なし	ややあり 褐黃褐色シルトブロック 白色粒子をやや多種
11	2.5Y6/1	褐灰色	シルト	ややあり	ややあり 褐黃褐色・鈷化鉄分少種
12	10YR4/2	灰黃褐色	砂質シルト	なし	ややあり 海灰色砂質シルト 地山ブロック 硫化物少種
13	2.5Y7/6	明黃褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり 海灰色砂質シルト 径15cm以下の礫少種 硫化物をやや多種

SK82 土層注記表

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/2	黑褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり 海青褐色粘土質シルト小ブロック 5cm以下の礫少種 鹽化鉄分をやや多種
2	10YR2/2	黑褐色	シルト	ややあり	ややあり 海青褐色シルト小ブロック(5B3/1) 径10cm以下の礫をやや多種
3	10YR4/2	灰黃褐色	砂質シルト	なし	ややあり 10cm以下の地山ブロック層
4	10YR4/2	灰黃褐色	粘土質シルト	ややあり	なし 黄褐色粘土質シルトブロック
5	10YR5/6	黃褐色	粘土質シルト	ややあり	なし 灰黃褐色粘土質シルトブロック 層下部に鈷化鉄分集積
6	2.5Y3/1	黑褐色	粘土質シルト	あり	なし 明黃褐色粘土質シルト小ブロック 2cm以下の硫化物多種 5cm以下の礫少種
7	10YR2/2	黑褐色	粘土質シルト	あり	ややあり 灰黃褐色粘土質シルトブロック 黑褐色粘土質シルトブロック

SK83 土層注記表

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	5PB3/1	暗青灰色	粘土質シルト	ややあり	ややあり 径5cm以下の礫少種
2	10YR7/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり 地山ブロック 層化鉄分多種
3	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	ややあり	ややあり 径5cm以下の礫少種
4	2.5Y3/1	黑褐色	粘土質シルト	あり	ややあり 地山小ブロック微量
5	2.5Y2/1	黑色	粘土質シルト	あり	ややあり 地山ブロック微量

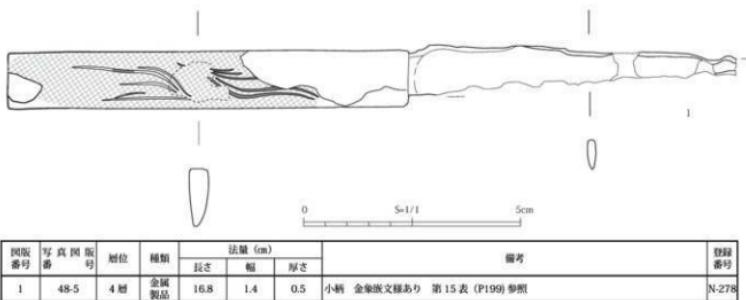
図版番号	写真	国版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法量(cm)	産地	時期	文様・備考	登録番号
1	47-8	7層	陶器	皿	口縁～底部	粗	12.4	6.2	3.0	志野	17世紀後半 志野釉	I-19
2	47-9	7層	陶器	碗	口縁～底部	粗	10.0	4.1	5.6	大福相馬	18世紀 灰釉	I-21
3	93-7	3層	磁器	皿	口縁～底部	粗	-	-	4.5	中国	16世紀後半 瀘州窯 同一個体と思われる破片あり	J-41

図版番号	写真	国版番号	層位	種類	法量(cm)	樹種	備考	登録番号
3	48-1	7層	漆器	(3.9)	(11.5) (5.5)	ブナ属	椀 内外面：黒漆・朱漆復文	L-546

第52図 SK64 土坑出土遺物

図版番号	写真	国版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法量(cm)	産地	時期	文様・備考	登録番号
1	48-2	7層	陶器	菊花皿	口縁～底部	やや粗	(13.9)	6.8	2.8	瀬戸・美濃	17世紀後半～ 18世紀前半 菊型押し 目跡4箇所	I-32
2	48-4	9層	磁器	碗	口縁～底部	密	(12.0)	5.8	(4.0)	肥前	18世紀前半 外腹：萩花文 内面：二重削頭 コニニヤク五瓣花	J-44
3	48-3	4層	土師質 土器	焼塙壺	口縁～底部	粗	-	(6.0)	(6.6)	在地	近世 内面：ロクロナデ タタキ目(底部付近ヘラケズリ?) 底部：細糸切り後ミガキ ロクロ：	I-35

第53図 SK79 土坑出土遺物（1）



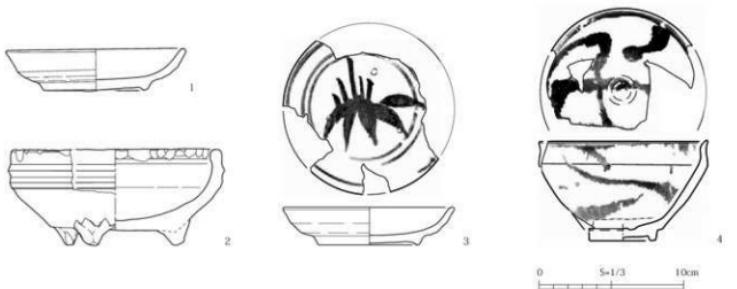
第54図 SK79 土坑出土遺物（2）



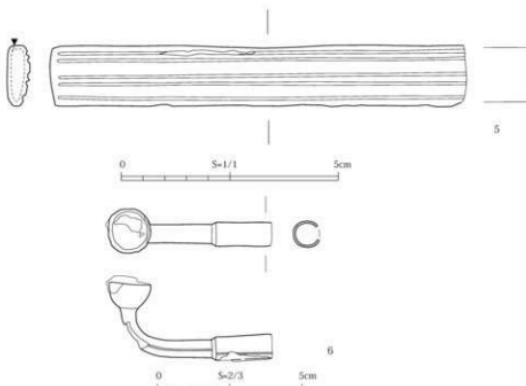
図版番号	写真番号	図版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法量(cm)			产地	時代	文様・備考	登録番号
								L径	底径	器高				
1	48-6	6層	陶器	皿	体部～底部	粗	-	4.6	(2.1)	唐津	17～18世紀	跳ね草文	I-41	
2	48-7	5層	陶器	輪禪皿	口縁～底部	粗	13.8	5.7	3.9	瀬戸美濃	17世紀中頃？	内：灰釉、質入あり、見込みに輪禪、窓ね続き痕あり、外：灰釉、質入あり、輪禪左側	I-37	
3	48-8	5層	陶器	盤	口縁～体部	やや粗	-	-	(10.6)	岸	17世紀後半	-	I-38	
図版番号	写真番号	図版番号	層位	種類	法量(cm)			樹種		備考			登録番号	
					L径	底径	器高	備考						
4	49-2	4層	漆器	(6.0)	(11.4)	(6.1)	ブナ属	桺	内面：朱漆 外面：黒漆・朱漆文様？	外底：黒漆・朱漆文様	-	-	L-553	
5	49-1	4層	漆器	(6.8)	(12.8)	(6.2)	ブナ属	桺	内面・外面：黒漆・朱漆(一部剥落) 梅文	-	-	-	L-552	

第55図 SK80 土坑出土遺物

第2節 西公園高架橋等II区

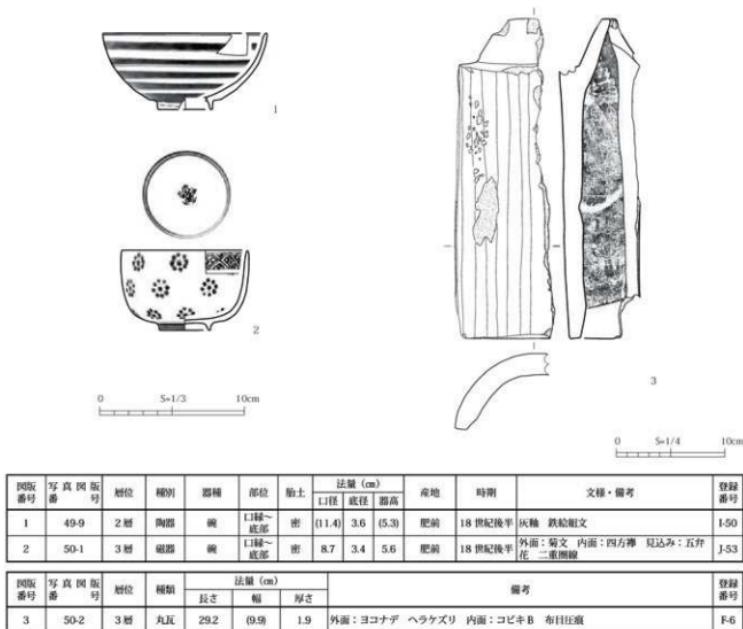


図版番号	写真図版番号	部位	種類	器種	部位	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
						口径	底径	器高				
1	49-3	2層	陶器	皿	口縁～底部	粗	12.4	7.2	2.9	志野	16世紀末～17世紀前半 内志野輪(辰石輪)、質入り 眞人口り　漏斗内：目錬×3　口径：右内径11.6	I-840
2	49-6	10層	瓦質土器	火鉢	口縁～底部	粗	(14.5)	8.4	6.7	在地	不明 三足 突帶2条　口周部敲打痕あり 灰吹軸用か	I-841
3	49-4	11層	陶器	皿	口縁～底部	粗	(11.5)	6.8	2.6	志野	17世紀後半 鉄輪附文　目鏡3箇所	I-846
4	49-5	11層	陶器	天日焼	口縁～底部	中空管	(11.5)	4.4	(6.9)	瀬戸・美濃	18世紀 柿輪・鉄輪流し掛け	I-849



図版番号	写真図版番号	部位	種類	法量(cm)			参考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
5	49-8	4層	金属製品	9.6	1.4	0.5	小柄 平行四線5条 第15表(P199)参照	N-279
6	49-7	4層	金属製品	5.7	1.6	3.0	煙管(解説)	N-217

第56図 SK81土坑出土遺物



第57図 SK82 土坑出土遺物

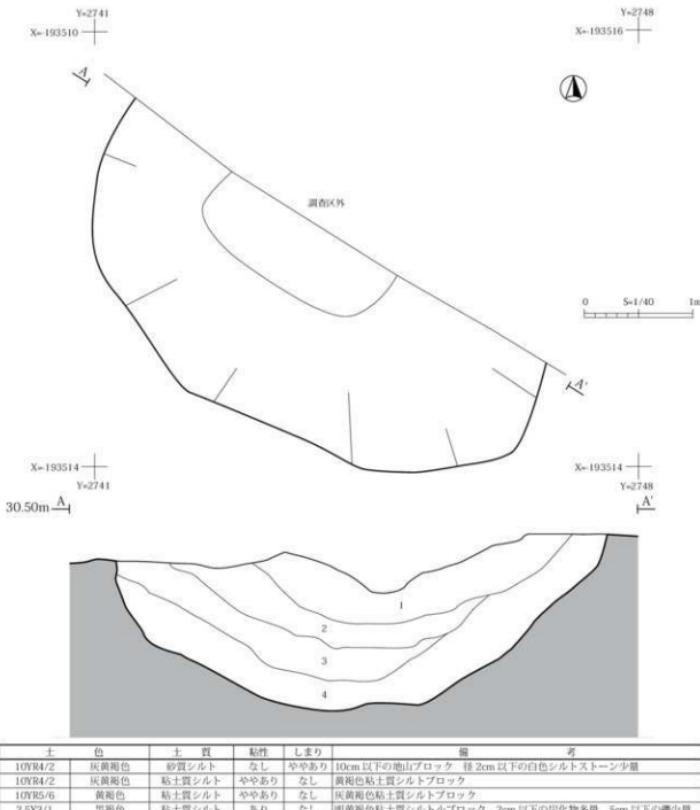
14) SK85 土坑 (第58図、図版17-1～17-2)

S12-E45 グリッドに位置する。北側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸 453cm、短軸 175cm、深さ 184cm を測る。平面形はおそらく不整梢円形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形はすり鉢状を呈す。堆積土は4層からなり、1層は砂質シルト、2層から4層は粘土質シルトである。遺物は出土していない。

15) SX10 性格不明遺構 (第59図、図版17-3～17-4)

S12-E45 グリッドに位置する。SX11と重複し、SX11より古い。残存する規模は、長軸 403cm、短軸 261cm、深さ 100cm を測る。平面形は不整梢円形で、断面形は逆台形を呈す。底面ではいくつかの工具痕が確認された。検出面から 80cm 以下では、周辺のⅦ層の土質が粘土質シルトから岩盤層に変わっており、この岩盤層を掘り下げた時の痕跡と思われる。堆積土は2層からなり、1層は砂質シルト、2層は粘土質シルトである。遺物は出土していない。

第2節 西公園高架橋等Ⅱ区



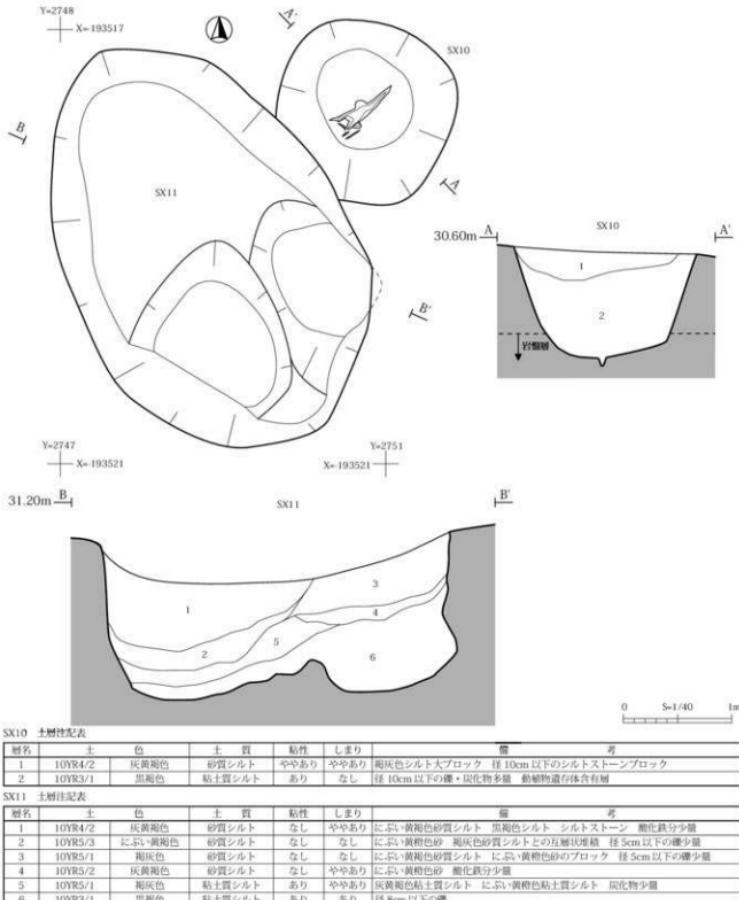
第58図 SK85 土坑平面図・断面図

16) SX11 性格不明遺構 (第59図、図版17-5~17-6)

S12-E46 グリッドに位置する。SX11と重複し、SX11より古い。残存する規模は、長軸 178cm、短軸 152cm、深さ 164cm を測る。平面形は不整円形で、断面形は逆台形を呈し、側面は一部オーバーハングする。底面は起伏があり、北西側に緩やかに傾斜する。また、南側は東西に並んで更に落ち込む箇所がある。堆積土は6層からなり、1層から4層は砂質シルト、5層および6層は粘土質シルトである。SX10の掘り込み側面で見られた岩盤層は確認されなかった。遺物は出土していない。

17) SK51 土坑 (第60~61図、図版17-7)

S12-E44 グリッドに位置する。SX36、SX48と重複し、SK51が一番新しい。残存する規模は、長軸 173cm、短



第59図 SX10・SX11性格不明遺構平面図・断面図

軸169cm、深さ48cmを測る。平面形は不整形を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土は黄褐色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

18) SX36 石組遺構（第60～61図、図版17-8、18-1）

S12-E44 グリッドに位置する。方形の石組土坑と思われるが、石組みは東側部分しか残存しない。SK51、SX48と重複し、SX36が一番古い。残存する規模は、長軸266cm、短軸143cm、深さ53cmを測る。石組みは、径10

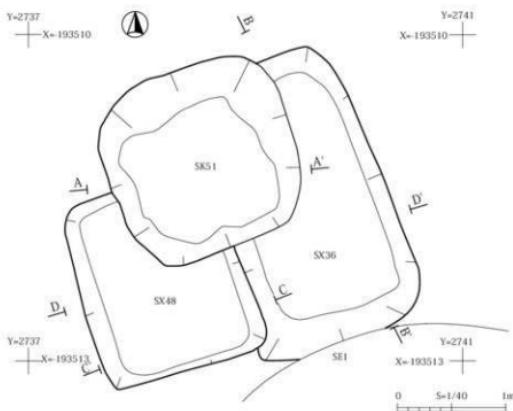
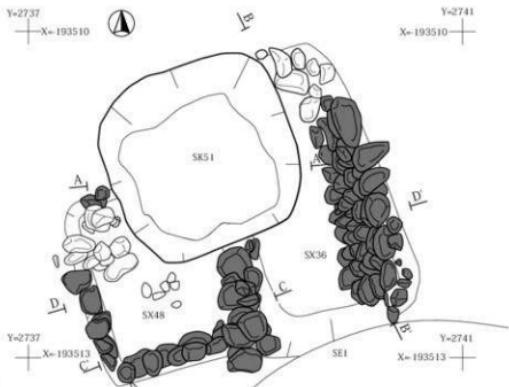
第2節 西公園高架橋等II区

~25cm 前後の自然礫を 5 ~ 6 段積み重ね、上端には幅 30 ~ 40cm 前後の礫を用いている。石組み側面の傾斜角は 60° を測る。平面形は長方形を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土は灰黄褐色粘土質シルトで、掘り方の埋土は黒褐色粘土質シルトで礫を少量含む。遺物は瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、石製品等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

19) SX48 石組造構 (第 60 ~

61 図、図版 18-2)

S12-E44 グリッドに位置する、方形の石組土坑である。SK51、SX36 と重複し、SK51 より古く、SX36 より新しい。残存する規模は、長軸 178cm、短軸 158cm、深さ 25cm を測る。石組は、径 16 ~ 27cm 前後の自然礫で築かれる。石組の内幅 112 ~ 125cm、外幅 168 ~ 180cm、石組み側面の傾斜角 81 ~ 90° を測る。平面形は不整形形を呈し、底面は平坦で、断面形は皿状を呈す。堆積土は灰黄褐色粘土質シルトで、掘り方の埋土は黒褐色粘土質シルトで礫を少量含む。遺物は出土していない。



SK36 土層注記表

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし 黄褐色粘土質シルトブロック
2	10YR4/1	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり 径 1 ~ 3cm の礫少量

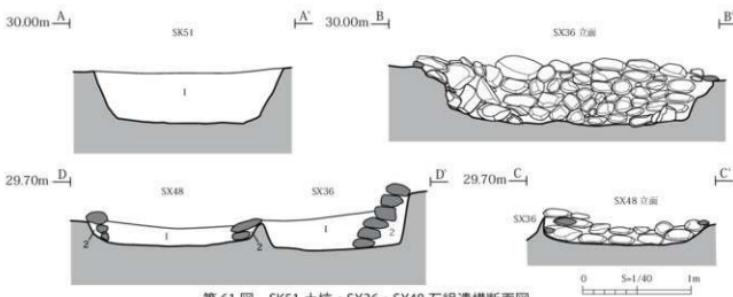
SK51 土層注記表

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし 灰黄褐色粘土質シルトブロック

SX48 土層注記表

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし 明黄褐色粘土質シルトブロック
2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり 径 1 ~ 3cm の礫少量

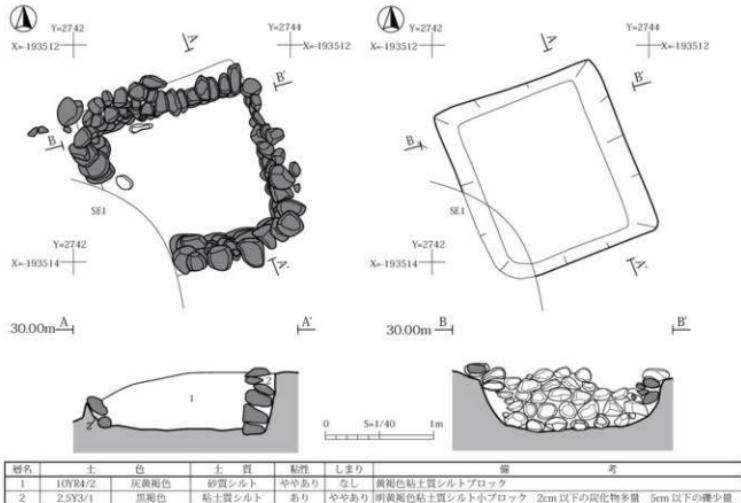
第 60 図 SK51 土坑・SX36・SX48 石組造構平面図・掘り方平面図



第61図 SK51土坑・SX36・SX48石組遺構断面図

20) SX37 石組遺構 (第62図、図版18-3～18-5)

S12-E45 グリッドに位置する、方形の石組土坑である。南西側の一部をIV a層の遺構(SE1)に削平される。残存する規模は、長軸 172cm、短軸 159cm、深さ 50～55cm を測る。石組は、径 10～25cm 前後の自然礫で築かれ、立ち上がり部分、底面、上端には奥行き 25cm 前後の礫を用いている。石組の内幅 123～135cm、外幅 180～190cm、石組み側面の傾斜角 73～75°を測る。平面形は不整形を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土は砂質シルトで、掘り方の埋土は黒褐色粘土質シルトである。遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

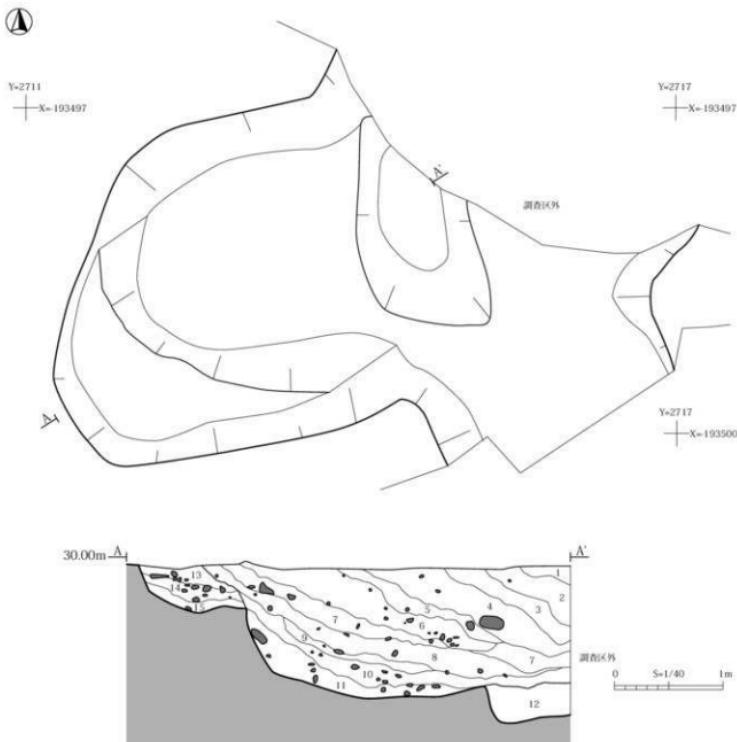


第62図 SX37石組遺構平面図・断面図

第2節 西公園高架橋等Ⅱ区

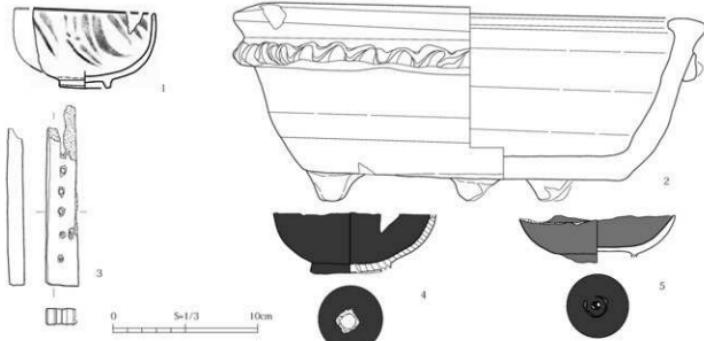
21) SX49 性格不明遺構 (第63~65図、図版18-7~18-8)

S10-E42 グリッドに位置する。北側と南東側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸 555cm、短軸 390cm、深さ 140cm を測る。平面形は不整形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、南東側はテラス状に高まる。北東側は一段深く落ち込んでいる。断面形はおおむね逆台形を呈す。堆積土は 15 層からなり、1 層および 12 層は砂、2 層、13 層、14 層はシルト質砂、3 層から 8 層は砂質シルト、11 層はシルトである。11 層下面で層が掘り込みが分離できる可能性がある。遺物は 1 ~ 11 層から瓦片、陶磁器片、土師質土器片、石製品、木製品、金属製品、古錢等が出土している。そのうち、陶器 1 点、瓦質土器 1 点、金属製品 2 点、木製品 7 点を図示した。12 層 ~ 15 層から遺物は出土していない。



第63図 SX49 性格不明遺構平面図・断面図

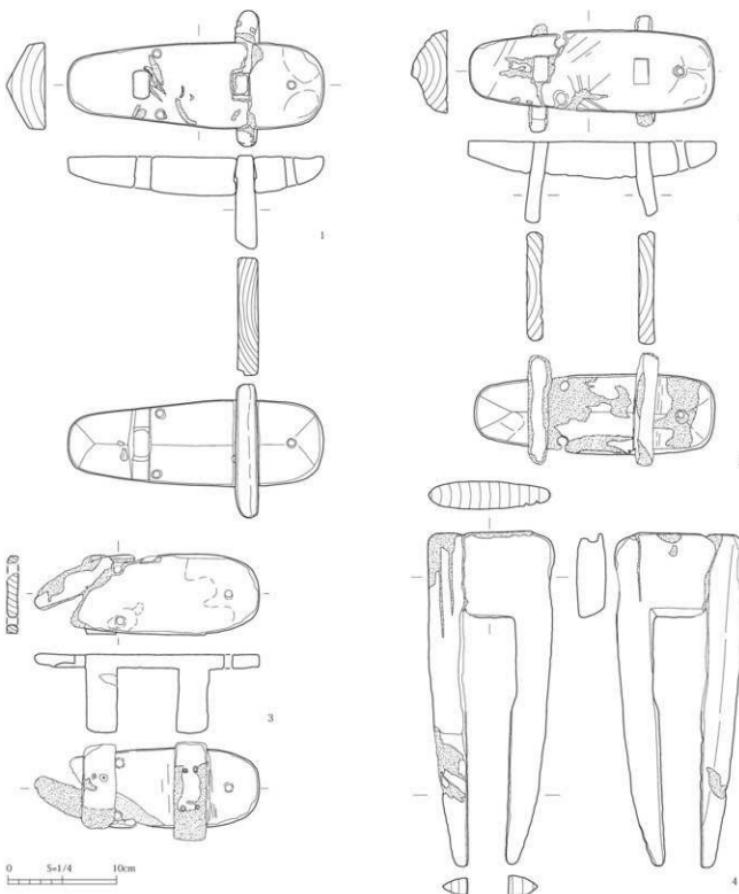
番号	土	色	土	質	粒性	しまり	備考
1	10YR6/8	明黃褐色	砂	土	ややあり	黄褐色粒子	
2	10YR4/2	灰黃褐色	シルト質砂	土	ややあり	明黄色粒子 黄褐色小ブロック 硬化物微量	
3	10YR4/3	に少し黃褐色	砂質シルト	土	ややあり	黄褐色粒子 灰黃褐色粒子 硬化物微量 中・小礫少量	
4	10YR4/4	褐色	砂質シルト	土	ややあり	に少し黃褐色小ブロック 硬化物 小・中礫少量	
5	10YR4/4/2	灰黃褐色	砂質シルト	土	なし	黄褐色小ブロック に少し黄褐色小ブロック 褐色粒子 中・大礫大量	
6	10YR5/3	灰・黃褐色	砂質シルト	土	ややあり	に少し黄褐色小ブロック に少し灰褐色粒子 褐化鉄屑	
7	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	土	ややあり	に少し黄褐色小ブロック 黄褐色粒子 に少し黄褐色小ブロック 小礫少量	
8	10YR3/3	明褐色	砂質シルト	土	ややあり	明褐色大・小ブロック 黑褐色小ブロック 中・小礫少量	
9	10YR3/3	明褐色	シルト質砂	土	なし	なし	
10	10YR4/4	褐色	砂質シルト	土	なし	ややあり に少し黄褐色小ブロック 明褐色粒子 硬化物微量	
11	10YR3/3	明褐色	シルト	土	ややあり	明褐色大・小ブロック 黑褐色粒子	
12	10YR4/3	に少し黃褐色	砂	土	なし	あり 明褐色大・小ブロック 灰褐色 灰褐色物 小礫少量	
13	10YR4/2	灰黃褐色	シルト質砂	土	なし	なし	
14	10YR3/3	明褐色	シルト質砂	土	なし	なし	明褐色大・小ブロック 径3~5cmの礫多量
15	10YR5/6	黃褐色	砂	土	なし	あり	灰白色大・小ブロック シルト・ストーン微量



図版番号	写真	国版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法線(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
								長さ	幅	厚さ				
1	50-3	5層	陶器	瓶	口縁～底盤	中空胎	8.7	3.2	5.6	京	18世紀後半	色絵 世	I-85	
2	50-4	6層	瓦質土器	火鉢	口縁～底盤	粗	32.2	22.2	18.1	在地	不明	三足 外面：ロクロナデ 安帝（指輪押捺）下半：ヘラケズリ	I-87	
<hr/>														
図版番号	写真	国版番号	層位	種類	法線(cm)			樹種		備考			登録番号	
					長さ	(1.1径)	幅(底径)	厚さ	(器高)					
3	50-8	10層	木製品	(12.5)	2.3			1.3		スギ	部材？		L-527	
4	50-7	11層	漆器	(11.2)		(5.5)		(4.3)		ブナ属	椀 内外面：黒漆 底部穿孔？		L-508	
5	50-6	11層	漆器	(10.4)		(5.6)		(3.3)		ブナ属	椀 内外面：朱漆 外底：黒漆・朱漆文様あり		L-507	

図版番号	写真	国版番号	層位	種類	法線(cm)			備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ		
6	51-5	6層	自在鉗	6.6	3.7	0.5	自在鉗		N-275
7	51-4	3層	包丁？	14.1	4.5	1.7	刀子？		N-277

第64図 SX49 性格不明遺構出土遺物（1）

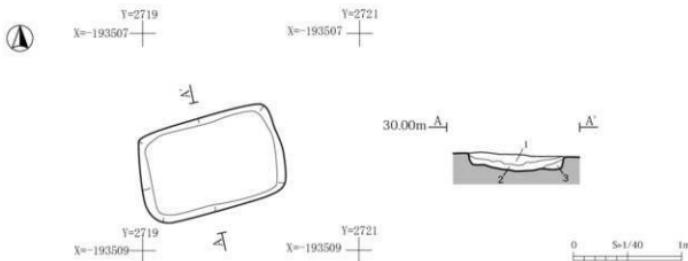


図版 番号	写真 番号	図版 番号	層位	種類	法量(cm)			樹種	参考	登録 番号
					長さ	幅	厚さ			
1	51-3	10	層	木製品	23.7	12.6	8.7	ケヤキ	下駄	L-520
2	51-1	10	層	木製品	22.6	10.8	7.6	ケヤキ	下駄	L-519
3	51-2	11	層	木製品	20.7	7.6	7.4	カツラ	下駄	L-517
4	50-5	10	層	木製品	31.0	11.7	2.8	コナラ種 コナラ筋	長柄道具	L-528

第65図 SX49 性格不明遺構出土遺物（2）

22) SX51 性格不明遺構 (第66図、図版19-1~19-2)

S11-E43 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 132cm、短軸 87cm、深さ 16cm を測る。平面形は隅丸長方形を呈し、底面は平坦で、断面形は長方形を呈す。堆積土は 3 層の砂質シルトからなる。遺物は出土していない。

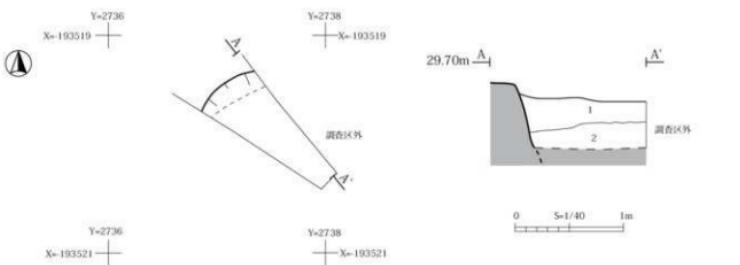


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	赤褐色小ブロック 粗粒大ブロック 無土ブロック・炭化物粒少額
2	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	炭化物少量
3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	明黄色粒子 黃褐色粒子 炭化物微量 下部に無土ブロック多額

第66図 SX51 性格不明遺構平面図・断面図

23) SX68 性格不明遺構 (第67図、図版18-6)

S12-E44 グリッドに位置する。調査区の南東側に位置し、検出されたのは北側の一部のみである。残存する規模は、長軸 134cm、短軸 49cm を測る。70cmまで掘り下げたが底面は確認できなかった。平面形、断面形ともに不明で、側面は鋭角に落ち込む。堆積土は 2 層の砂質シルトからなる。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	黄灰色シルト小ブロック 2cm以下の礫・炭化物を少量
2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	黄灰色シルトブロック シルトストーン・炭化物・施化物分少額

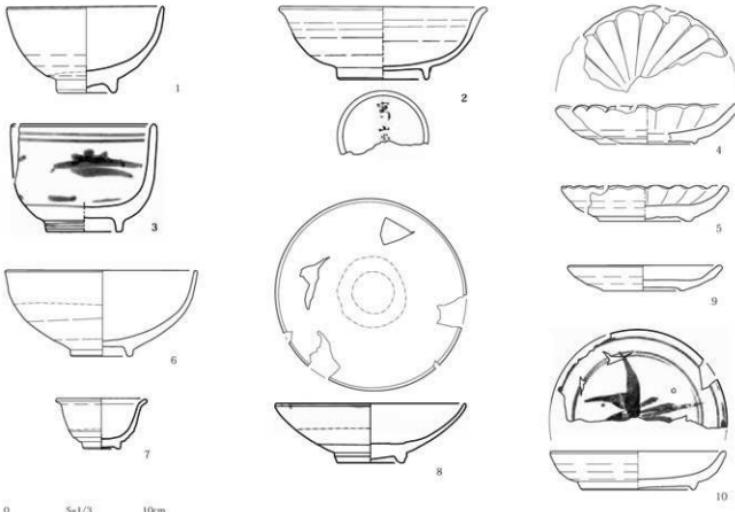
第67図 SX68 性格不明遺構平面図・断面図

第2節 西公園高架橋等II区

24) 遺構外出土遺物 (第68 ~ 71図)

V層の出土遺物点数は瓦501点、陶器414点、土師質土器205点、瓦質土器42点、磁器270点、石製品44点、木製品12点、金属製品37点、骨5点、その他45点、合計1588点で、17世紀前半から18世紀後半の遺物が出土している。

陶器を産地別にみると、志野3点、織部1点、唐津1点、岸1点、嬉野2点、丹波1点、肥前1点、瀬戸美濃1点、大堀相馬2点となる。また、磁器を産地別にみると、景德镇2点、漳州窯4点、肥前72点である。このうち、陶器11点、磁器8点、瓦質土器3点、土師質土器1点、瓦3点、木製品3点を図示した。瓦は瓦頭に金箔を塗っている軒平瓦(第70図-7)、金箔が残存している飾り瓦(第70図-8)が出土している。



図版番号	写真番号	図版番号	グリッド番号	種別	器種	部位	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号	
							胎土	L径 横径	底径 或径	高さ 厚さ				
1	51-7	S12-E44	陶器	碗	口縁~底部	平	半空窓	(10.9)	3.9	6.0	嬉野	17世紀後半	緑釉	I-119
2	52-7	S12-E44	陶器	碗	口縁~底部	平	半空窓	(14.6)	(6.2)	5.0	不明	不明	外底:「鷹山堂」鉄輪	I-120
3	52-8	S11-E42	陶器	碗	口縁~底部	平	半空窓	(10.0)	4.9	7.5	肥前	18世紀	外画:團扇 山水文	I-99
4	52-6	S12-E45	陶器	菊花皿	口縁~底部	粗	(12.7)	6.6	2.9	志野	17世紀前半	志野釉	I-132	
5	52-3	S12-E45	陶器	菊花皿	口縁~底部	粗	(11.6)	6.4	(2.4)	志野	17世紀前半	志野釉	I-830	
6	51-6	S12-E45	陶器	掛け分け碗	口縁~底部	平	半空窓	13.4	6.0	4.4	大堀相馬	18世紀後半	内面:灰釉、貫入あり 外面:灰釉、鉄輪。 貫入あり ロクロ:左	I-158
7	52-1	S11-E42	陶器	小坪	口縁~底部	平	半空窓	(6.9)	2.4	(3.5)	瀬戸・美濃	18世紀	緑釉	I-115
8	52-4	S12-E44	陶器	皿	口縁~底部	平	半空窓	13.2	4.6	4.1	嬉野	17世紀後半	緑釉 見込み:蛇/目輪割ぎ	I-168
9	52-5	S12-E45	陶器	皿	口縁~底部	粗	(10.7)	5.7	1.9	志野	17世紀前半	志野釉	I-141	
10	52-2	S12-E45	陶器	皿	口縁~体部	粗	(22.2)	(7.7)	(2.7)	志野	17世紀	鉄輪文 目跡あり	I-109	

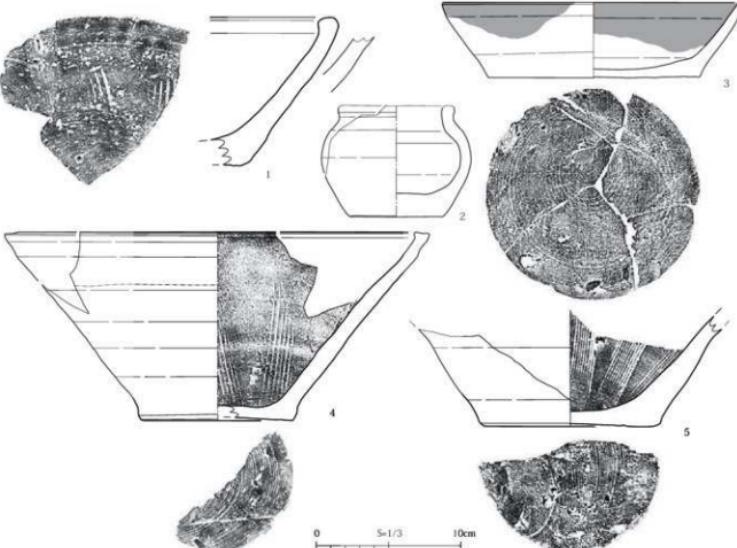
第68図 V層出土遺物 (1)



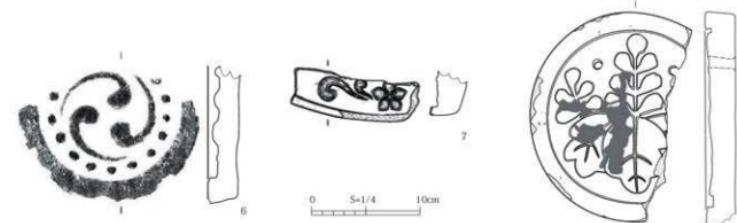
図版番号	真面目番号	グリッド番号	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)	高さ	時期	文様・備考	登録番号
							L径	底径			
							(H)	器高			
1	52-10	S12-E45	磁器	碗	口縁～底部	密	(11.0)	4.5	6.3	肥前 18世紀前半 ～中？ 内面：透明釉 外面：梅、松、太湖石？ 圓線 二重圓線 高台内；二重圓線 高台に砂利着	J-72
2	53-1	S12-E44	磁器	香炉	口縁～底部	密	12.0	8.3	8.3	肥前 18世紀後半 青磁、陰刻草文	J-74
3	52-9	S12-E45	磁器	萬葉猪口	口縁～底部	密	(7.0)	5.0	6.3	肥前 18世紀後半 外腹：樓閣山水文	J-79
4	53-6	S12-E45	磁器	芯立て	胴～底部	密	-	-	(3.5)	肥前 18世紀 頭部欠損	J-80
5	53-3	S12-E44	磁器	脚酒器利	口縁～底部	密	-	8.0	(8.8)	肥前 18世紀 外腹：頃唐草文、松竹梅文 圓線 高台に 砂利着付	J-92
6	53-5	S11-E42	磁器	輪花皿	口縁～底部	密	(14.3)	8.3	3.9	肥前 18世紀前半 ～中 内面：透明白文 見込み：コンニャク五瓣花、梅、松、竹 圓線 目盛あり 基盤に砂利着	J-76
7	53-2	S12-E45	磁器	皿	口縁～底部	密	(12.5)	(3.6)	3.0	肥前 17世紀後半 内面：草文 見込み：蛇ノ目輪刻ぎ	J-148
8	53-4	S12-E45	磁器	皿	口縁～底部	密	(17.1)	12.9	(1.9)	肥前 18世紀後半 内面：若松、晴文 外面：唐草、二重圓線	J-73

第69図 V層出土遺物（2）

第2節 西公園高架橋等 II 区

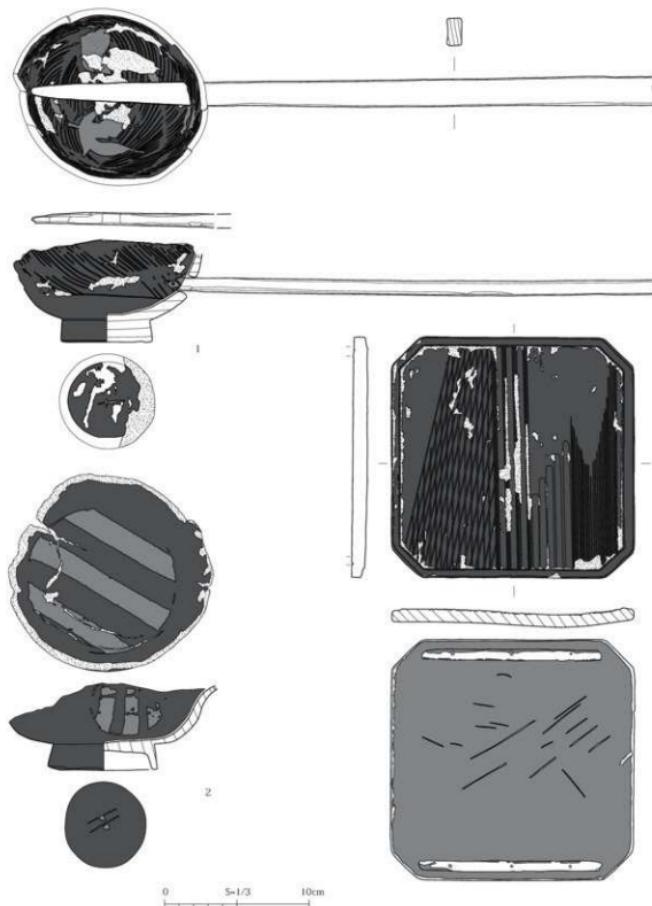


図版 番号	写真 番号	図版 番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
1	54-3	S11-E42		瓦質土器	擂鉢	口縁～底部	粗	-	-	-	在地	不明	鉢目4条	I-129
2	53-7	S12-E45		瓦質土器	壺	体部～底部	粗	-	6.4	7.5	在地	不明	口周部磨耗	I-116
3	54-2	S12-E45		土師質土器	皿	口縁～底部	粗	20.8	14.7	5.2	在地	不明	油煙付着 底部：系切 口クロ：左	I-128
4	54-1	S12-E45		陶器	擂鉢	口縁～底部	粗	(39.4)	(10.4)	13.0	在地	不明	鉢目7条	I-162
5	53-8	S12-E45		瓦質土器	擂鉢	体部～底部	粗	-	(5.0)	7.5	在地	不明	鉢目10条	I-102



図版 番号	写真 番号	図版 番号	グリッド	種類	法量 (cm)			備考		登録 番号
					長さ	幅	厚さ			
6	54-5	S11-E43		軒丸瓦	(2.8)	16.5	(12.7)	瓦当径 16.5 文様区径 12.5 瓦当厚 2.7 周縁高 0.4 周縁幅 2.0		F-11
7	54-6	S12-E43		軒平瓦	(2.9)	(11.7)	(3.4)	瓦当幅 (11.0) 瓦当高 (2.7) 周縁高 0.55 金箔残存		G-27
8	54-4	S12-E45		飾り瓦	2.8	(14.4)	19.5	瓦当径 20.0 文様区径 15.9 金箔残存		H-4

第70図 V層出土遺物 (3)

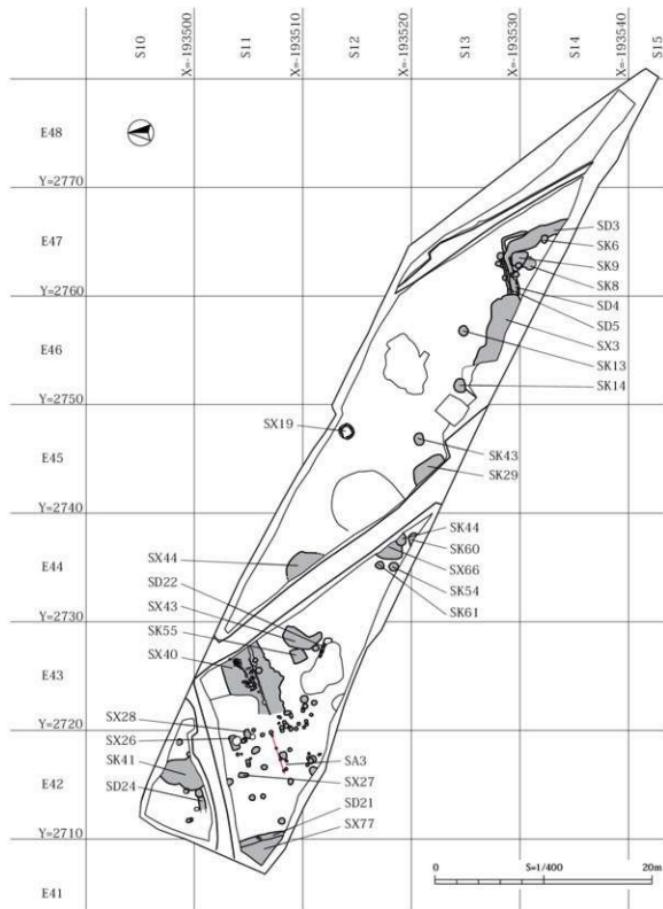


図版 番号	写真 番号	図版 番号	グリッド	種類	法量 (m)			樹種	備考	登録 番号
					長さ (L1径)	幅 (底径)	厚さ (底高)			
1	54-7	S12-E45	木製品	12.9	6.3	5.3		桺:ブナ属 柄:スギ	漆器柄軸用 柄部:長さ 44.4 幅 2.0 厚さ 0.9	L-72
2	55-1	S12-E45	漆器	15.9	7.5	6.1		ブナ属	桺 内外面:黒漆・朱漆三ツ引両文	L-71
3	55-2	S12-E45	木製品	16.8	16.7	1.2	アスナロ属	重箱		L-79

第71図 V層出土遺物 (4)

3 IV b 層上面検出遺構

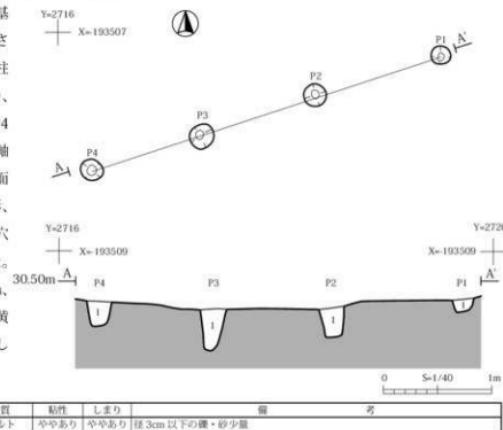
IV b 層上面で検出された遺構は、柱列跡 1 条、溝跡 7 条、土坑 13 基、性格不明遺構 10 基、合計 31 基である。調査区の西端では道路跡と思われる硬化面が検出された。その東側では区画の一部と思われる柱列跡 SA3、それらと近似した方位を示す石列および整地遺構 SX40 が検出された。調査区の中央部は性格不明の土坑群があり、南東端では溝跡および土坑が検出された。



第 72 図 IV b 層上面検出遺構

1) SA3 柱列跡 (第73図、図版19-3~19-6)

S11-E42 グリッドに位置する。4基の柱穴からなる柱列跡である。確認された規模は、総長339cmを測り、柱間の寸法はP1-P2間 121cm(4尺)、P2-P3間 114cm(3尺7寸)、P3-P4間 103cm(3尺4寸)である。主軸方位はN-72°-Eを示す。柱穴の平面形は円形で、断面形はP3はU字形、その他は逆台形を呈す。いずれの柱穴においても柱痕は確認されなかった。柱穴掘り方の規模は、径18~23cm、深さ11~38cmを測る。堆積土は黄灰色砂質シルトである。遺物は出土していない。



第73図 SA3 柱列跡平面図・断面図

2) SD3 溝跡 (第74図、図版19-6、20-1、20-3)

S13・14-E47 グリッドに位置する。西から東へ延びているが、調査区内で屈曲して南東へ延び、L字状を呈する一部石組の溝跡である。SX3、SD5と重複し、SX3より古く、SD5より新しい。残存する規模は、総長979cm、東西部分の長さ383cm、上端幅64~73cm、下端幅16~20cm、深さ20cm、南北部分の長さ5.96m、上端幅103cm~150cm、下端幅74~81cm、深さ16cmを測る。東西部分の主軸方位N-80°-E、南北部分はN-28°-Wを示す。断面形は浅い逆台形を呈し、底面は起伏がある。南側に向かって緩やかに傾斜する。石組みは東西部分の南際にのみ残存し、長軸15~20cm、短軸10~13cm程度の礫を用いている。堆積土は4層からなり、1層から3層は砂質シルト、4層は砂である。4層は流れ込みにより堆積した土と思われる。遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

3) SD4 溝跡 (第74図、図版20-2~20-3)

S13・14-E47 グリッドに位置する。SD3と並走し、南西から北東からへ直線的に延びる溝跡である。SX3と重複し、SX3より古い。残存する規模は、長さ328cm、上端幅17~24cm、下端幅7~10cm、深さ約11cmを測り、主軸方位はN-78°-Eを示す。断面形はU字形を呈す。西側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は灰黄色シルト質粘土の単層である。水流の痕跡は認められなかった。遺物は出土していない。

4) SD5 溝跡 (第74図、図版20-3)

S13-E47 グリッドに位置する。西から東へ延びているが、中央で南東へ延び、L字状を呈する素掘りの溝跡である。SD3と重複し、SD3より古い。東西方向から南北方向に屈曲している。残存する規模は、総長343cm、東西部分

第2節 西公園高架橋等 II区

の長さ 109cm、上端幅 23 ~ 32cm、下端幅 13 ~ 16cm、深さ 9cm、南北部分の長さ 234cm、上端幅 25m ~ 33cm、下端幅 10 ~ 12cm、深さ 9cm を測る。東西部分の主軸方位 N-79°-E、南北部分は N-29°-W を示す。断面形は U 字形を呈す。西側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は黄灰色砂質シルトの単層である。水流の痕跡は認められなかった。遺物は出土していない。



第74図 SD3・4・5 溝跡平面図・断面図

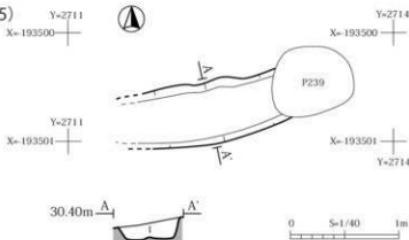
5) SD22 溝跡 (第 75、78 図、図版 20-4、21-1 ~ 21-3)

S12-E43 グリッドに位置する。西から東へ直線的に延びる、瓦組みの暗渠状を呈する溝跡である。丸瓦を上下に合わせ、筒状にしている。Ⅲb 層の遺構 (SK46) および P306 と重複し、SD22 が一番古い。残存する規模は、長さ 134cm、上端幅 21 ~ 25cm、下端幅 13 ~ 15cm、深さ 9cm を測り、主軸方位は N-70°-W を示す。掘り方の断面形は長方形を呈す。東側に向かって傾斜する。掘り方埋土はシルト質粘土である。瓦組内部の堆積土は暗オリーブ色の砂からなり、流れこみにより堆積した土と思われる。出土した瓦のうち、4 点を示した。瓦以外の遺物は出土していない。



6) SD24溝跡 (第76図、図版21-4~21-5)

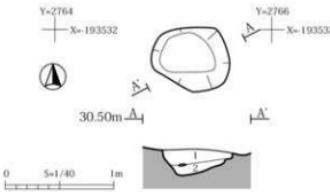
S11-E42 グリッドに位置する。西から東へ直線的に延びる溝跡である。P239と重複し、P239より古い。残存する規模は、長さ126cm、上端幅49~55cm、下端幅38~43cm、深さ18cmを測り、主軸方位はN77°Eを示す。断面形は逆台形を呈す。底面には起伏があり、東側に向かって傾斜する。堆積土は灰黄褐色シルトの単層である。水流の痕跡は認められなかった。遺物は出土していない。



第76図 SD24溝跡平面図・断面図

7) SK6土坑 (第77図、図版21-6)

S14-E47 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸72cm、短軸60cm、深さ24cmを測る。平面形は楕円形で、底面は東側に向かって傾斜し、断面形は不整逆三角形を呈す。堆積土は2層で、オリーブ褐色および黒褐色砂質シルトからなる。遺物は、瓦片、陶磁器片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



第77図 SK6土坑平面図・断面図

8) SK8土坑 (第79図、図版21-7、22-2)

S14-E47 グリッドに位置する。SK9と重複し、SK9より古い。残存する規模は、長軸117cm、短軸104cm、深さ27cmを測る。平面形は不整円形で、底面には起伏があり、断面形は乱れたU字形を呈す。堆積土は3層の砂質シルトからなる。遺物は出土していない。

9) SK9土坑 (第79図、図版22-1~22-2)

S13・14-E47 グリッドに位置する。SD3、SD4、SK8、P16、P26と重複し、SD3、SD4、P16、P26より古く、SK8より新しい。残存する規模は、長軸176cm、短軸144cm、深さ30cmを測る。平面形は不整円形で、底面には起伏があり、断面形は乱れた皿状を呈す。堆積土は5層で、1層および3層から5層は砂質シルト、2層は砂である。遺物は出土していない。

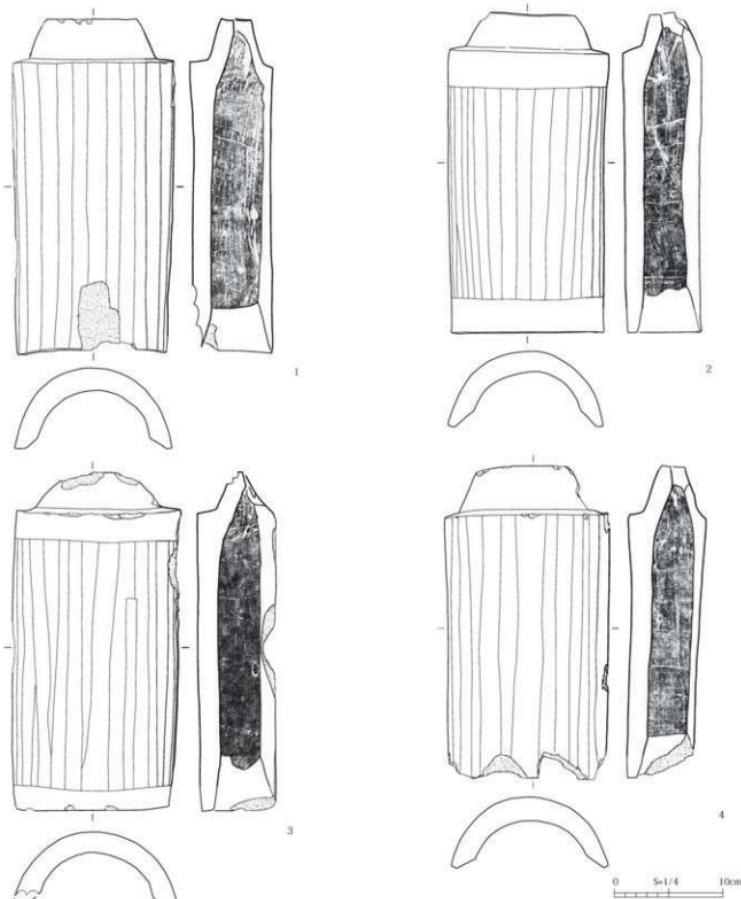
SK8 土壌付記表

層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	7.5YR5/2	灰褐色	砂質シルト	なし	なし 径5cm以下の礫微量 細化鉄微量
2	7.5YR5/2	灰褐色	砂質シルト	なし	なし 細化鉄微量
3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり 径8cm以下の礫少量 砂礫・細化鉄の沈着多量 5mm程度の黄褐色土粒多量
4	10YR5/3	暗褐色	砂質シルト	なし	なし 細化鉄微量
5	10YR4/3	にふい黄褐色	砂質シルト	なし	あり 径12cm以下の礫多量 径15cm以下の細化鉄少量

SK9 土壌付記表

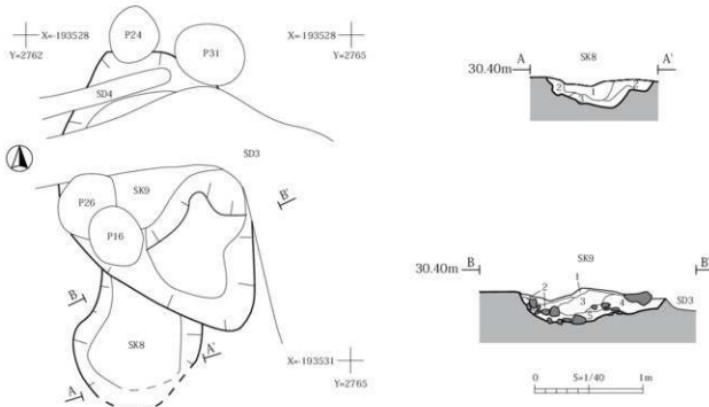
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR5/2	灰褐色	砂質シルト	なし	なし 径3cm以下の礫微量
2	10YR6/2	褐色	砂	なし	なし 細化鉄微量
3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり 径8cm以下の礫少量 砂礫・細化鉄の沈着多量 5mm程度の黄褐色土粒多量
4	10YR5/3	暗褐色	砂質シルト	なし	なし 細化鉄微量
5	10YR4/3	にふい黄褐色	砂質シルト	なし	あり 径12cm以下の礫多量 径15cm以下の細化鉄少量

第2節 西公園高架橋等Ⅱ区



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量(cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	55-3	2層	丸瓦	30.3	14.6	7.3	内幅14.6cm 周幅33.7cm 玉縁先幅8.2cm 玉縁先長さ3.6cm 外面:ヨコナデヘラケズリ 内面:コビキB 布目庄斑	F-16
2	55-4	2層	丸瓦	30.5	14.7	7.2	内幅14.7cm 周幅44.0cm 玉縁先幅(7.7)cm 玉縁先長さ3.1cm 外面:ヨコナデヘラケズリ 内面:コビキB 布目庄斑	F-20
3	55-5	2層	丸瓦	31.0	15.1	7.4	内幅15.1cm 周幅44.1cm 玉縁先幅(7.2)cm 玉縁先長さ3.3cm 外面:ヨコナデヘラケズリ 内面:コビキB 布目庄斑	F-18
4	55-6	2層	丸瓦	28.4	15.1	6.5	内幅15.1cm 玉縁先幅8.2cm 玉縁先長さ(8.4)cm 外面:ヨコナデヘラケズリ 内面:コビキB 布目庄斑	F-19

第78図 SD22出土遺物



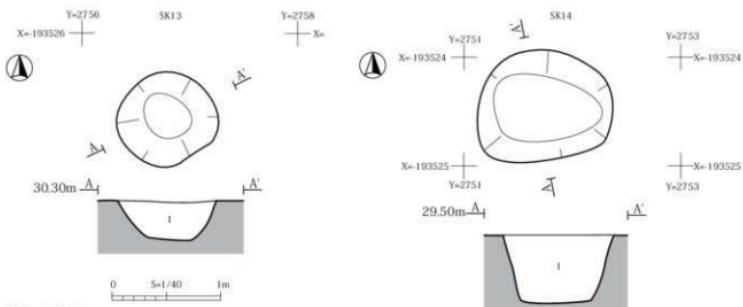
第79図 SK8・9 土坑平面図・断面図

10) SK13 土坑 (第80図、図版22-3)

S13-E46 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 90cm、短軸 85cm、深さ 32cm を測る。平面形は円形を呈し、底面は平坦で、断面形は U 字形を呈す。堆積土は灰黄褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。

11) SK14 土坑 (第80図、図版22-4)

S13-E46 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 123cm、短軸 102cm、深さ 65cm を測る。平面形は楕円形を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。灰黄褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。



SK13 土坑注記表

番号	土 色	土 質	粘性	しまり	備	考
I 10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	少やあり	あり 砂・細～中疊・酸化鉄多量		

SK14 土坑注記表

番号	土 色	土 質	粘性	しまり	備	考
I 10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	少やあり	あり 砂・細～中疊・酸化鉄多量		

第80図 SK13・14 土坑平面図・断面図

第2節 西公園高架橋等 II区

12) SK29 土坑 (第81図、図版22-5)

S13-E45 グリッドに位置する。南西側は

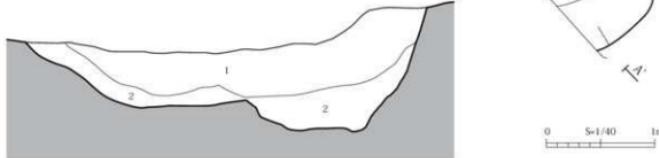
調査区外に延びる。残存する規模は、長軸
342cm、短軸127cm、深さ110cmを測る。

平面形は椭丸長方形で、底面には起伏があり、南東側に落ち込みを有する。断面形は皿状を呈す。堆積土は2層で、1層は砂質シルトで上位整地層による埋戻し土、2層は砂で自然堆積土と思われる。遺物は各層から瓦片、陶器器片、瓦質土器片、土質土器片、土製品、石製品、金属製品等が出土している。そのうち陶器3点、金属製品1点を図示した。

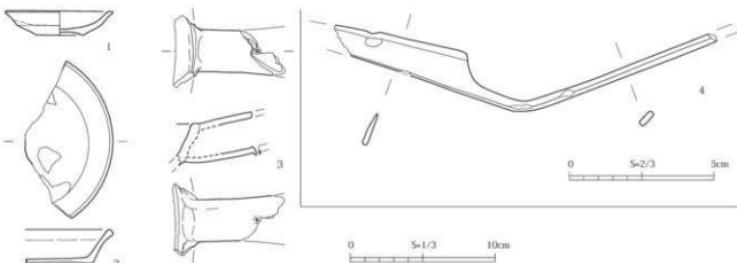
X=193520 Y=2742

X=193522 Y=2742

30.80m A-A'



剖名	土色	土質	動性	しまり	備考
1	10YR5/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色土粒多量 富含物多量 植物遺存体
2	10YR5/4	暗褐色	砂	なし	なし



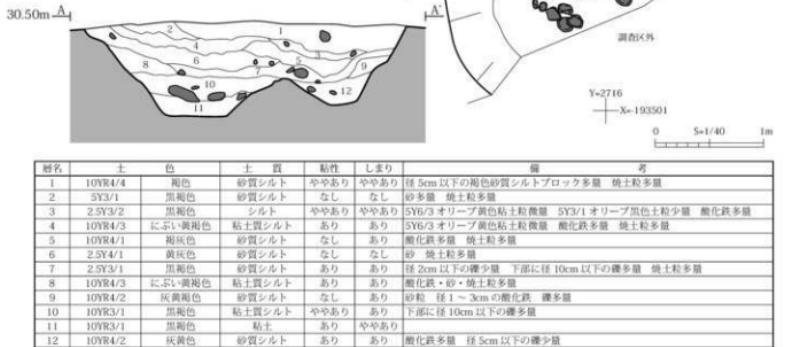
図版番号	写真番号	部位	種類	器種	部位	出土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	高さ				
1	55-7	1層	陶器	小瓶	口縁～底部	やや密	7.4	3.1	1.6	瀬戸・美濃	18世紀前半		I-176
2	55-9	1層	陶器	焰壺	口縁～底部	やや粗	(12.8)	(10.0)	2.2	堤	19世紀	焰輪	I-185
3	55-9	1層	陶器	焰壺	把手	やや粗	-	-	(3.9)	堤	19世紀	焰輪	I-187
図版番号	写真番号	部位	種類	器種	部位	出土	法量(cm)	幅	厚さ	備考			登録番号
4	55-8	1層	金属製品		13.3	1.6	0.2						N-250

第81図 SK29 土坑平面図・断面図・出土遺物

13) SK41 土坑 (第 82、84~85 図、図版 22-6 ~ 22-7)

S11-E42 グリッドに位置する。北側と南側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 335cm、短軸 303cm、深さ 60 ~ 87cm を測る。平面形は不整形で、底面は起伏があり、断面形はすり鉢状から逆台形を呈す。堆積土は 12 層からなり、砂質シルトを主体とし、シルト、粘土質シルト、粘土層がある。

遺物は、1 ~ 5 層、10 ~ 11 層を中心に、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、土製品、金属製品、石製品等が出土している。そのうち、陶器 4 点、磁器 4 点、瓦質土器 1 点、土師質土器 1 点、土製品 1 点、石製品 1 点、瓦 1 点を図示した。



第 82 図 SK41 平面図・断面図

14) SK43 土坑 (第 83、86 図、図版 23-1 ~ 23-2)

S13-E45 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 106cm、短軸 83cm、深さ 28cm を測る。平面形は梢円形を呈し、底面は平坦で、断面形は皿形を呈す。堆積土は灰黄褐色シルトの単層である。遺物は瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、木製品、土製品、金属製品等が出土している。そのうち、陶器 2 点、瓦質土器 1 点、土師質土器 1 点、土製品 1 点、漆器椀 1 点を図示した。



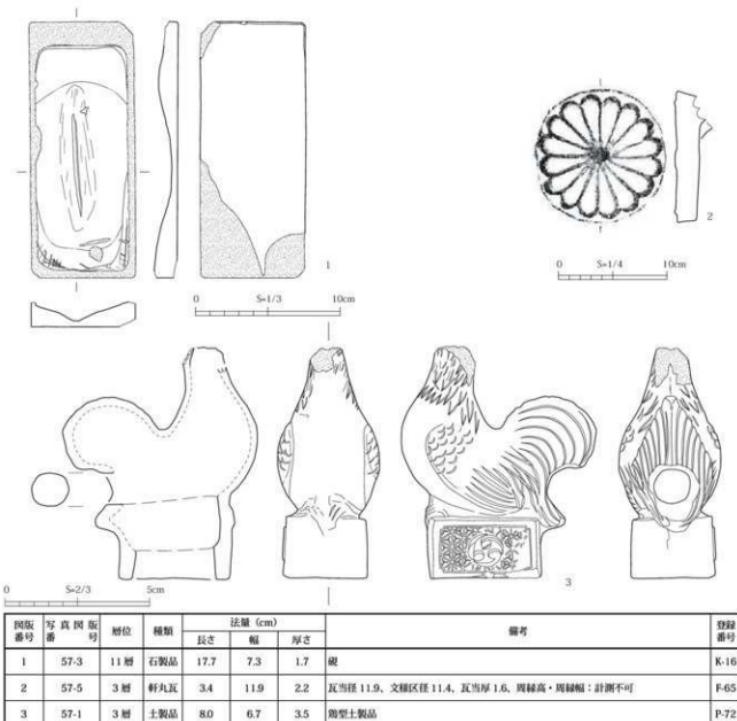
第 83 図 SK43 土坑平面図・断面図

第2節 西公園高架橋等II区



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	墳主	法量(cm) 口径 底径 高さ	産地	時期	文様・備考	登録番号
1	56-1	2層	陶器	碗	口縁～底部	今宇棺	(10.9) 3.9 6.2	大庭相馬	18世紀後半	灰釉・始流し掛け	I-561
2	56-2	3層	陶器	香炉	口縁～底部	粗	8.5 4.2 6.3	堤	19世紀	褐釉 口周部に灰釉	I-903
3	56-4	10層	陶器	不明	口縁～底部	やや粗	8.8 9.0 3.6	不明	近世	抉り入り五力所	I-576
4	57-2	10層	土師質土器	かわらけ	底部	粗	- - -	在地	近世	底墨書き	I-583
5	56-3	10層	陶器	皿	口縁～底部	今宇粗	18.8 9.2 9.2	唐津	18世紀後半	褐釉地白化粧土打ち	I-581
6	56-9	3層	瓦質土器	十能	取手	粗	- - -	在地	近世		I-563
7	56-5	3層	磁器	碗	口縁～底部	密	(10.4) (1.5) 5.89	肥前	18世紀後半～ 19世紀初半	外面：草花文 高台内：開線	J-331
8	56-8	10層	磁器	皿	口縁～底部	密	- - -	中国	16世紀	外側：二重開線 内面：樹木、花文 二重 開線：高台内：へら削り痕あり	J-335
9	56-6	11層	磁器	变形皿	口縁～底部	密	(8.6) (5.2) 2.5	肥前	18世紀？	内面：型紙刷り花文 外面：唐物文？開線 二重開線 高台内：開線 口周部：口割	J-332
10	56-7	11層	磁器	皿	口縁～底部	密	(13.0) (8.0) 3.4	肥前	18世紀	外面：草花文 圓盤～直線形 見込みに染付 汁 内面：開線 高台内：開線 高台内：砂付	J-324

第84図 SK41出土遺物(1)



第85図 SK41 土坑出土遺物（2）

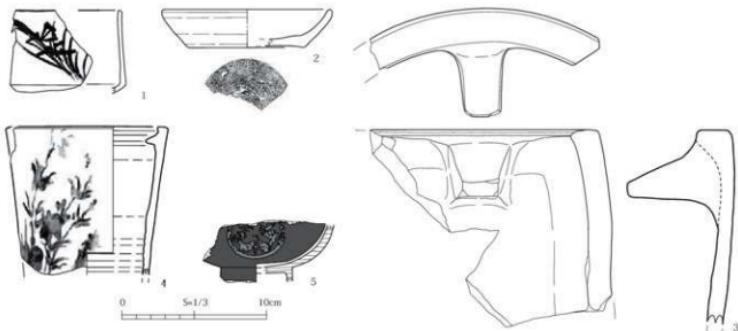
15) SK44 土坑（第87図、図版23-3）

S12-E44 グリッドに位置する。北東側は調査区外に延びる。SX66と重複し、SX66より新しい。残存する規模は、長軸 195cm、短軸 176cm、深さ 14cm を測る。平面形は梢円形で、底面は北側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は灰黄褐色シルトの単層である。遺物は瓦片、陶器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

16) SK54 土坑（第87図）

S12-E44 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 81cm、短軸 77cm、深さ 11cm を測る。平面形は梢円形を呈し、底面は平坦で、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は灰黄褐色シルトの単層である。遺物は陶器片、磁器片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

第2節 西公園高架橋等 II区



図版番号	写真番号	図版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法線(cm)	产地	時期	文様・備考	登録番号	
								口径 底径 器高					
1	57-6	1	1層	陶器	筒型瓶	口縁～底部	やや密	-	(5.6)	大輪相馬	不明 内：灰釉、買入あり 外：灰釉、買入あり 跡船(草文)、口縁あり ロクロ：左?	I-197	
2	57-7	1	1層	土師質土器	かわらけ	口縁～底部	粗	(11.6)	(7.8)	2.8	在地	18世紀後半～19世紀前半	I-191
3	58-1	1	1層	瓦質土器	燃炉	口縁部	粗	(31.4)	-	(13.5)	在地	18～19世紀	I-192
4	57-8	1	1層	陶器	筒型瓶	口縁～底部	粗	(11.2)	-	(10.4)	大輪相馬	18～19世紀 跡船草文	I-195
5	58-3	1	1層	漆器	(10.7)	(4.3)	(5.0)	ナラ属	楕	内面：朱漆 外面：墨漆・朱漆丸に方喰?文		L-79	



図版番号	写真番号	図版番号	層位	種類	法線(cm)	備考	登録番号
					長さ 幅 厚さ		
6	58-2	1	1層	土製品	5.2 2.9 2.0	粘土製品	P-10

第 86 図 SK43 土坑出土遺物

17) SK60 土坑（第 87 図、図版 23-4）

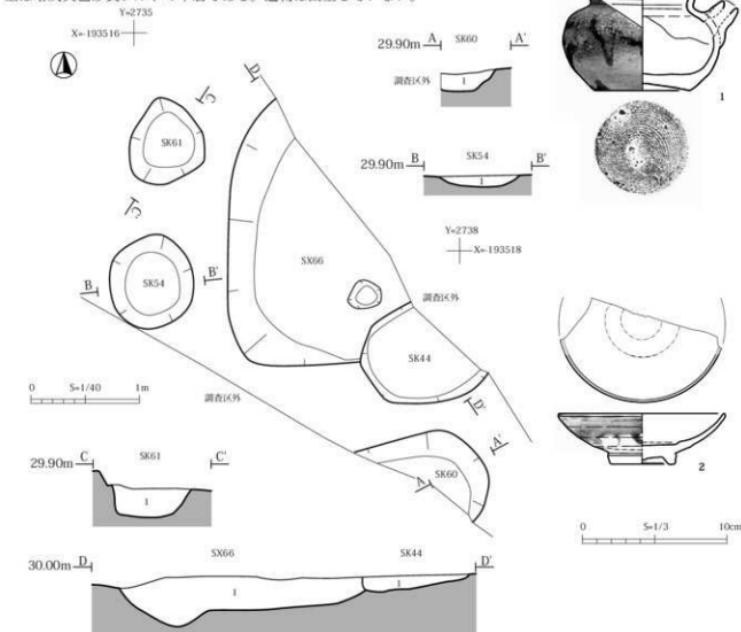
S12-13-E44 グリッドに位置する。南西側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 113cm、短軸 105cm、深さ 19cm を測る。平面形は楕円形を呈し、底面は平坦であり、断面形は逆台形を呈す。褐色シルト質砂の単層である。遺物は、瓦片、陶器片、土師質土器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

18) SK61 土坑（第 87 図、図版 23-5）

S12-E44 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 75cm、短軸 73cm、深さ 29cm を測る。平面形は不整円を呈し、底面は平坦であり、断面形は逆台形を呈す。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、金属製品、石製品等が出土している。そのうち、18世紀代の瀬戸美濃産注口壺および嬉野産綠釉皿を図示した。

19) SX66 性格不明遺構 (第87図、図版23-6)

S12-E44 グリッドに位置する。SK44 と重複し、SK44 より古い。残存する規模は、長軸 1.47m、短軸 1.13m、深さ 45cm を測る。平面形は不整方形で、底面は北側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は皿状を呈す。堆積土は暗灰黄色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。



SK44 土層注記表								
層名	土 色	土 質	粘性	しまり	備 考			
I 10YR5/2	灰黄褐色	シルト	あり	なし	径1mm以下の粘土粒子少			
SK54 土層注記表								
層名	土 色	土 質	粘性	しまり	備 考			
I 10YR5/2	灰黄褐色	シルト	なし	なし	径2mm以下の灰白色土粒子多			
SK60 土層注記表								
層名	土 色	土 質	粘性	しまり	備 考			
I 10YR4/1	褐灰色	シルト質砂	なし	少	径5mm以下の礫少、径3cm以下の礫や砂多			
SK61 土層注記表								
層名	土 色	土 質	粘性	しまり	備 考			
I 2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	なし	粗砂少量、径2cmの炭化物微量			
SX66 土層注記表								
層名	土 色	土 質	粘性	しまり	備 考			
I 2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	なし	SY6/3 オリーブ黄色粘土粒微量、鉄化鉄多量			

図版番号	写真図版番号	遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	58-5	SK61 1層	陶器	急須	口縁～底部	粗	7.0	6.3	6.2	不明	19世紀?	内・外面：跳ね、把手欠損、底部：回転条切り盛あり、ロクロ：有	I-201
2	58-4	SK61 1層	陶器	皿	口縁～底部	粗	(11.0)	4.6	3.5	娘野	17世紀後半	灰釉・緑釉 見込み：蛇／目輪割ぎ	I-200

第87図 SK44・54・60・61土坑・SX66 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

第2節 西公園高架橋等Ⅱ区

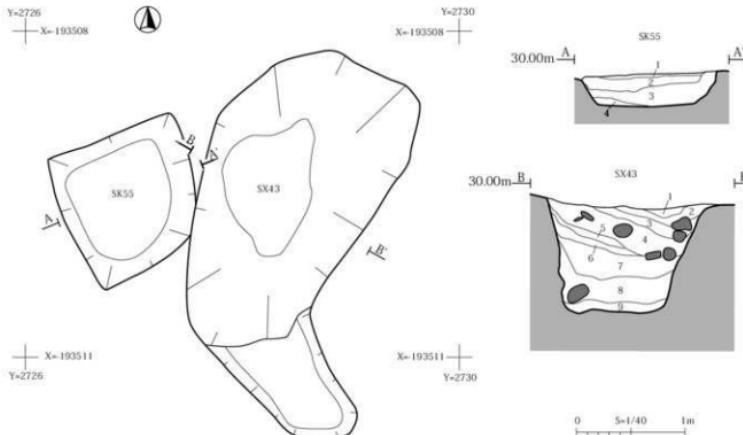
20) SK55 土坑 (第88図、図版24-1～24-2)

S11-E43 グリッドに位置する。SX43と重複し、SX43より古い。残存する規模は、長軸129cm、短軸125cm、深さ30cmを測る。平面形は不整方形を呈し、底面は平坦であり、断面形は逆台形を呈す。堆積土は4層からなり、1層から2層は砂質シルト、3層から4層は粘土質シルトである。砂質シルトおよび粘土質シルトからなる。遺物は出土していない。

21) SX43 性格不明遺構 (第88～89図、図版23-7～23-8、24-2)

S11-12-E43 グリッドに位置する。SK55と重複し、SK55より新しい。残存する規模は、長軸351cm、短軸172cm、深さ98cmを測る。平面形は不整形で、南側に張り出した平坦面を有する。底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形呈す。堆積土は9層からなり、1層から2層はシルト質砂、3層から6層はシルト、7層は砂質シルト、8層は粘土質シルト、9層は砂である。

遺物は、各層から瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、石製品、金属製品等が出土している。そのうち、陶器3点、磁器1点、土師質土器1点、土製品1点、石製品1点を図示した。



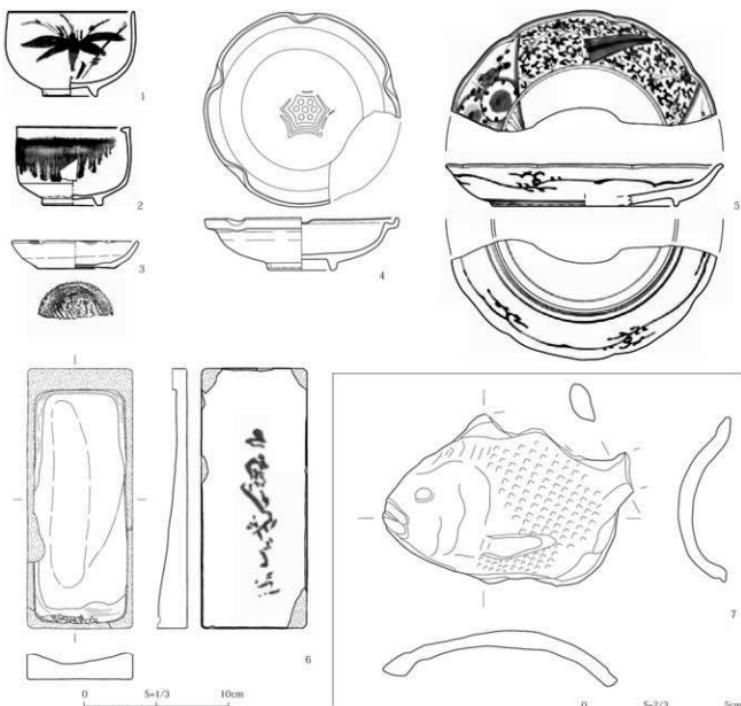
SK55 斜削注記表

剖名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1 10VR5/1	褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径10cm以下の礫多量 径1cmの岩盤ブロックや少量
2 10VR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	粗砂少量
3 10VR6/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	
4 10VR6/4	にじむ灰褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径10cm以下の礫微量 鹿化鉄微量

SX43 斜削注記表

剖名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1 10VR4/1	灰色	シルト質砂	ややあり	あり	粗砂少体 径5cmの岩盤ブロック微量
2 2.5Y4/1	黄褐色	シルト質砂	なし	ややあり	粗砂少体 径5mmの礫と径1cmの炭化物微量 3層に近似
3 10VR4/4	褐色	シルト	なし	なし	径1cm以下の褐色土粒少量 黄褐色土粒多量
4 10VR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	なし	径5mm以下の黄褐色土粒少量
5 10VR3/1	褐色	シルト	なし	なし	径3mm以下の黄褐色土粒少量
6 10VR3/3	暗褐色	シルト	あり	あり	径1～3cmの礫多量
7 10VR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径10cm以下の礫多量
8 10VR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	砂互層状に少量
9 10VR5/2	灰黃褐色	砂	なし	なし	

第88図 SK55 土坑・SX43 性格不明遺構平面図・断面図



図版番号	写真	真	固	版号	層位	種類	器種	部	胎土	法量(cm)	产地	時期	文様・備考	登録番号
1	58-6	7層	陶器	碗	口縁～底部	やや粗	8.6	3.6	5.9	大堀相馬	18世紀後半	鉄船波文	I-209	
2	58-7	7層	陶器	香炉	口縁～底部	やや粗	7.8	4.0	5.4	大堀相馬	19世紀	外面：灰釉・鉄船（鉄船）流し掛け 貫入 （上縁部に灰釉 貫入あり）	I-211	
3	58-8	8層	土師質土器	灯明皿	口縁～底部	粗	(8.8)	(5.2)	1.9	在地	18世紀～19世紀	油煙付着	I-207	
4	59-1	4層	陶器	瓶	口縁～底部	やや粗	(13.4)	4.5	3.7	大堀相馬	18世紀後半～19世紀前半	輪花 見込み田花	I-205	
5	59-2	7層	磁器	輪花皿	口縁～底部	密	19.2	6.4	3.0	肥前	18世紀前半～中?	内面：雪輪 菊 花唐草 猫子 二重織紋 外面：唐草文 圓窓 二重織紋 高台内：圓窓 高台に妙付君 B断面に津彌威あり	J-110	

図版番号	写真	真	固	版号	層位	種類	法量(cm)	備考			登録番号
								長さ	幅	厚さ	
6	59-3	7層	石製品	18.0	7.3	2.1	観	裏面墨書き有り（判読不能）			K-7
7	59-4	7層	土製品	8.5	6.0	0.5	魚型土製品	型作り 裏面に指圧痕あり			P-129

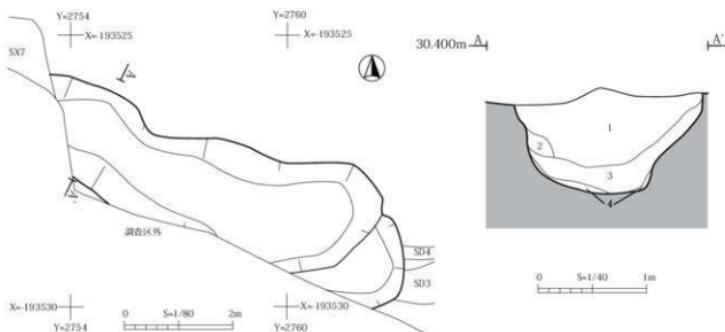
第89図 SX43性格不明遺構出土遺物

第2節 西公園高架橋等Ⅱ区

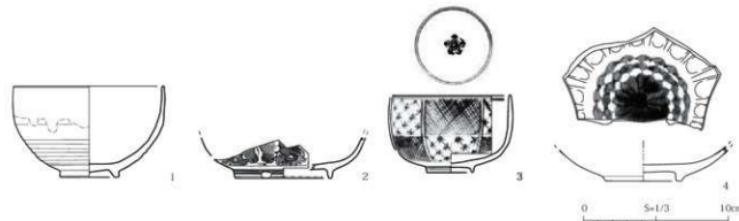
22) SX3 性格不明遺構 (第90~91図、図版24-3~24-4)

S13-E46 グリッドに位置する。西侧と南側の一部は調査区外へ延びる。SD3, SD4 と重複し、SX3 が一番新しい。残存する規模は、長軸 677cm、短軸 207cm、深さ 85cm を測り、主軸方位は N 60°W を示す。平面形は溝状もしくは不整長方形で、東側にテラス状の平坦面を有する。底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形はすり鉢状を呈す。堆積土は 4 層のシルト質砂からなる。

遺物は各層から、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、土製品、石製品、金属製品等が出土している。そのうち、陶器 4 点、磁器 3 点、土師質土器 2 点を図示した。

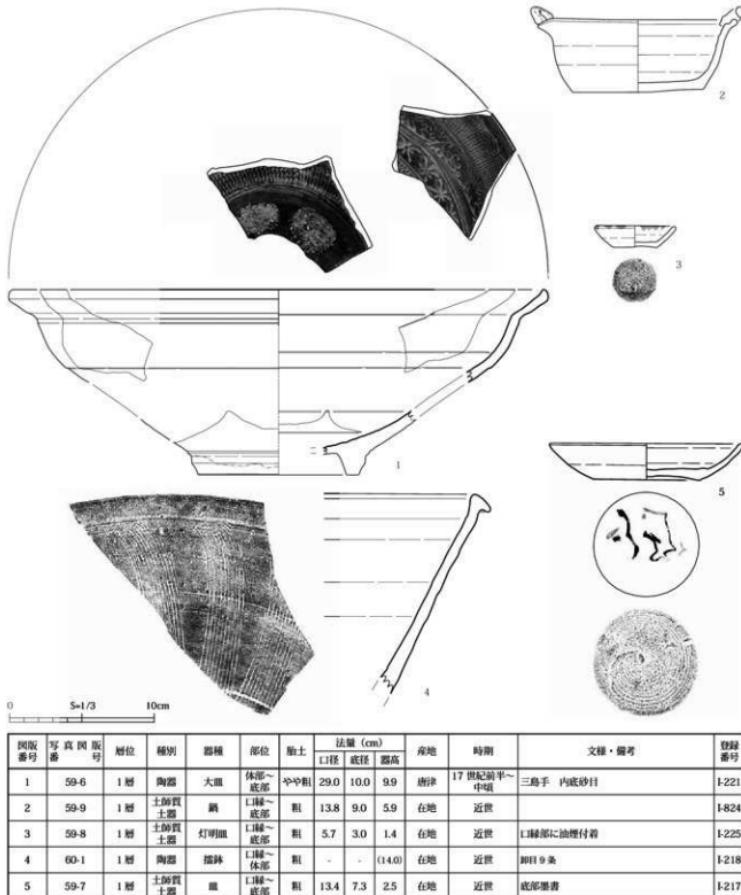


番号	土色	土質	粘性	しまり	備考	
					10YR2/1	10YR4/1
1	褐色	シルト質砂	なし	あり	鰐化鉄 径 5mm の炭化物少多量	径 10cm 以下の漂浮量
2	に赤い漸変色	シルト質砂	なし	あり	鰐化鉄 径 10cm 以下の漂浮少多量	
3	褐色	シルト質砂	なし	あり	上面に鉛分多量 径 5cm 以下の漂浮量	
4	黒褐色	シルト質砂	ややあり	なし	径 10cm の漂浮量	



図版番号	写真番号	図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法線(cm)			产地	時期	文様・備考	登録番号
								口径	底径	器高				
1	59-5	1	1層	陶器	瓶	口縁~底部	半空窓	10.5	3.9	6.3	大堀粗馬	18世紀後半	灰釉・鉄釉掛け分け	J-219
2	60-3	1	1層	磁器	鉢 or 瓶	体部~底部	密	-	-	(6.8)	肥前	19世紀前半 ~?	外面：草花文？ 圖織 二重圖線 桃源流	J-117
3	60-2	1	1層	磁器	瓶	口縁~底部	密	(8.4)	3.2	5.4	肥前	18世紀後半	外面：紅葉文 見込み：圖織 五竹花	J-381
4	60-4	1	1層	磁器	輪花皿	口縁~底部	密	-	(5.3)	(2.2)	肥前	18世紀	内面：菊文 高台に研付着	J-115

第90図 SX3 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物（1）



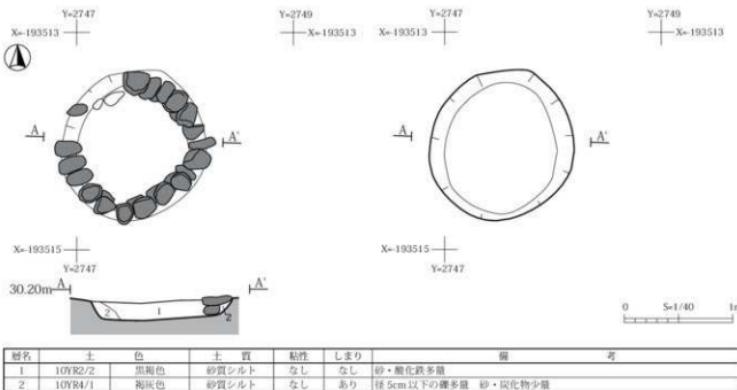
第91図 SX3性格不明遺構出土遺物（2）

23) SX19石組遺構（第92図、図版24-5～24-6）

S12-E45グリッドに位置する、石組土坑である。残存する規模は、長軸136cm、短軸133cm、深さ17cmを測る。平面形は梢円形を呈し、底面は平坦で、断面形は皿状を呈す。石組は、幅13～17cm、奥行き19～25cm、厚さ8～10cmの自然礫を2段積み上げている。石組の内幅90cm、外幅135cmを測る。1層は黒褐色砂質シルトからなる石組み内の堆積土で、2層は褐灰色の砂質シルトからなる掘り方理土で、礫を多量に含む。

遺物は、堆積土から瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

第2節 西公園高架橋等 II 区



第 92 図 SX19 石組遺構平面図・断面図

24) SX26 性格不明遺構 (第 93 図、図版 24-7)

S11-E42 グリッドに位置する。P150 と重複し、P150 より古い。残存する規模は、長軸 138cm、短軸 72cm、深さ 14cm を測る。平面形は不整梢円形を呈し、底面はほぼ平坦であり、断面形は皿状を呈す。堆積土は 3 層からなり、1 層は砂質シルト、2 層から 3 層は粘土質シルトである。遺物は出土していない。

25) SX27 性格不明遺構 (第 93 図、図版 24-8、25-1)

S11-E42 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 92cm、短軸 45cm、深さ 6cm を測る。平面形は不整梢円形を呈し、底面は平坦であり、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は褐灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。

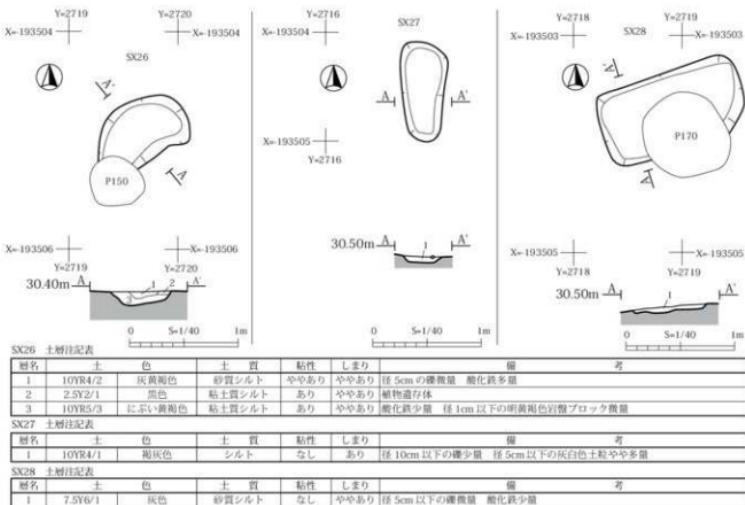
26) SX28 性格不明遺構 (第 93 図、図版 24-8、25-1)

S11-E42 グリッドに位置する。P170 と重複し、P170 より古い。残存する規模は、長軸 87cm、短軸 55cm、深さ 5cm を測る。平面形は不整長方形で、底面は南側に向かって傾斜し、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は灰色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。

27) SX40 整地跡 (第 94 図、図版 25-2 ~ 25-4)

S11-E43 グリッドに位置する。建物の一部を構成すると思われる石列および敷石遺構である。P366、P363 と重複し、P366、P363 より古い。北西側をⅢ b 層の遺構 (SD7) に削平され、東側は調査区外に延びる。溝状の掘り方を有し、上部に石列および石敷きを築き段差を設けている。建物を建てる際の整地跡と考えられる。

残存する規模は、掘り方の長さ 674cm、上端幅 406 ~ 516cm、下端幅 323 ~ 356cm、深さ 39cm を測り、石列は長さ 451cm が確認されている。主軸方位は N-71°-E を示す。掘り方の底面はほぼ平坦である。石列は幅 13 ~ 36cm、長さ 16 ~ 48cm、厚さ 10 ~ 15cm の自然礫を用いている。石列を境に、南側の方が 12cm 低くなっている。堆積土は 10 層からなる。1 層は柱穴の掘り方と思われるが、柱痕は確認できなかった。上端の一部は、整地の上面を構築するためのものと思われる石敷きで塞がれており同時に存在した柱跡と考えられる。周辺に対応するピットは確認できなかった。2 層は石列を埋設するための掘り込みの埋め土と思われる。3 層から 10 層は掘



第93図 SX26・SX27・SX28 性格不明遺構平面図・断面図

辺地業に伴う整地土で、シルト、砂質シルト、粘土質シルト、シルト質砂による互層状堆積である。

遺物は瓦片、17～18世紀代の陶磁器片、土師質土器片、石製品、金属製品等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

28) SX44 性格不明遺構 (第95図、図版25-5～25-6)

S11-12-E44 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸397cm、短軸169cm、深さ56cmを測る。平面形は不整円形で、底面は起伏しながら南東側へゆるやかに傾斜する。断面形は皿状を呈す。堆積土は2層のシルトからなり、1層は上層の整地土が堆積したものと考えられ、2層は自然堆積の可能性がある。遺物は出土していない。

29) SX77 道路状遺構 (第96図、図版26-1～26-3)

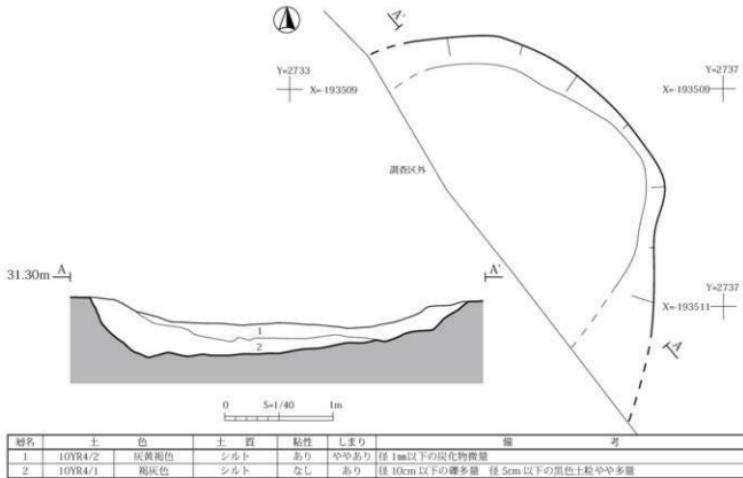
S11-E41 グリッドに位置する。礫敷を伴う整地層の堆積で、道路跡と思われる。東側のSD21と並行する。北側、西側、南側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸407cm、短軸213cm、掘り方の深さ19～22cmを測り、主軸方位はN-15°-Wを示す。掘り方の底面は平坦である。構築土は砂質シルト、粘土質シルト、粘土を版塗状に締固めて構築している。また、4層底面で礫敷が確認されている。遺物は出土していない。

30) SD21 溝跡 (第96図、図版26-1、26-3)

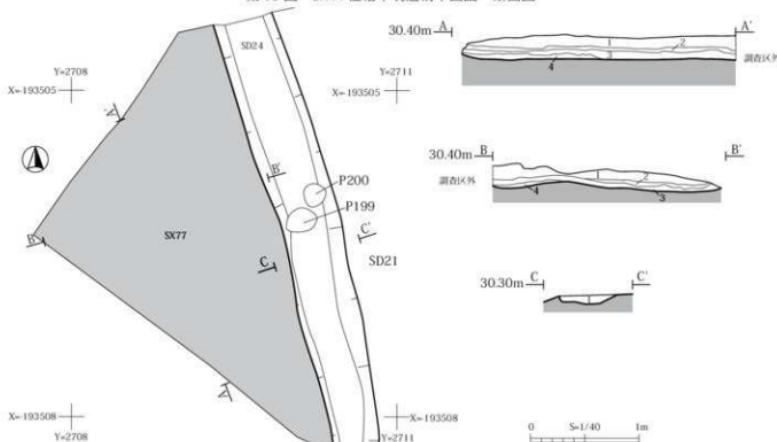
S11-E41・42 グリッドに位置する。北西から南東へ直線的に延びる溝跡である。P199、P200と重複し、SD21が一番古い。西側のSX77と並行し、道路側溝と思われる。残存する規模は、長さ425cm、上端幅43～58cm、下端幅30～41cm、深さ8cmを測り、主軸方位はN-15°-Wを示す。断面形は皿状を呈す。南側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は灰黄褐色砂質シルトの單層である。遺物は出土していない。



第94図 SX40 整地跡平面図・断面図



第95図 SX44 性格不明遺構平面図・断面図



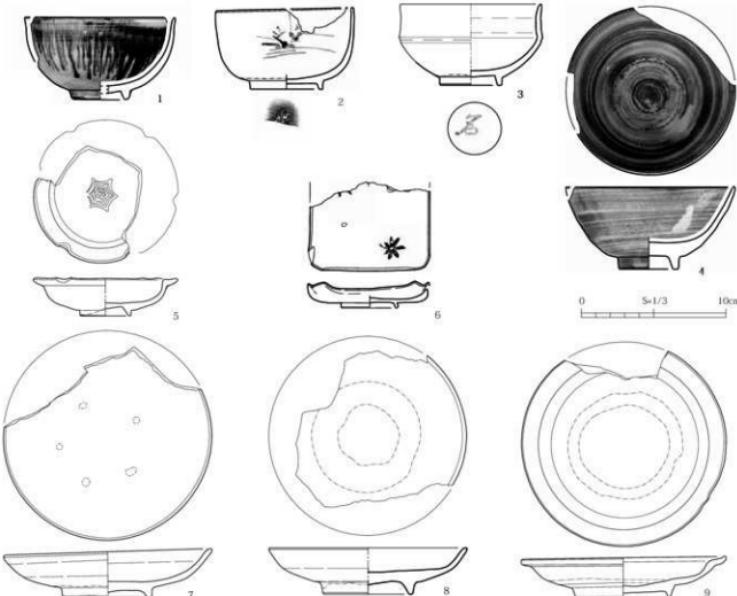
第96図 SX77道路状遺構・SD21溝跡平面図・断面図

第2節 西公園高架橋等II区

31) 遺構外出土遺物 (第 97 ~ 103 図)

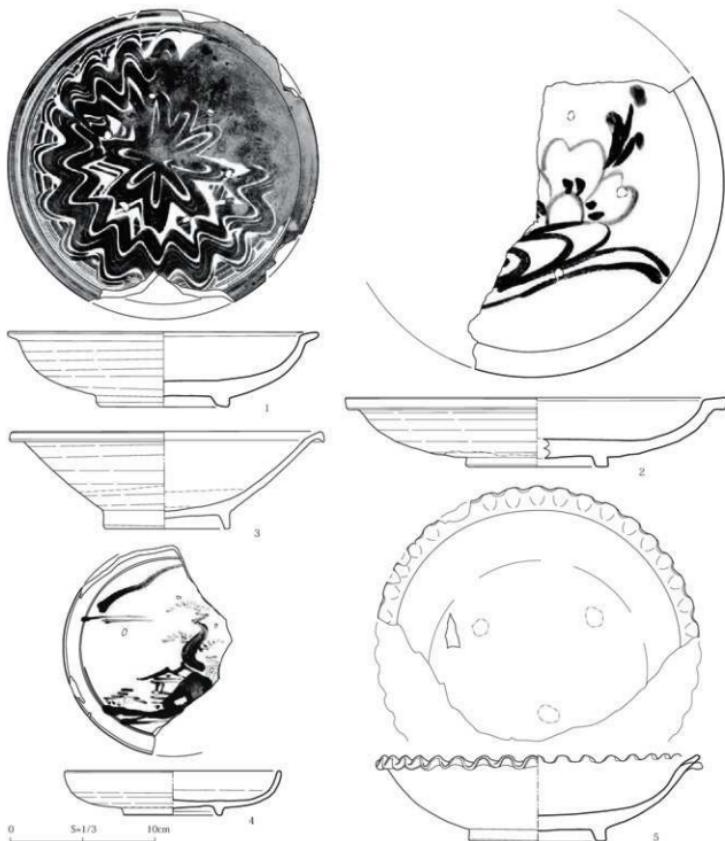
IV b 層の出土遺物点数は瓦 966 点、陶器 864 点、土師質土器 386 点、瓦質土器 74 点、磁器 671 点、石製品 25 点、木製品 41 点、金属製品 71 点、古銭 14 点、骨 1 点、その他 64 点、合計 3195 点で、18世紀後半のものを中心には、16世紀代から19世紀までの遺物が出土している。

陶器を産地別にみると、志野 2 点、織部 1 点、唐津 1 点、岸 2 点、嬉野 1 点、丹波 1 点、京・信楽系 4 点、肥前 1 点、瀬戸美濃 9 点、大堀相馬 9 点となる。また、磁器を産地別にみると、景德鎮 3 点、漳州窯 3 点、肥前 281 点である。このうち、陶器 21 点、磁器 14 点、瓦質土器 3 点、土師質土器 5 点、瓦 2 点、金属製品 3 点、ガラス製品 1 点、石製品 1 点、土製品 3 点、木製品 1 点を図示した。



図版番号	写真番号	真面図番号	グリッド	種別	器種	部位	法線(cm) 口径 底径 器高	産地	時期	文様・備考	登録番号
1	60-6	S11-E42		陶器	碗	口縁～底部	やや密 (5.4) (4.0) 5.7	大堀相馬	18世紀後半	灰釉・船輪流し掛け	I-284
2	60-8	S12-E43		陶器	碗	口縁～底部	やや密 (9.5) 5.0 5.7	大堀相馬	18世紀後半	铁船山水文 外底押印あり	I-278
3	60-10	S13-E46		陶器	碗	口縁～底部	やや密 9.7 4.2 5.6	大堀相馬	18世紀後半～ 19世紀初半	高台内墨書「名」	I-291
4	60-5	S11-E42		陶器	碗	口縁～底部	やや密 11.8 4.0 5.7	肥前	18世紀後半	刷毛目	I-246
5	61-5	S11-E42		陶器	折沿輪花碗	口縁～底部	やや密 (9.5) 3.6 2.5	大堀相馬	18世紀末～ 19世紀初	内面：灰釉 見込み：隠刻文 買入 外面：灰釉 買入	I-301
6	61-6	S13-E46		陶器	変形皿	口縁～底部	やや密 - 3.8 1.6	瀬戸・美濃	18世紀後半～ 19世紀初半	見込み：鐵船紅葉文 目録あり	I-289
7	61-2	S12-E44		陶器	皿	口縁～底部	やや密 11.8 4.0 5.7	肥前	18世紀後半	目録 5 箇所	I-275
8	61-7	S11-E43		陶器	皿	口縁～底部	粗 (13.6) 6.2 3.2	小野相馬	18世紀中～ 後？	内面：灰釉 買入 見込み：蛇／日輪割 外面：灰釉 買入	I-304
9	61-3	S12-E44		陶器	皿	口縁～底部	やや密 14.0 6.4 2.9	瀬戸・美濃	18世紀後半	内面：灰釉 見込み：蛇／日輪割 外面：灰釉 買入	I-292

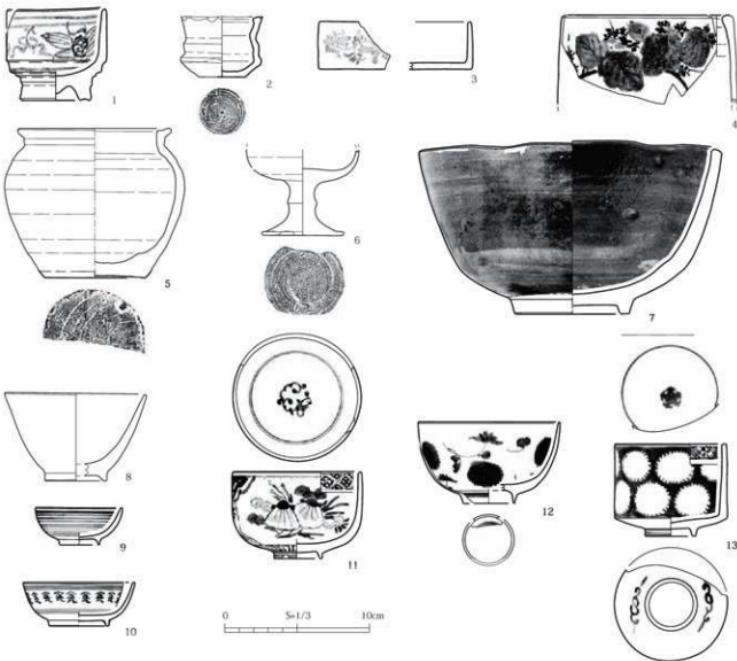
第 97 図 IV b 層出土遺物 (1)



図版番号	写真・図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法線(cm)			产地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	62-1	S12-E44	陶器	鉢	口縁～底部	粗	21.3	8.8	5.5	唐津	18世紀？	内面：刷毛目(白化粧土)　口面6箇所(衝 土目?)　外面：鉄輪　ロクロ：右	I-312
2	60-11	S12-E43	陶器	大皿	口縁～底部	密	26.2	9.6	4.9	瀬戸・美濃	18世紀後半～ 19世紀前半	内面：鉄輪　目跡あり	I-283
3	61-9	S10-E42	陶器	鉢？	口縁～底部	粗	(21.8)	10.6	6.8	瀬戸・美濃	18世紀？	内面：灰釉　見込み；蛇ノ目輪削ぎ　質 外面：灰釉　質入　ロクロ：右	I-305
4	61-4	S12-E44	陶器	皿	口縁～底部	粗	15.0	9.7	3.3	大堀相馬	18世紀後半	鉄輪模様山水文	I-296
5	61-1	S12-E44	陶器	大皿	口縁～底部	粗	(22.7)	9.4	6.2	大堀相馬	18世紀後半	輪花　目跡3箇所	I-247

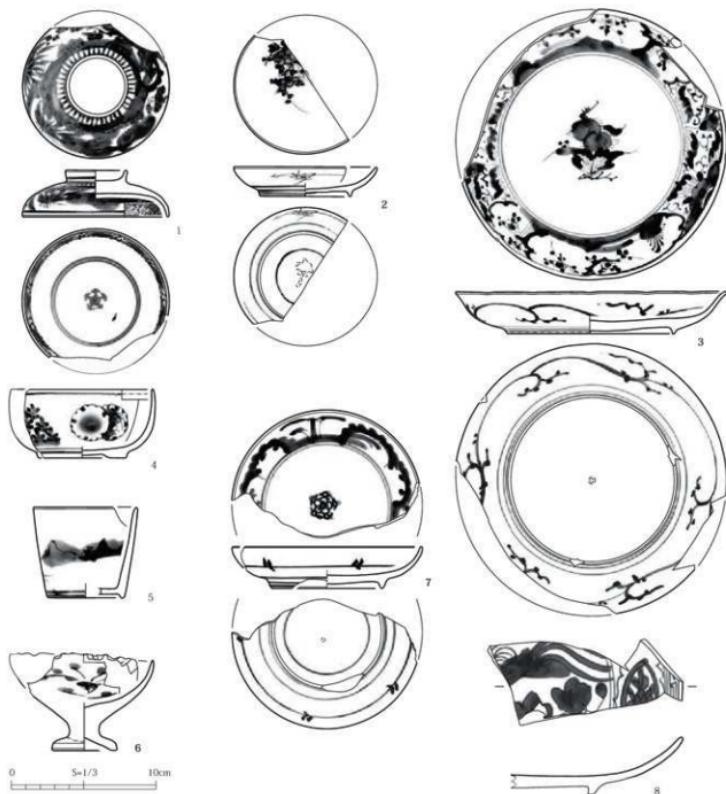
第98図 IV b層出土遺物（2）

第2節 西公園高架橋等II区



図版番号	写真	図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量(cm) 口径 底径 器高	产地	時期	文様・備考	登録番号
1	61-8	S11-E44	陶器	向付	口縁～底部	粗	(6.7)	4.7 6.5	不明	近世	鉄鑿	I-244
2	61-10	S12-E44	陶器	瓶	口縁～底部	粗	5.6	3.0 4.2	瀬戸・美濃	18世紀後半		I-776
3	60-7	S13-E46	陶器	蟹置	口縁～底部	中空	-	- 3.3	大垣相馬	18世紀後半～ 19世紀前半	外側：墨紙文様	I-286
4	62-2	S11-E42	陶器	香炉	口縁～底部	中空	11.6	- 6.1	京	18世紀後半～ 19世紀前半	外側：色絵樹木文	I-288
5	62-3	S12-E43	陶器	小皿	口縁～底部	粗	10.6	7.0 10.3	在地?	18～19世紀	内面：鉄輪 外面：鉄輪 底部：輪軸系切 り痕 口クロ右	I-311
6	61-11	S12-E43	陶器	仏瓶具	口縁～底部	中空	- 5.6	(5.8)	大垣相 馬?	19世紀	内面：灰輪 外側：灰輪 底部：輪軸系切り痕 口クロ右	I-261
7	60-9	S10-E42	陶器	鉢	口縁～底部	粗	(21.0)	7.8 12.0	唐津	18世紀後半	内外面：鉄輪	I-242
8	62-4	S11-E44	磁器	瓶	口縁～底部	密	9.8	4.2 6.2	肥前	18世紀?	青磁 高台に砂付着	J-147
9	62-8	S13-E46	磁器	小杯	口縁～底部	密	6.0	2.8 2.6	肥前	18世紀	外面：粗文	J-148
10	62-7	S10-E42	磁器	小杯	口縁～底部	密	(7.6)	(4.2) 3.0	肥前	18世紀後半	外面：三重團線 文字文	J-149
11	63-4	S11-E44	磁器	瓶	口縁～底部	密	8.6	3.4 6.0	肥前	18世紀後半	外面：色絵草花文 瓶文二重團線 内 面：四方溝 二重團線 見込み：宝珠?	J-158
12	63-2	S11-E42	磁器	瓶	口縁～底部	密	9.8	- 5.5	肥前	18世紀後半	外面：草花文	J-157
13	62-6	S10-E42	磁器	筒型瓶	口縁～底部	密	(7.7)	(3.4) (6.4)	肥前	18世紀	外面：青輪文 内面：四方溝 團線 コン ニャク五弁花	J-167

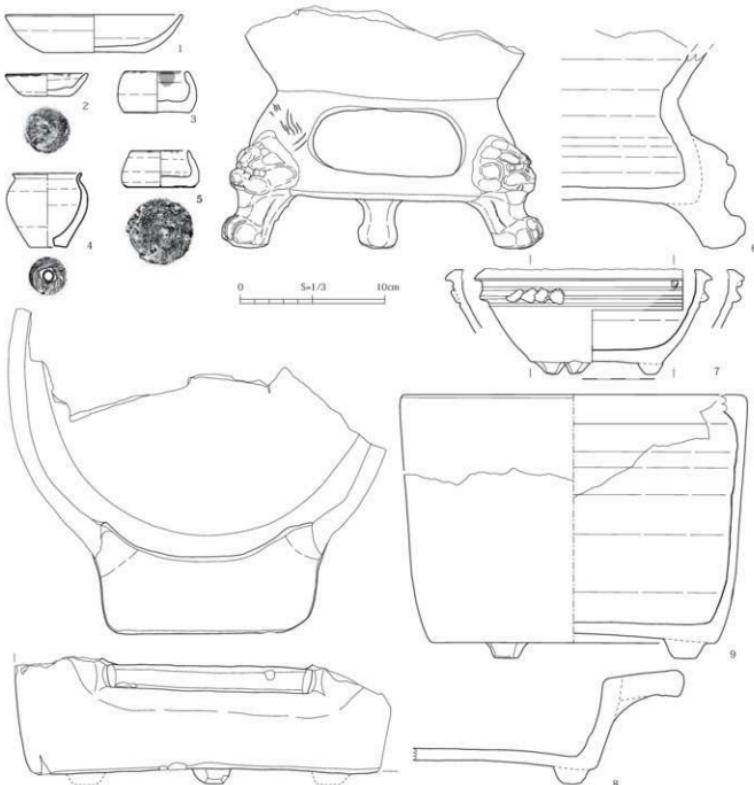
第99図 IVb層出土遺物(3)



開版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	64-1	S11-E44	磁器	蓋	口縁～ 上部 口縁～ 底部	密	10.2	4.3	3.3	肥前	18世紀後半	外面：草花文 内面：四方等 二重頭綻 足込式 コンニャク五片花	J-614
2	64-2	S10-E42	磁器	皿	口縁～ 底部	密	(10.0)	6.2	2.1	肥前	19世紀?	外面：梅文 内面：紅葉文? 圓綻 二重頭 綻 高台内：團綻 高台に妙付着	J-140
3	63-5	S13-E46	磁器	皿	口縁～ 底部	密	18.8	11.5	2.9	肥前	18世紀前半	外面：唐草文 内面：牡丹文、梅文、	J-141
4	63-1	S11-E44	磁器	碗	口縁～ 底部	密	(9.8)	(6.2)	4.7	肥前	18世紀前半	外面：雪輪 松文 口縁内側無輪	J-131
5	62-9	S11-E44	磁器	燕窩口	口縁～ 底部	密	(7.2)	5.2	6.3	肥前	18世紀後半	外面：山水文	J-168
6	63-3	S12-E44	磁器	高足盃	口縁～ 底部	密	(10.2)	4.6	5.7	肥前	18世紀後半	外面：草花文 口縁部敲打痕あり	I-287
7	63-6	S12-E44	磁器	皿	口縁～ 底部	密	13.1	7.6	2.9	肥前	18世紀	外面：草文 内面：山水文 圓綻 見込み： コンニャク五片花	J-156
8	93-5	S12-E44	磁器	皿	口縁～ 底部	やや密	-	-	3.9	中国 (瀋州)	16世紀	内面：染付楓紋文 高台脇ハナレ砂 潭州 窯 同一個体片あり	J-128

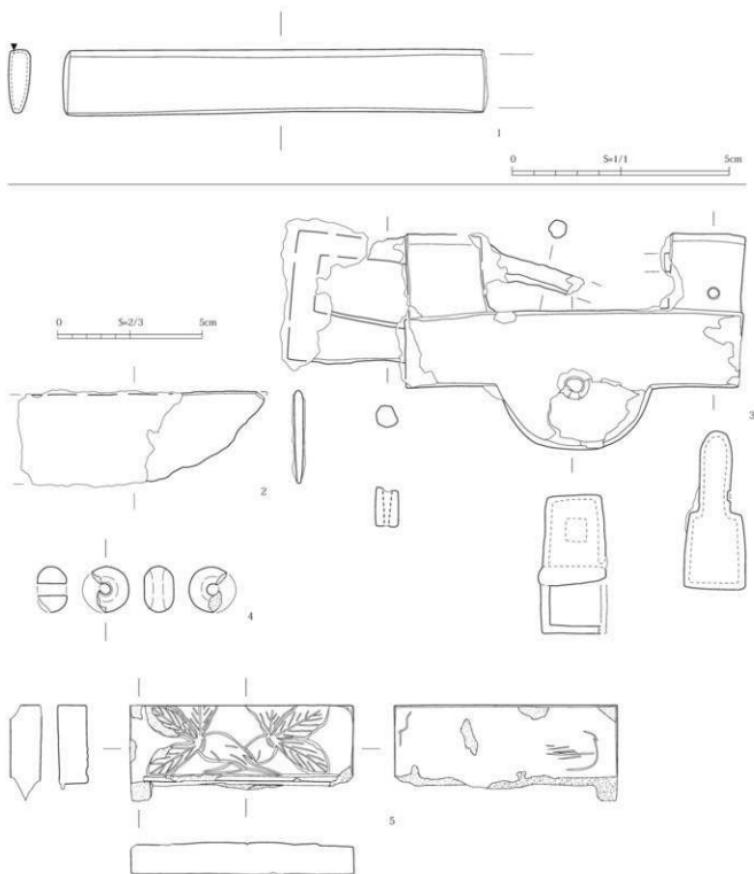
第100図 IVb層出土遺物(4)

第2節 西公園高架橋等 II区



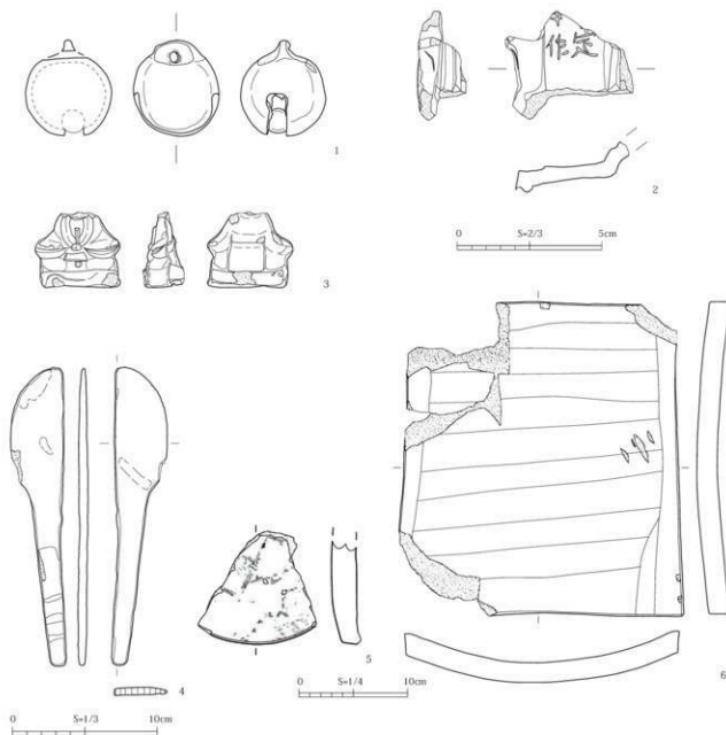
図版番号	写真番号	図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量(cm) 口径 底径 器高	产地	時期	文様・備考	登録番号
1	64-3	S12-E43		土師質土器	皿	口縁~底部	粗	12.2 7.0 2.6	在地	近世	内面:ロクロナデ 外面:ロクロナデ	I-319
2	64-6	S11-E44		土師質土器	灯明皿	口縁~底部	粗	5.7 3.5 1.6	在地	近世	内面:ロクロナデ 油煙付着 外面:ロクロナデ 油煙付着 底部:回転削り痕あり ロクロ:右	I-308
3	64-4	S11-E44		土師質土器	灯明皿	体部~底部	粗	4.4 4.5 2.9	在地	近世	内面:ロクロナデ 外面:ロクロナデ 油煙付着	I-762
4	64-8	S11-E44		土師質土器	豆甕	口縁~底部	粗	4.7 2.6 5.1	在地	近世	底部穿孔	I-331
5	64-5	S12-E43		土師質土器	灯明皿	口縁~底部	粗	4.3 4.5 2.5	在地	近世	内面:ロクロナデ 油煙付着; 外:ロクロナデ, 油煙付着 底部:回転削り痕あり ロクロ:右	I-326
6	64-9	S11-E42		瓦質土器	紋造り	口縁~底部	粗	- 18.8 16.4	在地	近世		I-323
7	65-2	S11-E42		瓦質土器	火跡	口縁~底部	粗	14.8 8.9 7.3	在地	近世	三足 突彫 口神部截打痕あり	I-838
8	65-1	S10-E42		瓦質	燐鉢?	口縁~底部	粗	- (25.6) (8.6)	在地	近世		I-302
9	64-10	S12-E45		瓦質	火入れ or 火跡	口縁~底部	粗	- 19.8 18.2	在地	近世	内面:一部削痕あり 外面:ロクロ形成後へ向に よる範囲のミガキ 口縁部ミガキ 横縞削痕	I-328

第101図 IV b層出土遺物(5)



図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量(cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	65-7	S11-E42	金属製品	9.8	1.4	0.6	小柄 第15表(P199)参照	N-341
2	65-9	S12-E43	金属製品	(8.6)	3.4	0.5	刀子	N-350
3	65-10	S11-E44	金属製品	7.5	12.1	2.5	鍔	N-331
4	66-1	S12-E44	ガラス製品	1.3	-	1.0	トンボ玉	K-12
5	65-8	S12-E45	石製品	3.3	7.7	1.1	礪	K-10

第102図 IV b層出土遺物(6)

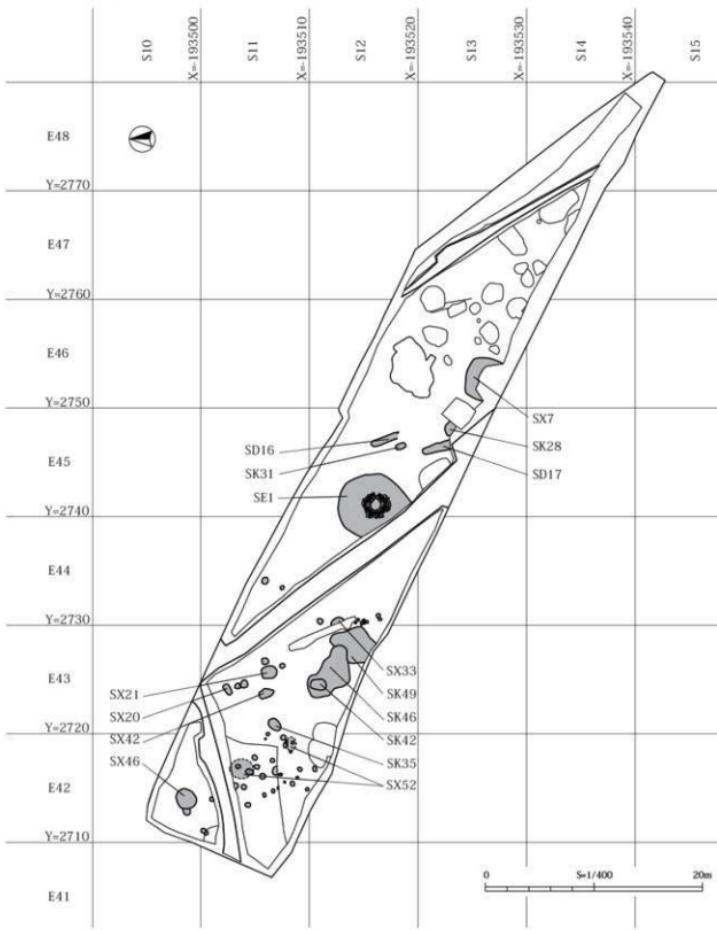


図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量(cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	65-4	S12-E45	土製品	3.3	2.9	2.9	土鉢	P-35
2	65-5	S12-E45	土製品	3.7	4.4	1.7	土人形 文字あり 「…口定…作」	P-20
3	65-3	S11-E42	土製品	2.6	2.9	1.7	土人形	P-34
4	65-6	S12-E43	木製品	20.6	3.7	0.6	籠	L-63
5	器體丸 マー	S12-E43	その他瓦	-	11.0	2.3	金物残存	H-5
6	66-2	S12-E45	平瓦	28.3	25.0	1.8	頭幅(13.0) 尾幅(17.9)	G-8

第103図 IV b層出土遺物（7）

4 IV a 層上面検出遺構

IV a 層上面で検出された遺構は、溝跡 2 条、井戸跡 1 基、土坑 7 基、性格不明遺構 6 基、合計 16 基である。調査区の中央部では掘り方径 6m 弱を測る井戸跡 SE 1 が検出された。その西側では、V 層、IV b 層で検出された土坑と類似した、規模の大きな土坑が検出され、そのうち SK49 からは大量の木製品が出土した。



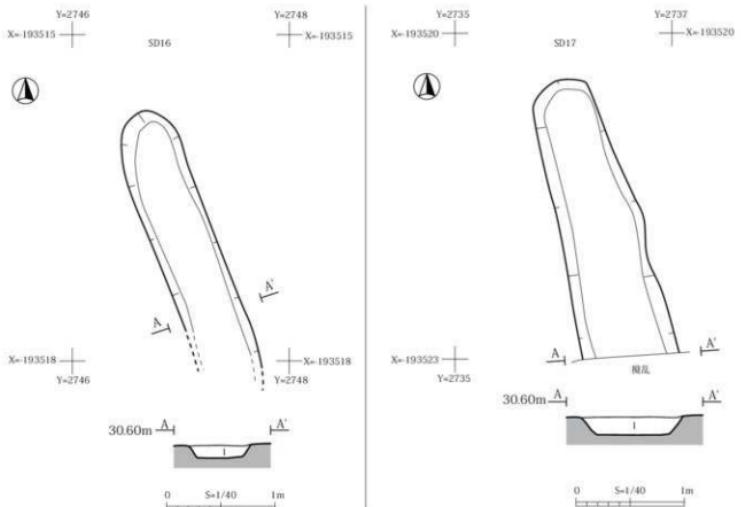
第 104 図 IV a 層上面検出遺構

1) SD16 溝跡 (第105図、図版27-1～27-2)

S12-E45 グリッドに位置する。南北に直線的に延びる溝跡である。南側は不明瞭になり、確認できなかった。残存する規模は、長さ 226cm、上端幅 56～58cm、下端幅 40～45cm、深さ 11cm を測り、主軸方位は N-20°-W を示す。断面形は浅い逆台形を呈す。底面はほぼ平坦で傾斜はもたない。堆積土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層で、水流の痕跡は認められなかった。遺物は瓦片、陶器片、土師質土器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

2) SD17 溝跡 (第105図、図版27-3～27-4)

S13-E45 グリッドに位置する。南北に直線的に延びる溝跡である。南側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長さ 262cm、上端幅 63～81cm、下端幅 46～58cm、深さ 16cm を測り、主軸方位は N-18°-W を示す。断面形は浅い逆台形を呈す。底面はほぼ平坦で傾斜はもたない。堆積土はにぶい黄褐色シルトの単層で、水流の痕跡は認められなかった。遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、石製品等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



SD16 土層注記表

剖面名	土色	土質	粘性	しまり	備考
I	10YR5/4	にぶい黄褐色 砂質シルト	なし	あり 径 5～10cm の礫少量	

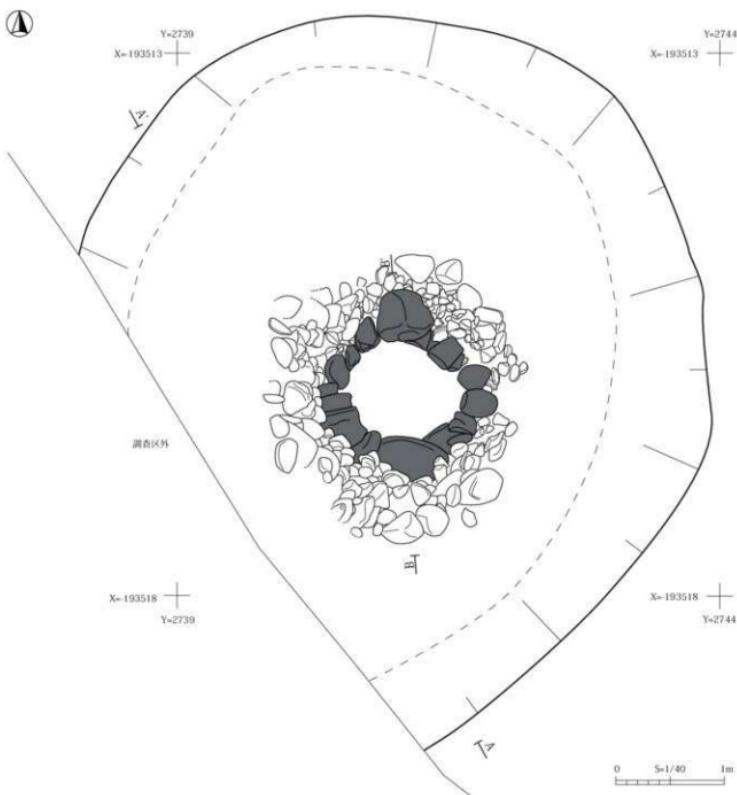
SD17 土層注記表

剖面名	土色	土質	粘性	しまり	備考
I	10YR5/4	にぶい黄褐色 砂質シルト	なし	あり 径 5～10cm の礫少量	

第105図 SD16・17 溝跡平面図・断面図

3) SE1 井戸跡 (第106～108図、図版27-5～27-6、28-1～28-2)

S12-E44・45 グリッドに位置する石組井戸である。西側は調査区外に延びる。平成17年度の試掘調査(H-1区)の際、砂が充填された擾乱土坑として検出されている。井戸内側の堆積土は、SE1が廃絶し、埋め戻された後に石組内側部分が陥没し、近代に入ってから砂で再度埋め戻しを行ったと考えられる。井戸内側の砂からは近代以降の陶磁器が出土している。調査当初は、擾乱として把握していたが、掘り方の検出および壁面の土層観察により掘り込み面がIVa層であることが判明し、土坑として調査を行った。その後石組の検出となり、SE番号を付し、調査を継続した。

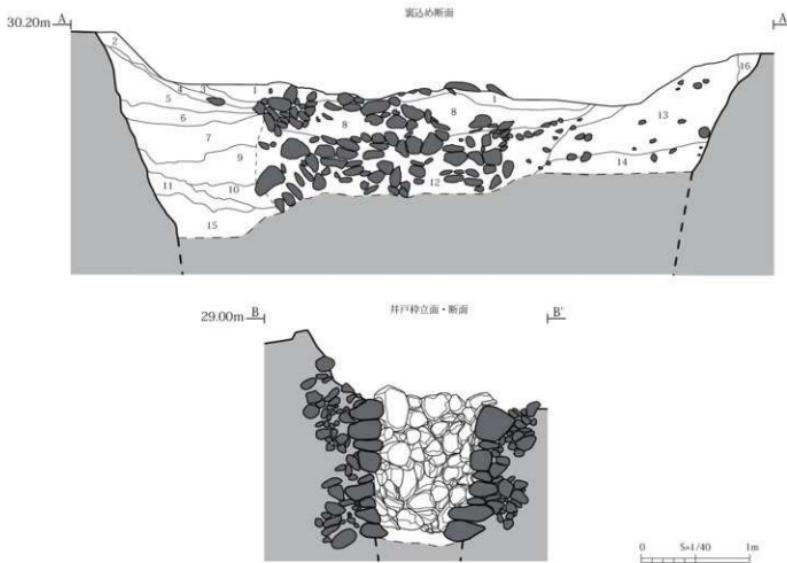


第106図 SE1 井戸跡平面図

第2節 西公園高架橋等Ⅱ区

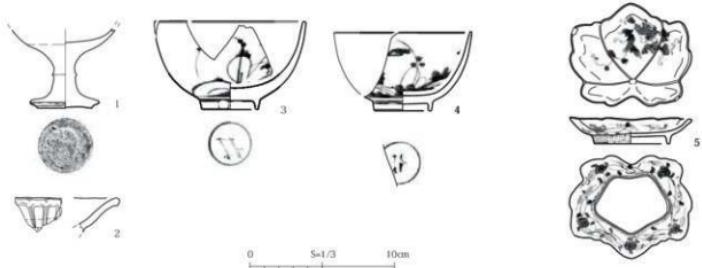
残存する掘り方の規模は、長軸 596cm、短軸 523cm を測る。深さは、320cmまで確認し、安全を考慮し、底面の検出には至っていない。平面形は楕円形で、掘り方の断面形はすり鉢状を呈す。確認面から 190cm で石組が検出された。それより上位は、崩落したものと思われる。石組の内法は、上部径 95 ~ 105cm、下部径 60cm を測る。石組は自然礫（長さ 20cm ~ 60cm、幅 20 ~ 50cm、厚さ 10 ~ 30cm 程度）を用い、割れ面を内側にして構築している。裏込めは 16 層まで確認し、石組裏込には 6cm ~ 20cm の礫を充填している。

遺物は、裏込めの各層から、瓦片、陶磁器片、土師質土器片、瓦質土器片、土製品、石製品、金属製品等が出土している。そのうち、磁器 3 点、陶器 2 点、土製品 1 点を図示した。

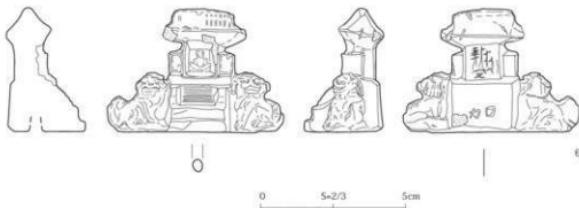


層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	あり 径 5cm の礫微量
2	3.5Y4/3	暗オリーブ色	シルト質粘土	あり	ややあり 砂多量
3	2.5Y5/3	黄褐色	砂	なし	なし 砂
4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	SY6/3 オリーブ暗色粘土粒微量 硬化鉄多量
5	10VR3/3	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	あり 硬化鉄・砂多量
6	10VR4/3	にじく黄褐色	シルト	ややあり	ややあり 砂 硬から底面にかけて酸化鉄が沈着し、硬化している
7	2.5Y6/3	にじく黄色	シルト質粘土	あり	あり 硬化鉄多量 径 5cm 以下の礫少量
8	2.5Y3/2	暗褐色	砂質シルト	なし	あり 黒色腐植土を少量 硬化鉄多量 暗黄褐色砂質シルトを少量
9	2.5Y3/2	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり 2.5Y5/3 暗褐色土粒多量 径 1cm の炭化物微量
10	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり 2.5Y4/1 黄褐色土粒微量 硬化鉄少量
11	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり 2.5Y4/1 黄褐色土粒多量 2.5Y3/1 暗褐色土粒微量、硬化鉄多量
12	10YR4/1	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり 径 10cm 以下の礫少量
13	10VR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり 径 5cm の礫多量
14	10YR4/1	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり 10YR3/3 暗褐色土ブロック 硬化鉄多量
15	10BG5/1	青灰色	砂質シルト	ややあり	なし 覆土全体がグライ化
16	3.5Y4/3	暗オリーブ色	シルト質粘土	あり	ややあり 砂多量

第107図 SE1 戸井跡断面図



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号	
						口径	底径	高さ					
1	66-3	6層	陶器	仏壇器	口縁～底部	やや薄	-	4.8	5.0	大庭相馬	18世紀後半	I-369	
2	66-4	6層	陶器	皿	口縁部	やや粗	-	-	(2.1)	華南三彩	16世紀後半～17世紀前半 型押し 蓮瓣文	I-346	
3	66-5	7層	磁器	瓶	口縁～底部	密	(10.5)	3.8	(6.2)	肥前	18世紀後半	外面：草花文 高台内：團線「大明年製」？	J-178
4	66-6	14層	磁器	瓶	口縁～底部	密	(9.5)	(3.9)	(5.5)	肥前	18世紀後半	外面：草花文 高台内：團線「大明年製」？	J-179
5	66-8	14層	磁器	小皿	口縁～底部	密	8.3	5.0	1.9	肥前	19世紀前半	外面：草花文 圓曲文 内面：草花文	J-172



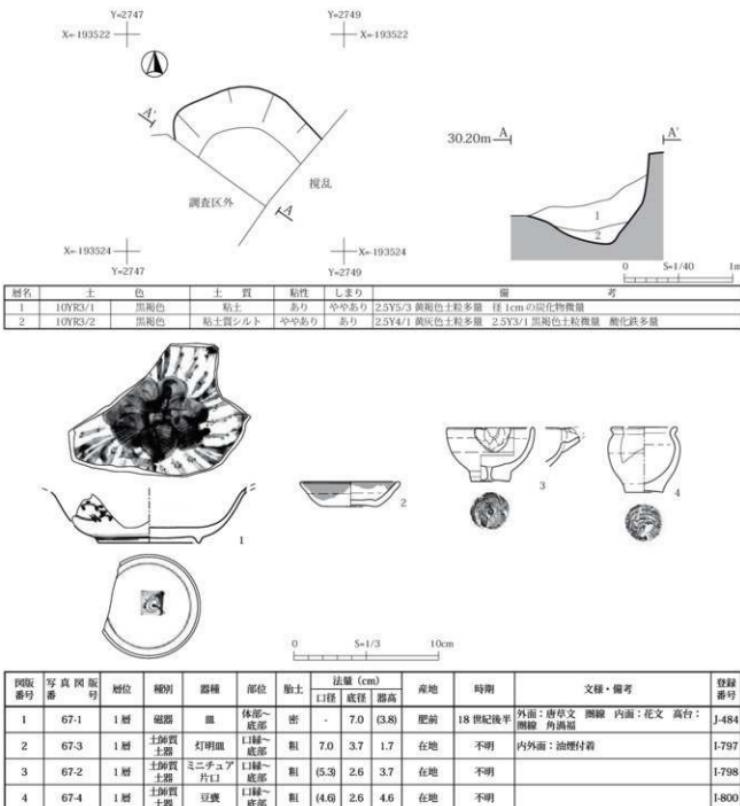
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量(cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
6	66-7	15層	土製品	4.3	6.1	2.8	社型土製品 背面に文字「加」	P-38

第108図 SE1井戸跡出土遺物

4) SK28土坑（第109図、図版28-3～28-4）

S13-E45 グリッドに位置する。東側を擾乱に削平され、南側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 116cm、短軸 91cm、深さ 84cm を測る。平面形は梢円形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は U 字形を呈す。堆積土は 2 層で、1 層は粘土、2 層は粘土質シルトである。遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、土製品等が出土している。そのうち、磁器 1 点、土師質土器 3 点を図示した。

第2節 西公園高架橋等 II 区



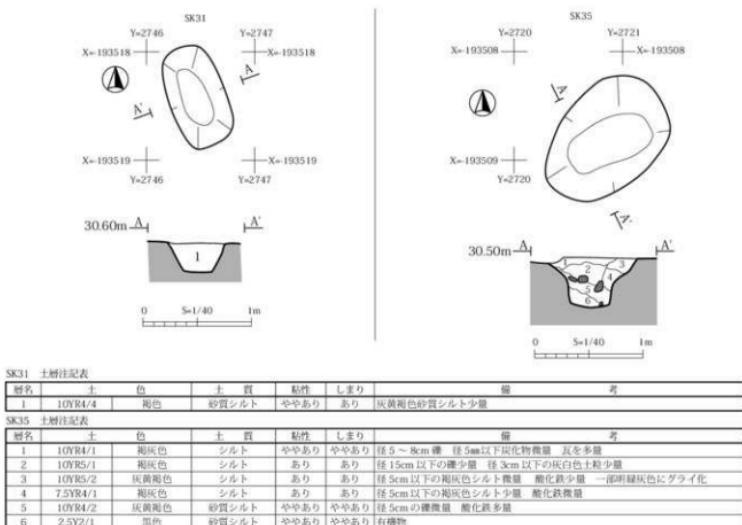
第109図 SK28 土坑平面図・断面図・出土遺物

5) SK31 土坑 (第110図、図版28-5～28-6)

S12-E45 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸95cm、短軸51cm、深さ27cmを測る。平面形は梢円形を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土は褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。

6) SK35 土坑 (第110図、図版28-7～28-8)

S11-E43 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸132cm、短軸92cm、深さ45cmを測る。平面形は梢円形を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈し、側面は外反する。堆積土は6層で、1層から4層はシルト、5層から6層は砂質シルトである。遺物は瓦片、磁器片、土師質土器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



第110図 SK31・SK35土坑平面図・断面図

7) SK42土坑（第111図、図版29-1）

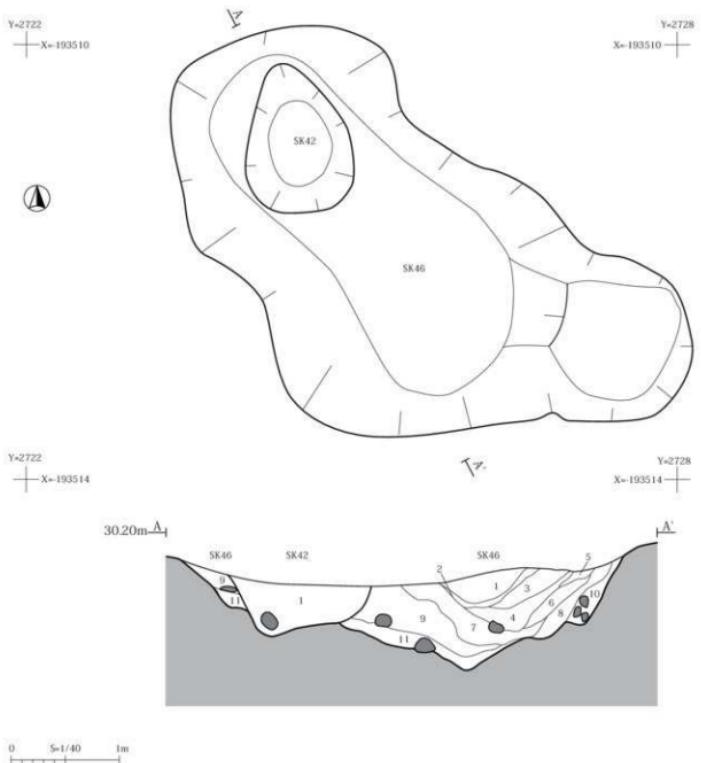
S12-E43グリッドに位置する。SK46と重複し、SK46より新しい。残存する規模は、長軸118cm、短軸77cm、深さ39cmを測る。平面形は楕円形で、底面は北側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は皿状を呈す。堆積土はオーリーブ黒色粘土質シルトの単層である。遺物は瓦片、瓦質土器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

8) SK46土坑（第111～113図、図版29-1～29-4）

S12-E43グリッドに位置する。SK42、SK49と重複し、SK42より古く、SK49より新しい。残存する規模は、長軸543cm、短軸279cm、深さ115cmを測る。平面形は不整楕円形で、側面は起伏があり、中央に向かって緩やかに傾斜する。断面形はすり鉢状を呈す。堆積土は11層で、1層、3層、6層から9層、11層は砂質シルト、2層、4層から5層、10層は粘土質シルトである。

遺物は、瓦片、陶器片、瓦質土器片、土師質土器片、石製品、土製品、金属製品、ガラス製品等が出土している。そのうち、陶器5点、磁器4点、瓦質土器1点、土師質土器2点、石製品1点、ガラス製品2点を図示した。

第2節 西公園高架橋等Ⅱ区



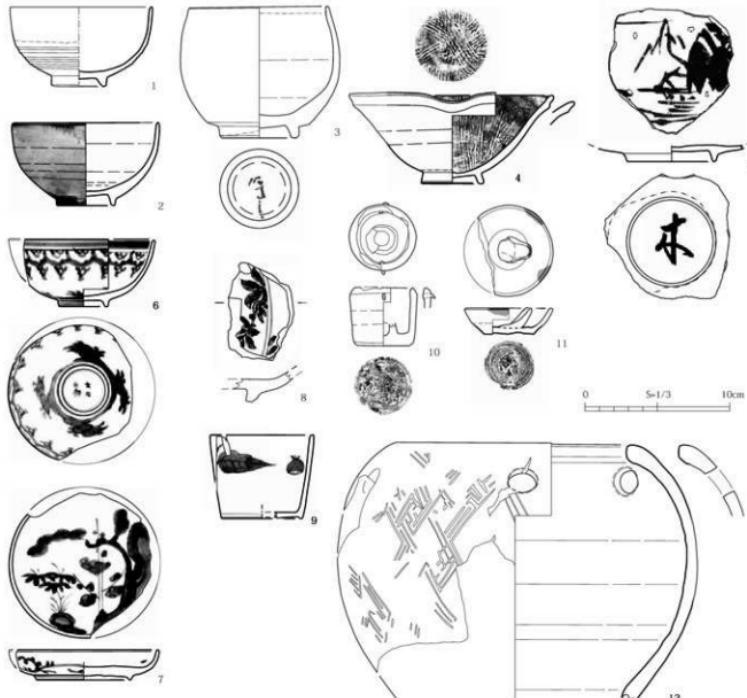
SK43 土被注記表

剖面名	土色	土質	粘性	しまり	編	考
1 SY3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径5mm以下の灰色土粒少量。	

SK46 土被注記表

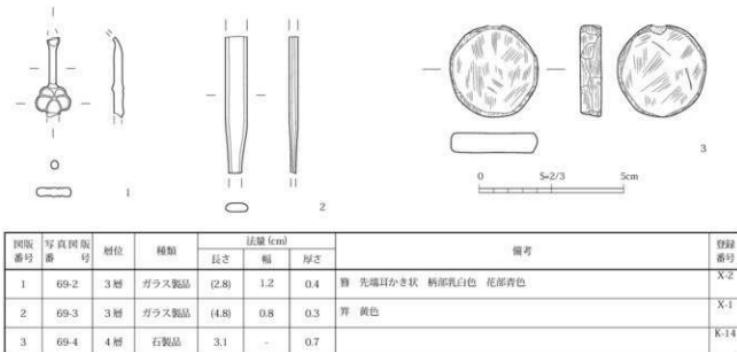
剖面名	土色	土質	粘性	しまり	編	考
1 2.SY5/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	あり	径5cmの礫多量	
2 10VR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	なし	径10cm以下の礫多量	
3 2.SY3/2	暗褐色	砂質シルト	なし		黒色底植土を少量、酸化鉄多量、灰黄褐色砂質シルトを少量	
4 10VR4/1	暗灰褐色	粘土質シルト	あり	あり	径10cm以下の礫多量、酸化鉄や多量	
5 10VR4/1	褐色	粘土質シルト	あり	あり	径10cm以下の礫少量	
6 10VR2/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径5cmの礫多量	
7 10VR4/1	暗褐色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄多量	
8 10VR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径5cm以下の暗褐色土粒微量、上層に酸化鉄多量	
9 7.SY5/1	暗灰色	砂質シルト	ややあり	あり		
10 10VR4/6	褐色	粘土質シルト	あり	なし	径5cm以下の礫微量、径5cm以下の明黄褐色粘土質シルトブロック少量	
11 10VR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	あり	灰黄褐色砂質シルト少量	

第111図 SK42・SK46 土坑平面図・断面図



図版番号	写真番号	図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量(cm) 口径 底径 高さ	产地	時期	文様・縞考	登録番号
1	67-6	7層	陶器	碗	口縁～底部	半粘土	9.9 3.4 5.5	大堀組馬	18世紀後半?	内面：灰釉 買入 外面：灰釉 瓦紋(盤輪) 口クロ：左	I-403	
2	67-5	3層	陶器	碗	口縁～底部	半粘土	10.2 4.0 5.7	崎野	17世紀後半	内面：灰釉	I-385	
3	68-1	4層	陶器	蓋物	口縁～底部	半粘土	10.2 5.2 9.1	大堀組馬	18世紀後半	内面：墨跡 口内面無墨 高台内墨書き有り(判読不能)	I-380	
4	68-4	7層	陶器	擂鉢	口縁～底部	粗	14.0 4.2 6.1	坂	18世紀後半～19世紀前半		I-395	
5	67-7	8層	陶器	皿	底部	半粘土	- 6.0 (1.1)	大堀組馬	18世紀後半	内面：灰釉 鉛臨山水文 目跡5箇所 外側：灰釉 高台内墨書き「木」	I-387	
6	68-6	7層	磁器	碗	口縁～底部	密	(10.2) 3.3 4.5	肥前	18世紀後半	外側：纏珞 草花文 内面：纏珞	J-214	
7	68-5	7層	磁器	皿	口縁～底部	密	(10.5) 6.5 2.1	肥前	18世紀後半	外側：唐草文 内面：岩と松竹梅	J-204	
8	68-3	7層	磁器	皿	底部	密	- - (2.1)	中国	16世紀末～17世紀初	外側：團紋 内面：二重團紋 樹木文 高台内墨付着 へ5箇り直書	J-200	
9	68-2	3層	磁器	口筒	口縁～底部	密	(7.0) (5.4) 5.8	肥前	18世紀後～19世紀	外側：葉 葉文 团紋 高台：蛇ノ目四 高台	J-202	
10	67-8	7層	土師器	灯明具	口縁～底部	密	4.0 3.4 4.0	在地	近世	把手金具? 2箇所	I-406	
11	67-9	7層	土師器	灯明具	口縁～底部	密	6.3 3.6 1.8	在地	近世	油煙付着	I-405	
12	69-1	3層	瓦質	絞造り	口縁部	粗	15.6 - (17.9)	在地	近世	口縁部ナデ 油煙付着 外面：紗綾文 口クロ：左	I-397	

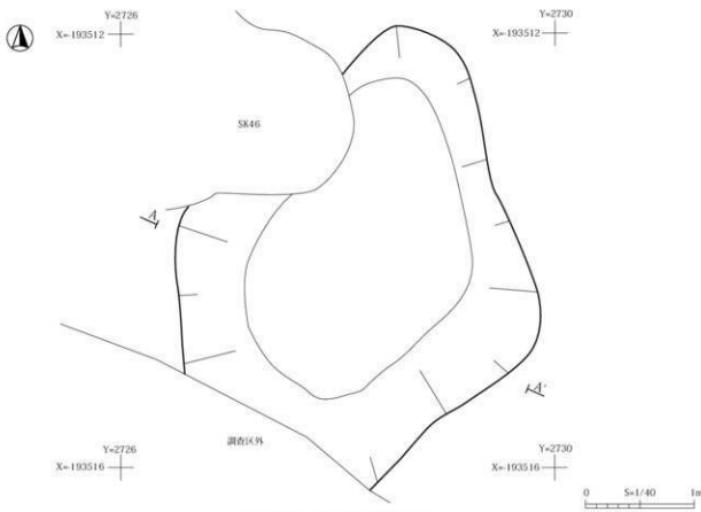
第112図 SK46土坑出土遺物（1）



第113図 SK46 土坑出土遺物（2）

9) SK49 土坑（第114～120図、図版29-5～29-7）

S12-E43 グリッドに位置する。南側は調査区外へ延びる。SK46と重複し、SK46より古い。残存する規模は、長軸387cm、短軸349cm、深さ86cmを測る。平面形は不整橢円形で、底面は起伏し、断面形はほぼ逆台形を呈す。



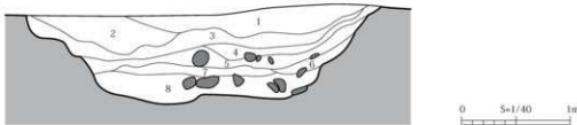
第114図 SK49 土坑平面図

堆積土は8層で、1層および8層は砂、2層および4層から5層はシルト、3層は粘土、6層は砂質シルト、7層は粘土質シルトである。4層以下はカンナ屑などの木片が多量に含まれている。

遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片、金属製品、石製品等のほか、多量の木製品が出土している。そのうち、陶器2点、磁器3点、木製品30点、金属製品1点を図示した。木製品では、下駄、漆器椀、櫛、傘下輪轆などのほか、4層より木筒が出土している。

30.40m Δ

Δ



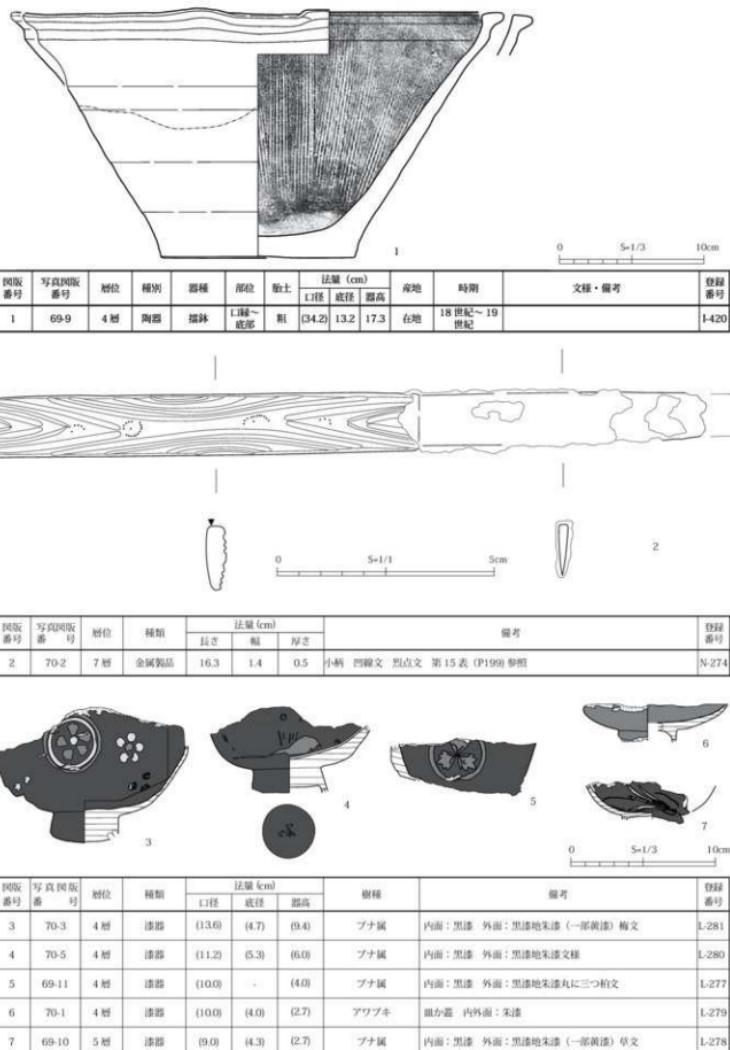
番号	土色	土質	粘性	しまり	備考	
					1	2
1	SYR3/6	暗赤褐色	砂	なし	なし	3cm以下の礫多量
2	10YRA4/3	にじむ黄褐色	シルト	なし	なし	5mm以下の黄褐色土粒多量
3	10YRA4/4	褐色	粘土	あり	あり	砂粉少量
4	10YRS5/1	褐色	シルト	なし	なし	3mm以下の黄褐色土粒少量、木片多量
5	10YRS5/3	暗褐色	シルト	あり	あり	1~3cmの礫多量、木片多量
6	10YRS2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	10cm以下の礫多量、木片多量
7	10YRS2/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	砂丘風化に少量、木片多量
8	10YRS5/2	灰黃褐色	砂	なし	なし	木片多量



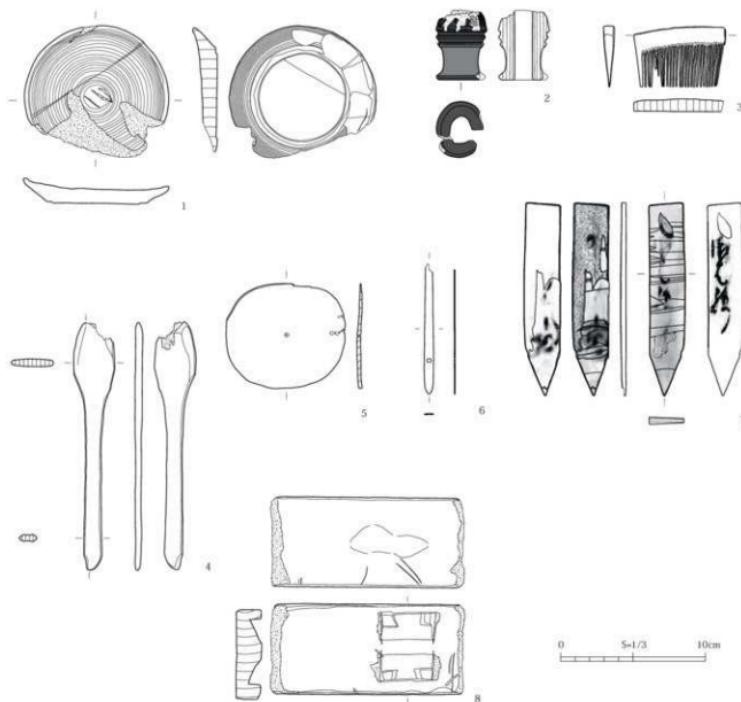
回収番号	写真回収番号	層位	種別	器種	部位	法線(cm)			発地	時期	文様・備考	登録番号	
						口径	底径	高さ					
1	69-5	1層	陶器	碗	口縁～底部	粗	11.9	5.0	7.9	肥前	18世紀後半	梵器手	I-422
2	69-7	3層	磁器	碗	口縁～底部	密	10.4	4.0	5.4	肥前	18世紀後半	外面：網目文 高台内鉢あり「大明」？	J-217
3	69-8	3層	磁器	皿	体部～底部	密	(19.2)	8.7	(3.3)	肥前	18世紀	外面：團線 二重團線 内面：草花文	J-216
4	69-6	2層	磁器	碗	口縁～底部	密	11.2	4.6	6.6	肥前	18世紀	外面：松 青文 二重團線 高台内：團線	J-218

第115図 SK49 土坑断面図・出土遺物（1）

第2節 西公園高架橋等II区



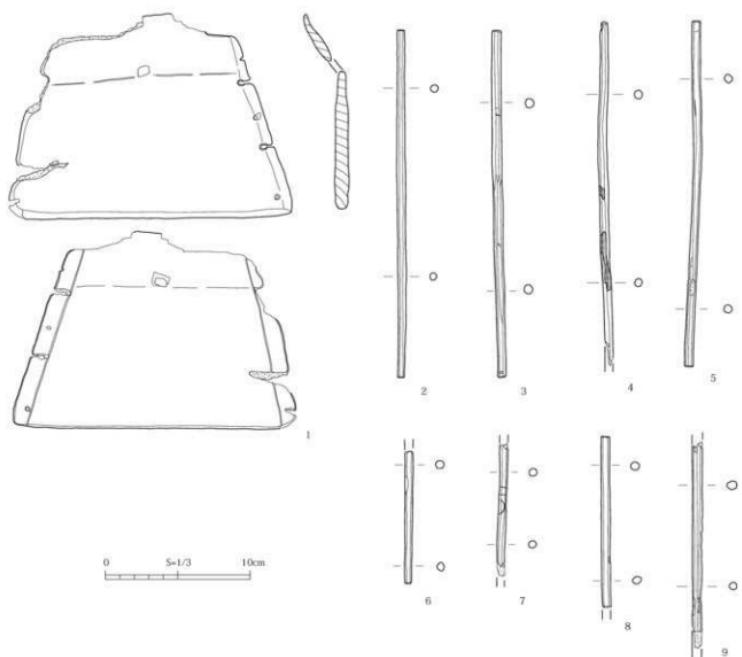
第116図 SK49土坑出土遺物（2）



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量(cm)			樹種	備考	登録番号
				長さ(上径)	幅(底径)	厚さ(面高)			
1	70-6	6層	木製品	10.0	6.8	1.8	ブナ属	漆未成品	L-282
2	70-4	6層	木製品	(4.8)	(3.6)	(2.9)	ミズキ	傘下軸轆	L-372
3	71-16	6層	木製品	(4.2)	6.4	0.8	カバノキ属	櫛	L-371
4	71-15	6層	木製品	(17.0)	2.9	0.6	スギ	選	L-357
5	72-1	4層	木製品	7.3	8.3	0.4	スギ	曲げ物底板	L-374
6	71-4	4層	木製品	(9.0)	0.7	0.2	樹皮	扇子の骨?	L-389
7	70-7	4層	木製品	13.7	2.6	0.4	スギ	木胎 墨書き有り「跡者□…」	L-388
8	71-5	6層	木製品	(17.9)	8.5	2.4	アスナロ属	下駄未成品?	L-391

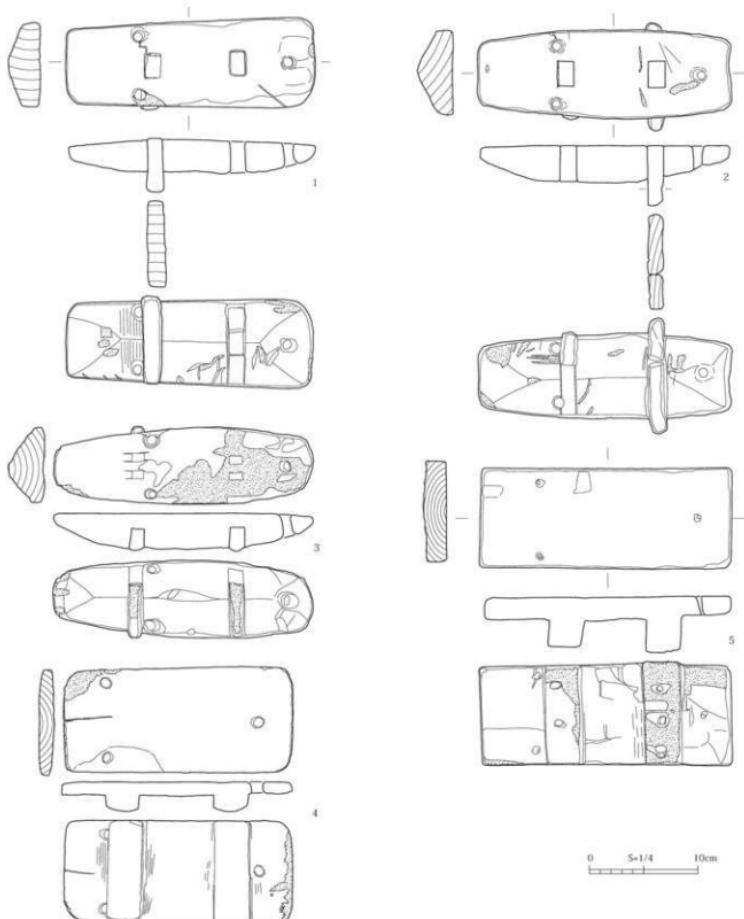
第117図 SK49 土坑出土遺物（3）

第2節 西公園高架橋等II区



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量(cm)			樹種	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ			
1	71-6	6層	木製品	13.7	19.6	1.0	計葉樹	著?	L-392
2	71-7	7層	木製品	24.0	0.7	0.5	アスナロ属	著	L-304
3	71-8	7層	木製品	(24.0)	(1.0)	0.7	アスナロ属	著	L-305
4	71-9	7層	木製品	(23.0)	11.0	0.6	計葉樹	著	L-306
5	71-11	4層	木製品	(24.0)	(1.2)	0.7	アスナロ属	著	L-308
6	71-14	4層	木製品	(9.0)	0.7	0.6	アスナロ属	著	L-311
7	71-12	4層	木製品	(9.0)	(0.8)	0.6	アスナロ属	著	L-309
8	71-13	7層	木製品	(12.0)	0.7	0.6	アスナロ属	著	L-310
9	71-4	7層	木製品	(14.0)	(0.7)	0.6	アスナロ属	著	L-307

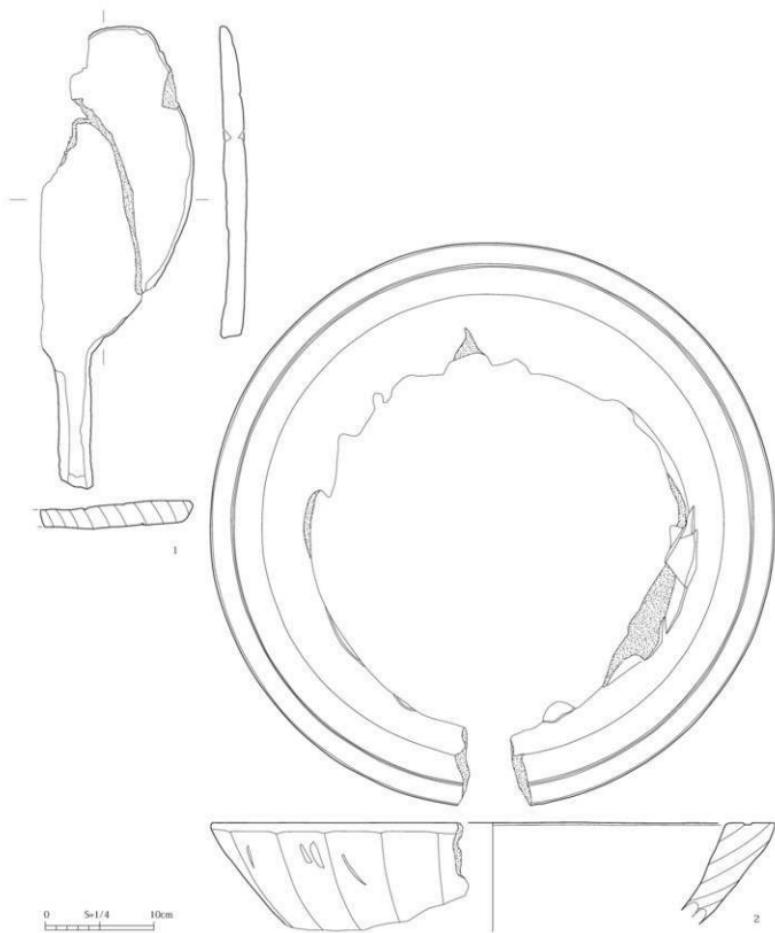
第118図 SK49 土坑出土遺物(4)



図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量(cm)			樹種	備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ			
1	70.9	6層	木製品	(23.0)	22.7	8.5	クリ 歯:ブナ属	露印下駄 角型	L-359
2	71-3	8層	木製品	(23.5)	23.0	10.0	ニレ属	露印下駄 丸型	L-358
3	70.8	6層	木製品	(24.0)	23.0	7.2	ケヤキ 歯:ニレ属	露印下駄 丸型	L-360
4	71-1	6層	木製品	(21.0)	21.0	9.8	トチノキ	露印下駄 角型	L-361
5	71-2	6層	木製品	23.0	22.0	9.4	スギ	露印下駄 角型	L-362

第119図 SK49 土坑出土遺物(5)

第2節 西公園高架橋等II区

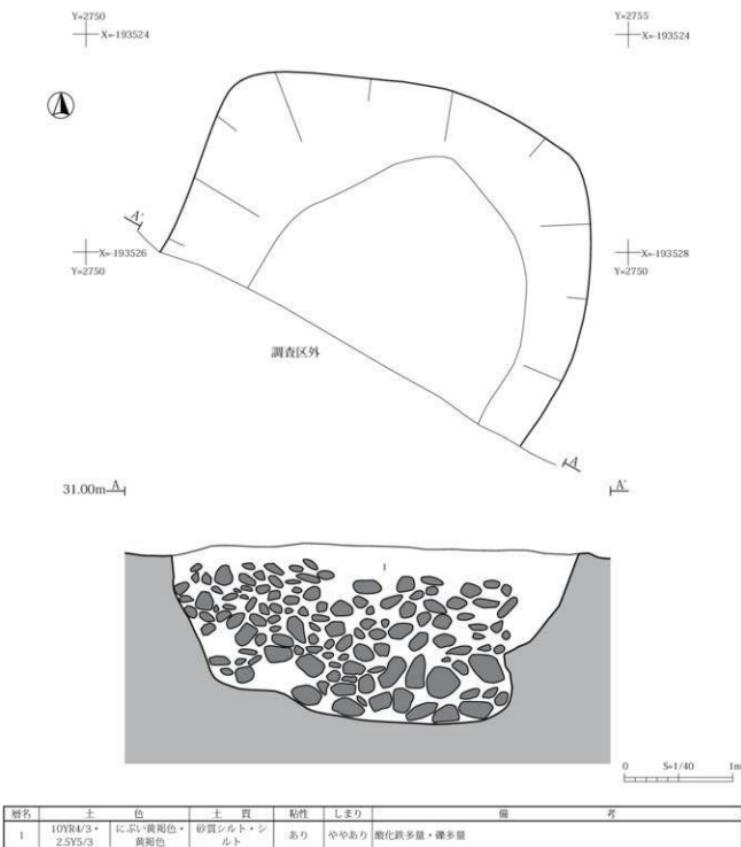


第120図 SK49 土坑出土遺物（6）

図版 番号	写真図版 番号	層位	種類	法量(cm)			断面	備考	資料 番号
				長さ	幅	厚さ			
1	71-17	7層	木製品	32.0	(10.7)	1.9	コナラ属 コナラ節	へら?	L-387
2	72-1	8層	木製品	(5.0)	26.0	19.0	トチノキ	跡	L-390

10) SX7 性格不明遺構 (第121図、図版29-8)

S13-E46 グリッドに位置する。南側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸 383cm、短軸 250cm、深さ 162cm を測る。平面形は隅丸長方形で、底面は北側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は逆台形を呈す。堆積土はシルトおよび砂質シルトの混合土からなり、礫を多量に含む。礫は 10cm ~ 40cm を測る自然礫である。遺物は出土していない。

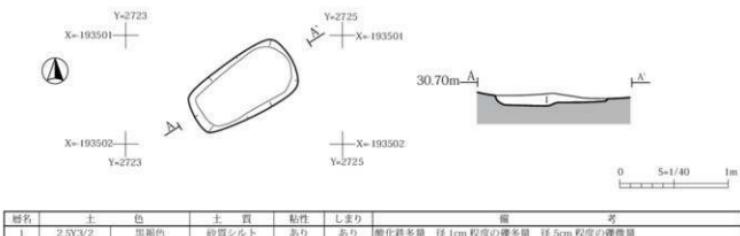


第121図 SX7 性格不明遺構平面図・断面図

第2節 西公園高架橋等Ⅱ区

11) SX20 性格不明遺構 (第122図、図版30-1~30-2)

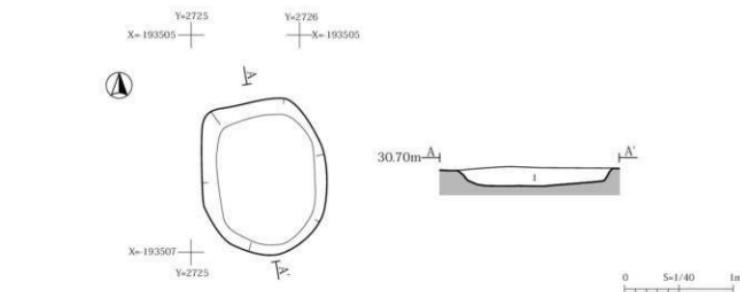
S11-E43 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 106cm、短軸 60cm、深さ 10cm を測る。平面形は卵丸長方形を呈し、底面は平坦で、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層で、上層の整地土が堆積したものと考えられる。遺物は出土していない。



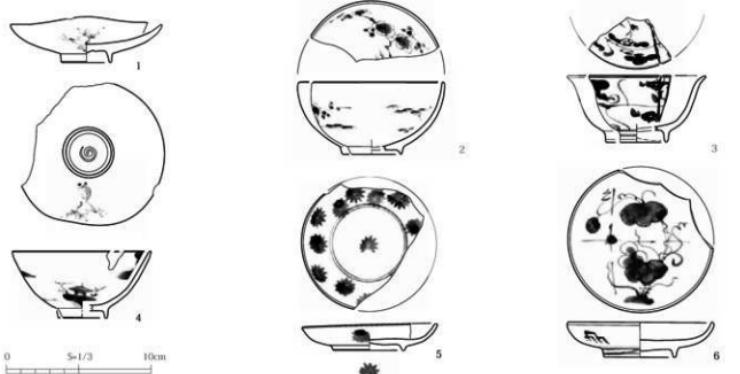
第122図 SX20 性格不明遺構平面図・断面図

12) SX21 性格不明遺構 (第123~124図、図版30-3~30-4)

S11-E43 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 144cm、短軸 115cm、深さ 17cm を測る。平面形は不整形円形を呈し、底面は平坦で、断面形は皿状を呈す。堆積土は灰黄褐色砂質シルトの単層で、上層の整地土が堆積したものと考えられる。遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、石製品、土製品、金属製品等が出土している。そのうち、陶器 1 点、磁器 5 点を図示した。



第123図 SX21 性格不明遺構平面図・断面図



第124図 SX21性格不明遺構出土遺物

13) SX33 性格不明遺構 (第125図、図版)

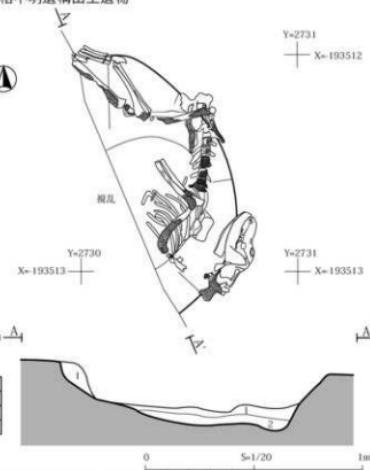
30-5～30-7

S12-E44 グリッドに位置する。獸骨(犬)が1頭分出土しており、埋葬のための土坑の可能性がある。西側を概観に削平される。残存する規模は、長軸125cm、短軸48cm、深さ34cmを測る。平面形は梢円形で、底面は南側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は浅いU字形を呈す。堆積土はオリーブ黒色粘土質シルトの単層である。遺物は瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、金属製品等が出土しているが、細部のため図化しなかった。

30-40m ▲

題名	土 色	土 質	粘性	しまり
1	SY3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	やわらか 可	やわらか 可
堆積土以下灰色土粒少額				

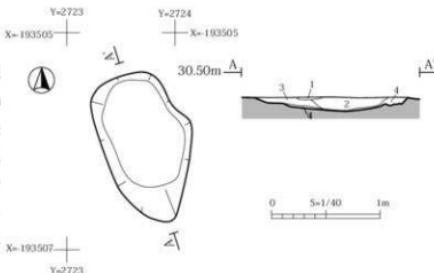
第125図 SX33 性格不明遺構平面図・断面図



第2節 西公園高架橋等Ⅱ区

14) SX42 性格不明遺構 (第126図、図版31-1~31-2)

S11-E43 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 142cm、短軸 84cm、深さ 12cm を測る。平面形は不整梢円形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は 4 層で、1 層は砂質シルト、2 層から 4 層はシルトである。遺物は、磁器片、土師質土器片、金属製品、等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

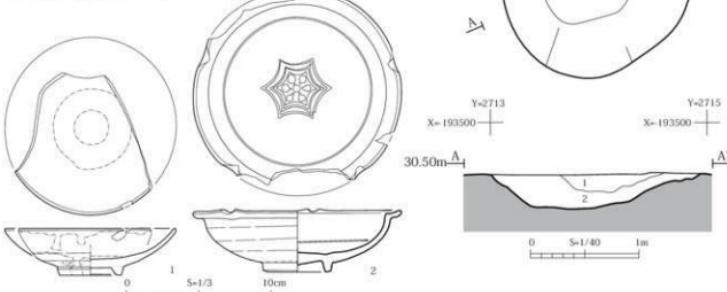


圖考					
層名	土色	土質	粘性	しまり	
1 5Y3/2	オリーブ黒色	砂質シルト	ややあり	ややあり	黄褐色砂少量 線 3mm以下の炭化物微量
2 10VR8/8	明黄色	シルト	ややあり	ややあり	同 3cm以下ブロック状多量 黄褐色少量
3 10VR4/1	褐色	シルト	ややあり	ややあり	同 10cm 前後の難 線 5mm以下炭化物微量 瓦を多量
4 10VR4/4	褐色	シルト	ややあり	ややあり	黄褐色土粒多量 黄色土粒少量 混土層

第126図 SX42 性格不明遺構平面図・断面図

15) SX46 性格不明遺構 (第127図、図版31-3 ~ 31-4)

S10-E42 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 193cm、短軸 171cm、深さ 30cm を測る。平面形は梢円形を呈し、底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土は 2 層で、1 層は粘土質シルトで上層の整地土が堆積したものと考えられ、2 層はシルトで自然堆積の可能性がある。遺物は瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片が出土している。そのうち、陶器 2 点を図示した。

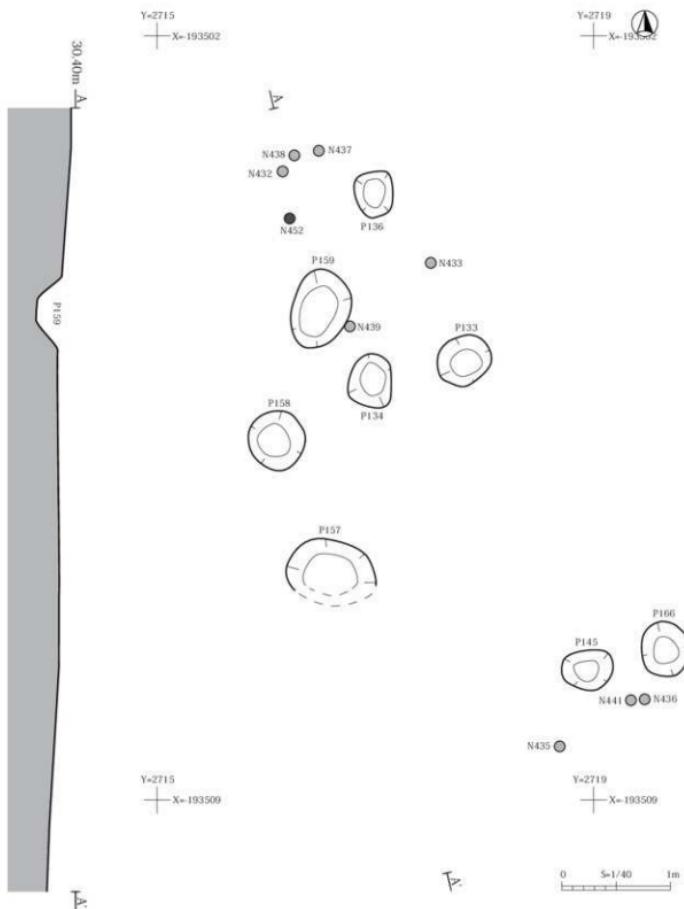


圖考										
層名	土色	土質	粘性	しまり						
1 2.5Y4/1	黄褐色	粘土質シルト	あり	なし	同 3cm 以下の灰色粘土少量					
2 10VR4/1	褐色	シルト	あり	なし						
出土物										
図版番号	写真番号	層位	種別	器種	部位					
1	73-1	1層	陶器	盤	口縁～底部	やや粗(12.1) 4.2 3.3	埴輪	17世紀後半	内外面：緑釉 見込み：蛇ノ目輪剥ぎ	I-371
2	73-2	1層	陶器	輪花盤	口縁～底部	やや粗(14.4) 4.8 4.2	大幅粗面	18世紀後半～	内外面：型押し模倣文(見込み) 沈線 灰釉 19世紀初頭 質入：外面：灰釉 質入：クロコ：右	I-372

第127図 SX46 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

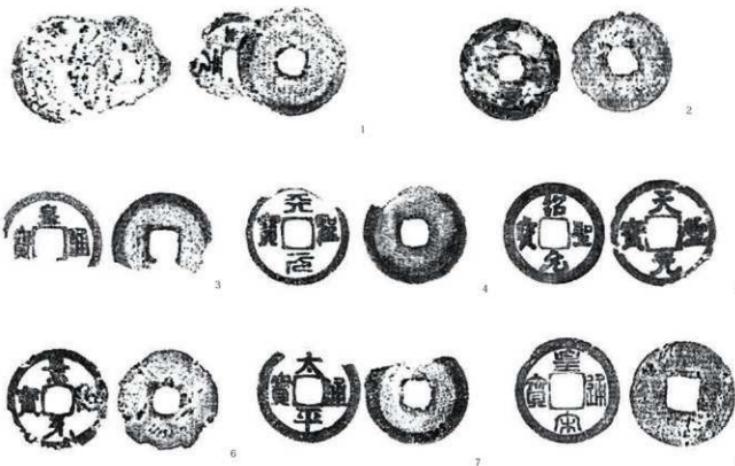
16) SX52 祭祀遺構 (第 128 ~ 129 図、図版 31-5)

S11-E42 グリッドに位置する。東西約 3.7 m、南北約 5.6 m の範囲に、8 枚の渡来銭と一分判金が分布していた。これらは上位整地層のⅢ b 層を敷設する前に散布したものと考えられる。配置に規則性は認められなかった。整地前の地鎮等の性格が考えられる。



第 128 図 SX52 祭祀遺構古錢分布状況

第2節 西公園高架橋等Ⅱ区



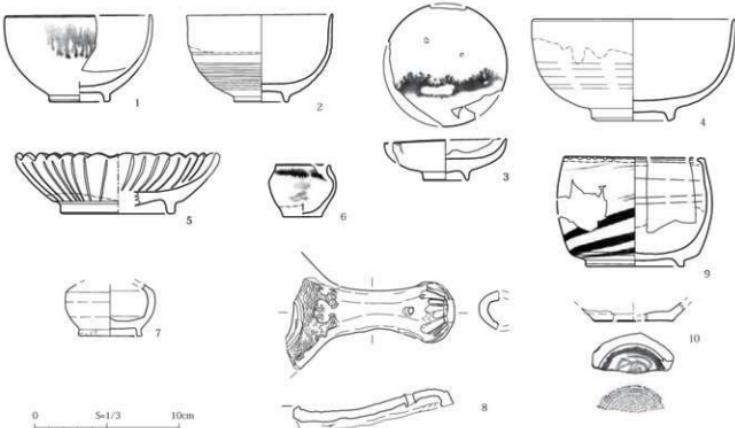
銭版番号	写真	真	銭版号	グリッド	銭図名	初鑄年	法量 (cm・g)			登録番号
							外径	穿孔	重さ	
1	73-4	S11-E42	□□元寶	-		-	2.5	0.6	4.79	2枚発着 N-432
2	73-6	S11-E42	皇(宋)通寶	北宋 1038年	(2.3)	0.7	1.46			N-433
3	73-7	S11-E42	皇宋通寶	北宋 1038年	2.4	0.6	2.02			N-435
4	73-8	S11-E42	天聖元寶	北宋 1023年	2.4	0.6	6.05			N-436
5	73-9	S11-E42	天聖元寶 紹聖元寶	北宋 1023年 北宋 1094年	2.3	0.6	2.67	2枚発着		N-437
6	73-10	S11-E42	崇(祐)元寶	北宋 1034年	2.3	0.6	2.31			N-438
7	73-11	S11-E42	太平通寶	北宋 976年	2.3	0.6	2.59			N-439
8	73-12	S11-E42	皇宋通寶	北宋 1038年	2.4	0.7	2.29			N-441

銭版番号	写真	真	銭版号	グリッド	銭図名	初鑄年	法量 (cm・g)			登録番号
							長さ	幅	重さ	
9	73-3	卷頭カラ—	S11-E42	一分割金	1714か	165	1.0	4.44	享保一分割金か	N452

第129図 SX52 祭祀遺構出土錢貨

17) 遺構外出土遺物（第130～132図）

IVa層の出土遺物点数は瓦897点、陶器1144点、土師質土器420点、瓦質土器58点、磁器982点、石製品12点、木製品36点、金属製品65点、古銭4点、土製品20点、骨1点、その他63点、合計3702点で、18世紀後半から19世紀前半のものが出土している。陶器を産地別にみると、志野1点、鐵部1点、唐津3点、岸2点、嬉野1点、京・信楽系1点、肥前1点、瀬戸美濃4点、小野相馬1点、大堀相馬10点、堤3点となる。また、磁器を産地別にみると、景德鎮2点、肥前325点、瀬戸美濃18点である。このうち、陶器9点、土師質土器1点、磁器10点、瓦1点、土製品2点、金属製品3点、木製品2点を図示した。



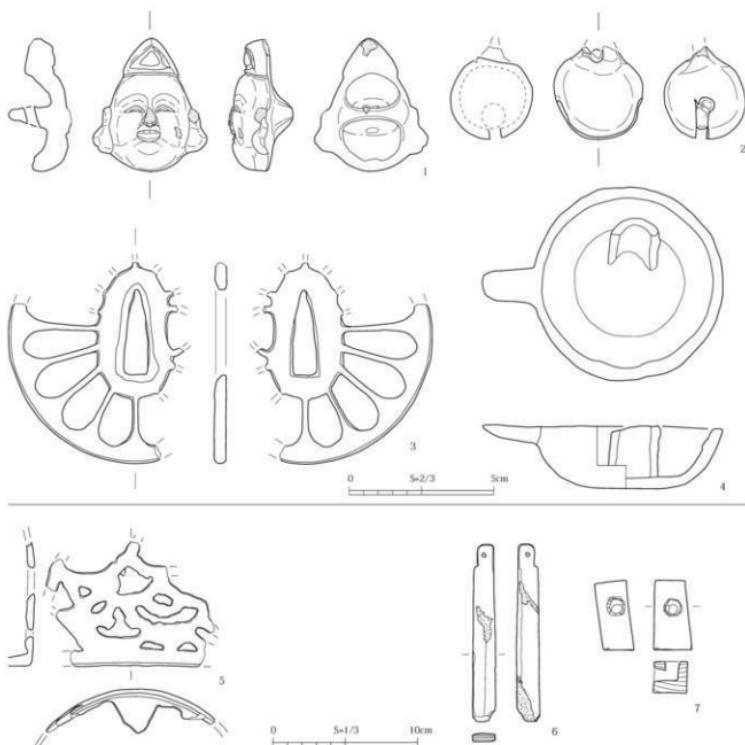
図版番号	写真番号	真面目番号	グリッド番号	種別	器種	部位	出土	法量(cm)	产地	時期	文様・備考	登録番号
1	73-13	S12-E45	陶器	碗	口縁～底辺	やや密	(10.2) 4.0	6.0	大堀相馬	18世紀後半～19世紀前半 外面：灰釉・鉄釉流し掛け	I-446	
2	74-4	S12-E45	陶器	碗	口縁～底辺	やや密	10.1	3.6	6.1	大堀相馬	18世紀後半～19世紀前半 外面：灰釉・鉄釉掛け分け	I-427
3	74-7	S12-E45	陶器	皿	口縁～底辺	やや密	8.4	3.0	2.9	大堀相馬	18世紀後半～19世紀前半 内面：白濁釉・緑釉流し掛け　目跡3箇所	I-443
4	74-1	S11-E42	陶器	皿	口縁～底辺	やや粗	14.1	4.9	7.0	瀬戸・美濃	18世紀 外面：灰釉・鉄釉掛け分け	I-425
5	74-5	S12-E45	陶器	菊皿	口縁～底辺	やや粗	(14.1)	7.7	4.2	瀬戸・美濃	17世紀 黄瀬戸菊皿	I-493
6	73-15	S12-E45	陶器	豆皿	口縁～底辺	やや密	3.8	2.6	3.7	大堀相馬	18世紀後半～19世紀前半 外面：白濁釉・緑釉流し掛け	I-442
7	73-14	S12-E45	陶器	盃	口縁～底辺	やや密	-	4.4	3.5	大堀相馬	19世紀前半 外面：灰釉	I-433
8	74-2	S12-E45	軟質施釉陶器	削磨砂り	取手	粗	-	-	-	堤	19世紀 内面：指痕あり　外面：透明釉　片押し成形(菊花・青海波) ナデ調整	I-463
9	74-3	S12-E45	陶器	香炉	口縁～底辺	やや密	9.5	6.7	7.6	不明	18～19世紀 内面：口縁部灰釉？鉄釉　外側：口縁部灰釉？鉄釉　鉄輪　クロ：右	I-450
10	74-6	S11-E42	土師質土器	盤	体部～底部	粗	-	5.8	-	在地	近世 底部墨書きあり	I-436

第130図 IVa層出土遺物（1）

第2節 西公園高架橋等 II区



第131図 IVa層出土遺物（2）



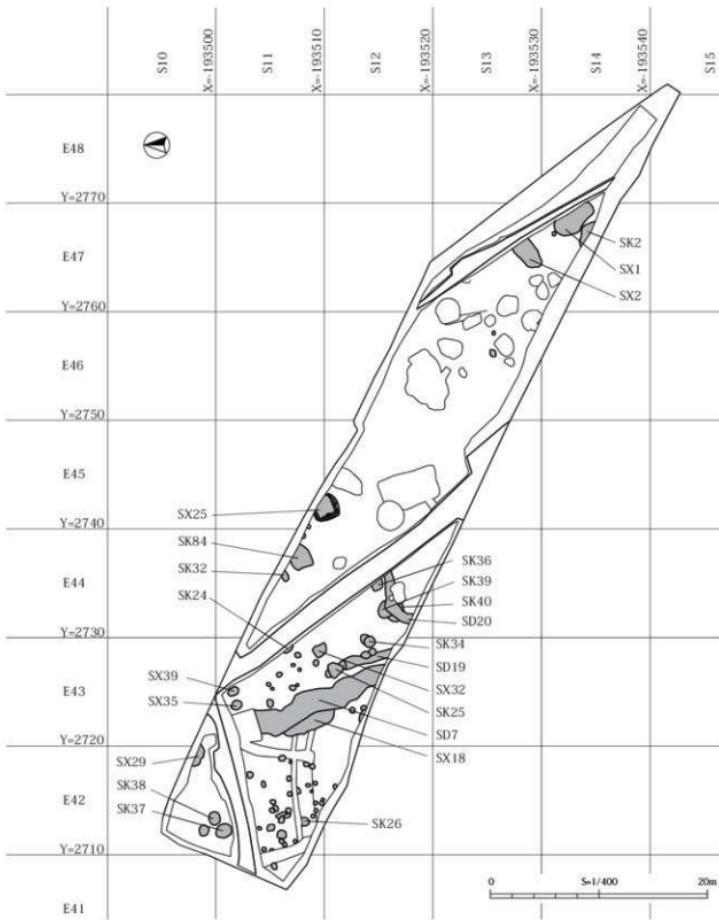
図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種類	法量(cm)			備考	登録 番号
				長さ	幅	厚さ		
1	76-5	S12-E44	土製品	4.6	3.9	2.2	土人形	P-52
2	76-6	S12-E45	土製品	(3.2)	3.1	2.3	土鈴	P-51
3	77-1	S11-E43	金属製品	(6.9)	(6.0)	0.5	鐸 菊透かし 小柄擦孔あり	N-431
4	76-7	S12-E43	金属製品	2.2	6.7	2.6	灯明皿	N-322
5	77-2	S11-E42	金属製品	8.6	11.7	3.0	副製 透かし	N-323

図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種類	法量(cm)			備考	登録 番号
				長さ	幅	厚さ		
6	76-4	S12-E45	木製品	12.3	1.7	0.6	鉾葉樹	L-45
7	76-3	S12-E45	木製品	4.8	-	-	鉾葉樹	L-43

第132図 IVa層出土遺物(3)

5 III b 層上面検出遺構

III b 層上面で検出された遺構は、溝跡 3 条、土坑 11 基、性格不明遺構 8 基、合計 22 基である。調査区の南東側では、SX1 が検出され、荷札木筒 3 点ほか木製品が多く出土した。また、南北に蛇行して延びる溝 SD 7、SD19 が検出された。



第133図 III b 層上面検出遺構

1) SD7 溝跡 (第 134 ~ 135 図、
図版 32-1 ~ 32-2)

S11・12-E43 グリッドに位置する。南東から北西へやや蛇行して延びる素掘りの溝跡である。北側、南側は調査区外に延びる。SX18 と重複し、SX18 より新しい。残存する規模は、長さ 12.1m、上端幅 163 ~ 229cm、下端幅 70cm ~ 159cm、深さ 38cm を測り、主軸方位は N-24°-W を示す。断面形は逆台形を呈す。底面はやや起伏しながら北側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は 4 層で、シルトおよび砂の互層状堆積で、流れ込みにより堆積した土と考えられる。

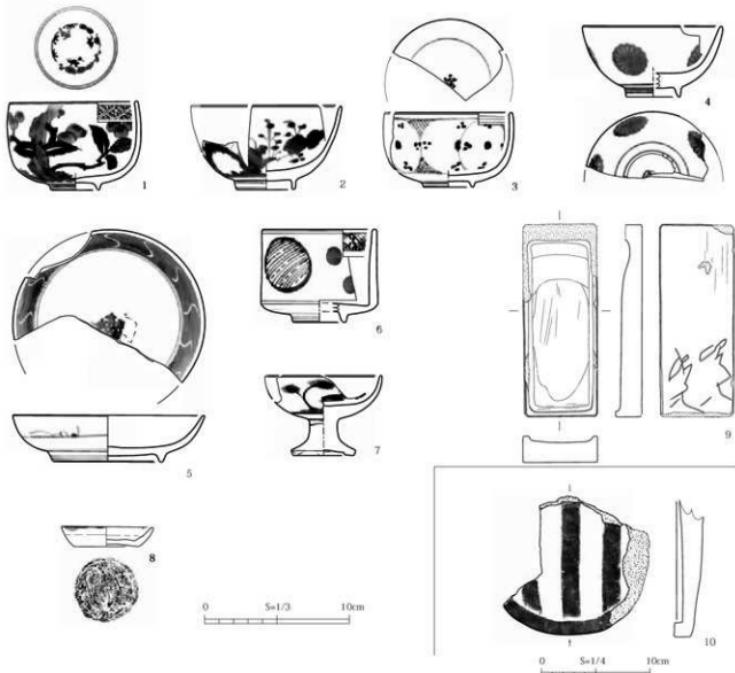
遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片、金属製品、石製品、土製品、古銭等が出土している。そのうち、磁器 7 点、瓦質土器 1 点、土師質土器 1 点、石製品 1 点、瓦 1 点を図示した。



第 134 図 SD7・SX18 平面図・断面図

2) SX18 性格不明遺構 (第 134、136 図、図版 32-1 ~ 32-3)

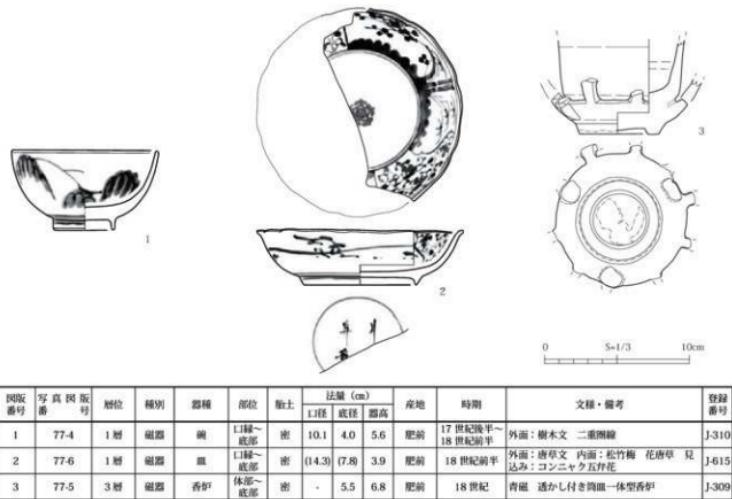
S11・12-E43 グリッドに位置する。SD7 と重複し、SD7 より古い。残存する規模は、長軸 515cm、短軸 137cm、深さ 33cm を測る。平面形は不整円形を呈し、底面はやや起伏があり、断面形は逆台形を呈す。堆積土は 3 層で、1 層から 2 層は砂質シルト、3 層はシルトである。遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片、土製品、金属製品等が出土している。そのうち、磁器 3 点を図示した。



図版番号	写真	国版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
								口径	底径	器高				
1	78-1	3層	磁器	碗	口縁～底部	密	8.9	3.3	6.1	肥前	18世紀後半	外面：樹木文 内面：四方棒 見込み：二重圓線 松竹梅文	J-290	
2	78-4	4層	磁器	碗	口縁～底部	密	10.4	3.9	5.9	肥前	18世紀後半	外面：草花文	J-284	
3	78-3	3層	磁器	碗	口縁～底部	密	(8.9)	3.4	5.2	肥前	18世紀後半	外面：草花文 内面：圓線 花文	J-288	
4	78-7	3層	磁器	碗	口縁～底部	密	9.6	(3.8)	4.9	波佐見?	18世紀中?	外面：コンニャック印葉葵花文 圓線 二重圓線 焙物 内面：油墨?	J-297	
5	78-8	3層	磁器	皿	口縁～底部	密	13.3	7.7	3.2	肥前	18世紀前半	外面：花文 内面：墨書き 見込み：コンニャック五紹花	J-305	
6	78-2	4層	磁器	筒型碗	口縁～底部	密	(8.0)	(4.2)	6.5	肥前	18世紀後半～19世紀前半	外面：丸文 圓線 二重圓線 内面：四方棒	J-291	
7	78-5	3層	磁器	仏版具(器)	口縁～底部	密	(8.2)	4.2	5.5	肥前	18世紀	外面：草花文 圓線 二重圓線 内：貫入 日本書 3箇所	J-302	
8	79-1	3層	土師質器	灯明	口縁～底部	粗	6.4	4.4	1.3	在地	18～19世紀	油煙付着	I-532	

図版番号	写真	国版番号	層位	種類	法量(cm)			参考	登録番号
					長さ	幅	厚さ		
9	79-3	2層	石製品		14.3	5.2	1.8	観 背面に刻文(判読不能)	K-26
10	79-4	3層	軒丸瓦		2.5	13.5	1.9	瓦当径(12.5) 文様径(11.0) 瓦当厚1.4 周縁高0.6 周縁幅1.1 三引画文	F-57

第135図 SD7溝跡出土遺物



第136図 SX18性格不明遺構出土遺物

3) SD19溝跡（第137図、図版31-7、32-4）

S12-E43グリッドに位置する。南から北に延びる溝跡である。北側は調査区内で収束し、南側は調査区外へ延びる。SK25、P135、P148と重複し、SD19が一番より古い。残存する規模は、長さ558cm、上端幅73～104cm、下端幅25～31cm、深さ6cmを測り、主軸方位はN-33°-Wを示す。北側に向かって緩やかに傾斜する。断面形は浅い逆台形を呈す。堆積土は2層の砂質シルトである。遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、土製品、金属製品等が出土している。そのうち、土師質土器1点を図示した。

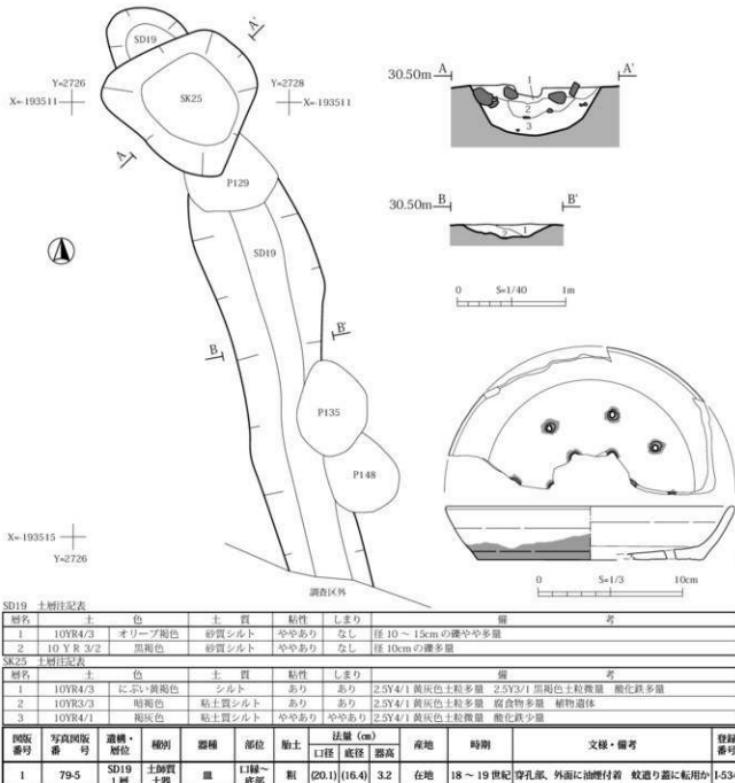
4) SK25土坑（第137図、図版31-7、32-5）

S12-E43グリッドに位置する。SD19と重複し、SD19より新しい。残存する規模は、長軸133cm、短軸126cm、深さ44cmを測る。平面形は不整形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形はU字形を呈す。堆積土は3層からなり、1層はシルト、2層から3層は粘土質シルトである。遺物は、陶磁器片、土師質土器片、金属製品等が出土しているが、細片のため図化しなかった。

5) SD20溝跡（第138～139図、図版33-1）

S12-E44グリッドに位置する。北東から南西へ弧を描きながら延びる溝跡である。西側、東側は調査区外へ延びる。IIIa層の遺構(SX12)に削平される。SK39、SK40、P154と重複し、SK39、SK40より新しく、P154より古い。残存する規模は、長さ513cm、上端幅77～107cm、下端幅43～58cm、深さ21cmを測り、主軸方位はN-63°-Eを示す。断面形は皿状を呈す。底面はほぼ平坦で傾斜はもたない。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層で、水流の痕跡は認められなかった。遺物は、瓦片、陶磁器片、土師質土器片、金属製品等が出土している。そのうち、陶器1点、土師質土器1点を図示した。

第2節 西公園高架橋等 II 区

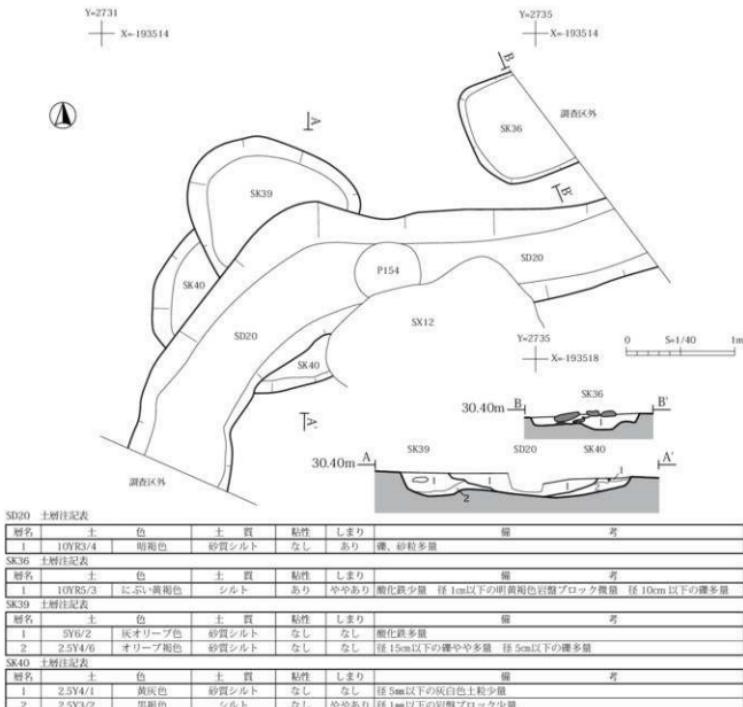


6) SK36 土坑 (第138図、図版33-1、33-2)

S12-E44 グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 107cm、短軸 72cm、深さ 14cm を測る。平面形は隅丸方形で、底面はやや起伏し、断面形は逆台形を呈す。堆積土は礫を多く含むにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は、瓦片、陶器片、石製品が出土している。そのうち石製品 1 点を図示した。

7) SK39 土坑 (第138、140図、図版33-1)

S12-E44 グリッドに位置する。SD20、SK40 と重複し、SD20 より古く SK40 より新しい。残存する規模は、長軸 151cm、短軸 126cm、深さ 21cm を測る。平面形は楕円形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形はすり鉢状を呈す。堆積土は 2 層の砂質シルト層に分層され、2 層は礫を多量に含む。遺物は、瓦片、陶器片、瓦質土器片、土師質土器片、金属製品等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



第138図 SD20溝跡・SK36・SK39・SK40 土坑平面図・断面図

8) SK40土坑（第138図、図版33-1）

S12-E44 グリッドに位置する。Ⅲa層の遺構(SX12)に削平される。SD20、SK39と重複し、SK40が一番古い。残存する規模は、長軸139cm、短軸85cm、深さ18cmを測る。平面形は梢円形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は皿状を呈す。堆積土は2層で、1層は砂質シルト、2層はシルトである。遺物は出土していない。



図版番号	写真番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法線(m)			产地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	79-6	I層	陶器	碗	口縁～底部	やや密	8.6	4.3	6.1	大堀相馬	18世紀後半	外面：白濁釉・施釉流し掛け	I-343
2	79-7	I層	土師質土器	小皿	口縁～底部	粗	5.4	3.4	1.5	在地	近世	油煙付着	I-336

第139図 SD20溝跡出土遺物

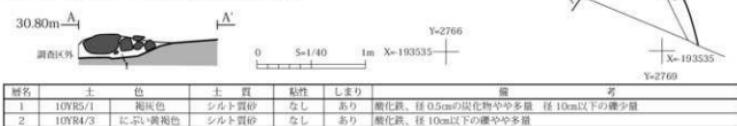
第2節 西公園高架橋等II区



第140図 SK36 土坑出土遺物

9) SK2 土坑 (第141図、図版33-3)

S13-E47 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 389cm、短軸 102cm、深さ 18cm を測る。平面形は不整形を呈し、底面はほぼ平坦で、断面形は皿状を呈す。堆積土は礫を多量に含むシルト質砂である。遺物は瓦片、陶磁器片、金属製品等が出土している。そのうち、銛前1点を図示した。



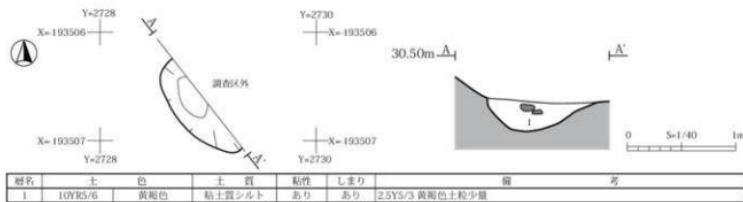
第141図 SK2 土坑平面図・断面図・出土遺物

10) SK24 土坑 (第142図、図版33-4～33-6)

S11-E43 グリッドに位置する。北東側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 106cm、短軸 31cm、深さ 28cm を測る。平面形は不整楕円形を呈し、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は浅いU字状を呈す。堆積土は黄褐色粘土質シルトの単層である。遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、金属製品等が出土している。そのうち、磁器1点と土師質土器1点を図示した。

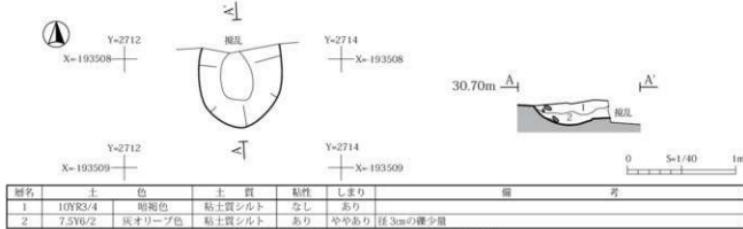
11) SK26 土坑 (第143図、図版33-7～33-8)

S11-E42 グリッドに位置する。北側を壊乱に削平される。残存する規模は、長軸 77cm、短軸 71cm、深さ 19cm を測る。平面形は楕円形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、断面形は皿状を呈す。堆積土は2層の粘土質シルトに分層される。遺物は瓦片、磁器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



図版番号	写真	図版番号	層位	種別	器種	部位	土質	法量 (m)		産地	時期	文様・備考	登録番号
								口径	底径				
1	80-1	1層	磁器	瓶	口縁～底部	直	-	5.0	(10.8)	肥前	18世紀	外面：二重輪線 線繡 竹・菊文 高台に 研付着	J-312
2	80-2	1層	土師質 土器	かわらけ	口縁～底部	直	8.3	4.8	2.0	在地	近世		I-542

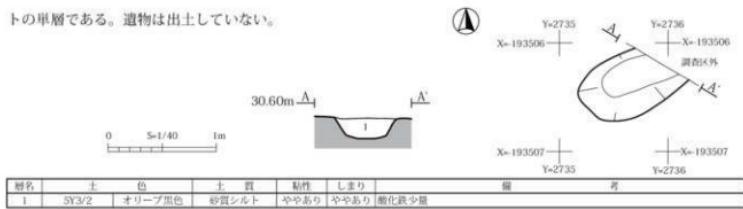
第142図 SK24 土坑平面図・断面図・出土遺物



第143図 SK26 土坑平面図・断面図

12) SK32 土坑 (第144図、図版34-1)

S11-E44 グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 77cm、短軸 58cm、深さ 18cm を測る。平面形は不整橢円を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土はオリーブ黒色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。



第144図 SK32 土坑平面図・断面図

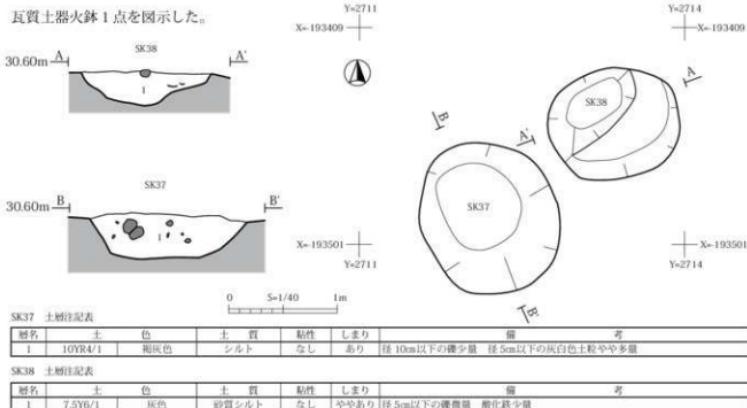
第2節 西公園高架橋等II区

13) SK37土坑（第145図、図版34-2～34-3）

S11-E42グリッドに位置する。残存する規模は、長軸154cm、短軸122cm、深さ40cmを測る。平面形は梢円形で、底面はやや起伏があり、断面形は逆台形を呈す。堆積土は褐灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。

14) SK38土坑（第145図、図版34-4、34-5）

S11-E42グリッドに位置する。残存する規模は、長軸118cm、短軸103cm、深さ31cmを測る。平面形は梢円形で、底面は中央に向かって緩やかに傾斜し、南側がテラス状に高まる。断面形はすり鉢状を呈す。堆積土は灰黄色シルトの単層である。遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、金属製品等が出土している。そのうち、瓦質土器火鉢1点を図示した。



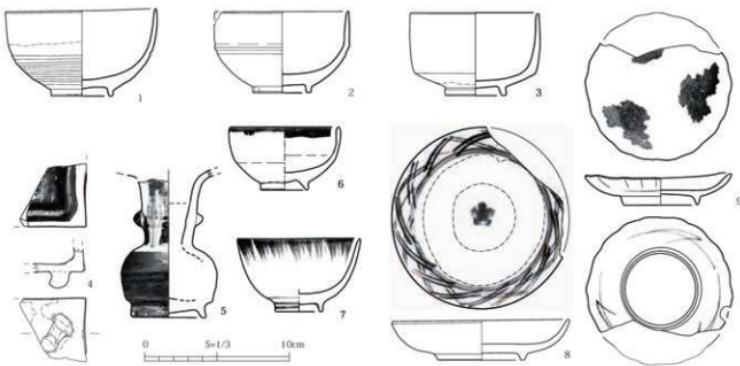
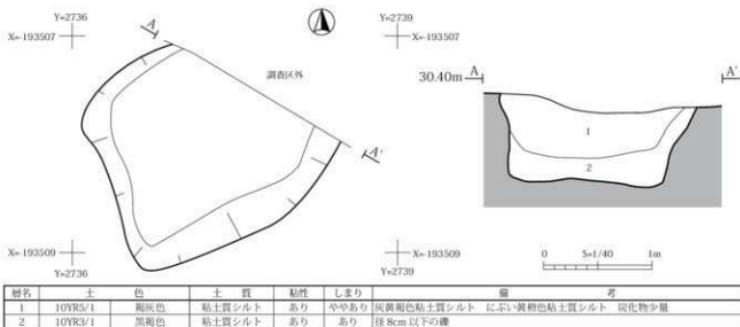
図版番号	写真・図版番号	グリッド	種別	器種	部位	法線(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
						上径	底径	高さ				
1	80-3	S10-E42	瓦質土器	火鉢	口縁～底部	9.0	8.5	9.1	在地	近世		I-543

第145図 SK37・SK38土坑平面図・断面図・出土遺物

15) SK84土坑（第146～147図、図版34-6～34-7）

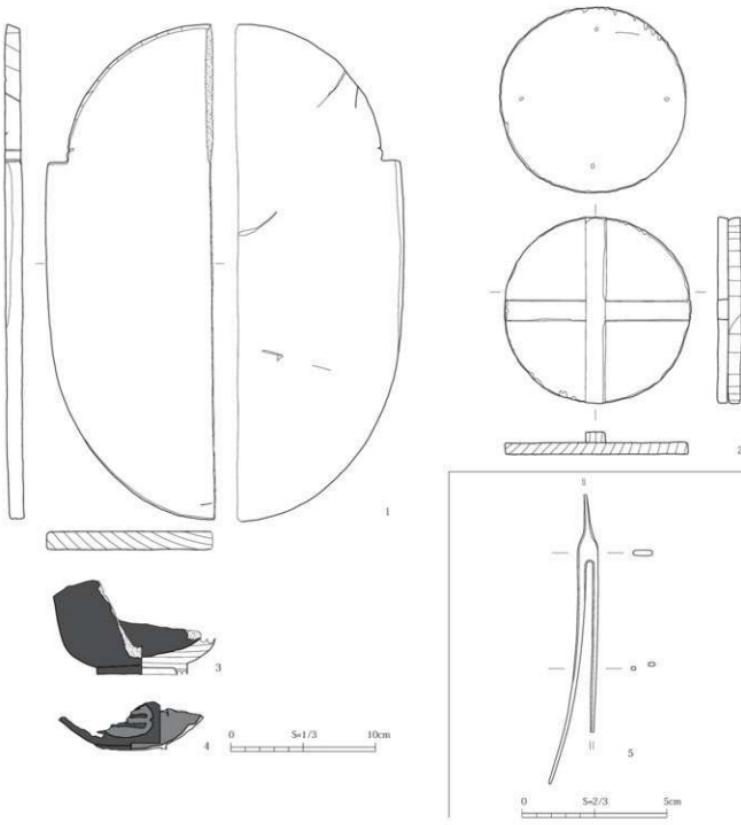
S11-E44グリッドに位置する。北側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸202cm、短軸196cm、深さ80cmを測る。平面形は不整形で、底面は中央に向かって緩やかに隆起し、断面形は逆台形を呈す。堆積土は2層の粘土質シルトに分層され、1層は上位整地層による埋め戻し土の可能性がある。

遺物は1層から瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、土製品、石製品等が出土している。そのうち、陶器6点、磁器4点、木製品4点、金属製品1点を図示した。2層から遺物は出土していない。



開版番号	写真番号	部位	種別	器種	部位	胎土	法基(cm)	产地	時期	文様・備考	登録番号
							(口径 底径 器高)				
1	80-7	1層	陶器	罐	口縁～底部	やや密	(10.4) 4.0 5.9	大庭相馬	18世紀後半～後半	外腹：白蘭釉・鉄軸掛け分け	1-77
2	80-5	1層	陶器	罐	口縁～底部	やや密	(9.3) 3.8 5.7	大庭相馬	18世紀後半～後半	灰釉	1-69
3	80-4	1層	陶器	罐	口縁～底部	やや密	8.9 4.0 5.8	大庭相馬	18世紀後半～後半	灰釉	1-62
4	80-10	1層	陶器	向付	底部	やや粗	- - 2.8	瀬戸・美濃	17世紀後半～後半	爐部釉	1-74
5	80-9	1層	陶器	仏花器	体部～底部	やや粗	- 5.1 (10.2)	小野相馬	18世紀後半	内腹：灰釉 貫入 外面：灰釉 (麻～別所施し部分) 一割入 製作印まで(ラグ) ロク口：右	1-63
6	80-6	1層	陶器	罐	口縁～底部	やや粗	7.5 3.3 4.4	小野相馬	18世紀後半	内腹：灰釉 貫入 外面：灰釉 貫入 口 神形鉄輪 ロク口：左	1-64
7	80-8	1層	磁器	罐	口縁～底部	密	(8.6) (3.3) 4.9	肥前	17世紀末～18世紀初頭	外腹：雨文 開線	1-70
8	81-2	1層	磁器	皿	底部	密	12.3 5.8 2.9	肥前	18世紀後半～中頃	内腹：削り文 コニャック五瓣花 見込み：肥口輪剥落	J-57
9	81-1	1層	磁器	輪花皿	口縁～底部	密	10.1 5.1 2.1	肥前	17世紀後半～18世紀初頭	外腹：草文 内腹：コニャック印判	J-56

第146図 SK84 土坑平面図・断面図・出土遺物（1）



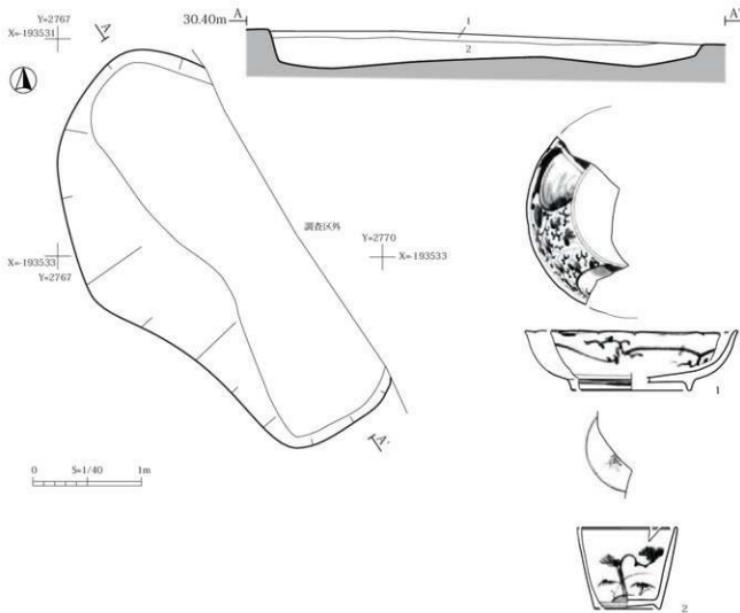
図版番号	写真図版号	層位	種類	法量(cm)	樹種	備考	登録番号
				長さ(口径) 幅(底径) 厚さ(器高)			
1	81-7	1層	木製品	34.0 (11.8) (1.4)	スギ	曲げ物底板	L-237
2	81-4	1層	木製品	13.0 (12.3) (6.3)	スギ	黒漆?	L-235
3	81-6	1層	木製品	10.1 (10.1) (4.9)	ブナ属	漆器桿	L-214
4	81-5	1層	木製品	(3.4)	ブナ属	漆器桿 外:三ツ引彫文	L-213
図版番号	写真図版号	層位	種類	法量(cm)	備考		登録番号
				口径 底径 高			
5	81-3	1層	金属製品	10.0 1.7 1.2	銅(鉛製)		N-330

第147図 SK84 土坑出土遺物(2)

16) SX1 性格不明遺構 (第148~150図、図版34-8、35-1)

S14-E47 グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 404cm、短軸 193cm、深さ 19~32cm を測る。平面形は不整形で、底面は中央に向かって緩やかに隆起し、断面形は浅い逆台形を呈す。堆積土は 2 層で、1 層は砂質シルトで上層の整地による堆積土と思われる。2 層はシルト質砂で、木片を多量に含んでいる。木片は多量のカンナ屑などからなり、木製品加工に伴う廃棄物と思われる。

遺物は、瓦片、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、金属製品、土製品、木製品が出土している。そのうち、磁器 2 点、金属製品（兜頭）、漆器椀 4 点、杓文字 1 点、箱物の側板 1 点、曲げ物の底板 2 点、穿孔木製円盤 1 点、木簡 3 点を図示した。

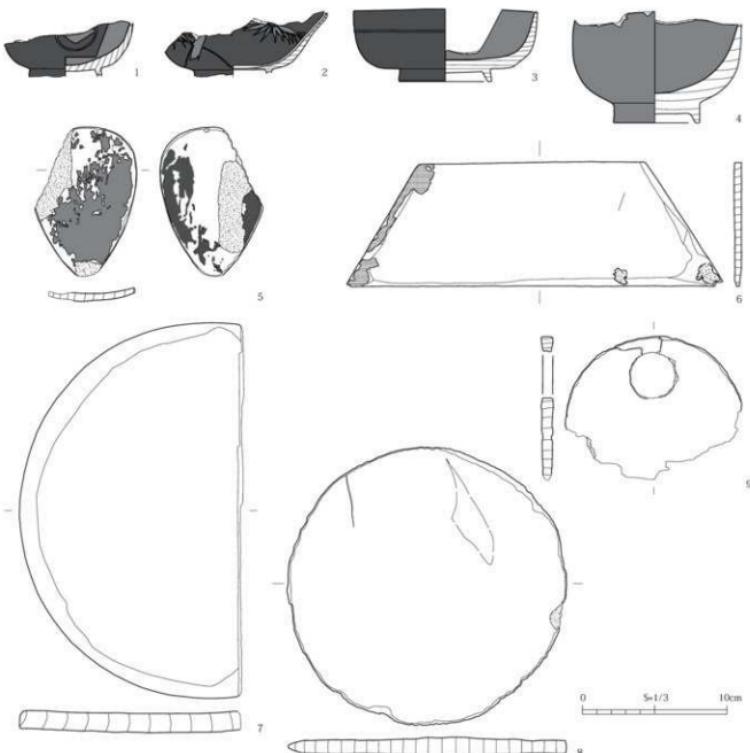


番号	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR3/4	暗褐色 砂質シルト	ややあり	あり 砂粒多量 径 5mm以下の礫少量	
2	7.5YR3/2	黒褐色 シルト質砂	なし	なし 鉄化鉄屑状に多量	木片多量

図版番号	写真番号	層位	種別	調査	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	82-1	2層	磁器	Ⅲ	口縁~底部	密	(14.7)	(8.2)	4.2	肥前	18世紀後半	外面:唐草文 内面:團綱 花唐草文 高 台内:團綱 路あり	J-320
2	81-8	2層	磁器	鍋口	口縁~底部	密	(6.9)	(4.5)	5.7	肥前	18世紀後半~ 19世紀前半	外面:樹木文	J-314

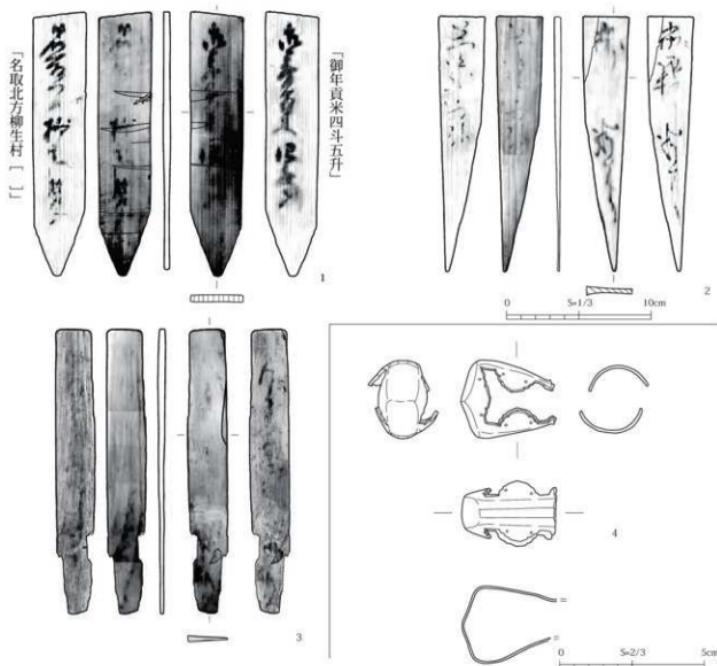
第148図 SX1 性格不明遺構平面図、断面図、出土遺物（1）

第2節 西公園高架橋等Ⅱ区



図版番号	写真	図版番号	層位	種類	法量(cm)			樹種	参考	登録番号
					長さ(口径)	幅(底径)	厚さ(器高)			
1	81-10	2層	木製品	(9.4)	(5.1)	(3.9)	ブナ属 漆櫻桜		L-106	
2	82-3	2層	木製品	(13.2)	(5.4)	(4.6)	ブナ属 漆櫻桜		L-103	
3	81-9	2層	木製品	(12.7)	6.4	(5.0)	ブナ属 漆櫻桜?		L-104	
4	82-2	2層	木製品	(11.5)	5.9	(7.7)	ブナ属 漆櫻桜		L-105	
5	82-9	2層	木製品	10.3	7.0	1.0	ブナ属 しやもじ		L-113	
6	83-1	2層	木製品	26.0	8.7	0.6	スギ ?		L-129	
7	83-7	2層	木製品	26.0	(15.6)	(1.6)	スギ 曲げ物底板		L-118	
8	83-5	2層	木製品	19.3	19.3	1.4	スギ 曲げ物底板		L-119	
9	83-6	2層	木製品	(9.9)	(12.4)	0.9	針葉樹 曲げ物底板		L-120	

第149図 SX1 性格不明遺構出土遺物（2）



同番 号	写真 番 号	層位	種類	法量(cm)			備考	登録 番号
				長さ	幅	厚さ		
1	82-10	2層	木製品	18.3	3.4	0.5	木筒 樹種：スギ 墨書き有り「御年貢米四斗五升」「名取北方勝生村口」	L-126
2	82-4	2層	木製品	17.7	3.3	0.5	木筒 樹種：スギ 墨書き有り判読不能	L-127
3	83-2	2層	木製品	19.7	2.7	0.6	木筒 樹種：スギ 墨書き有り判読不能	L-128
4	82-8	2層	金属製品	3.3	2.7	2.3	先頭(削製)	N-256

第150図 SX1 性格不明遺構出土遺物（3）

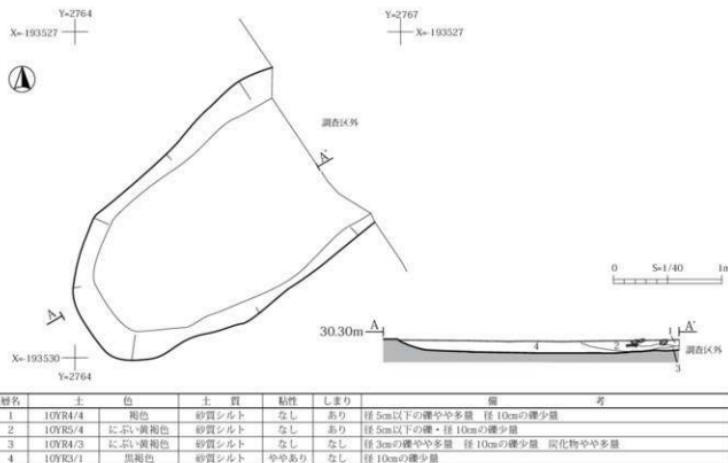
17) SX2 性格不明遺構（第151図、図版35-2～35-3）

S14-E47 グリッドに位置する。北東側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 282cm、短軸 181cm、深さ 10cm を測る。平面形は不整長円形を呈し、底面は平坦で、断面形は広い皿状を呈す。堆積土は 4 層の砂質シルトからなる。遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

18) SX25 石組遺構（第152～155図、図版35-4～35-5）

S11・12-E45 グリッドに位置する、石組方形土坑である。北東側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長軸 240cm、短軸 224cm、深さ 38cm を測る。石組は、径 5～10cm の小礫もしくは幅 13～18cm、奥行き 25～

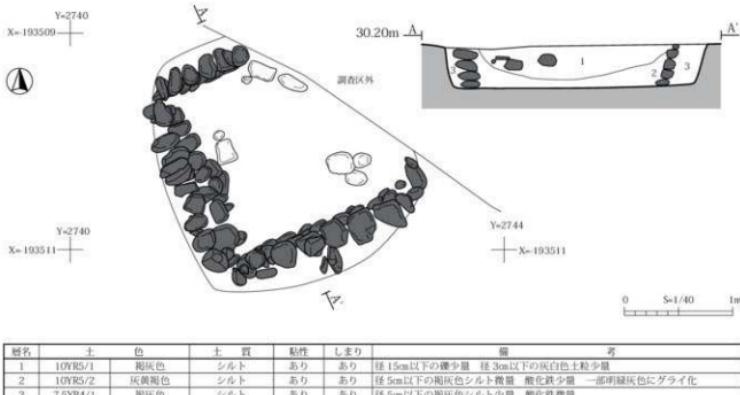
第2節 西公園高架橋等 II区



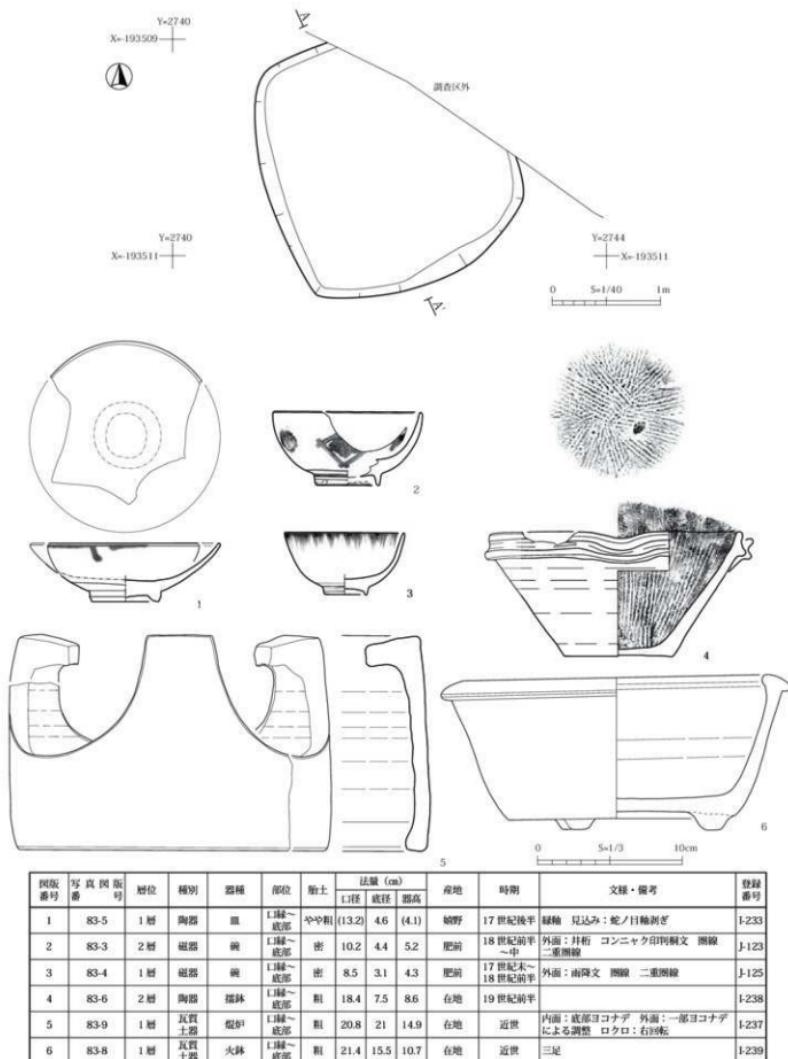
第151図 SX2 性格不明遺構平面図・断面図

30cm、厚さ6～9cmの織長の自然礫を4～5段積み上げている。石組の内幅196cm、外幅230cm、傾斜角72°～81°を測る。平面形は不整形を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。1～2層は褐色および灰黃褐色シルトからなる石組内の堆積土で、3層は褐色シルトからなる掘り方理土である。

遺物は1～2層より瓦片、陶器片、瓦質土器片、土師質土器片、土製品、金属製品、石製品、古錢が出土している。そのうち、陶器2点、磁器2点、瓦質土器2点、瓦1点、金属製品1点、古錢10点を図示した。

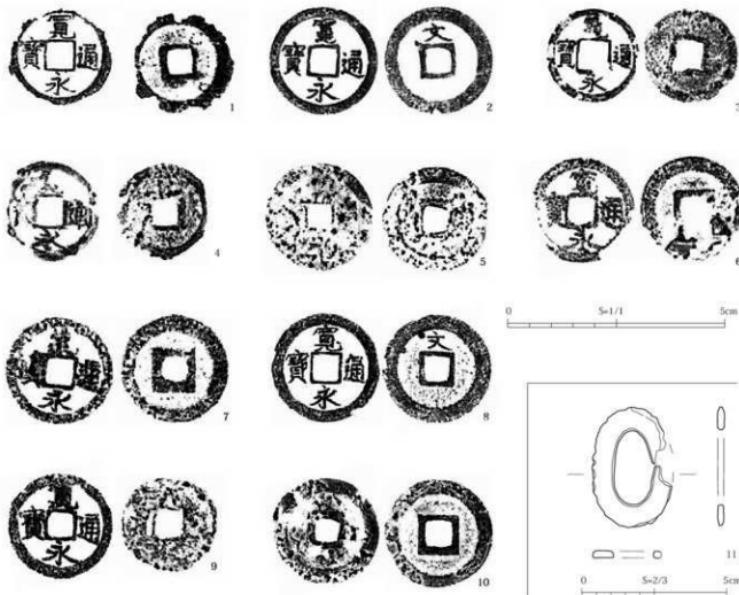


第152図 SX25 石組遺構平面図・断面図



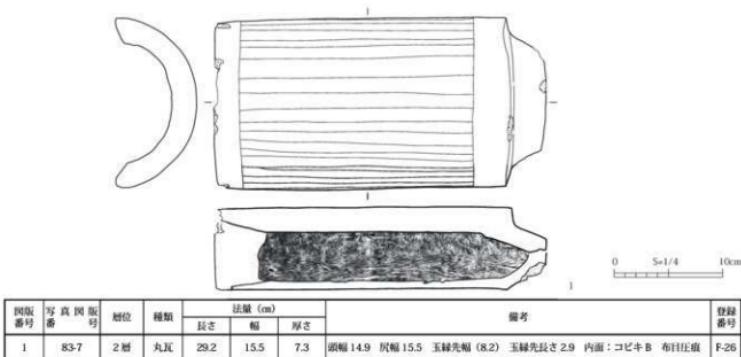
第153図 SX25石組遺構掘り方平面図・出土遺物（1）

第2節 西公園高架橋等II区



国版 番号	写真 番	国版 番号	層位	銭貨名	初鑄年	法量 (cm・g)			備考	登録 番号
						外径	穿径	重さ		
1	84-1	2	層位	寛永通宝	1668	2.3	0.6	2.68	新寛永	N-442
2	84-2	2	層位	寛永通宝	1668	2.4	0.6	2.89	新寛永	N-443
3	84-3	2	層位	寛永通宝	1668	2.1	0.7	1.41	新寛永	N-444
4	84-4	2	層位	寛永通宝	1668	(2.0)	0.6	1.68	新寛永	N-445
5	84-5	2	層位	寛永通宝	1668	2.3	0.6	3.01	新寛永	N-446
6	84-6	2	層位	寛永通宝	1668	2.3	0.5	2.95	新寛永	N-447
7	84-7	2	層位	寛永通宝	1668	2.4	0.6	4.17	新寛永	N-448
8	84-8	2	層位	寛永通宝	1668	2.5	0.6	3.55	新寛永	N-449
9	84-10	2	層位	寛永通宝	1668	2.4	0.5	27.74	新寛永 8枚?施着	N-451
10	84-9	2	層位	寛永通宝	1668	2.4	0.5	7.93	新寛永 2枚施着	N-450
国版 番号	写真 番	国版 番号	層位	種類	法量 (cm)			備考		
					長さ	幅	厚さ			
11	84-11	2	層位	金属製品	4.2	2.8	0.3			

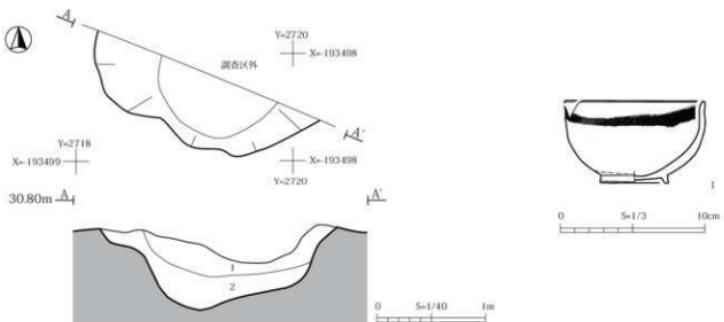
第154図 SX25石組遺構出土遺物(2)



第155図 SX25石組遺構出土遺物（3）

19) SX29 性格不明遺構（第156図、図版35-6）

S11-E42 グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 216cm、短軸 71cm、深さ 85cm を測る。平面形は不整形で、底面は起伏があり、断面形は U 字形を呈す。堆積土は 2 層で、1 層は砂質シルト、2 層は砂である。遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片が出土している。そのうち、陶器 1 点を図示した。



地名	土色	土質	粘性	しまり	備考		
					酸化鉄多量	無	
1	黄オリーブ色	砂質シルト	なし	なし			
2	オリーブ褐色	砂	なし	なし	径15cm以下の礫や多量	径5cm以下の礫多量	
図版番号	写真版番号	層位	種類	部位	出土	備考	
1	84-12	1層	陶器	瓶	口径～底部 直徑 9.8 幅 4.7 高さ 5.7	大抵粗面 18世紀後半～19世紀 外面：白繪釉・胎輪波しおけ	I-812

第156図 SX29性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

第2節 西公園高架橋等Ⅱ区

20) SX32 性格不明遺構 (第157図、図版35-7)

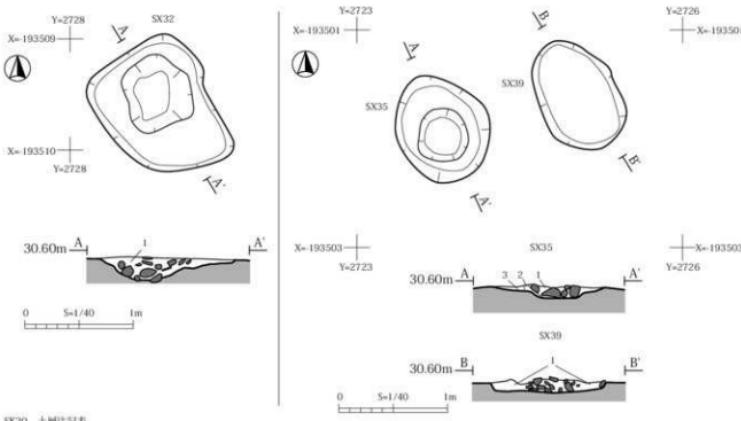
S11・12-E43 グリッドに位置する。確認された規模は、長軸 133cm、短軸 105cm、深さ 21cm を測る。平面形は不整梢円形で、底面は中央北側で一段落ち込む。断面形はすり鉢状を呈す。堆積土は褐色砂質シルトの単層で、底面付近に礫を多量に含む。遺物は瓦片、陶磁器片、土師質土器片、金属製品等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

21) SX35 性格不明遺構 (第157図、図版35-8)

S11-E43 グリッドに位置する。確認された規模は、長軸 104cm、短軸 85cm、深さ 12cm を測る。平面形は不整梢円形で、底面は中央で一段下がり、断面形は皿状を呈す。堆積土は3層で、1層から2層は砂質シルト、3層は粘土質シルトで礫を多量に含む。遺物は陶器片、瓦質土器片、金属製品が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

22) SX39 性格不明遺構 (第157図、図版36-1)

S11-E43 グリッドに位置する。確認された規模は、長軸 107cm、短軸 70cm、深さ 12cm を測る。平面形は不整円を呈し、底面は平坦で、断面形は浅い逆台形を呈す。堆積土は褐色砂質シルトの単層で礫を多量に含む。遺物は、磁器片、金属製品が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

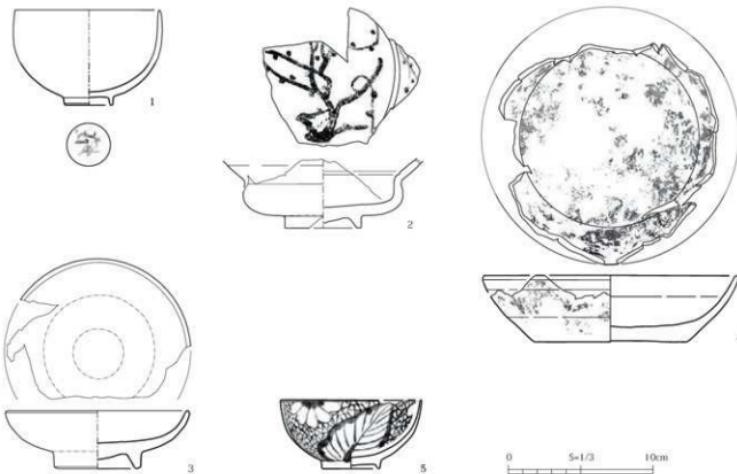


第157図 SX32・SX35・SX39 性格不明遺構平面図・断面図

23) 遺構外出土遺物（第158図～160図）

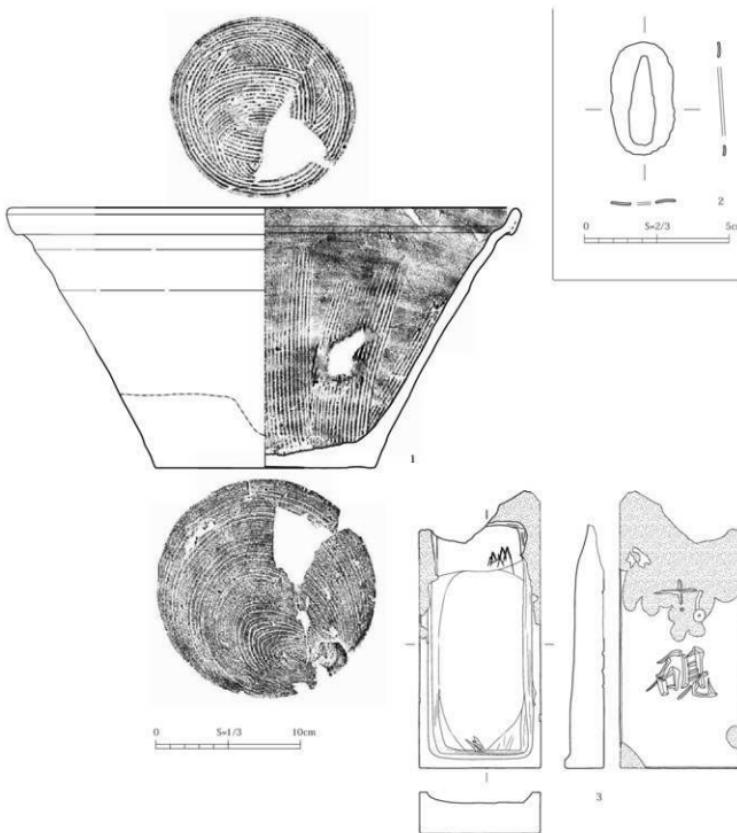
Ⅲ b層の出土遺物点数は瓦506点、陶器969点、土師質土器281点、瓦質土器37点、磁器791点、石製品10点、木製品20点、金属製品45点、古銭13点、土製品21点、ガラス製品1点、その他71点、合計2765点で、18世紀後半以降のものが中心に出土している。

陶器を産地別にみると、志野1点、織部1点、唐津4点、岸1点、嬉野1点、京・信楽系1点、肥前陶器2点、瀬戸美濃8点、小野相馬1点、大堀相馬9点、堤3点、その他在地6点となる。また、磁器を産地別にみると、景德鎮2点、漳州窯1点、肥前222点、瀬戸美濃4点、切込1点である。このうち、陶器4点、磁器1点、土師質土器1点、金属製品1点、石製品1点、木製品3点、瓦1点を図示した。土師質土器は金箔が残存した状態で出土しているものが1点確認された。



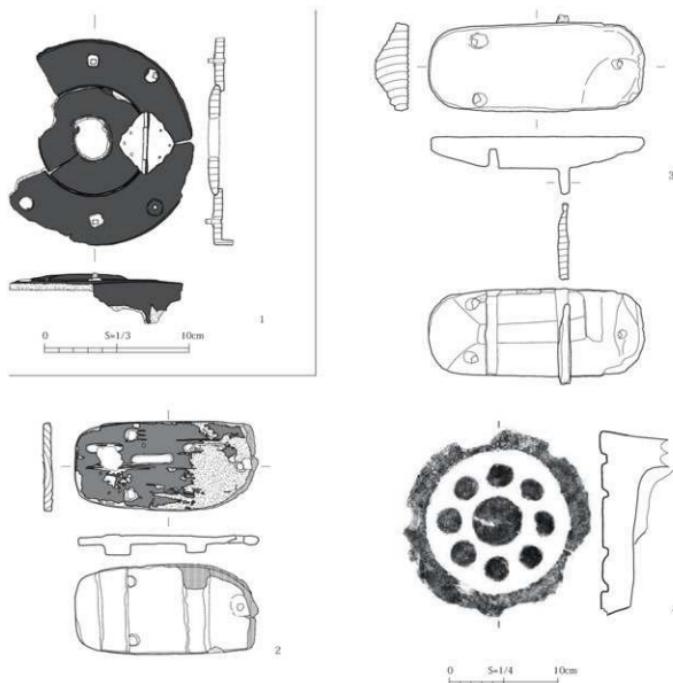
図版番号	写真	図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量 (m)		産地	時期	文様・標考	登録番号
								口径	底径				
1	84-13	S12-E45	陶器	碗	口縁～底部	密	(0.0)	3.1	(6.6)	大野相馬	18世紀後半～ 19世紀前半	灰釉 燐離痕あり 高台内：焼継ぎあり	I-601
2	84-15	S12-E45	陶器	皿	体部～底部	密	(0.9)	(5.2)	(4.8)	唐津	17世紀	鐵絞樹木文	I-602
3	84-14	S11-E42	陶器	皿	口縁～底部	密	(12.7)	5.4	4.0	小野相馬	18世紀後半	見込み：蛇ノ目軸剥ぎ	I-608
4	84-16	S12-E45	土師質土器	皿	体部～底部	粗	(8.8)	10.6	4.6	在地	18世紀後半～ 19世紀前半	内外面金箔残存	I-607
5	85-1	S12-E44	磁器	碗	口縁～底部	密	5.0	4.0	4.8	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	外面：朱裂文 葉花文	J-365

第158図 Ⅲ b層出土遺物（1）



図版 番号	写真 番 号	図版 番 号	グリッド	種類	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録 番号
								長さ	幅	厚さ				
1	85-3	S12-E44		陶器	擂鉢	口縁～底部	密	35.5	15.0	17.9	在地	19世紀		I-589
法量(cm)														
2	85-5	S11-E43		金属 製品	3.9	2.2	0.5	切羽(鋼鏡)						N-320
3	85-2	S13-E46		石製品	19.1	8.4	2.9	鏡	背面上に「十觀」刻字あり					K-17

第159図 III b 層出土遺物（2）

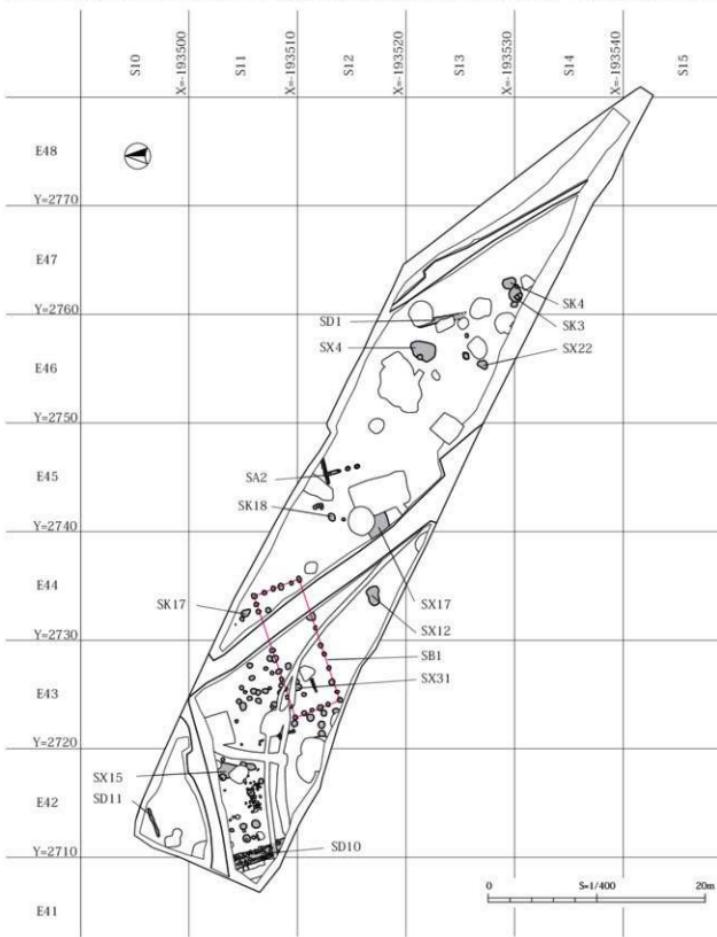


図版番号	写真番号	図版番号	グリッド	種類	法量(cm)			備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ		
1	85-6	S12-E45	木製品	(3.5)	(12.0)	-	-	調度品？ 樹種：ブナ属 金具残存	L-10
2	85-8	S12-E45	木製品	16.9	8.3	16.7	-	透彫下駄 樹種：針葉樹	L-8
3	85-7	S11-E42	木製品	20.0	8.2	19.7	-	陰卯下駄 樹種：針葉樹	L-7
4	85-4	S12-E45	軒丸瓦	6.8	17.1	3.0	-	瓦当径 17.4 文様区径 12.7 瓦当厚 2.4 周縁高 0.5 周縁幅 2.3	F-66

第160図 III b層出土遺物(3)

6 III a層上面検出遺構

III a層上面で検出された遺構は、柱跡1列、溝跡3条、建物跡1棟、土坑4基、性格不明遺構6基、合計15基である。SB 1は長屋風建物の基礎部分と推定され、下層遺構のSD 7を埋め立てた上に構築されている。また、調査区中央部で検出された石列 SA 2も、建物基礎の可能性がある。調査区西橋では、石組溝 SD10が検出された。



1) SA2 柱列跡 (第162図、図版37-1~37-2)

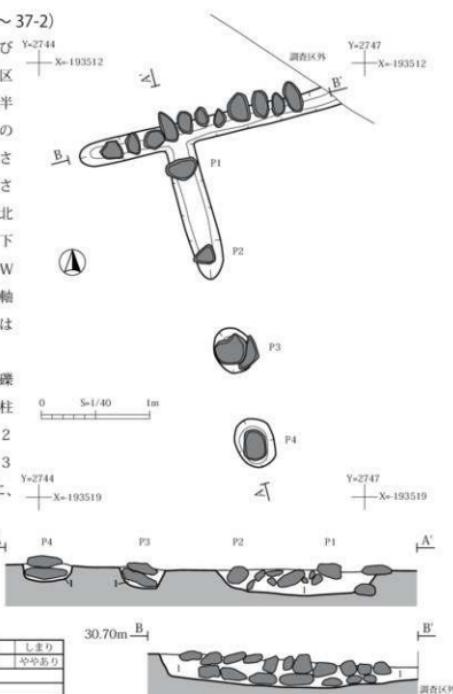
S12-E45 グリッドに位置する。東西方向および南北方向に延びる石列跡である。東側は調査区外に延びる。東西方向と、南北方向の石列北半は、布掘り状の掘り方をともない、南半は2基の柱穴からなる。東西方向の掘り方規模は、長さ238cm、上端幅24cm、下端幅5~10cm、深さ23cmを測り、主軸方位はN-77°-Eを示す。南北方向の掘り方規模は、長さ1.46m、上端幅、下端幅、深さ23cmを測り、主軸方位はN-13°-Wを示す。2基の柱穴は、長軸42~46cm、短軸32~34cm、深さ16~20cmを測り、平面形は橢円形を呈す。

東西方向の石列は、15~25cm程度の自然礫を2段に積み上げている。南北方向の石列の柱間間隔は、P1~P2間83cm(2尺7寸)、P2~P3間90cm(2尺9寸)、P3~P4間91cm(3尺)を測る。P1~P2は、基礎となる礫の周辺に、裏込めの石を充填している。P3およ

びP4は、礫を2段に組んで築いている。堆積土は黄灰色シルトの單層である。遺物は出土していない。

種名	土色	土質	粘性	しまり
1 2.5Y4/1	黄灰色	シルト	なし	ややあり
2 褐色	褐色	シルト	なし	ややあり

注 5cm以下の灰白色地に褐色土粒やや多量



第162図 SA2 平面図・断面図

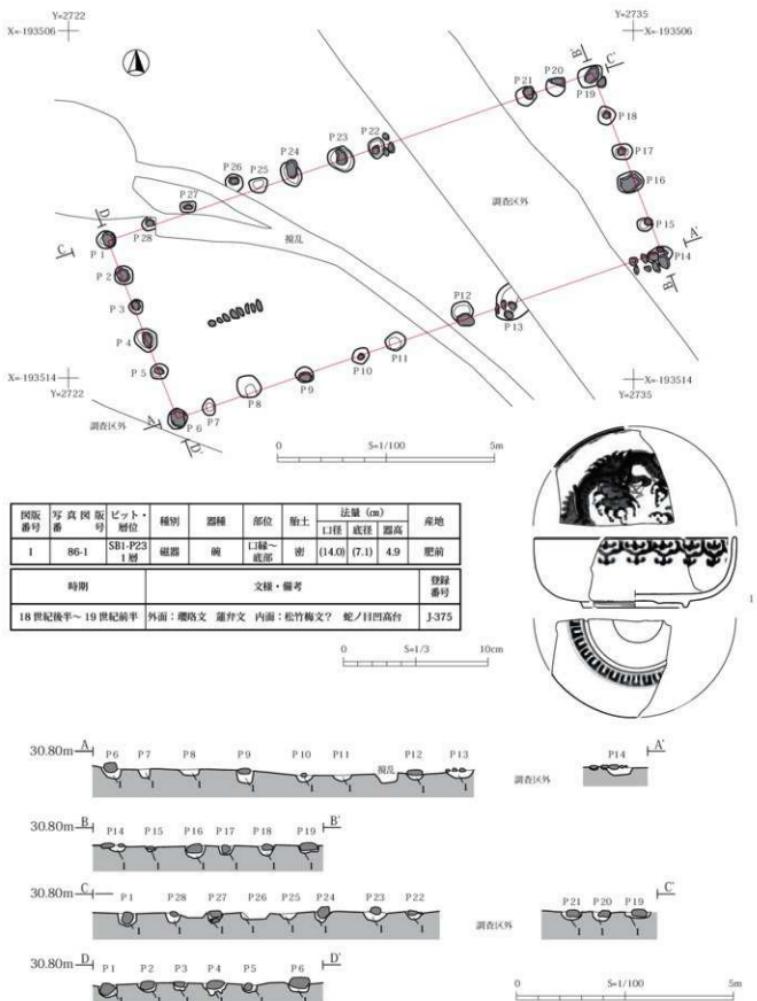
2) SB1 建物跡 (第163図、図版36-4)

S11-12-E43・44 グリッドに位置する11間×5間の建物跡である。確認された規模は、桁行11間(11.83m)、梁行5間(4.62m)を測り、柱間の寸法はP1~P6からなる西列が72cm~90cm(平均81cm)、P6~P14からなる南列が81cm~1.7m(平均1.16m)、P14~P19からなる東列が78cm~1.02m(平均90cm)、P19~P1からなる北列が71cm~1.12m(平均99cm)である。柱穴掘り方の規模は、長軸が38~64cm、短軸28~48、深さ16~30cmを測る。主軸方位はN-72°-Eを示す。

柱間寸法にはばらつきがあり、根石上に直接柱を建てたとは考えにくく、基礎の横木を支えるためのものだった可能性が高い。P7、P8、P11、P25において根石は確認されなかった。また、P14は根石が柱穴から南側に動いている。P14の根石は複数の礫を敷並べている。P25、P26は軸方向に整合しておらず、前述の通り、横木基礎として使われた可能性を示唆する。P4とP17を結ぶ桁方向には、長さ1.3mの石列が確認され、建物の基礎を構成する一部と思われる。堆積土はオリーブ褐色シルトないし灰黃褐色シルトを主体としている。

遺物は柱穴掘り方から、瓦片、陶器片、瓦質土器片、土師質土器片、土製品、金属製品等が出土している。そのうち、磁器1点を図示した。

第2節 西公園高架橋等II区

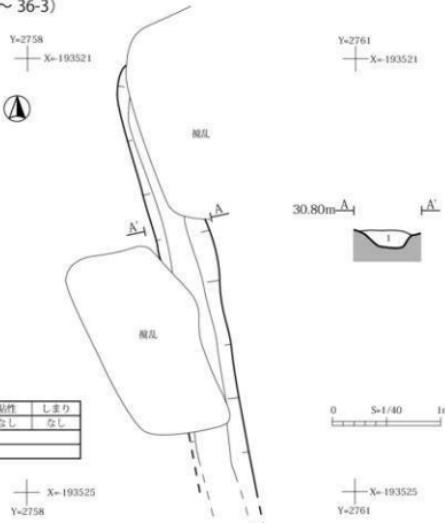


ピット	番号	土色	土質	粘性	しまり	備考
P1	1	2.5Y4/1	黄褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量
P2	1	2.5Y4/3	オーリープ褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の暗褐色土粒やや多量 径 10mm以下の岩盤ブロック少量
P3	1	2.5Y4/4	オーリープ褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量 径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P4	1	10YR4/2	灰褐色	シルト	ややあり	なし
P5	1	2.5Y4/4	オーリープ褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量
P6	1	2.5Y4/3	オーリープ褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量 径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P7	1	2.5Y4/1	黄褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の暗褐色土粒やや多量 径 10mm以下の岩盤ブロック少量
P8	1	2.5Y4/3	オーリープ褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量 径 3mm以下の岩盤ブロック少量
P9	1	2.5Y4/4	オーリープ褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量 径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P10	1	10YR4/2	灰褐色	シルト	ややあり	なし
P11	1	2.5Y4/4	オーリープ褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量 径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P12	1	2.5Y4/3	オーリープ褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量 径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P13	1	2.5Y4/1	黄褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量
P14	1	2.5Y4/3	オーリープ褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の暗褐色土粒やや多量 径 10mm以下の岩盤ブロック少量
P15	1	2.5Y4/4	オーリープ褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量 径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P16	1	10YR4/2	灰褐色	シルト	ややあり	なし
P17	1	2.5Y4/4	オーリープ褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量 径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P18	1	2.5Y4/3	オーリープ褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量 径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P19	1	2.5Y4/1	黄褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量
P20	1	2.5Y4/3	オーリープ褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の暗褐色土粒やや多量 径 10mm以下の岩盤ブロック少量
P21	1	2.5Y4/4	オーリープ褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量 径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P22	1	10YR4/2	灰褐色	シルト	ややあり	なし
P23	1	2.5Y4/4	オーリープ褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量 径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P24	1	2.5Y4/3	オーリープ褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量 径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P25	1	2.5Y4/3	オーリープ褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量 径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P26	1	2.5Y4/1	黄褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量 径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P27	1	2.5Y4/3	オーリープ褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量 径 2mm以下の岩盤ブロック少量
P28	1	2.5Y4/1	黄褐色	シルト	なし	ややあり 径 5cm以下の灰色～暗褐色土粒やや多量

第165図 SB1 建物跡断面図

3) SD1溝跡 (第164図、図版36-2～36-3)

S13-E46グリッドに位置する。南北方向へ直線的に伸びる溝跡である。北東側と中央部を報乱に削平される。南側は残存状態が悪く、確認できなかった。残存する規模は、長さ 388cm 上端幅 52cm、下端幅 20～30cm、深さ 17cm を測り、主軸方位は N-25°-W を示す。断面形は逆台形を呈す。南側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は褐色シルトの単層である。遺物は、瓦片、陶器片が出土しているが、細片のため図化し得なかつた。



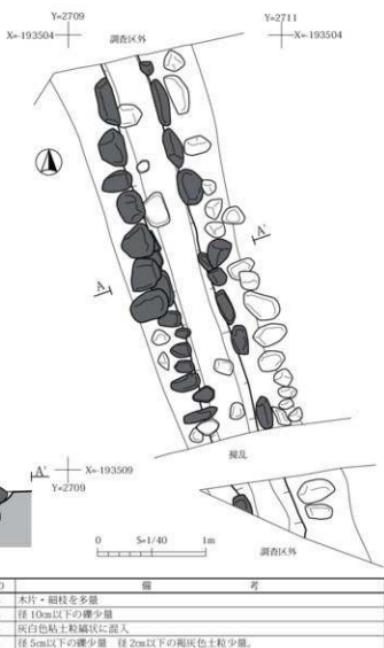
第164図 SD1 溝跡平面図・断面図

第2節 西公園高架橋等Ⅱ区

4) SD10溝跡（第165図、図版37-3、37-5）

S11-E41・42グリッドに位置する。南北に直線的に延びる。石組の溝跡である。北側と南側は調査区外へ延びる。残存する規模は、長さ456cm、掘り方の上端幅106～128cm、石組みの内幅34～36cm、下端幅28～37cm、深さ36cmを測り、主軸方位はN-19°-Wを示す。断面形は逆台形を呈す。北側に向かって傾斜する。石組みは20cm～30cmの自然礫を用い、2～3段築く。堆積土は4層からなり、1層から2層は粘土質シルトで流れ込みによる堆積土と考えられる。3層から4層はシルトで掘り方の理土である。

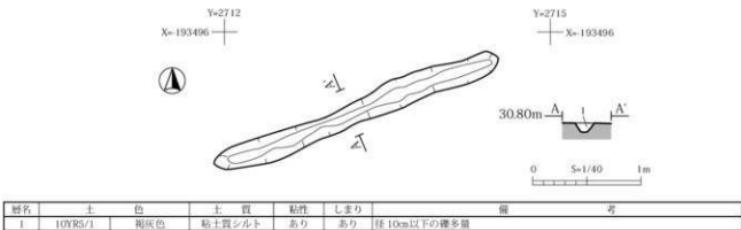
遺物は、瓦片、陶磁器片、土師質土器片、金属製品等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



第165図 SD10溝跡平面図・断面図

5) SD11溝跡（第166図、図版37-4）

S10-E42グリッドに位置する。南西から北東へ直線的に延びる溝跡である。残存する規模は、長さ278cm、上端幅18～25cm、下端幅4～10cm、深さ9cmを測り、主軸方位はN-70°-Eを示す。断面形はU字状を呈す。底面はほぼ平坦で傾斜はもない。堆積土は褐灰色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。



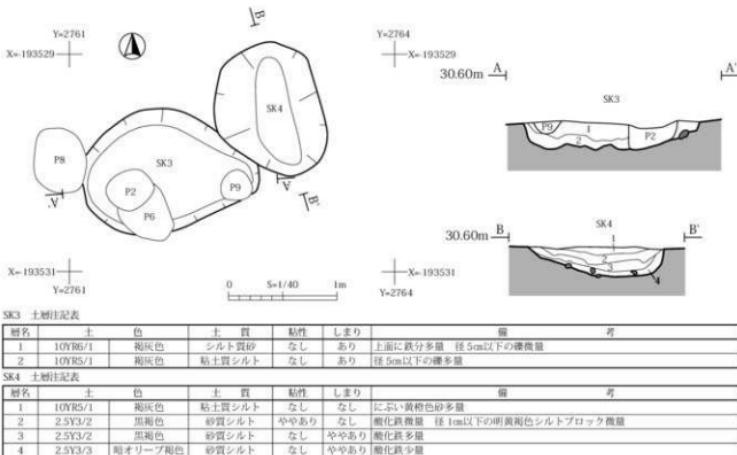
第166図 SD11溝跡平面図・断面図

6) SK3 土坑 (第167図、図版37-6、38-1)

S13-14-E47 グリッドに位置する。SK4 ほかピット4基と重複し、SK3が一番古い。残存する規模は、長軸167cm、短軸116cm、深さ24cmを測る。平面形は不整梢円で、底面は起伏が著しく、断面形は逆台形を呈す。堆積土は2層からなり、1層はシルト質砂、2層は粘土質シルトである。遺物は、陶磁器片、瓦質土器片、土師質土器片、土製品等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

7) SK4 土坑 (第167図、図版38-1)

S13-14-E47 グリッドに位置する。SK3と重複し、SK3より新しい。残存する規模は、長軸132cm、短軸96cm、深さ27cmを測る。平面形は不整梢円で、底面は南側に向かって傾斜し、断面形は皿状を呈す。堆積土は4層で、1層は粘土質シルト、2層から4層は砂質シルトである。遺物は、瓦片、陶磁器片、土師質土器片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



第167図 SK3・4 土坑平面図・断面図

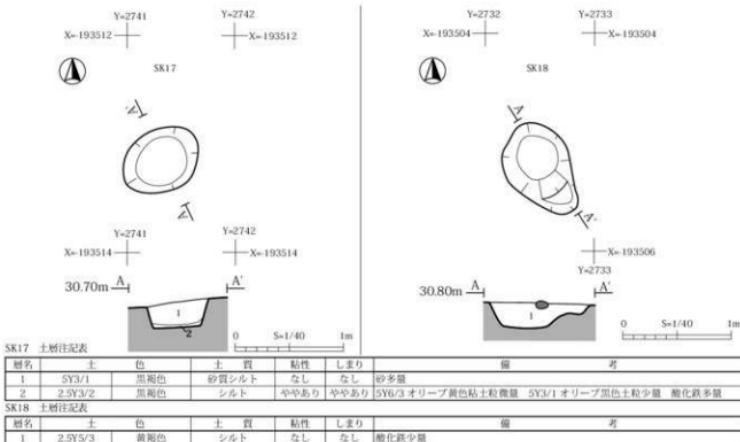
8) SK17 土坑 (第168図、図版38-2～38-3)

S11-E44 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸90cm、短軸63cm、深さ24cmを測り、主軸方位はN-38°-Wを示す。平面形は不整梢円を呈し、底面はほぼ平坦で、南側はテラス状に高まる。断面形は逆台形を呈す。堆積土は2層で、1層は砂質シルト、2層はシルトである。遺物は出土していない。

9) SK18 土坑 (第168図、図版38-4～38-5)

S12-E45 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸79cm、短軸65cm、深さ23cmを測る。平面形は不整円を呈し、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈す。堆積土は黄褐色シルトの単層である。遺物は、陶磁器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

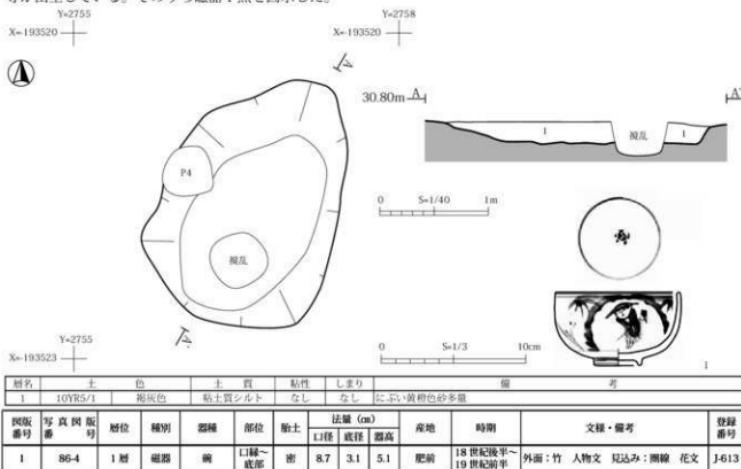
第2節 西公園高架橋等 II 区



第168図 SK17・SK18土坑平面図・断面図

10) SX4 性格不明構造 (第169図、図版38-6～38-7)

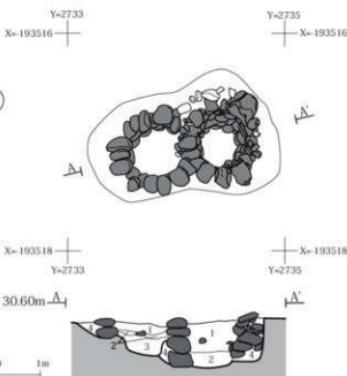
S13-E46グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 240cm、短軸 164cm、深さ 19cmを測る。平面形は不整形を呈し、底面は平坦で、断面形は浅い逆台形を呈す。堆積土は褐灰色粘土質シルトの単層である。遺物は陶磁器等が出土している。そのうち磁器 1点を図示した。



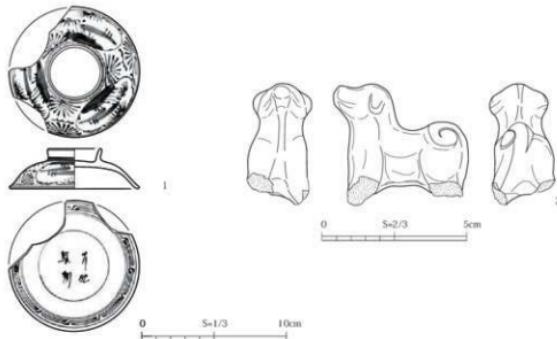
第169図 SX4 性格不明構造平面図・断面図・出土遺物

11) SX12 性格不明遺構 (第170図、図版
38-8、39-1)

S12-E44 グリッドに位置する、石組土坑である。P4 と重複し、P4 より古い。2 基の石組土坑が連結した状態で検出された。残存する規模は、長軸 170cm、短軸 95cm ~ 116cm、深さ 43cm。石組みの内径 45cm および 48cm を測る。平面形は瓢形で、断面形は不整逆台形を呈す。掘り方の底面はほぼ平坦である。1 ~ 3 層は石組内部の堆積土で、4 層は掘り方理土である。遺物は瓦片、陶器片、瓦質土器片、土師質土器片、金属製品、土製品等が出土しているが、近代以降の遺物が数点出土している。そのうち、磁器 1 点と大型土製品 1 点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	あり	なし ほ 5cm以下の礫少量
2	10YR4/2	灰褐色	砂質シルト	あり	なし ほ 5cm以下の礫多量
3	10YR5/3	灰褐色	砂質シルト	なし	なし ほ 5mmの灰白色微量 ほ 2cm以下の礫微量 鉄化鉄微量
4	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり ほ 10mm以下の礫少量 砂礫・鉄化鉄の沈着多量 5mm程度の黄褐色土粒多量



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							L径	底径	厚高				
1	86-2	4層	磁器	蓋	口縁~底部	密	9.0	3.8	2.8	瀬戸・美濃	19世紀	外側:窓に竹文 花文 内面:雷文帶 圖 縁「成化年製」款	J-388
2	86-3	3層	土製品	4.2	2.2	4.7				大型土製品	手造ね		P-93

第170図 SX12 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

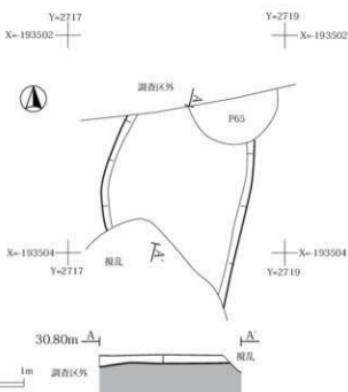
第2節 西公園高架橋等Ⅱ区

12) SX15 性格不明遺構 (第171図、図版39-2~39-3)

S11-E42 グリッドに位置する。P65と重複し、P65より古い。南側を擾乱に削平される。北側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 165cm、短軸 136cm、深さ 6 cm を測る。平面形は不整梢円を呈し、底面は平坦で、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層である。遺物は、陶磁器片、土師質土器片出土しているが、細片のため図化し得なかった。

番号	土色	土質	粘性	しまり	層	考
1	10YR3/4 褐色	粘土質シルト	あり	ややあり		

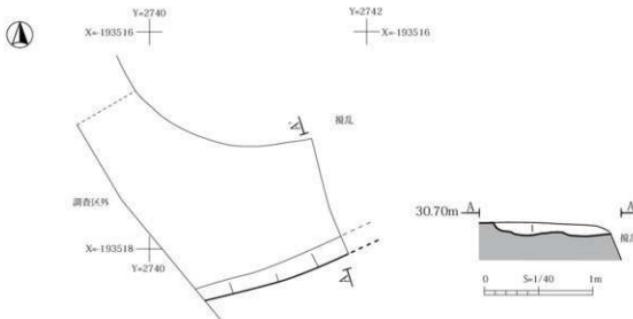
径 2cm 以下の黒色粘土粒多量



第171図 SX15 性格不明遺構平面図・断面図

13) SX17 性格不明遺構 (第172図、図版39-4~39-5)

S12-E44・45 グリッドに位置する。北東～東側を擾乱に削平される。北側は不明瞭となり、確認できなかった。西側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 207cm、短軸 174cm、深さ 13cm を測る。平面形は不整形を呈し、底面はやや起伏がある。断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は褐色粘土質シルトの単層で、径 15 ~ 20cm の礫を多量に含む。遺物は、瓦片、陶磁器片、金属製品等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



番号	土色	土質	粘性	しまり	層	考
1	10YR4/1 褐色	粘土シルト	あり	ややあり	径 15 ~ 20cm の礫多量	酸化鉄

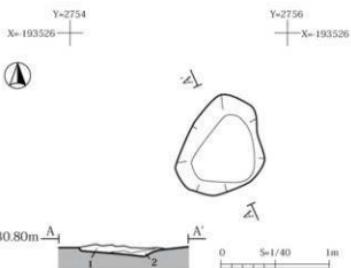
第172図 SX17 性格不明遺構平面図・断面図

14) SX22 性格不明遺構 (第173図、図版39-6)

S13-E46 グリッドに位置する。残存する規模は、長軸 99cm、短軸 70cm、深さ 8 cm を測る。平面形は不整形を呈し、底面はほぼ平坦で、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土は黒褐色シルト質砂の単層である。遺物は陶磁器片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

剖名	土色	土質	粘性	しまり
1 備考	7.5YR3/2 黒褐色	シルト質砂	なし	あり

堆積土層状況に多様



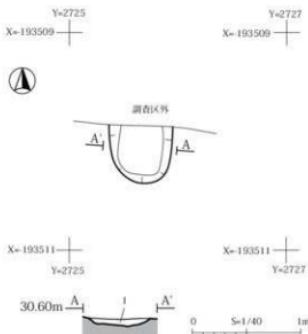
第173図 SX22 性格不明遺構平面図・断面図

15) SX31 性格不明遺構 (第174図、図版39-7)

S11・12-E43 グリッドに位置する。北側を擾乱に削平される。残存する規模は、長軸 58cm、短軸 56cm、深さ 6 cm を測る。平面形は不整規円を呈し、底面は平坦で、断面形は浅い皿状を呈す。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

剖名	土色	土質	粘性	しまり
1 備考	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり

SY6/3 オリーブ黄色粘土質多量 廃化鉄多量



第174図 SX31 性格不明遺構平面図・断面図

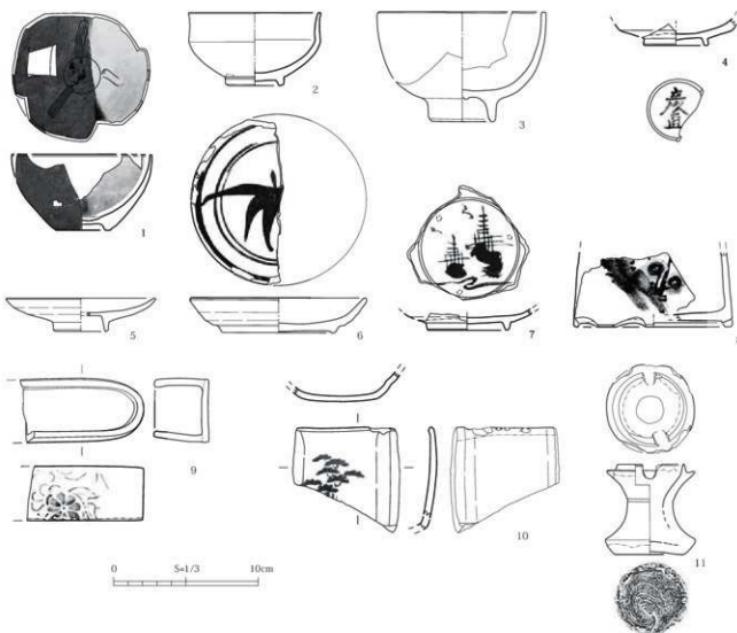
16) 遺構外出土遺物 (第175図～181図)

III a 層の出土遺物点数は瓦 406 点、陶器 1,653 点、土師質土器 446 点、瓦質土器 91 点、磁器 1,481 点、石製品 8 点、木製品 2 点、金属製品 43 点、古銭 11 点、土製品 31 点、骨 4 点、その他 97 点、合計 4,273 点で、19世紀代のものが多く出土している。

陶器を産地別にみると、志野 2 点、唐津 1 点、岸 2 点、嬉野 1 点、京・信楽系 2 点、肥前陶器 1 点、瀬戸美濃 5 点、小野相馬 2 点、大堀相馬 13 点、堤 6 点、その他在地 5 点となる。また、磁器を産地別にみると、景德鎮 9 点、肥前 304 点、瀬戸美濃 215 点、切込他地方窯 2 点である。このうち、陶器 11 点、磁器 16 点、土師質土器 3 点、金属製品 4 点、土製品 1 点、瓦 2 点を図示した。磁器では、他に出土例を見ない切込焼の精製品が出土している。

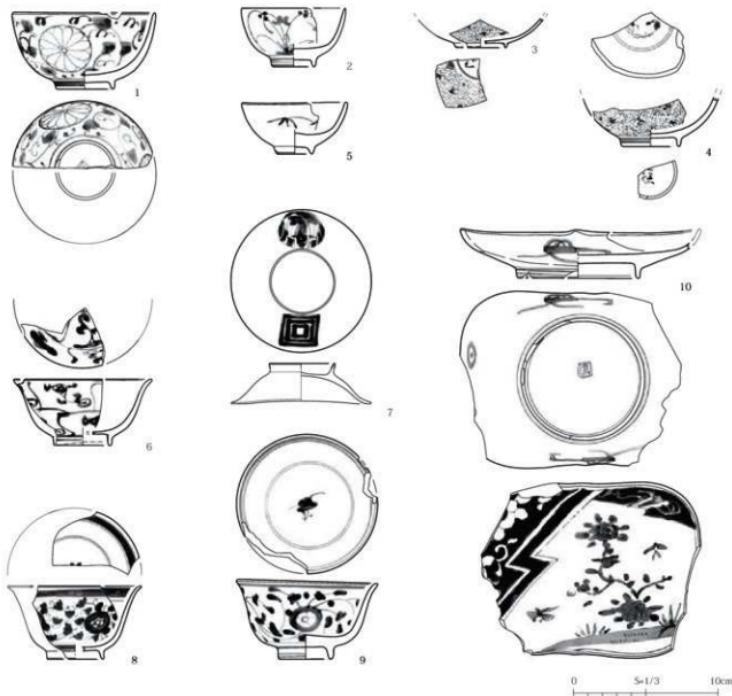
I 層・II 層および擾乱出土の遺物点数は、瓦 810 点、陶器 4,810 点、土師質土器 814 点、瓦質土器 179 点、磁器 8,564 点、石製品 47 点、木製品 13 点、金属製品 175 点、古銭 57 点、土製品 31 点、骨 5 点、合計 15,804 点である。そのうち、近世の所産と思われる陶器 3 点、磁器 5 点、金属製品 3 点、土製品 1 点、瓦 4 点を図示した。陶磁器では、焼継による補修痕のあるものが多数出土している。また、擾乱土坑の底面から鉢瓦頭部が出土している。同じ擾乱土坑から出土した同一個体の破片が接合し、尾部を除いてほぼ完全な形に接合された。鉢瓦の背面には「寛政三 〔 〕」の刻字が認められる（寛政三年は西暦 1791 年）。

第2節 西公園高架橋等II区



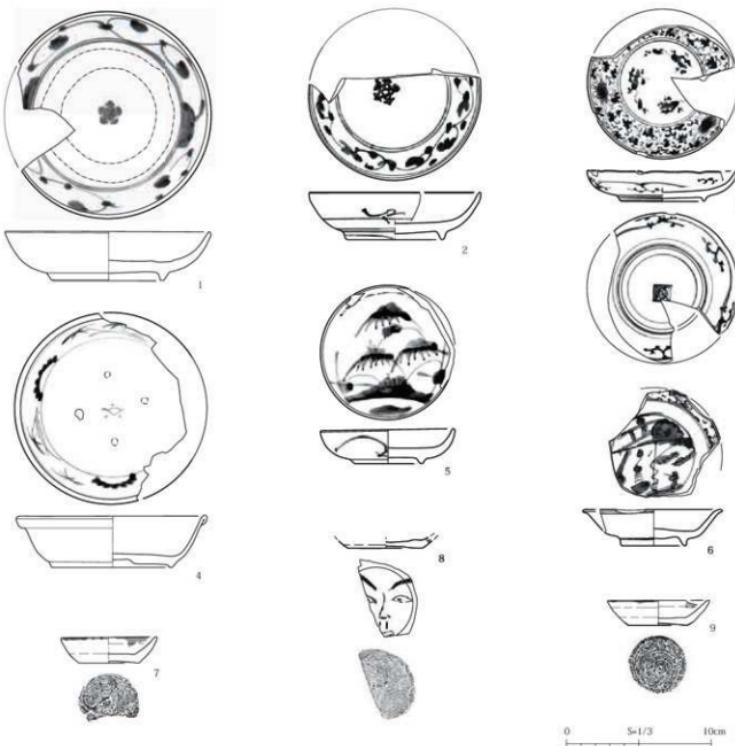
図版番号	写真番号	図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法線(cm)	产地	時期	文様・備考	登録番号
							LH密	底径 器高				
1	86-5	S12-E45	陶器	碗	口縁～底部	中空密	9.6	3.7 (9.0)	5.3 (4.0)	大堀組馬	18世紀後半 内外面：灰釉、鉄釉掛け分け	I-781
2	86-7	S12-E45	陶器	碗	口縁～底部	中空密	-	5.1 (4.0)	-	大堀組馬	18世紀後半 灰釉	I-694
3	86-6	S11-E43	陶器	碗	口縁～底部	中空軽	(11.6)	4.2 (10.0)	7.6 (8.0)	肥前	18世紀後半 鉄器手	I-611
4	87-3	S12-E45	陶器	筒型碗	体部	中空密	-	4.3 (9.8)	1.3 (5.2)	大堀組馬？	18世紀～19世紀 内外面：灰釉、貫入、高台内墨書「彦直？」	I-673
5	87-2	S11-E42	陶器	皿	口縁～底部	粗	10.2 (17.0)	- (8.0)	3.3 (2.5)	漸戸・美濃	18世紀後半	I-699
6	87-5	S12-E45	陶器	皿	口縁～底部	粗	-	-	-	志野	17世紀後半 鉄輪松文	I-637
7	87-4	S12-E45	陶器	皿	底部	中空密	-	5.7 (9.8)	-	大堀組馬	18世紀後半 鉄輪山水模範文	I-709
8	87-1	S12-E45	陶器	香炉	底部	中空密	-	- (5.2)	-	18世紀～19世紀	鉄輪、色鉻梅文	I-614
9	87-10	S11-E42	陶器	蓋置	口縁～底部	粗	-	-	3.6 (3.6)	漸戸・美濃	18世紀前半～中期 内外面：灰釉、貫入、外側：灰釉、型紙刷り(花文)、底部指沿痕	I-697
10	87-9	S12-E45	陶器	火入れ	口縁～体部	粗	-	-	-	漸戸・美濃	18世紀後半～19世紀前半 外側：鉄輪松文	I-693
11	87-8	S12-E45	陶器	油受け	口縁～底部	中空密	4.5	4.5 (4.5)	6.1 (6.1)	大堀組馬	18世紀後半～19世紀	I-687

第175図 III a層出土遺物(1)



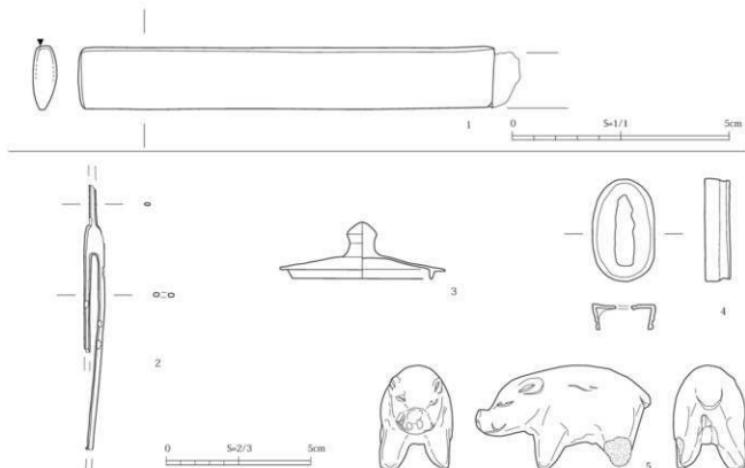
番号	写真	国版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
								口径	底径	高さ				
1	88-1	S12-E45	磁器	碗		口縁～底部	密	10.0	(4.2)	5.3	肥前	18世紀後半	外面：菊唐草文 圓盤 二重團綱 高台内：角溝足	J-361
2	87-12	S12-E45	磁器	碗		口縁～底部	密	(7.4)	3.0	4.1	肥前	18世紀後半	外面：草花文 圓盤 二重團綱	J-395
3	87-11	S11-E43	磁器	碗		体部～底部	密	-	3.4	2.0	肥前	19世紀	外面：みじん唐草 燐綱 高台：燒綱路あり	J-428
4	87-10	S12-E45	磁器	碗		体部～底部	密	-	3.8	3.4	画面：美濃	19世紀	外面：みじん唐草 二重團綱 高台：燒綱路	J-405
5	87-13	S11-E43	磁器	小杯		口縁～底部	密	7.2	2.6	3.6	肥前	18世紀後半～19世紀前半	外面：津文 高台に砂付着	J-369
6	87-9	S12-E45	磁器	端反碗		口縁～底部	密	(9.5)	(3.8)	4.6	画面：美濃	19世紀前半	内外面：雲芝文	J-400
7	88-4	S12-E44	磁器	蓋		口縁～底部	密	9.8	-	2.8	画面：美濃	19世紀前半	つまみ程 4.4 外面：横 二重方形文	J-071
8	88-3	S12-E45	磁器	端反碗		口縁～底部	密	(9.3)	(3.84)	5.1	画面：美濃	19世紀前半	外面：草花文 内面：團綱 見込み：付足	J-402
9	88-2	S13-E46	磁器	端反碗		口縁～底部	密	9.8	3.9	5.3	画面：美濃	19世紀前半	外面：草花文 内面：團綱 見込み：付足	J-475
10	89-1	S12-E45	磁器	変形皿		口縁～底部	密	16.5/11.7	(8.0)	4.4	肥前	19世紀	内面：草花文 繩文(銀葉、赤輪、銀輪、赤彩、銀輪) 外面：付足付 團綱 高台内：角富 團綱	J-466

第176図 III a層出土遺物（2）

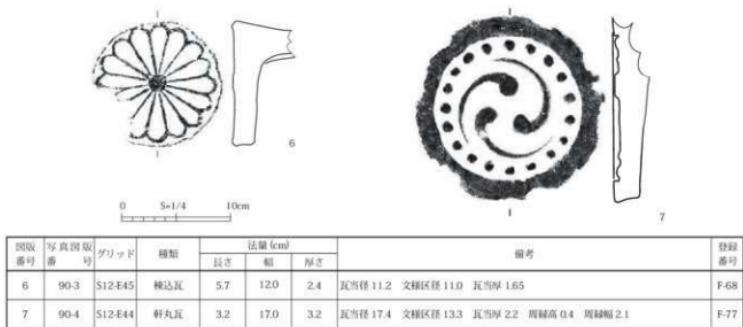


四版 番号	写真 番号	図版 番号	グリッド 種別	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録 番号
								口径	底径	高さ				
1	89-3	S12-E45	磁器	皿	口縁～底部	密	14.3	7.6	3.4		肥前	18世紀前半	内面：唐草文 見込み：コンニャク五弁花 蛇ノ目輪剥ぎ	J-483
2	89-2	S12-E45	磁器	皿	口縁～底部	密	(11.7)	6.4	3.3		肥前	18世紀後半	内面：團扇 二重團扇 唐草文 見込み：コンニャ ク目輪五弁花 外面：團扇 唐草文 二重團扇	J-417
3	88-8	S11-E42	磁器	皿	口縁～底部	密	(10.4)	5.9	2.1		肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	内面：唐草文 内面：二重團扇 牡丹唐草 團扇梅文？ 高台：團扇 角出振	J-362
4	88-6	S11-E42	磁器	皿	口縁～底部	密	13.2	8.2	3.6	切込	19世紀以後	外側：唐草文 内面：团扇 4箇所 胎土は白色 度が強くガラス質（精製品）	J-413	
5	88-5	S12-E45	磁器	皿	口縁～底部	密	9.3	4.6	2.3		肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	内面：松、波文 日輪4箇所 胎土は白色 度が強くガラス質（精製品）	J-436
6	88-7	S12-E45	磁器	皿	口縁～底部	密	(9.3)	(4.6)	2.5	中	16世紀末～ 17世紀初	外側：山水人物文 高台：团扇 見込み： 櫻痴山水人物文 高台：团扇	J-414	
7	87-6	S12-E44	土師質 土器	灯明皿	口縁～底部	粗	(6.7)	4.2	1.9		在地	近世	油煙付着	1621
8	87-8	S11-E42	土師質 土器	皿	口縁～底部	粗	-	5.1	(0.6)		在地	近世	人面墨書き	1674
9	87-7	S12-E45	土師質 土器	灯明皿	口縁～底部	粗	7.0	3.8	1.7		在地	近世	油煙付着	1730

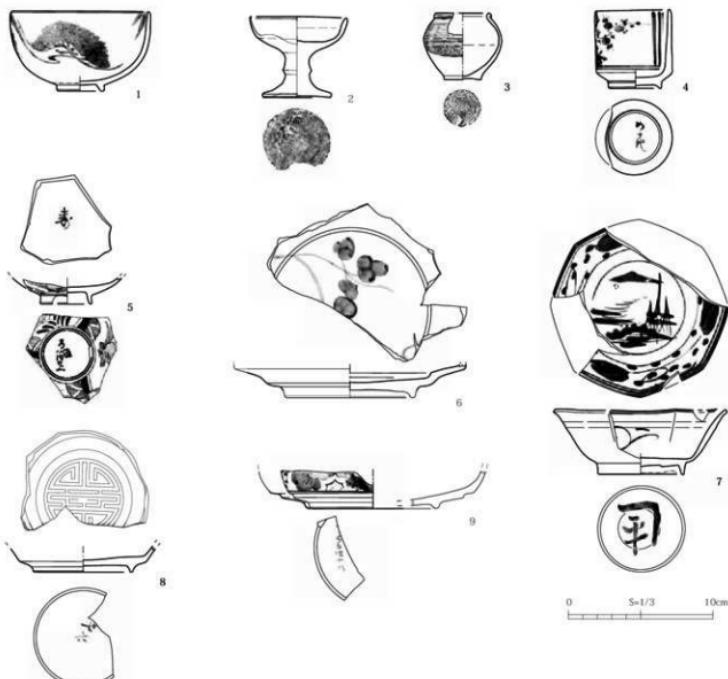
第177図 III-a層出土遺物(3)



図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量(cm)			参考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	90-2	S11-E42	金属製品	10.2	1.4	0.6	小柄 第15表 (P199) 参照	N-302
2	89-7	S12-E45	金属製品	(10.2)	0.7	-	蓋	N-311
3	90-1	S12-E45	金属製品	5.7	2.0	-	蓋	N-315
4	89-5	S11-E42	金属製品	3.5	2.2	0.9	刀剣部品 柄緒	N-253
5	89-4	S12-E45	土製品	6.0	3.6	2.8	圆形土製品	P-106



第178図 III a層出土遺物(4)



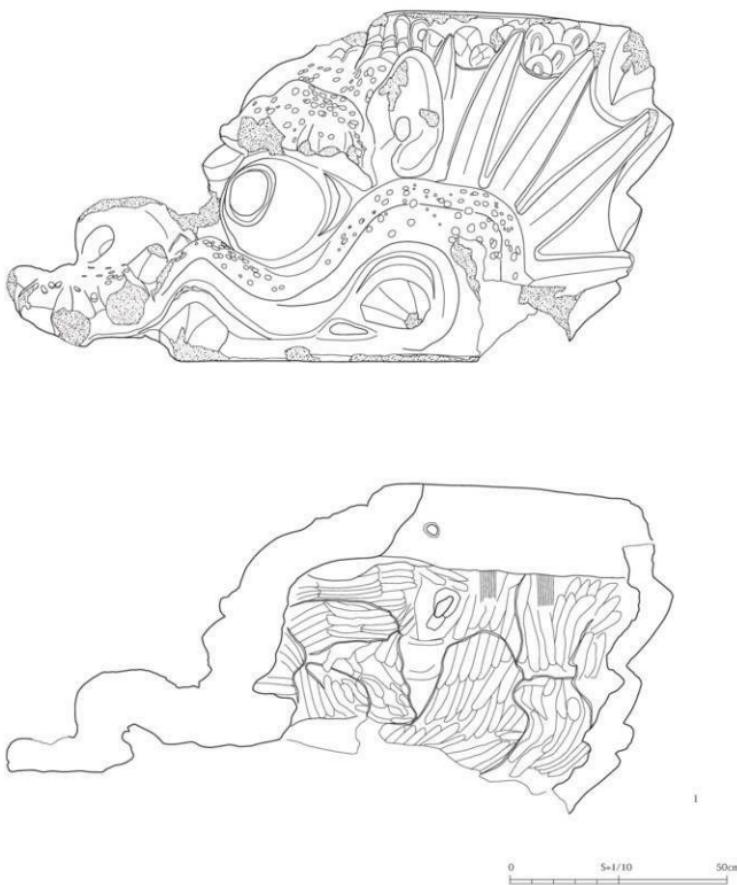
図版番号	写真・図版番号	グリッド	種別	器種	部位	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号	
						L径	底径	器高					
1	90-5	S12-E45	陶器	碗	口縁～底部	中平	9.5	3.3	5.5	京	18世紀前半	色絵松竹文	I-065
2	90-6	S11-E42	陶器	仏壇器	口縁～底部	中平	6.7	4.6	5.6	大坂粗馬	18世紀後半	灰釉	I-636
3	90-7	S12-E45	陶器	豆甕	口縁～底部	中平	(3.7)	2.5	4.6	瀬戸・美濃	18世紀後半	外面上部から内面：網目	I-892
4	90-10	S12-E45	磁器	小杯	口縁～底部	密	5.1	3.6	5.4	肥前	19世紀	上絵染付：外面：二重團扇 梅 波文 内：赤絵 金彩 烟草瓶あり 高台 内：焼継印あり	J-603
5	91-1	S12-E45	磁器	皿	体部～底部	密	-	3.6	(1.8)	肥前	18世紀後半	外面：色絵草花文 内面：色絵「寿」文 高台内焼継印「弓ノ口廿一」	J-513
6	90-8	S11-E42	磁器	皿	体部～底部	密	-	8.8	(2.3)	肥前	17世紀？	見込み：草花文	I-897
7	91-3	S12-E44	磁器	碗	口縁～底部	密	11.8	6.0	4.5	肥前	18世紀後半～19世紀前半	外面：唐草文 内面：伏花文 團扇 桜 鶴山水文 高台内：墨書き「力ネ平」蛇 「日西高台 口継」	J-604
8	91-2	S12-E45	磁器	皿	体部～底部	密	-	6.5	(1.8)	肥前	19世紀前半	見込み：寿字文 高台内：焼継印「廿六」	J-589
9	90-9	S12-E45	磁器	鉢	体部～底部	密	-	8.4	2.6	肥前	18世紀後半～19世紀	上絵染付：外面：團扇 赤絵 緑繪 茶 輪 烟草瓶あり 重接継あり(焼付音) 内：焼継印「弓ノ口四十九」	J-546

第179図 I層・II層・搅乱出土遺物（1）



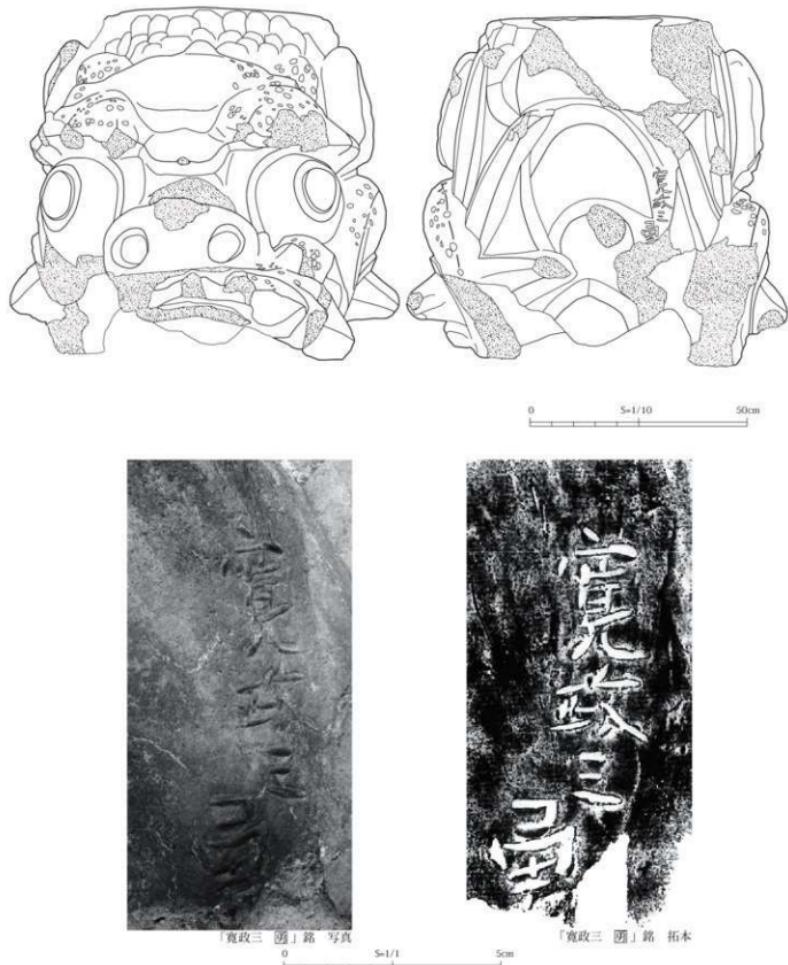
図版番号	写真調査番号	グリッド番号	種類	法量(cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	91-4	S12-E44	金属製品	9.7	1.3	0.5	小柄 地文：魚子文 高形（鳥と牡丹？） 第15表（P199）参照	N-298
2	91-5	S11-E42	金属製品	10.0	1.6	0.6	小柄 未製品？ 第15表（P199）参照	N-289
3	91-6	S11-E43	金属製品	5.5	1.5	2.6	螺旋	N-221
4	92-2	S12-E45	土製品	6.6	5.2	3.1	土人形 塑作り	P-97
5	91-8	S12-E45	軒丸瓦	2.5	16.4	1.5	瓦当径 16.5 文様区径 13.0 瓦当厚 2.2 周縁高 0.6 周縁幅 1.8	F-100
6	91-7	S11-E43	軒丸瓦	3.0	15.6	2.5	瓦当径 16.1 文様区径 12.0 瓦当厚 2.4 周縁高 0.4 周縁幅 1.8	F-99
7	92-1	S12-E45	軒平瓦	11.4	16.2	2.2	脇区幅 4.0 瓦当高 4.7 周縁高 4.5 ~ 7.0	G-33

第180図 I層・II層・擾乱出土遺物（2）



図版 番号	写真 番 号	図版 番 号	グリッド 号	種類	法量(cm)			備考	登録 番号
					長さ	幅	厚さ		
1	92-3 背面丸ラム	S12-E46		鰐瓦	153.5	89	18	背面に「直政三 圓〔 〕」刻字 内面ユビナデ面有	H-1

第181図 鰐瓦(1)

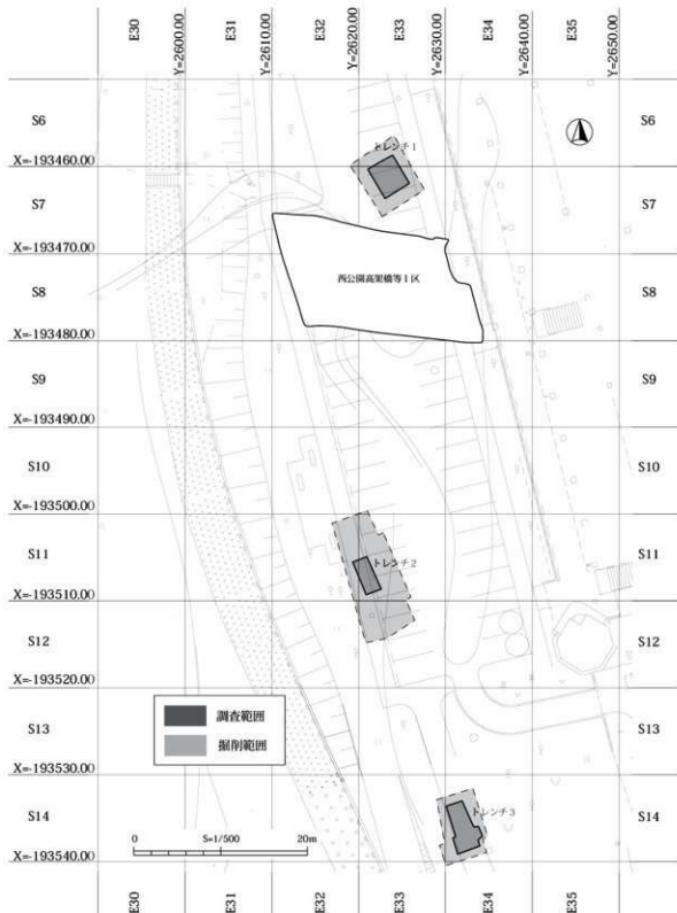


第182図 鮫瓦(2)

第3節 西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）

第3節 西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）

西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）の調査では、西公園高架橋等Ⅰ区の北側1箇所、南側2箇所、合計3箇所のトレンチを設定して調査を行った。



第183図 西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部） トレンチ配置図

1 トレンチ1 (第184~188図、図版40-1、40-3)

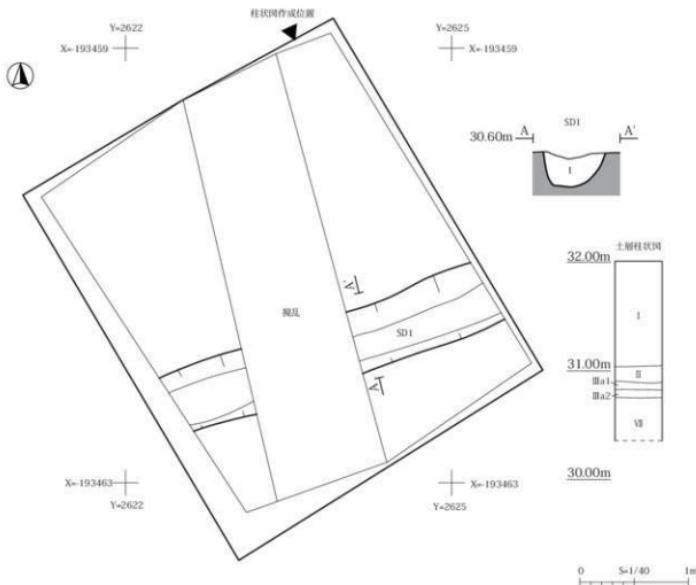
トレンチ1では3面の遺構面が確認された。Ⅲa層の最下層から出土している遺物が近世末~近代初頭のもののが含まれているため、上層2面の遺構面をⅢa1層上面およびⅢa2層上面とした。

VII層上面検出遺構

トレンチ1のVII層上面では、溝跡1条が検出された。

1) SD1溝跡 (第184図、図版40-1、40-2)

S7-E33グリッドに位置する。北東から南西へ直線的に延びる溝跡である。残存する規模は、長軸305cm、上幅65~57cm、下幅56~23cm、深さ32cmを測り、主軸方位はN-19°Eを示す。断面形はU字状を呈す。底面は平坦で、北東から南西へ緩やかに傾斜している。堆積土は暗灰黄色砂質シルトの単層で、流れ込みにより堆積した土と考えられる。遺物は陶器片、瓦片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
I	10VR3/4	暗灰黄色	砂質シルト	なし	なし 径3~5cmの黒褐色砂質シルトブロック多箇 砂質シルトブロック少箇

第184図 トレンチ1 VII層上面遺構平面図・断面図

第3節 西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）

III a2 層上面検出遺構

トレンチ1のIII a 2層上面では、土坑3基が検出された。

1) SK5 土坑 （第185～186図、図版40-3、40-4）

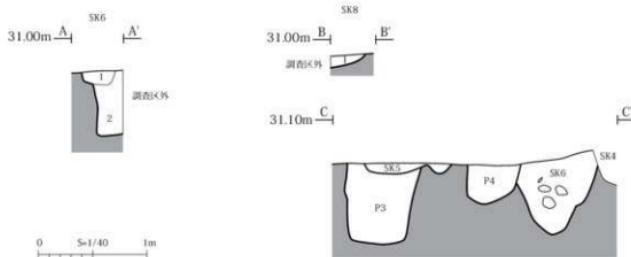
S6-E33 グリッドに位置する。P3と重複し、P3より古い。北東側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸93cm、短軸37cm、深さ10cmを測る。平面形は不整長方形で、断面形は皿状を呈す。底面は起伏がある。堆積土はにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

2) SK6 土坑 （第185～186図、図版40-3、40-5）

S7-E33 グリッドに位置する。P4と重複し、P4より古い。北東側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸68cm、短軸33cm、深さ70cmを測る。平面形は不整橿円形で、断面形は長方形を呈す。底面は平坦である。堆積土は2層の砂質シルトに分層され、炭化物、礫を少量含む。遺物は陶器片、土師質土器片が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

3) SK8 土坑 （第185～186図、図版40-3、40-6）

S7-E33 グリッドに位置する。西側を掘乱に削平され、南側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸54cm、短軸26cm、深さ9cmを測る。平面形はおそらく長楕円形で、断面形は皿状を呈す。底面は中央に向かってなだらかに傾斜する。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。



SK5 土壙注記表

剖名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1 10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径1～3cmの礫少量

SK6 土壙注記表

剖名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1 10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	あり	あり	径1～3mmの炭化物少量
2 10YR3/1	明黄褐色	砂質シルト	あり	あり	径5～15cmの礫少量

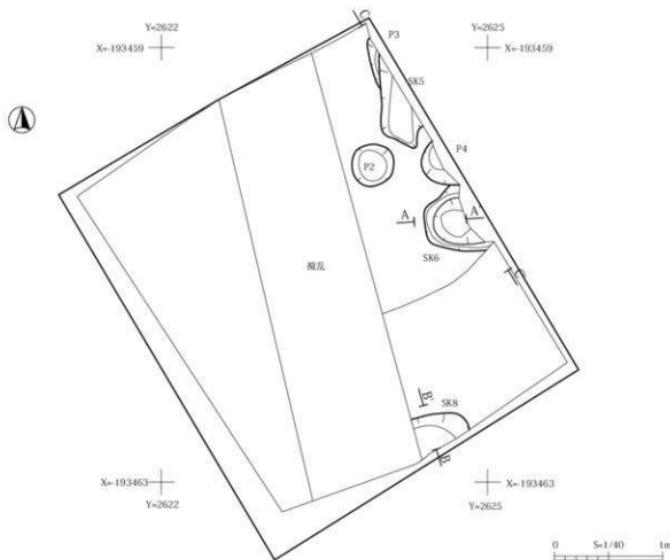
SK8 土壙注記表

剖名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1 10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径1～3cmの礫少量、径1～3mmの炭化物少量

第185図 トレンチ1 III a2層上面遺構断面図

III a1 層上面検出遺構

III a 1層上面では、4基の土坑が検出された。



第186図 トレンチ1 III a2層上面遺構平面図

1) SK1 土坑 (第187～188図、図版40-3、40-7)

S7-E33 グリッドに位置する。SK3 と重複し、SK3 より新しい。東側を擾乱に削平される。残存する規模は、長軸 140cm、短軸 76cm、深さ 103cm を測る。平面形は楕円形で、断面形は逆台形を呈す。底面は起伏がある。堆積土は 6 層の砂質シルトに分層され、礫、炭化物を含む。遺物は陶器片、瓦片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

2) SK3 土坑 (第187～188図、図版40-3、40-8)

S6・7-E33 グリッドに位置する。SK1、SK7 と重複し、SK1 より古く SK7 より新しい。北西側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 71cm、短軸 56cm、深さ 1.48m を測る。平面形は不整形で、断面形は逆台形を呈す。底面は起伏が著しい。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層で、礫を含んでいる。遺物は出土していない。

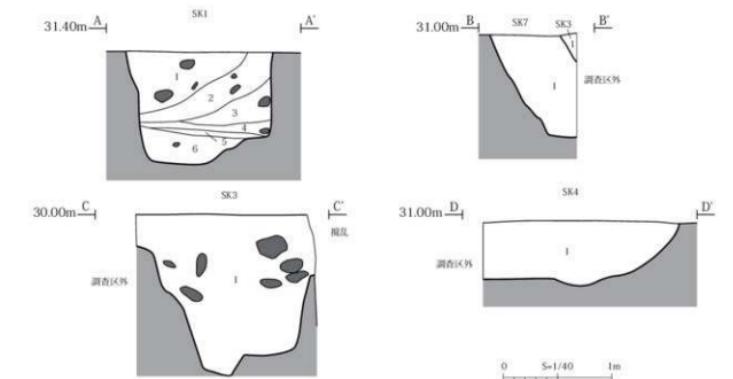
3) SK4 土坑 (第187～188図、図版40-3、41-1)

S7-E33 グリッドに位置する。中央部を擾乱に削平され、東西は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸 303cm、短軸 120～180cm、深さ 59cm を測り、主軸方位は N-61°-E を示す。平面形は溝状で、断面形は皿状を呈す。底面は起伏がある。堆積土はふい黄褐色砂質シルトの単層で、小礫を少量含む。遺物は陶磁器片、瓦片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

第3節 西公園高架橋等1区（排水管部）

4) SK7土坑（第190～191図、図版40-3、41-2）

S7-E33 グリッドに位置する。SK3と重複し、SK3より古い。西側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸64cm、短軸22cm、深さ96cmを測る。平面形は楕円形で、断面形は逆台形を呈す。底面は平坦である。堆積土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層で、礫、炭化物を少量含む。遺物は出土していない。



SK1 土壌柱記表

剖名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり 径1～3mmの炭化物粒子微量。径10cm大の礫含む
2	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	あり 径10cm大の礫少量
3	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	あり 炭化物粒子少量。径10cm大の礫少量
4	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	あり	なし 径1～3mmの炭化物粒子少量
5	10YR1/6	明黄褐色	砂質シルト	なし	なし
6	10YR2/3	明褐色	砂質シルト	なし	なし 径3cm程の小礫微量

SK3 土壌柱記表

剖名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/3	黒褐色	砂質シルト	なし	なし 径10～25cmの礫多量

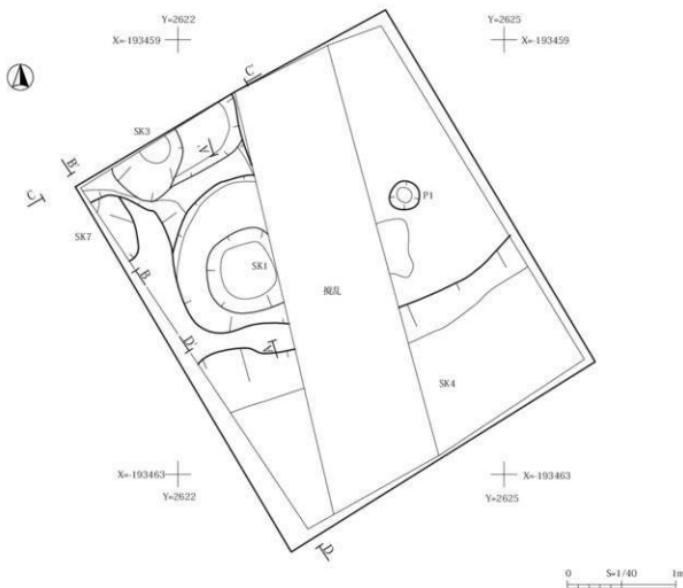
SK4 土壌柱記表

剖名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし 径3～5cmの礫少量

SK7 土壌柱記表

剖名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり 径10～15cmの礫少量。径1～3mmの炭化物少量

第187図 トレンチ1 III a1層上面遺構断面図



第188図 トレンチ1 III a1層上面遺構平面図

2 トレンチ2 (第189図、図版41-3)

トレンチ2では1面の遺構面が確認された。また、遺構面以下は遺物包含層が確認され、出土遺物の年代から平成21年度調査区のIII a層、III b層、IV a層、IV b層、V層に対応すると考えられる。

1) SK9土坑 (第189図、図版41-3～41-4)

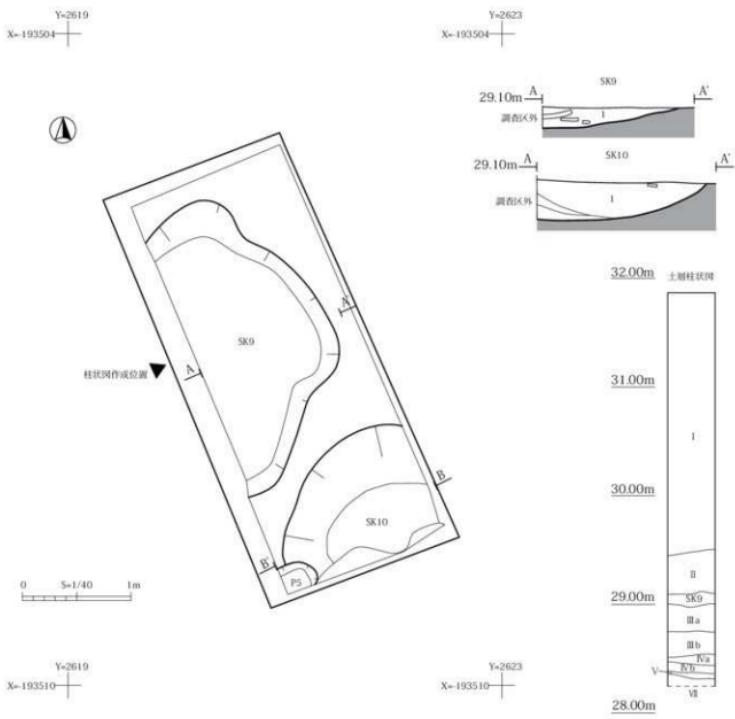
S11-E32・33グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸276cm、短軸157cm、深さ20cmを測る。平面形は不整形で、断面形は皿状を呈す。底面は西側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層で、瓦片等の遺物を多量に含む。遺物は瓦片、19世紀代を中心とした陶磁器片、土師質土器片、瓦質土器片等が出土しているが、細片のため図化し得なかった。

2) SK10土坑 (第189～190図、図版41-3、41-5)

S11-E33グリッドに位置する。P5と重複し、P5より古い。南側と東側は調査区外に延びる。残存する規模は、長軸165cm、短軸82cm、深さ37cmを測る。平面形は楕円形で、断面形は皿状を呈す。底面は中央に向かって

第3節 西公園高架橋等1区（排水管部）

緩やかに傾斜する。堆積土は3層の砂質シルト層に分層される。遺物は瓦片、19世紀代を中心とした陶磁器片、土師質土器片、瓦質土器片等が出土している。そのうち、陶器1点、磁器1点を図示した。



SK9 土削作記表

剖面名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1 10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	瓦片多量、径1~3mm炭化物少量

SK10 土削作記表

剖面名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1 10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	
2 10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	
3 10YR4/1	褐色	砂質シルト	なし	なし	径1~3mm炭化物少量、遺物、径3~5cmの礫少量

第189図 トレンチ2 IIIa層上面遺構平面図

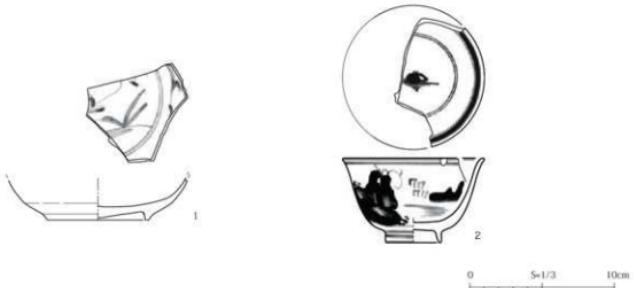


図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	断土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	92-4	I層	陶器	腹折碗	口縁～底部	やや密	9.5	4.5	4.8	大根相馬	18世紀後半～19世紀	外側：鉄輪	J-904
2	92-5	I層	磁器	端反碗	口縁～底部	密	9.4	4.2	4.9	瀬戸・美濃	19世紀	外側：牡丹唐草、内面：雷文	J-616

第190図 SK10出土遺物

3) 遺構外出土遺物（第191図）

平成22年度調査区の出土遺物点数は瓦272点、陶器316点、土師質土器59点、瓦質土器18点、磁器237点、石製品3点、金属製品10点、土製品3点、その他33点、合計951点である。トレンチ2では整地層の残存状況が良く、上層のⅢ b層と、最下層のV層出土遺物を図示した。



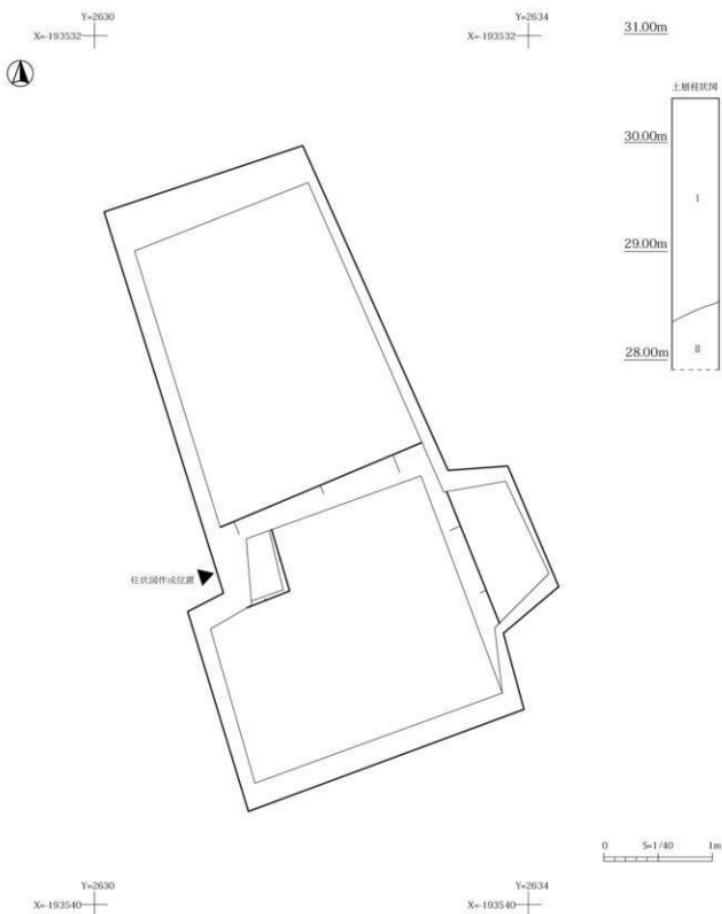
図版番号	写真図版番号	グリフ	層位	種別	器種	部位	断土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
								口径	底径	器高				
1	92-6	S11-E33 V層	磁器	瓶	体部～底部	密	-	7.1	(2.9)	肥前	17世紀後半	内面：唐草文 二重團線 草花文	J-617	
2	92-7	S11-E33 Ⅲ b層	磁器	端反瓶	口縁～底部	密	9.8	3.8	5.8	瀬戸・美濃	19世紀	外側：山水文、内面：團線 二重團線 足込み：虫文？	J-618	

第191図 トレンチ2出土遺物

第3節 西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）

3 トレンチ3 （第192図、図版41-7～41-8）

トレンチ3では調査開始面より2.5m掘り下がったが、遺構面および近世の整地層は確認されなかった。隣接する調査区から推定される検出標高値を下回っても遺構面が検出されないことと、安全を考慮した上で調査を終了した。



第192図 トレンチ3平面図

第6章 自然科学分析

第1節 樹種同定

吉川純子(古代の森研究会)

1. 試料と分析方法

仙台市青葉区の桜ヶ岡公園遺跡は、江戸時代に仙台藩の上級家臣の屋敷や、「小人」と呼ばれる下級家臣の住まい、「作事方会所」ほかの藩の施設などが置かれた遺跡である。平成21年度調査区では、柱跡、井戸跡、土坑、溝跡などの遺構が検出され、当時利用されていた木製品も多数出土した。そこで当時の木材利用状況を調査するため143試料の木製品の樹種同定を行った。分析方法は出土木製品から直接剃刀を用いて横断面、接線断面、放射断面の3方向の薄片を採取し、ガムクロラールを用いてプレパラートに封入し、生物顕微鏡で観察・同定した。

2. 同定結果と考察

桜ヶ岡公園遺跡から出土した木材の樹種同定結果を第4～5表に示す。出土した樹種は、モミ属、スギ、アスナロ属、針葉樹、ヤナギ属、カバノキ属、ブナ属、クリ、コナラ属コナラ節、ニレ属、ケヤキ、モクレン属、カツラ、トチノキ、アワブキ、ミズキ、同定不能環孔材であった。以下に同定された分類群の記載を行う。

モミ属 (Abies) : 分野壁孔はスギ型で1分野に1-3個あり、放射柔細胞の壁は厚くじゅず状末端壁を有する。

スギ (Cryptomeria japonica (Linn. Fil.) D.Don) : 早材から晩材への移行は急で晩材部が厚い。分野壁孔はスギ型で横に長い格円形となり、1分野に2～3個ある。

アスナロ属 (Thujopsis) : 早材から晩材への移行はゆるやかで年輪界が比較的明瞭なヒノキに似た針葉樹。晩材部付近に樹脂細胞があり水平壁が数珠状に肥厚する。分野壁孔はスギないしヒノキ型で小さく1分野に2-4個存在する。

針葉樹 : 分野壁孔が溶けて確認できず、細胞壁も薄く組織が失われている可能性があるものを針葉樹とした。

ヤナギ属 (Salix) : 中くらいの道管が単独ないし数個放射方向に複合して年輪内にはほぼ均一に分布する散孔材で、晩材部で径を減じる。年輪界は比較的明瞭。放射組織は異性で単列である。道管は単穿孔を有し道管側壁は交互状、道管放射組織間壁は大きなふるい状である。

カバノキ属 (Betula) : 中程度の管孔が単独ないし2-4個放射方向に複合して年輪内にまばらに分布する散孔材。

道管は階段穿孔を有し、側壁の壁孔は流れでらせん肥厚のように見える。道管放射組織間壁孔は大変細かく多数ある。放射組織は異性で1-5細胞幅。

ブナ属 (Fagus) : 中程度の管孔が年輪内にはほぼ均等に分布する散孔材で晩材部で個数と径が急に減じる。広放射組織のある部分で年輪界が外側に引っ張られる。放射組織は単列と広放射組織があり異性、道管は単穿孔と階段穿孔を有する。

クリ (Castanea crenata Sieb. et Zucc.) : 年輪はじめに大きい道管が花弁状に配列し、急に径が減じて火炎状に配列する環孔材である。道管は単穿孔、放射組織は1～2列ではほぼ同性である。

コナラ属コナラ節 (Quercus sect. Prinus) : 年輪はじめに大きな道管が2-3列集合し、その後径が急減して波状に薄壁で角張った小管孔が配列する環孔材。道管の穿孔板は單一で放射組織は異性で単列と広放射組織があり、横断面で広放射組織が目立つ。

ニレ属 (Ulmus) : やや大型の管孔が年輪はじめに1-2列集合し、晩材部では薄壁の角張った管孔が斜め方向に塊で連なる環孔材。道管の穿孔板は單一で小道管の内部にはらせん肥厚がある。木部柔組織は周囲状で晩材部では連合翼状につらなる。放射組織は異性で外縁がすっきりした紡錘形である。

第1節 樹種同定

試料番号	登録番号	器種	出土地点	樹種
1	L10	黒漆地金具付き容器	Ⅲ b 層	ブナ属
2	L113	赤漆地竹文字付き	SX1	ブナ属
3	L63	容器	IV b 層	アヌマロ属
4	L372	草下鏡	SK49	スズキ
5	L398	苔器底板	SK49	スギ
6	L391	容器?	SK49	アヌマロ属
7	L390	鉢	SK49	トチノキ
8	L371	瓶	SK49	カバノキ属
9	L389	器?	SK49	樹皮
10	L357	瓶	SK49	スギ
11	L79	重箱	V 層	アヌマロ属
12	L528	長柄器具	SX49	コララ属コララ節
13	L387	器具?	SK49	コナラ属コナラ節
14	L236	器?	SK84	コナラ属コナラ節
15	L73	柄(柄約軸用138と同一試料)	V 层	スギ
16	L45	派品?	IV a 層	新葉樹
17	L43	器具底板?	IV a 層	新葉樹
18	L527	器具底板?	SK49	スギ
19	L385	柄側板	SK49	新葉樹
20	L477	柄側板内側削溝	SK49	スギ
21	L378	柄底板	SK49	新葉樹
22	L384	柄側板	SK49	スギ
23	L235	柄底板	SK84	スギ
24	L235	柄側板	SK84	スギ
25	L377	容器底板	SK49	スギ
26	L121	容器底板	SX1	新葉樹
27	L131	容器側板	SX1	スギ
28	L118	柄底板	SX1	スギ
29	L123	柄底板	SX1	モミ属
30	L129	容器薄板	SX1	スギ
31	L119	容器底板	SX1	スギ
32	L66	容器底板	IV a 層	新葉樹
33	L376	容器底板	SK49	スギ
34	L374	容器底板	SK49	スギ
35	L458	容器薄板	SK49	アヌマロ属
36	L394	容器薄板	SK49	アヌマロ属
37	L448	容器薄板	SK49	アヌマロ属
38	L392	容器薄板	SK49	新葉樹
39	L375	山竹子底板	SK49	スギ
40	L382	容器側板	SK49	カツラ
41	L240	柄側板	SK84	スギ
42	L241	柄側板	SK84	スギ
43	L120	柄側板	SX1	新葉樹
44	L242	柄側板	SK84	新葉樹
45	L529	山竹子底板	SK49	新葉樹
46	L237	容器蓋板	SK84	スギ
47	L7	下駄	Ⅲ b 層	新葉樹
48	L7	下駄面	Ⅲ b 層	新葉樹
49	L8	下駄	Ⅲ b 層	新葉樹
50	L369	下駄	SK49	アヌマロ属
51	L220	下駄	SK84	ブナ属
52	L230	下駄	SK84	ヤナギ属
53	L116	下駄	SX1	同定不能根孔材
54	L270	下駄	SX39	ニレ属
55	L64	下駄	IV b 層	新葉樹
56	L65	下駄	IV b 層	ケヤキ
57	L358	下駄	SK49	ニレ属
58	L358	下駄面	SK49	ニレ属
59	L359	下駄	SK49	クリ
60	L359	下駄面	SK49	ブナ属
61	L360	下駄	SK49	ケヤキ
62	L360	下駄面	SK49	ニレ属
63	L364	下駄	SK49	ニレ属
64	L364	下駄面	SK49	ケヤキ
65	L365	下駄	SK49	ケヤキ
66	L365	下駄面	SK49	ケヤキ
67	L361	下駄	SK49	トチノキ
68	L367	下駄	SK49	同定不能根孔材
69	L367	下駄面	SK49	ケヤキ
70	L368	下駄	SK49	カツラ
71	L362	下駄	SK49	スギ

第4表 桜ヶ岡公園遺跡出土木製品樹種同定結果（1）

試料番号	登録番号	器種	出土地点	樹種
72	L77	漆器	V層	ブナ属
73	L517	下駄	SX49	カバナ
74	L124	油汗物底板	SX1	スギ
75	L518	下駄	SX49	タケキ
76	L518	下駄箆	SX49	タケキ
77	L519	下駄	SX49	タケキ
78	L519	下駄箆	SX49	タケキ
79	L521	下駄	SX49	タケキ
80	L521	下駄箆	SX49	タケキ
81	L520	下駄	SX49	タケキ
82	L520	下駄箆	SX49	タケキ
83	L522	下駄	SX49	タケキ
84	L522	下駄箆	SX49	タケキ
85	L523	下駄	SX49	カバナ属
86	L233	下駄	SK84	モクレン属
87	L566	下駄	SK74	タケキ
88	L30	下駄	IVa層	トチノキ
89	L554	漆器	SK80	ブナ属
90	L32	下駄	IVa層	トチノキ
91	L525	下駄	SX49	タリ
92	L525	下駄箆	SX49	タリ
93	L126	荷札木筒	SX1	スギ
94	L127	荷札木筒	SX1	スギ
95	L128	荷札木筒	SX1	スギ
96	L388	荷札木筒	SK49	スギ
97	L311	箸	SK49	アヌマロ属
98	L310	箸	SK49	アヌマロ属
99	L309	箸	SK49	アヌマロ属
100	L308	箸	SK49	アヌマロ属
101	L565	箸	SK74	日麗樹
102	L307	箸	SK49	アヌマロ属
103	L306	箸	SK49	日麗樹
104	L305	箸	SK49	アヌマロ属
105	L304	箸	SK49	アヌマロ属
106	L215	漆器	SK84	ブナ属
107	L213	漆器	SK84	ブナ属
108	L216	漆器	SK84	ブナ属
109	L214	漆器	SK84	ブナ属
110	L217	漆器	SK84	ブナ属
111	L284	漆器	SK49	ブナ属
112	L103	漆器	SX1	ブナ属
113	L104	漆器	SX1	ブナ属
114	L107	漆器	SX1	ブナ属
115	L105	漆器	SX1	ブナ属
116	L106	漆器	SX1	ブナ属
117	L109	漆器	SX1	トチノキ
118	L98	漆器	SK43	ブナ属
119	L266	漆器	SK39	ブナ属
120	L278	漆器	SK49	ブナ属
121	L277	漆器	SK49	ブナ属
122	L287	漆器	SK49	ブナ属
123	L288	漆器	SK49	ブナ属
124	L282	未成品	SK49	ブナ属
125	L279	漆器	SK49	アワビキ
126	L511	漆器	SK49	ブナ属
127	L508	漆器	SK49	ブナ属
128	L292	漆器	SK49	ブナ属
129	L510	漆器	SK49	ブナ属
130	L280	漆器	SK49	ブナ属
131	L281	漆器	SK49	ブナ属
132	L507	漆器	SK49	ブナ属
133	L553	漆器	SK80	ブナ属
134	L546	漆器	SK64	ブナ属
135	L552	漆器	SK80	ブナ属
136	L561	漆器	SK74	ブナ属
137	L74	漆器	V層	ブナ属
138	L72	漆器(柄杓軸用 15 と同一試料)		V層
139	L71	漆器	V層	ブナ属
140	L297	漆器	SK49	ブナ属
141	L283	漆器	SK49	ブナ属
142	L562	漆器	SK74	ブナ属
143	L563	漆器	SK74	ブナ属

第5表 桜ヶ岡公園跡出土木製品樹種同定結果(2)

第1節 樹種同定

ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino)：年輪はじめて大型で丸い道管が単独で1列並び、晩材部では小型で薄壁の角張った管孔が多数集合して斜めないし接線方向に帶状に連なる環孔材。道管の穿孔板は單一で小道管内壁にらせん肥厚がある。木部柔組織は周囲状で晩材部では小道管の周囲を囲んで帶状となる。放射組織は異性で1-8細胞幅で放射細胞の縁にしばしば大型の結晶がある。

モクレン属 (*Magnolia*)：中程度の道管が數個放射方向に複合して年輪内に散在する環孔材で年輪界は明瞭である。道管は單一と階段穿孔がある。放射組織は異性で2-3細胞幅で道管放射組織間壁孔は対列状ないし階段状である。

カツラ (*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.)：やや小さく薄壁でやや角張った管孔が年輪内に均一に高密度で分布する散孔材。道管は階段穿孔を有し、道管側壁は階段状で道管放射組織間壁孔は対列状ないし階段状である。放射組織は異性で1-2細胞幅である。

トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume)：中くらいの道管が単独ないし数個放射方向に複合して年輪内に均一に分布する散孔材。道管は單穿孔を有し道管内壁にらせん肥厚がある。放射組織は單列同性で層階状配列を呈する。

アワブキ (*Meliosma myriantha* Sieb. et Zucc.)：中くらいでやや厚壁の道管が単独ないし軸方向柔細胞を間に挟んで2-4個放射方向に複合する散孔材。道管は單一穿孔と段数の少ない階段穿孔を有する。放射組織は異性で1-4細胞幅でかなり高い。

ミズキ (*Cornus controversa* Hemsl. ex Prain)：中くらいの道管が単独ないし数個複合して年輪内に散在する環孔材。道管は階段穿孔を有し階段数は30以上。放射組織は異性で1-4細胞幅である。

樹皮：放射断面と接線断面とともに管孔が確認されず、柔細胞などが層状に配列している。

本遺跡で出土した木製品の器種別樹種集計を第5表にまとめた。まず樹種から見ると最も多い樹種はブナ属42点で以下スギ25点、ケヤキ17点、針葉樹16点、アスナロ属14点が上位5種である。ブナ属が多かった要因としては、木製品143点中漆器が40点と多いためと考えられる。スギは曲物と容器に多く利用され、荷札に関しては全てがスギであった。3番目に多いケヤキはすべて下駄と下駄歯に使われていた。アスナロ属は箸と容器に多く使われていた。また、コナラ属コナラ節はすべて農具であった。

器種別では、漆器はトチノキとアワブキ以外はすべてブナ属であった。曲物にはスギが多く利用され1点はモミ属であり、すべて針葉樹が使われていた。容器はスギとアスナロ属で針葉樹がほとんどだがブナ属とカツラも使われていた。箸は9点中7点がアスナロ属であった。これに対し下駄と下駄歯はケヤキが多いものの、スギ、アスナロ属、ニレ属、トチノキ、ブナ属、クリ、カバノキ属、カツラ、モクレン属、ヤナギ属と様々な樹種を利用している。

	漆器	鉢	箸	匙	柄物	曲物	容器	傘下被帳	籠	下駄	下駄歯	農具	荷札	部品	樹種計
ブナ属	38	-	-	-	1	-	1	-	-	1	1	-	-	-	42
スギ	-	-	-	1	1	9	8	-	-	1	-	-	4	1	25
ケヤキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	8	-	-	-	17
針葉樹	-	-	2	-	-	5	3	-	-	3	1	-	-	2	16
アスナロ属	-	-	7	-	-	-	5	-	-	1	-	-	-	1	14
ニレ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	-	-	-	5
トチノキ	1	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	5
クリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	3
コナラ属コナラ節	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	3
カツラ	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	3
カバノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	2
モミ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ヤナギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
モクレン属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
アワブキ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ミズキ	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
同定不能樹材	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	2
樹皮	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
器械計	40	1	9	2	2	15	18	1	1	30	13	3	4	4	143

第6表 桜ヶ岡公園遺跡出土木製品器種別集計表

このように漆器、曲物、容器、箸、農具は樹種を限定して利用していたと考えられる。一方、生活具の中でも下駄は消耗が激しいため、あまり限定せずに容易に調達できる樹種を利用していたと考えられ、これらの樹種のほとんどは東北の森林を構成する種類である。漆器に1点だけ使われていたアワブキは東北地方に分布しているもののほとんど出土例がないが、西日本では炭化材や加工材、自然木で出土例があり、大径木になることが少ないので燃料材以外では小物に加工されることが多い。

第2節 獣骨同定

中村賢太郎(パレオ・ラボ)

1. 試料と分析方法

桜ヶ岡公園遺跡は、江戸時代に仙台藩の上級家臣の屋敷や、「小人」と呼ばれる下級家臣の住まい、「作事方会所」ほかの藩の施設などが置かれた遺跡である。ここでは平成21年度調査区において出土した動物遺体についての同定結果を報告する。

試料は発掘調査現場において取り上げられた動物遺体である。動物遺体は水洗され、取上げられた単位ごとに収納されていた。ただし、イヌ1頭分については出土時の状態を保ったまま周囲の土ごと採取された。このイヌについては、今後の保管・活用を考え、個々の部位に分離せずに観察と記載を行った。

試料が採取されたのは、SK46、SK49、SK64、SK79、SK80、SK80、SK74、SX21、SX33、SX42、V層等である。同定は肉眼および実体顕微鏡下で現生標本との比較により行った。各部位の計測はDriesch(1976)に従って行った。なお、現生標本の閲覧と同定にあたっては、国立歴史民俗博物館の西本豊弘先生と早稲田大学の植泉岳二先生にご協力をいただいた。

2. 同定結果と考察

同定された動物遺体の一覧を第7表に、個々の動物遺体の観察所見は第8表～第9表に示す。

(1) 魚類

魚類は、サメ類、マトウダイ科、フサカサゴ科、タイ科、マグロ属、ヒラメ科が同定された。

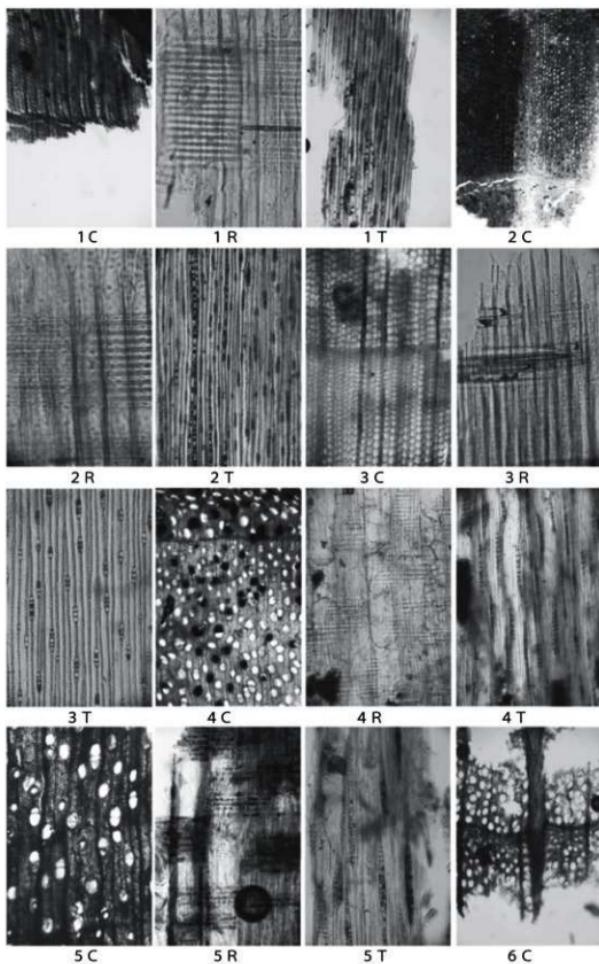
サメ類の椎骨がSK64、マトウダイ科の右主上顎骨と左前上顎骨がV層S11-E43、フサカサゴ科の左前鰓蓋骨がSK49、タイ科の椎骨がSX42、マグロ属の椎骨がV層S12-E45、同じくマグロ属の椎骨と尾椎および尾部棒状骨がSK64、ヒラメ科の左主上顎骨がV層S11-E44、同じくヒラメ科の椎骨がSX42で見られた。これらのうち、SX42のタイ科椎骨とヒラメ科椎骨は焼けており、それ以外は焼けていなかった。

(2) 哺乳類

哺乳類は、イヌ、ニホンジカ、イルカ類が同定された。イヌは、SX33より1体分がまとまって出土した他、SK49、SK64、SK79、SK80からも出土した。その他にSK46ではイヌの可能性のある骨が見られた。

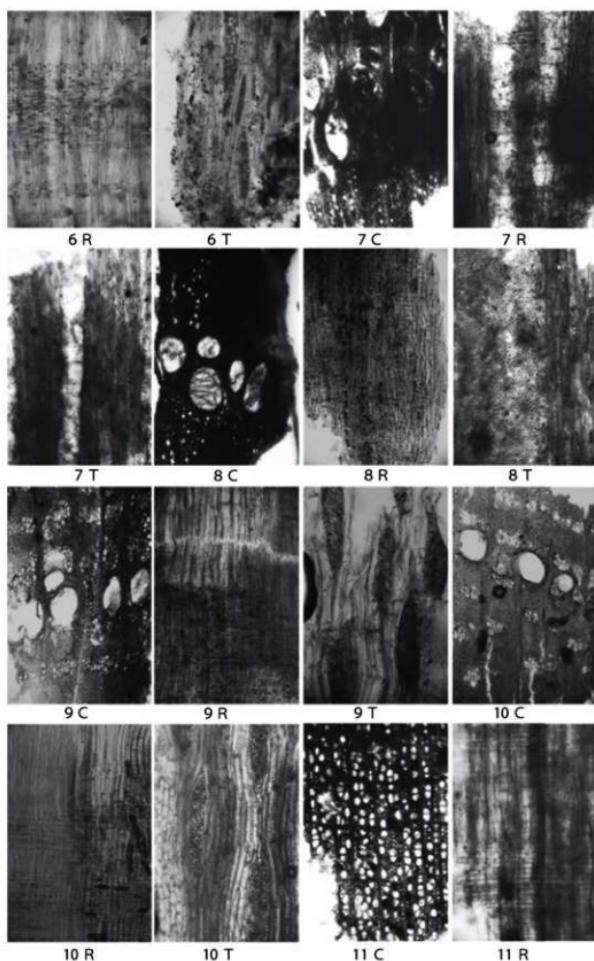
一体分が出土したイヌは、頭椎の一部や四肢の先端が失われていたが、ほぼ全身の部位が見られた。それぞれの部位は互いに連交した状態だった。頭部は左側を上、胸部や四肢は右側を上に向けていた。SK79からSK80にかけて出土したイヌは、頭蓋骨、下顎骨、環椎、軸椎、頸椎、胸椎、肋骨など頭部から胸部にかけての部位、右肩甲骨、左上腕骨、左右尺骨など前肢、左右大腿骨、左右脛骨など後肢が見られた。前肢や後肢の各部位には焼けた痕が見られ、白色化している部分が多く見られた。SX49ではイヌの右下顎骨と右下顎第1後臼歯(M1)、SK64ではイヌの左肩甲骨が見られた。

ニホンジカは、SK49、SK64、SK79あるいはSK80、SK74、SX21、SX49、V層S12-E45で見られた。その他

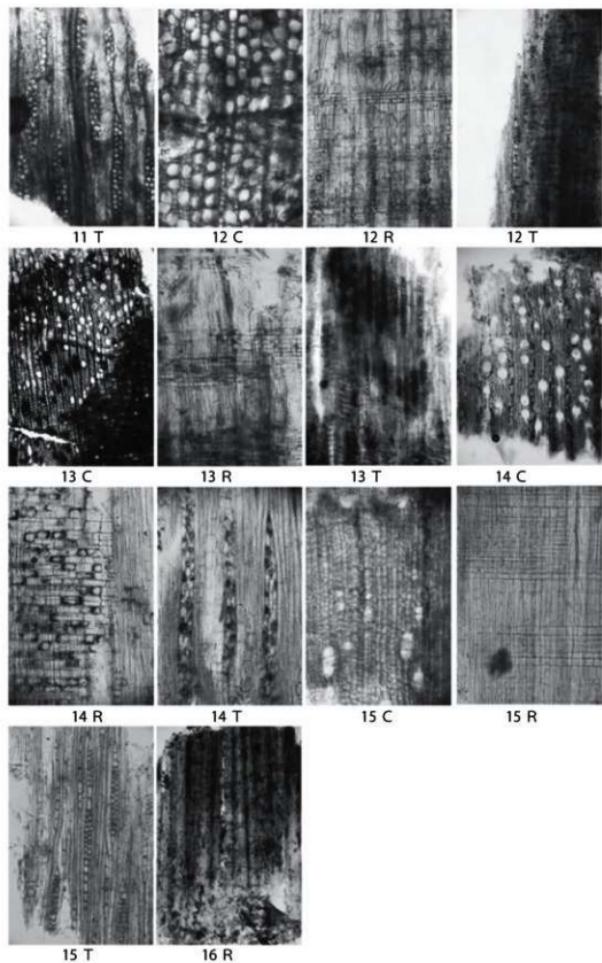


第193図 桜ヶ岡公園遺跡出土木製品の顕微鏡写真 1

1.モミ属(No.29 曲物底板) 2.スギ(No.39 曲物底板) 3.アスナロ属(No.102 等) 4.ヤナギ属(No.52 下駄) 5.カバノキ属(No.85 下駄) 6.ブナ属(No.131 漆器) C:横断面 R:放射断面 T:接線断面.スケールは0.1mm



第194図 桜ヶ岡公園遺跡出土木製品の顕微鏡写真2
6. プナ属 (No.131漆器) 7. クリ (No.92下駄歯) 8. コナラ属コナラ節 (No.12農具) 9. ニレ属 (No.54下駄) 10. ケヤキ (No.77下駄)
11. モクレン属 (No.86下駄) C:横断面, R:放射断面, T:接線断面, スケールは0.1mm



第195図 桜ヶ岡公園遺跡出土木製品の顕微鏡写真3

11.モクレン属(No.86下駄)12.カツラ(No.40容器側板)13.トチノキ(No.7鉢)14.アワブキ(No.125漆器)15.ミズキ(No.4傘下縄縫)16.櫻皮(No.9匙) C:横断面.R:放射断面.T:接線断面。スケールは0.1mm

にV層 S11-E44ではニホンジカの可能性のある骨が見られた。SX49ではニホンジカの左脛骨、SK49では左右大腿骨、SK64では左桡骨と右大腿骨、SK79あるいはSK80では左中足骨、SK74では右下頸骨2点と左右が癒合した寛骨および左寛骨、V層 S11-E44およびS12-E45では左下頸骨と左肩甲骨および右上腕骨、SX21では左脛骨が見られた。ニホンジカと同定できた試料は、いずれも焼けていなかった。SK49の左上腕骨には切削が見られた。SX49の左脛骨近位端、SK64の左桡骨遠位端および右大腿骨遠位端は未癒合であった。イルカ類（小型のハクジラ亜目）は、V層 S11-E44から左肋骨が見られた。焼けていなかった。

(3) 貝類

貝類は、種不明の破片1点がSX42で見られた。

魚類は、他の種類の動物遺体と共に出土する遺構が多いことから、食用後に廃棄されたと考えられる。魚類として、サメ類（ホシザメ、アオザメほか）、マトウダイ科（マトウダイ、カガミダイほか）、フサカサゴ科（カサゴ、メバルほか）、タイ科（マダイ、クロダイほか）、マグロ属（クロマグロ、メバチマグロほか）、ヒラメ科（ヒラメ、タマガニゾビラメほか）など海産魚類が食用とされていたと考えられる。

イヌについては、SX33から一体分がまとめて出土したイヌと、SK79からSK80にかけて出土したイヌとで、取り扱われ方が対照的であった。一体分が出土したイヌは、ほぼ全身が見られ、部位と部位が交差した状態であり、埋葬されたと考えられる。埋葬姿勢は、首を後ろに捻り、前肢をやや曲げ、後肢をやや伸ばした姿勢である。年齢は、下顎の第3後臼歯（M3）が萌出しており、成獣と考えられる。性別は、陰茎骨が見られなかったことからメスと思われる。ただし、陰茎骨を見落とした可能性もあり、性別については断定できない。大きさは、頭蓋最大長が200mmあり、大型である。

SK79からSK80にかけて出土したイヌは、各部位が分離しているものの、部位の重複がないため、一体分の可能性が高い。同じ遺構からニホンジカの骨も出土しており、SK79からSK80にかけて出土したイヌは埋葬ではなく廃棄されたと考えられる。イヌは、頭部から胸部が焼けておらず、四肢が焼けている点が特徴的である。焼けた四肢骨は白色になっている部分が多く、高温の熱を受けたと考えられる。被熱に伴う亀裂や変形は少なく、被熱時に新鮮な状態であった可能性は低い。高温で焼けていることから意図的に火にさらされた可能性が高いものの、被熱した時点で新鮮だった可能性が低いことから、食用とされたかどうかについては疑問が残る。年齢は、下顎第4前臼歯（P4）が萌出しており、成獣と考えられる。性別は、頭蓋骨の矢状稜が発達しており、オスの可能性がある。大きさは中型と見られる。

ニホンジカは、いずれの遺構でも一部の部位のみが出土することや、他の種類の動物遺体と共に出土する遺構が

脊索動物門 Chordata
軟骨魚綱 Chondrichthyes
サメ類 Selachii
サメ類の一科 Selachii ord., fam., gen. et sp. Indet.
柔軟魚綱 Actinopterygii
真骨綱 Teleostei
真骨綱の一科 Teleostei ord., fam., gen. et sp. Indet.
マトウダイ目 Zeiformes
マトウダイ科 Zeidae
マトウダイ科の一科 Zeidae gen. et sp. Indet.
カサゴ目 Scorpaeniformes
フサカサゴ科 Scorpaenidae
フサカサゴ科の一科 Scorpaenidae gen. et sp. Indet.
スマズリ目 Perciformes
タイ科 Sparidae
タイ科の一科 Sparidae gen. et sp. Indet.
サバ科 Scombridae
マグロ属 Thunnus
マグロ属の一科 Thunnus sp.
カジイ目 Pleuronectiformes
ヒラメ科 Paralichthyidae
ヒラメ科の一科 Paralichthyidae gen. et sp. Indet.
哺乳綱 Mammalia
哺乳綱の一科 ord., fam., gen. et sp. Indet.
食肉目 Carnivora
イヌ科 Canidae
イヌ属 Canis
イヌ Canis lupus familiaris
鯨偶蹄目 Cetartiodactyla
シカ科 Cervidae
シカ属 Cervus
ニホンジカ Cervus nippon
ハクジラ亜目 Odontoceti
ハクジラ亜目の一科 Odontoceti fam., gen. et sp. Indet.
軟体動物門 Mollusca
貝殻類 Conchifera
貝殻類亜門の一科 Conchifera class., ord., fam., gen. et sp. Indet.

第7表 桜ヶ岡公園遺跡出土動物遺体種名表

第2節 獣骨同定

出土地点	分類群	部位	左右	部分・状態	数個	計測値	備考
SK46	イヌ?	中手骨 or 中足骨?	?	—	2		
		手舟骨 or 足舟骨?	—	—	1		
		肱骨	?	—	1		
SK49	ワサカサゴ科 真骨類	前腕薦骨	左	ほぼ完存	1		
		手明	?	破片	+		
		上腕骨	左	達位端	1	最大長:155mm、達位端最大幅:41.6mm	達位端に切創
SK64	ニホンジカ サメ科 マトクダイ科?	石	右	達位端	1	最大長:135mm < 達位端最大幅:30.3mm	
		椎骨	—	—	1		
		不明	左?	ほぼ完存	1		誤めの割れ
SK64	マグロ属	尾椎	—	ほぼ完存	2		
		尾椎	—	ほぼ完存	2		
		頭骨	—	破片	+		
SK64	イヌ ニホンジカ	脛骨	左	ほぼ完存	1	最大長:124.6mm、開節部最大幅:28.3mm	
		前甲骨	左	ほぼ完存	1	最大長:102.0mm <	
		大顎骨	右	達位端	1	達位端最大幅:32.4mm	達位端未適合
SK74	ニホンジカ	下顎骨	右	下顎体 (P2-M1)	1	前面歯列長: (P2-P4):35.6mm	おそらく下顎体と同一個体
		右	下顎枝	—	1	下顎枝高:102.0mm <	おそらく下顎体と同一個体
		右?	?	ほぼ完存	1	「寰骨」最大長:196.5mm 寰骨臼最大幅:36.2mm*	
SK79	イヌ	寰骨	左	寰骨臼	1	寰骨臼最大長:41.8mm	
		下顎骨	左	下顎体 (C-M2)	1	前面歯列長: (P1-P4):36.8mm P2-P4:31.1mm	
		前甲骨	右	側面窓	1	計測不可	桃, 黒~白
SK79	イヌ?	上腕骨	左	骨跡近位部	1		桃, 茶~黒~白
		尺骨	左	肘頭	1		桃, 黒~白
		右	骨跡	1			桃, 茶~黒~白
SK79	イヌ?	標骨	左	骨跡破片	1		桃, 茶~黒~白
		左	達位端	—	1	達位端最大幅:17.4mm	桃, 茶~黒~白
		右	達位端	—	1		桃, 茶~黒~白
SK80	イヌ?	右	骨跡破片	—	1		桃, 茶~黒~白
		上腕骨	左	近位端破片	1		桃, 黒~灰
		肋骨	?	骨跡端	1		
SK80	イヌ?	中足骨	?	ほぼ完存	2		桃, 黒~白
		標骨	?	骨跡	1		桃, 黒~白
		不明	?	破片	+		桃
SK80	イヌ	頭蓋骨	左	前上顎骨・上顎骨・縮骨・前頭骨	1	物長:103.7mm	「後頭骨などと同一個体 (I1-M2*)」
		左?	頭部骨・頭頂骨・後頭骨	—	1	頭蓋高:55.0mm、後頭三角幅:61.0mm	「上顎骨などと同一個体 各頭骨達成性」
		顎骨	—	完存	1		
		顎骨	—	ほぼ完存	1		
		胸椎	—	ほぼ完存	2		
		肋骨	?	ほぼ完存	4		
		上腕骨	左	達位端	1	達位端最大幅:23.4mm	桃, 黒~白

第8表 桜ヶ岡公園遺跡出土動物遺体種名表（1）

SK89	イヌ	尺骨	左	切痕	1		黒、黒～白
		大脛骨	左	遠位端	1	遠位端最大幅 24.1mm	黒、黒～白
		右		遠位端断片	1		黒、黒～白
	イヌ?	胫骨	左	近位端	1	近位端最大幅 26.0mm	黒、茶～黒～白、一部生
		不明	?	骨幹	1		黒、黒～白
SX21	ニホンジカ	胫骨	左	近位端	1	最大長:155mm < 近位端最大幅 33.5mm	7-7
SX33	イヌ	全身	—	?	?	頭蓋最大長 200mm 右上腕骨最大長 165mm 右桡骨最大長 145mm 左大腿骨最大長 170mm 左腓骨、右腓骨、右脛骨 右大腿骨、右脛骨、右腓骨 右腕骨、右距骨、右足骨	"一体分 頭蓋は右側が上、 四肢は右側が上。 下脚は A3 まで抽出 陰茎骨確認できず 矢状構造見逃す。"
SX42	貝類	—	?	鏡片	1		
	タイ科	椎骨	—	—	2		黒
	タイ科?	椎骨	—	—	4		黒
	ヒラメ科	椎骨	—	—	1		黒
	ヒラメ科?	前上顎骨?	?	—	1		黒
SN49	真骨類	不明	?	鏡片	+		黒
	イヌ	下顎骨	右	下顎体 (P2-M3)	1	"後臼歯明瞭 (M1-M3): 45.7mm P2-M3: 60.4mm P2-F2: 45.4mm"	
		歯	右	下顎 M1	1		
	ニホンジカ	胫骨	左	典幹近位部	1	最大長: 170mm <	近位端未融合
V層 S11-E43	哺乳類	不明	?	鏡片	+		
	マトウダイ科	上主製骨	右	ほぼ完存	1		
		前上顎骨	左	完存	1		
	マトウダイ科?	擬頭骨	右	ほぼ完存	1		
		不明	?	鏡片	+		
V層 S11-E44	ヒラメ科	主上顎骨	左	完存	1	最大長 67.4mm	
	ニホンジカ?	肋骨	?	ほぼ完存	2		板側に切削
	マグロ属	胸甲骨	左	開闢断面片	1		
	イルカ類	肋骨	左	完存	1		
	哺乳類	不明	?	鏡片	1		
V層 S12-E45	マグロ属	椎骨	—	—	4		
	ニホンジカ	胸甲骨	左	開闢窓	1	開闢最大幅: 41.5mm	
	ニホンジカ	上腕骨	右	遠位端	1	遠位端最大幅: 43.1mm	
V層 S12-E45	真骨類	不明	?	—	+		
	ニホンジカ	下顎骨	左	下顎体 (P4-M3)	1	"後臼歯明瞭 (M1-M3): 55.9mm M1 様減指数: 3"	

第9表 桜ヶ岡公園遺跡出土動物遺体種名表（2）



第196図 桜ヶ岡公園遺跡の動物遺体

1-2. マトウダイ科: 1. 右主上顎骨 (V層 S11-E43) 2. 左前上顎骨 (V層 S11-E43) 3. フサカサゴ科: 左前鰓蓋骨 (SK49) 4. タイ科
椎骨 (SX42) 5-6. マグロ属: 5. 椎骨 (V層 S11-E44) 6. 尾椎・尾部棒状骨 (SK64) 7-8. ヒラメ科: 7. 左主上顎骨 (V層 S11-E44) 8. 椎骨
(SX42) 9-16. イヌ: 9. 全身 (SX33) 10. 頭蓋骨・頸椎・軸椎 (SK80) 11. 左下顎骨 (SK79) 12. 左上腕骨 (SK80) 13. 左上腕骨 (SK80)
14. 左大脛骨 (SK80) 15. 左脛骨 (SK80) 16. 左脛骨 (SK79) 17-26. ニホンジカ: 17. 左下顎骨 (V層 S12-E45) 18. 右下顎骨 (SK74) 19. 左
寛骨 (SK74) 20. 寛骨 (SK74) 21. 左肩甲骨 (V層 S11-E44) 22. 右上腕骨 (SK49) 23. 右上腕骨 (V層 S11-E44) 24. 左上腕骨 (SK49) 25. 左
脛骨 (SX21) 26. 左中足骨 (SK79) 27. イルカ類左肋骨 (V層 S11-E44)

多いことから、食用後に廻棄されたと考えられる。また、上腕骨には切削が見られ、解体時についたと考えられる。ニホンジカの頭部、前肢、後肢やニホンジカの可能性がある椎骨や肋骨が見られることから、桜ヶ岡公園遺跡にニホンジカの全身が持ち込まれ、解体され、食用とされたと考えられる。また、骨端が未融合の四肢骨が見られ、成獣だけでなく年齢の若い個体も利用していたと考えられる。なお、ニホンジカと同じく狩猟対象となる大型陸生哺乳類のイノシシが見られない点が注目される。

イルカ類は肋骨が1点のみの出土であるが、食用とされていた可能性がある。

その他、種類は不明であるが、貝類も食用とされていたと考えられる。

3. 終わりに

桜ヶ岡公園遺跡にから出土した動物遺体を同定した結果、食用と考えられる動物として、サメ類、マトウダイ科、フサカサゴ科、タイ科、マグロ属、ヒラメ科などの魚類、ニホンジカやイルカ類などの哺乳類、貝類が見られた。イヌについては、埋葬されたイヌと、被熱し廻棄されたイヌが見られた。後者のイヌが食用であったか否かは判断できなかった。

参考文献

- Driesch, Angela von den (1976) A guide to measurement of animal bones from archaeological sites.
137p, Peabody museum.
- 金子浩昌（2001）食料残渣とその他の動物遺体、江戸遺跡研究会編「図説江戸考古学研究事典」：393-401、柏書房。
- 松井章（2008）動物考古学、312p、京都大学学術出版会、
- 西本豊弘・松井章編（1999）考古学と動物学、210p、同成社。

第7章 出土遺物と検出構について

第1節 出土遺物について

本調査区からは陶器、磁器、瓦質土器、土質土器、土製品、石製品、木製品、金属製品、錢貨、瓦、ガラス製品等が出土している。出土遺物は、同一個体等を確認し、接合した後の総数で 52,560 点を数える。それらを各基本層及び基本層上面検出遺構からの出土遺物として集計した（第 10 表）。本節では桜ヶ岡公園遺跡の出土遺物について、その様相を整地層と遺構の堆積層とともに概観していただきたい。

1 陶磁器

(1) 層位別の産地変遷について

陶磁器は 16 世紀末～19 世紀代までの各時期のものが出土しており、接合後の破片数は陶器 14,748 点、磁器 17,218 点、合計で 31,966 点を数える。ここでは、近世の整地層が良好に残存していた西公園高架橋等Ⅱ区について、出土層別の産地集計を行なった結果について報告する。西公園高架橋等Ⅰ区は出土した遺物の大部分が近代以降の盛土層や発掘出土であること、西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）については出土点数が少ないとから、傾向を判断するのに適さないと判断されたため、集計結果は掲載していない。西公園高架橋等Ⅱ区の出土陶磁器 27,236 のうち、近現代の所産とわかる遺物、及び小片で産地や時期が判別できないものを除いた 2,784 点について出土層位順に、産地別に分類して集計した（第 11 表）。磁器の時期分類については、九州陶磁の編年（九州近世陶磁学会 2000）に基づいて 17 世紀後半以前（Ⅱ-2期・Ⅲ期）、17 世紀末～18 世紀後半（Ⅳ期）、18 世紀後半～19 世紀中頃（Ⅴ期）の三段階に分類した。

志野や嬉野、岸、中国磁器等、年代が限定される遺物が、各層から一定量出土しており、各整地層は他所から持ち込まれた客土と考えられる。そのため、量的な分析とともに、整地層に含まれている内容の検討から、各整地層の年代を考えることとする。

磁器では肥前Ⅳ期の遺物が最も多く出土しており、Ⅴ期の遺物は少ない。瀬戸美濃産磁器はⅢ a 層に集中している。また、16 世紀後半～17 世紀前半の景德鎮産磁器（32 点）、漳州窯磁器（18 点）も出土している。

VI・VII 層の遺構出土遺物からは、相馬産陶器が出土していないことから、これらの遺構は 18 世紀前半以前の構築と考えられる。V 層整地層は肥前磁器のⅧ期遺物が含まれないことから、18 世紀後半以前の構築と考えられ、VI・VII 層の遺構の時期からみて、18 世紀前半から後半の間に整地されたと推定される。大堀相馬産陶器が 2 点出土しているが、全体からみて少量なので、混ざりこみの可能性がある。

IV b 層の整地層は、瀬戸美濃産磁器が含まれないことから、19 世紀初頭以前に構築された整地層と考えられる。また、IV b 層の遺構からは瀬戸美濃産磁器が出土するが、これは IV a 層の整地の際に混ざり込んだものと考えられる。IV a 層からは瀬戸美濃産磁器、大堀相馬産陶器が多く出土しており、19 世紀初頭以降に構築された整地層と考えられる。

III b 層では、遺構出土遺物に大堀相馬産陶器が多く含まれている。III a 層の整地層からは瀬戸美濃産磁器が大量に出土しており、切込産磁器ほか地方窯の製品も少量ながら含まれる。切込産磁器は他に出土例を見ない精製品が出土している（第 177 図-4）。III a 層は 19 世紀中頃の構築と考えられ、III b 層は III a 層と IV a 層の中間、19 世紀初頭から中頃の年代が考えられる。

まとめると、V 層：18 世紀前半～後半、IV b 層：19 世紀初頭以前、IV a 層：19 世紀初頭、III b 層：19 世紀前半～中頃、III a 層：19 世紀中頃の構築と考えられる。

第7章 出土遺物と検出遺構について

西公園高架橋等1区

	丸瓦	軒瓦	平瓦	軒平瓦	割り瓦	瓦地	棟瓦	不明瓦	陶器	瓦質・層	窓	磁器	石製品	木製品	鉄品	古跡	土器類	骨	竹口類	その他	計
VI・V層遺構	37		275		5	1	152	10	29	126	4	14	7						12	672	
II層遺構	110		858		3	2	262	80	62	301	4	59	7	6	25	25	73	1877			
廻乱・括	205	5	3566	2	22		1554	26	251	1782	7	119	48	4	27		188	7806			
小計	352	5	4699	2	30	3	[1968]	116	342	2209	15	192	62	10	52	25	273	1055			

西公園高架橋等2区

	丸瓦	軒瓦	平瓦	軒平瓦	割り瓦	瓦地	棟瓦	不明瓦	陶器	瓦質・層	窓	磁器	石製品	木製品	鉄品	古跡	土器類	骨	竹口類	その他	計
VI・V層遺構	74		122		2		29		35	10	2	8	2			1	1	9	295		
V層	61	8	337	2	4		89	414	42	205	270	44	12	37	8	5	5	45	1588		
V層遺構	160	5	213	2	1		331	94	95	235	23	50	39	5	1	14		22	1290		
IVb層	334	5	587	3	1	22	1	13	864	74	386	671	25	41	71	14	18	1	64	3195	
IVb層遺構	145	23	132	2	3		1	1005	143	167	703	32	1	107	6	9	4	2	32	2517	
IVa層	223	13	602	5	2	10	1	41	1144	58	422	982	12	36	65	4	29	1	63	3702	
IVa層遺構	303	10	710	5	1	7	1		238	45	49	244	11	264	28	8	27	1	98	2500	
IIIb層	145	9	310	4	6	9	23	969	37	281	791	10	20	45	13	21		1	71	2765	
IIIb層遺構	193	5	403	1	8		9	230	28	273	138	4	140	19	19	26	1	65	1562		
IIIa層	85	3	284	2	3	2		27	1653	91	446	1481	8	2	43	11	31	4	97	4273	
IIIa層遺構	8	7	42	2				25	777	82	44	683	8	6	50	6	4	2	15	1763	
廻乱・括	135	24	501	9	12	9	52	68	4810	179	814	8564	47	13	175	57	31	5	299	15804	
小計	1866	12	4243	37	17	72	68	299	12464	873	3665	14773	226	593	681	151	194	35	880	41254	

西公園高架橋等1区(排水管部)

	丸瓦	軒瓦	平瓦	軒平瓦	割り瓦	瓦地	棟瓦	不明瓦	陶器	瓦質・層	窓	磁器	石製品	木製品	鉄品	古跡	土器類	骨	竹口類	その他	計
トレシヤ1	丸瓦	軒瓦	平瓦	軒平瓦	割り瓦	瓦地	棟瓦	不明瓦	陶器	瓦質・層	窓	磁器	石製品	木製品	鉄品	古跡	土器類	骨	竹口類	その他	計
IIIa2層遺構								1	2											3	
IIIa2層		1	1					4	1	8	10									26	
IIIa1層遺構		12			1			14	3	8	1									3	42
IIIa1層		2						3												6	
廻乱・括								19		54										1	74
トレシヤ2	丸瓦	軒瓦	平瓦	軒平瓦	割り瓦	瓦地	棟瓦	不明瓦	陶器	瓦質・層	窓	磁器	石製品	木製品	鉄品	古跡	土器類	骨	竹口類	その他	計
V層		10								2											12
IVb層		24	3					3	1	1	5										37
IVa層		25						8		2	5									1	43
IIIb層	4	1	41	2	1		146	8	21	25	3		1		1		6	260			
IIIa層		2																		2	
IIIa層遺構	2	1	46		3		60	3	13	30		6		2			9	175			
廻乱・括	14				49		2	91			1							8	165		
トレシヤ3	丸瓦	軒瓦	平瓦	軒平瓦	割り瓦	瓦地	棟瓦	不明瓦	陶器	瓦質・層	窓	磁器	石製品	木製品	鉄品	古跡	土器類	骨	竹口類	その他	計
廻乱・括		74						10	1	2	14									5	106
小計	8	3	251	5	5			316	18	59	237	3				10	3			33	951
合計	2226	120	9193	44	17	107	71	296	14748	1007	4066	17218	244	593	883	213	207	91	30	1186	52560

第10表 出土遺物集計表

測量	単位	面積	走査	掃査	唐津	津州窯	17世紀後葉～後半				17世紀後葉～18世紀初葉				18世紀後葉～19世紀前半				瀬戸美濃	切込地方面	合計	
							点数	割合	点数	割合	点数	割合	点数	割合	点数	割合	点数	割合				
VI・V層遺構	3	15.8%	1	5.3%	6	31.6%	9	47.4%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	1	13		
V層成土	3	1	1	1	2		1		1	6		2							2	19		
V層遺構	4	8.3%	5	10.4%	2	4.2%	37	77.1%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	1	50		
IVb層成土	2	1	1	2	1	1	4		1	9	3	9	2	3	36							
IVb層遺構	6	4	2	12	2	1	5	1	6	8	7	14	6	15	62							
IVa層成土	1	1	3	2	1	1	1		1	4	1	10	3	6	28							
IVa層遺構	1	7	2	5	1	6	2	6		7	14	5	29	8	25	93						
IIIb層成土	1	1	4	1	1	1	1		2	8	1	9	3	6	32							
IIIb層遺構	3	1	7	5	7	5	3		8	16	3	29	13	15	88							
IIIa層成土	2	1	2	1	2	1	2		1	5	2	13	6	15	35							
IIIa層遺構	2	0.6%	0.0%	8	2.3%	266	77.1%	51	14.8%	18	5.2%									0.0%	345	
IVa層遺構	3	1.1%	2	0.8%	6	2.3%	204	78.2%	38	14.6%	8	3.1%								0.0%	261	
IIIb層遺構	2	0.9%	1	0.4%	5	2.2%	176	76.5%	41	17.8%	4	1.7%	1	0.4%	230							
IIIa層遺構	9	1.7%	0.0%	6	1.1%	212	40.0%	86	16.2%	215	40.6%	2	0.4%	530								
IIIa層遺構	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33	63.5%	15	28.8%	3	5.8%	1	1.9%	52									
合計	32	1.4%	18	0.8%	58	2.5%	1615	70.3%	314	13.7%	257	11.2%	4	0.2%	2298							

第11表 産地別出土遺物集計表

第1節 出土遺物について

(2) 機能別産地分類

本調査区出土の陶磁器類を、その機能から、食膳具、調理具、貯蔵具、調度・化粧・信仰・文房具、喫茶喫煙具、暖房具、灯明具、その他に分類し、産地別に破片数を集計すると以下のとおりになる（第12表）。なお、ここでは、土師質土器の皿、灯明皿、瓦質土器の蚊遣りや火鉢等も集計に加えた。

食膳具は、碗皿、変形皿、筒形碗、杯、鉢、半筒碗、猪口、向付、跳子、薬味入れ、土瓶、焼塙壺、耳皿がある。碗は唐津、嬉野、京・信楽系、肥前陶器、瀬戸美濃陶器、小野相馬、大堀相馬、景德鎮、漳州窯、瀬戸美濃磁器、肥前磁器等が見られる。特に肥前陶器、大堀相馬、肥前磁器に集中している。皿は、志野、織部、唐津、嬉野、肥前陶器、瀬戸美濃陶器、小野相馬、大堀相馬、景德鎮、漳州窯、瀬戸美濃磁器、肥前磁器、切込等が見られる。特に志野、嬉野、瀬戸美濃陶器、大堀相馬、肥前磁器に集中している。これらの中、嬉野については、皿がほとんどだが、碗が1点認められる。また、焼塙壺は3点しか出土していない。調理具はすり鉢、鉢、片口、胡麻炒り、焙烙、鍋、焜炉、さなが確認された。すり鉢は岸、在地のものが大半を占める。また、焙烙は全体で16点出土しているが、堤のものが大部分を占める。貯蔵具は壺、甕があり、在地のものがほとんどである。

調度具、化粧具、信仰具、文房具では、紅皿、香炉、合子、饅盥、人形、水滴、十能、蚊遣り、御神酒徳利、瓶、仏飯具、餌入れ、ミニチュア（ままごと道具）、植木鉢、水注がある。喫茶喫煙具では、風炉、天目碗、灰落とし、急須が確認された。暖房具は火入れ、火鉢、火消し壺、火消し壺の蓋があり、大部分は瓦質土器である。灯明具は灯明皿、灯明具（平仄等）、油受け皿、油徳利がある。灯明皿は、その大部分が土師質土器皿の転用品である。その他豆甕、不明袋物、把手部分、坩埚、蓋、器台、五徳等がある。坩埚は陶器碗を転用しているものが出土している。

(3) 補修痕のある陶磁器について

今回調査で、焼継による補修痕のある陶磁器が81点確認された。内訳は陶器3点、肥前磁器37点、瀬戸美濃磁器38点、切込ほか地方窯の可能性のある製品3点である。出土地点では、擾乱・I～II層から59点が出土しておりその大部分を占める。IV a層整地層から6点、IV a層の遺構から4点、III b層整地層から1点、III b層の遺構から3点、III a層整地層から6点、III a層の遺構から2点が出土した。陶器2点は大堀相馬と思われる（図版93-2・3）。遺物の時期は、18世紀前半の肥前産網目文碗1点（I・II層より出土）から19世紀中頃以降、近代初頭に位置づけられる瀬戸美濃産磁器（4点：図版93-1ほか）にわたる。IV a層整地層から出土しているものは肥前産磁器に限られ、18世紀後半～19世紀初頭の年代のものと思われる。これら80点のうち、高台内に文字が書かれているものは6点確認できた。J-405（第176図-4）、J-428（第176図-3）はIII a層から、J-513（第179図-5）、J-546（第179図-9）、J-589（第179図-8）、J-603（第179図-4）はI・II層および擾乱より出土している。

(4) 漳州窯磁器

桜ヶ岡公園遺跡からは漳州窯磁器が17点出土した。第37図-5（J-38）は色絵で團線・葉文を書いている。底部の小片で、底径7cm程度の小皿と思われる。第52図-3（J-41）は青花の皿の破片で、同一個体と思われる破片がSK79、IV b層、III b層から出土している。それらを高台、團線等から推定径24.6cmとして復元すると第197図-1のようになり、鳳凰文の皿と推定される。釉厚があり、外底の釉は所々途切れているが、高台のみ無釉にする施釉方法によって製作されたものと思われる。漆継による補修痕がある。第100図-8（J-128）も同一個体と思われる破片がIV b層、IV a層から出土しており、同一モチーフの鳳凰文皿として復元できる。推定径は26cmである（第196図-2）。釉調はJ-41より発色がよく、釉厚も薄い。外底を無釉にする施釉方法で作成され

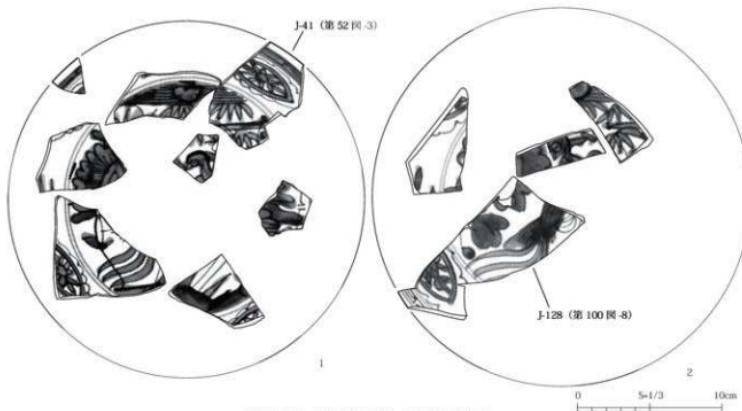
第12表 機能別出土遺物集計表

第1節 出土遺物について

ている。当遺跡から出土した17点の漳州窯磁器は色絵1点と青花2点の個体数3点と考えられ、そのうち2点は同一モチーフの皿であり、別々の出土地点・層位のものが接合する。この2点は他所で廃棄されたものが攪拌された状態で混入したものと考えられ、遺構出土のものも整地層に含まれるもののが混入した可能性が高い。

桜ヶ岡公園遺跡の既存調査地点、仙台城および東西線関係での漳州窯磁器は、仙台城跡川内駅部池1（仙台市2011d）、仙台城跡亀岡トンネル開削部SX14（仙台市2009b）、桜ヶ岡公園遺跡第4次調査（仙台市2010a）、二の丸北方武家屋敷第7地点14号土坑（東北大2009）、二の丸北方武家屋敷第4地点4層（東北大2000）、仙台城本丸跡1次調査（仙台市2005a）等に出土例が見られる。仙台城本丸跡では87点の漳州窯磁器が出土している。

これらの漳州窯磁器は、生産年代は16世紀代にさかのぼるが、整地層の年代では18世紀後半から19世紀代と年代の差が大きく、また、補修痕跡等が見られることから伝世品の可能性が高い。



第197図 漳州窯磁器 青花鳳凰文皿

2 瓦質土器

瓦質土器はすり鉢、火鉢、蚊遣り、蓋、焜炉、火消し壺および蓋、目皿、十能、鍋、壺、鉢、風炉、火入れ等が出土している。出土数の大半は火鉢が占め、焜炉、蚊遣り等が比較的多く出土している。その他の破片の出土量は少ない。火鉢は法量の大きなもの（第64図-2: I-187、第153図-6: I-239）、小さいもの（第56図-2: I-841、第101図-7: I-838）がある。I-841には口縁部に敲打痕がある。蚊遣りでは、I-397（第112図-10）に外面模様が認められる。型紙によるものと思われ、紗綾文を施している。

	すり鉢	火鉢	蚊遣り	蓋	不規	型印	焼付	目皿	十能	鍋	壺	鉢	風炉	火消し壺	火入れ	合計
VI・Ⅴ層遺跡		5														5
Ⅳ層	4	7			29		1									42
Ⅲ層																
Ⅱb層	10	2		2												17
Ⅱa層	21	5	1	43	1			1	1	2	2					76
Ⅰb層	2	27	1	1	55	4										91
Ⅰa層		5	4		47	2										58
Ⅰ層	4	39	7		68	6	1			1	1		2		1	130
Ⅲa層		9			26	2	1									38
Ⅲb層	2	40	6		63	6	1	1	3		1	2		1		126
Ⅲc層	3	13	1	2	73	2										94
Ⅲd層	1	3			3											102
合計	16	179	26	4	409	23	4	2	6	3	5	4	2	1	2	779

第13表 瓦質土器出土集計表

3 土師質土器

土師質土器は皿、灯明皿、灯明具、目皿、耳皿、器台、五徳、鍋、焼塙壺、壺、鉢、火入れ等が出土している。大部分は皿および灯明皿が占め、その他は少量の出土のみである。皿の底面に墨書きを施したもののが数点確認された。第91図-5:I-217、第84図-5:I-583、第177図-8:I-674、第130図-10:I-436等である。I-674は人面を墨書きで描いている。その他の墨書きについては判読不能である。また、金箔が残存している土師質土器皿が出土している（第158図-4:I-607）。灯明具では、鉄製の耳をつけた筒型の灯明具が出土している（第112図-11:I-405）。その他、芯立てを伴う灯明皿（第112図-11:I-405）が出土している。また、底部に穿孔し、蚊取りの蓋に転用している皿が数点確認された（第137図-1:I-534）。

	皿	不明	灯明皿	灯明具	目皿	耳皿	器台	五徳	鍋	焼塙壺	壺	鉢	火入れ	合計
VI・Ⅶ層遺構	31	4						1	1					35
V層	116	63	22	1										204
V層遺構	74	6	6	1							2	1	1	91
V/a層	198	143	36	1			2	1						381
IV/b層遺構	147	7			1									162
IV/a層	225	164	31											420
IV/a層遺構	296	125	17	1			4	1			1			1 446
Ⅳ層	130	130	18		1									279
Ⅳb層遺構	181	5	73	2			3					1		267
Ⅳa層	145	264	32	2										443
Ⅳ層遺構	22	2												24
合計	1565	901	250	8	1	1	9	1	2	1	1	2	2	1 2752

第14表 土師質土器出土集計表

4 金属製品

金属製品は煙管、釘、刀子、小柄、切羽、鐸、兜頭、簪、自在鉤、銛前、毛抜き、金具、蓋、針金状金属製品、平仄、鉢等が出土した。出土点数は少ないものの、刀子、小柄、切羽、鐸、兜頭等の刀装具が出土している。鐸（第132図-3:N-431）は、櫛孔が一つ確認できる。櫛の形状が半月状を呈するものと思われ、小柄櫛と考えられる。また、銛前が2点出土している（第141図-1:N-280、第102図-3:N-331）。

IV a層上面で出土した一分判金と銭貨は、III b層整地の際に地鎮等の意図で配されたものと考えられる。一分判金の周辺での出土例としては、仙台城三ノ丸Q-16区9号溝（仙台市1985）で正徳一分判金と思われるものが、仙台城造酒屋敷1次調査（仙台市2009a）の1層から享保一分判金、III a層から宝永一分判金が出土しており、そのほか若林城跡の出土例もある（慶長一分判金もしくは正徳一分判金：仙台市2010c）。当遺跡出土の一分判金は重さが4.44gで、約1.19匁である。1.19匁の一分判金は慶長一分判金、元禄一分判金、正徳一分判金、享保一分判金がある。桜ヶ岡公園遺跡出土の一分判金は、背面の「光次」の「光」の末画と「次」の四画目が離れる「離光次」であるため、享保一分判金と思われる。

5 出土小柄の製作技法について

今回の調査では各層・遺構から9点の小柄が出土した。資料の観察から近世における小柄の製作技法の一端を窺い知り事ができるのでここにまとめておきたい。

(1) 小柄の形状、細部名称と計測値

小柄の各部の名称については從来の美術刀剣の用語に準じ、各部の計測部位は巻頭の凡例に示している（学研2006）。

小柄は日本刀の打刀などの鞘裏（腰に差した時の体面側）につくられた内側の溝に装着する小刀で、武器というよりも各種工作時などの日常小刀として多用されたものと考えられている。小柄を装着する鞘の反対面（鞘表）側

第1節 出土遺物について

は笄（こうかい）すなわち「髪搔き=結髪用具」を収めるつくりとなっているが、こうした小柄、笄が打刀の刀装具として定型化されたのは、一般的に室町時代後期以降とされている。

小柄の平面形は長方形をなし、板金を扁平な筒形に加工して小刀の茎（なかご）を差し込む。小刀の茎を差し込む側を戸口（こぐち）、その反対側を戸尻（こじり）、上下の側辺を小刀の部位名に合わせて棟方、刃方と呼ぶ。刃方は薄く、棟側はやや厚い。表面は地板と言ひ、中央部がやや蒲鉾状に膨らみここに装飾を行う事も多い。戸口の端部はほぼ直で戸尻の端部面はやや弓形をなすものや僅かに隅丸状をなすもの（第200図2、3、4、5、6、7）と直線的なもの（第200図1、9）がある。

（2）出土小柄の大別

今回の出土小柄は次のA～C型の3つに大別され、これは美術刀剣の型式と対応する。A・B型は銅製の柄に鉄小刀を挿したもので、C型は刃と柄を一体につくった鉄製のものである。前者の例が多い。次に銅製柄は表面に縁取り（小縁）をつくる手の込んだA型と単純な筒形としたものB型に細分される。装飾文の有無があり、装飾方法には今回の出土資料に限っても多様性が認められるので、施文方法による型式分類はここでは行わない。

【A型・銅製】N-252、N-298がこのタイプである。小柄表面の地板外周に幅1ミリほど一段高い小縁を設けるもので、地板内部は一段低くつくられ、この中に装飾図柄を配する。この種の製作技法としては（1）小柄表側の銅版表面に縁を残し、それより内側を長方形に削り貫き、ここに別板を嵌め込む方法のほか、（2）小縁部分を残して表面内部を一段下げてすき取るなどの方法も考えられている。今回の出土例2点は（1）の方法と考えられ、従来、地板嵌込式小柄とされるものである。

【B型・銅製】N-279、N-341、N-274、N-302、N-4、N-289がこのタイプに属する。このうちN-289は半完成品とも考えられ後述する。B型はA型のように小縁を設げず単純な袋状をなすもので、従来、棒小柄とされるものである。

【C型・鉄製】刃と柄を一体につくったものである。N-278の1点である。従来、共小柄とされるものである。

鉄小刀は棟（上辺）、刃（下辺）として図示し断面形は細長い二等辺三角形状をなし、茎部も同様な形状をなす。小刀は基部から折れて茎のみが柄内部に残るものが多いが、N-274、N-4、N-302は一部刃部が残る。またN-289は中空となっており鉄錆も付着せず、鉄小刀を差し込んだ痕跡はない。

（3）製作技法

【材料】

A・B型の柄では錆が剥離して地金が見えている部分があり、この色は赤銅色を呈し銅板を使用していると見られる（N-252、N-274、N-298、N-289）。C型N-278は前述のように鉄製である。

【小柄の加工法（縫じ方）】

小柄は幅10cm程度の銅版を筒状に折曲げ、棟方幅5mm、刃方2mm、柄幅15mm程のサイズとしたもので、柄表となる地板の中央に僅かに膨らみをつけ、反対側の裏板面はほぼ直線的で断面は略半月形をなす。鉄製N-278の柄も同様な断面である。

A・B型は棟方の裏側で裏版を被せて蝕付け（図中の▼の位置）し筒形とした例がすべてであり（N-252、N-279、N-341、N-274、N-302、N-298、N-289、N-4）、一定の成形法が確認できる（第198図1～8）。N-302は鉄茎の錆化肥大で柄戸口の蝕付け部分が開いたもので、このダメージにより上記の蝕付け痕跡を明示する例となる（第198図9）。また、筒型の作例では1枚板を折り曲げてつくる場合（一枚張り）と2枚の板でつくる場合（二枚張り）があり、半成品と見られるN-289では、明らかに刃方側も蝕付けされ「二枚張り」の技法とわかる。N-302の刃

方側は鋒で開いており、これも二枚張りの可能性が強い。他のものは仕上げ研磨を刃方に行ない丸みをつけ、あるいは鋸化によりこうした点が明らかでない。

戸尻面は別の細長い三角形状の銅版で蝙付けされ塞がれる。その技法は筒の内部に嵌め込まれた例が多い(N252、N-279、N-341、N-302、N-298 第199図1~5)。なおN-4は鋒により不明であり、N-274は戸尻面に鍛掛けを行っているためこの痕跡は不明である。出土した8例中、5例は嵌め込み式である。

【装飾技法】

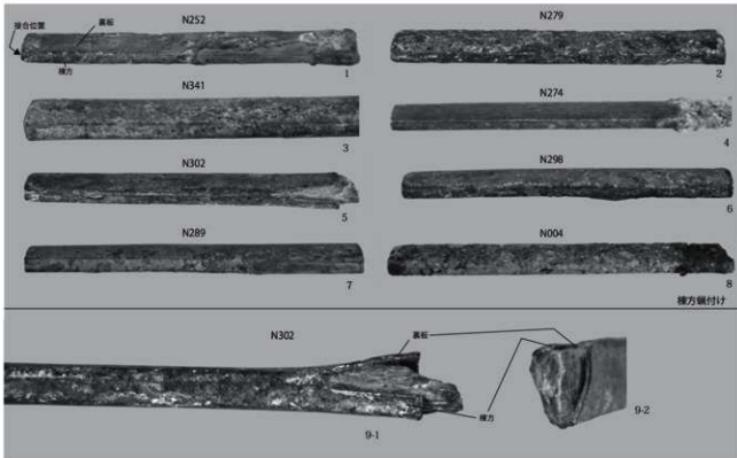
小柄の表面、地板には装飾を施すものと、無紋の例がある。装飾には高彫、線彫、象嵌などが今回の出土品に見られ、文様や技法については多様性がある。一定パターンは認めがたい。地板は彫金などで背景の地文を施したもので象嵌や一段高く飾り文様を施す場合があり、高くなった飾り文様を高彫という。

A型のN-298は地板にかなり細かい魚子彫りがあり(第199図7-2)、この列は整然としている。高彫が残り、この手の装飾の明らかな例である。高彫部分はやや内厚の銅製装飾文様を蝙付けで仕立てており、一材を削り込んで陽刻文としたものではない。鳥と花文の高彫文は緻密なものとは言えず、雀、牡丹とも見えるが確定し難い。小刀の刃を下向きとした場合は文様は天地逆となるが、打刀に装着した場合は正位置となる(第199図7)。

N-252は地板中央部のみ銅鋸色をなし、この部分に蝙付けされた高彫文が剥落したと考えられる(第198図6)。

B型は線彫文の例がある。N-274は多重の太い四線文を全体に付け。文様は上下、左右対称に配され、左右は重層した花弁形である。中央水平軸に沿って細い針先状の工具で環状に烈点文を4箇所つけるが、3箇所は半周のままとする。四線文は丸刀盤を使用したらしく線底は丸い(第199図9)。環状烈点文の類例として川内B遺跡(仙台市2011c)Ⅲ層出土例がある。

N-4は細い線彫の紗綾文がある。鋸化のため全面施用されるか不明。戸口の小鉄刀基部には多方向の木質が鋸付くが、下緒などの紐痕跡ではない。



第198図 桜ヶ岡公園遺跡出土の小柄(1)

第1節 出土遺物について

N-279は線彫の平行線がある。棟方寄りと中央は2条線、刃方寄りは1条である。

C型はN-278の1点である。刃部(穂)と柄を一体としたためか刃部の残りも比較的よい。刃部の棟は柄よりも僅かに高く、基部は柄側にかけて厚みを増す。柄の戸尻はやや膨らみ弓形をなす。柄の地板文は全面に細かい格子目を線彫りし、その後左右に流れる細い線刻を行い、さらにここに金線の象嵌を行っていて丁寧なつくりとなっている。また中心部分には鉄地とは別に環状に銅錫が回っており、本来ここに図柄の主体となる高彫装飾が銅付けされた痕跡を示すが剥落している(第199図8)。これに近い類例として仙台市中野高柳遺跡第3次調査SK311土坑(墓)出土の小柄がある。柄の表面は暗赤褐色を呈し、刃部の錫色より黒ずんでいるが、材質は鉄または銅か不明で、鉄ならば何らかの仕上げ、表面加工が行われたものと思われる。B型かC型か決し難い。地板の主題文様は中央に海老(金象嵌)、左右は海老の触覚を細い線で表した金象嵌でこの触覚部分のつくりは今回のN-278と酷似する。しかしN-278の主題はこれと同様のものか不明である。墓は16世紀後半~17世紀前半とされる(仙台市2010b)。

【仕上げの調整や使用痕跡など】

N-279の裏板には斜め方向に走る粗い鎌目が目立ち、美術刀剣ではこれも装飾のひとつ時雨鎌目とされ、刀剣鞘からの抜け落ちを防ぐすべり止めともされる。ただし裏板面のみではなく戸尻面、棟方の刃方面にもこの痕跡が確認される(第199図10)。

N-298地板につけられた細かな魚子文は浅く刻まれており潰れ易いが、中央部は摩滅し消失しており使い込まれた使用痕と思われる(第199図7-3)。

(4) 小柄の半製品と考えられる例

N-289は中空となっており鉄小刀を差し込んだ痕跡はない。戸尻を塞いだ痕跡はなく、両端は直線的で戸口、戸尻の区別は不明瞭となる(第199図11)。ただし棟方の蝕付け痕から推定すると、戸尻側が判明し、他の完成品と同じように、図示した側となる。小柄の表になる地板についても筒の断面の両面は僅かに膨らんで相似形となり、半円形をなしていない。前述のように、この例は「二枚張り」により蝕付けされ、内部にはその痕跡が残る。刃方は蝕付け後、鎌で面取りされ角がつく。

他の完成品のA・B型小柄は全体に軽く磨きをかけ、各端部は丸みを帯び板厚みが1mm弱とやや薄い例が多い。すなわち手になじむように最終的な研磨がなされている。

N-289は折り曲げた棟方、刃方端部が鋭利である事や板厚みは1mmほどあり、他より肉厚である。これらの点からN-289は鉄小刀を装着する前の半製品と考える。

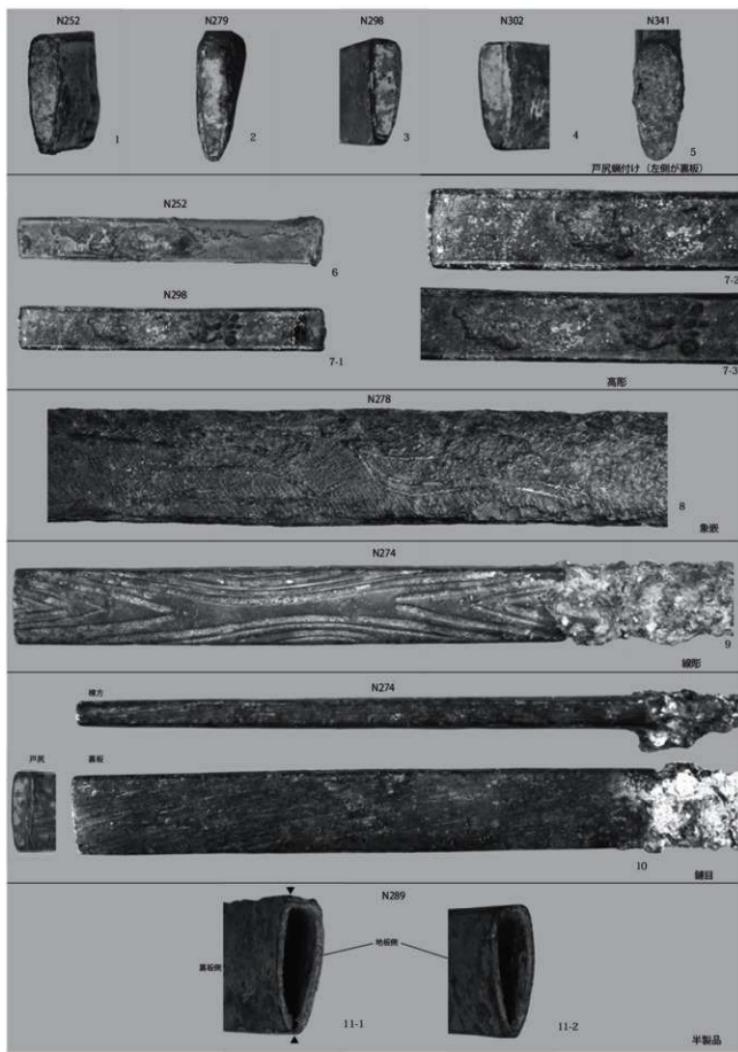
(5) 小柄の出土層位と傾向

小柄の出土層位はVI・VII層上面遺構、V層上面遺構、IV b層整地層、IV a層上面遺構、III a層整地層、近代遺構の盛上層と、各地点に点在しており(第200図)、意図的に配されたものとは考えにくい。

(6) 刀剣関連遺物

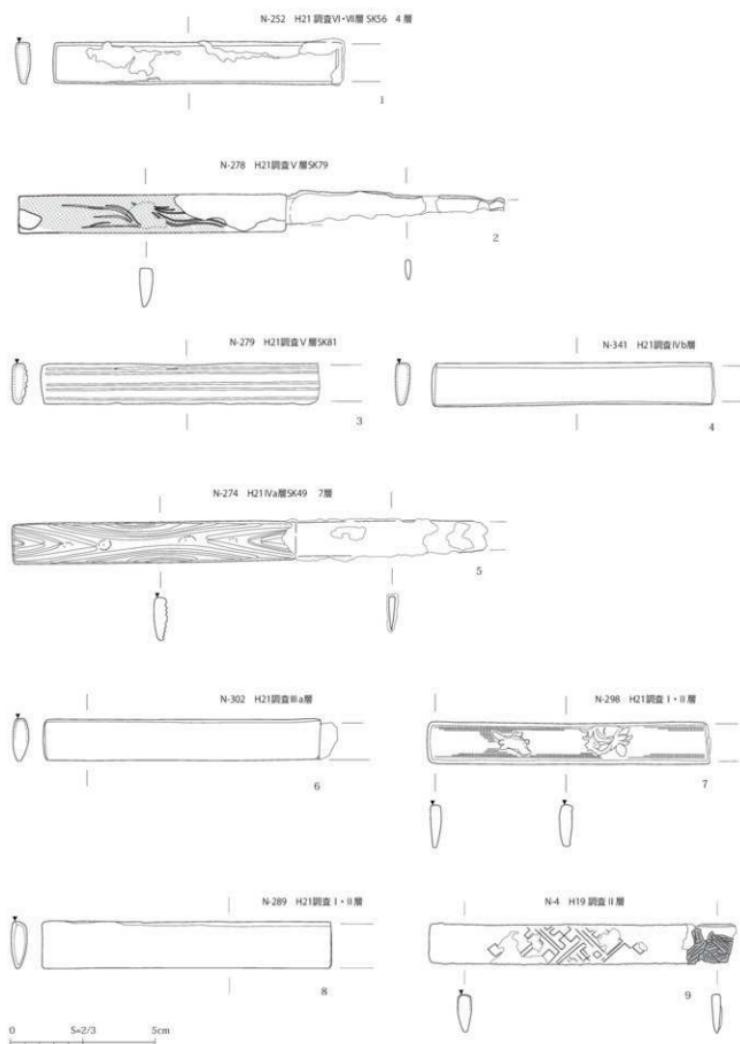
小柄に関連する刀剣側の装具として鎌(IV a層出土)、兜頭、切羽、柄賣金などがある。鎌は完形ではないが透彫りで小柄を収めた半月形の小柄櫛孔の部分が残存する(笄櫛孔はなし)。

以上、小柄A・B型については、表面が錫などの劣化により上記で観察された以外の装飾技法が隠れている可能性もあり、また地金の素材についても素銅、赤銅(銅、金の合金)、黄銅などの点は明らかにし得ない点もありX線分析や金属分析を今後行う必要があろう。



第199図 桜ヶ岡公園遺跡出土の小柄（2）

第1節 出土遺物について



第200図 桜ヶ岡公園遺跡出土の小柄（3）

登録番号	型式	調査年度 / 出土地点	法量 (mm)										重量 (g) *	地板表面装飾	裏板 (縫目)	戸戸の状態				
			長さ		幅	横方厚	刃方厚	中心厚	小縁幅	内法	板厚									
			現存長	柄部																
N-252	A	H21 SK56	97.5 98.5	97.5 98.5	-	13.5	4弱	1.5	4.5	0.5 弱	12.5	1弱	180.9	表中央・直彌刺 難? 地文不明	-	直				
N-278	C	H21 SK79	168.5	92	(76.5)	13.5	45	0.5	5	-	-	鉄一体	290.1	彌形文字(地文) 綱・金象嵌・貼り付け痕跡	-	やや孤				
N-279	B	H21 SK81	95.5	95.5	-	13.5	4	3	5	-	-	-	203.9	平行凹線	-	わずかに孤				
N-341	B	H21 IV b層	97.5	97.5	-	14	4~5	2	6	-	-	1以下	278.4	なし	-	彌丸状か				
N-274	B	H21 SK49	163	95.5	(67.5)	中央 14.0 刃厚 13.5	4	2.5	5	-	-	1弱	326.6	多重線+端状點	縫目あり 縫合でケズリ接合痕ケシ	わずかに孤				
N-302	B	H21 III a層	101.5	95	(6.5)	14	4	2~ 2.5	6	-	-	0.5~ 1弱	289.0	なし	-	わずかに孤				
N-298	A	H21 I・II層	97	97	-	13.3	45	2.5	4.8	1.3	11.5	約0.5	269.0	魚子文(地文)+ 花鳥文貼り付け (帳出付)	-	やや弓形				
N-289	B'	H21 I・II層	99.5	99.5	-	15.5	4	2	6	-	-	1	283.0	なし	-	直				
N-4	B	H19 II層	106	91	(15.0)	14	35	2	5.0	-	-	1以下	254.5	妙繪文	-	ほぼ直				

第15表 小柄観察表

* N-289以外は直角刀、直(刀身・茎の差を含む)

	櫛目	釘	切羽	刀子	小柄	背	柄頭	かんざし	自在鉤	鏡面	毛抜き	金具	頭	蓋	平仄	不明	合計
III a層	1	30		1	1			1							7	40	
III a層造構		6													2	10	
III b層	1	24	1											1	18	45	
III b層造構	6	85	1	2			1	1	1	1	2				7	107	
IV a層	9	38				1								1	16	65	
IV a層造構	3	69			1										17	91	
IV b層	4	41		1	1				1		1	1			20	71	
IV b層造構	2	25													11	39	
V層	4	20		1								4			8	37	
V層造構		9		1	2				1						1	14	
VI・VII層造構	1	1			1										1	4	
合計	31	348	2	6	6	1	1	2	1	2	1	11	1	1	108	523	

第16表 金属製品出土集計表

6 土製品

土製品は猿、鳥、犬、猪型土製品、その他の土人形、社型、ミニチュア等の箱庭道具、碁石、土鈴等が出土している。猿(第86図-1:P-10)、犬(第170図-2:P-93)、猪(第178図-5:P-106)は手造ね成形で、狛犬(第180図-4:P-97)、鳥型(第85図-3:P-72)、その他土人形や社型土製品(第103図-2:P-20、第103図-3:P-34、第108図-6:P-38)は型作りである。P-20、P-38の社型土製品の背面には、型の段階で施された文字が確認できる。P-20は「□定…□作」、P-38には「加」の文字が見られる。

7 木製品

木製品は漆器椀、皿、皿未製品、漆塗膜、重箱、箱の側板、桶・曲げ物、箸、杓文字、ヘラ・匙、下駄、櫛、傘下轍輪、調度品の部品、荷札木筒、杭、部材、農貝、その他製品等が出土している。漆器椀・皿は土圧により変形

第1節 出土遺物について

	箱型土製品	鳥型土製品	犬型土製品	蝶型土製品	魚型土製品	箱庭道具	土鉢	土人形	ミニチュア	碁石	不明	合計
VI・VII層遺構								1				1
V層	1						3	1				5
V層遺構								1				1
IV b 層	1		1				7	8	1			18
IV b 層遺構	1				1		3	4	1			10
IV a 層						1	8	10			1	20
IV a 層遺構	4		1	4		1	10	3	2	2		27
III b 層遺構	2	1	1	1			11	3	3	2		24
III a 層	2		1	3		1	4	5	1		7	24
III a 層遺構			1		1		1	1				4
III a 層遺構					1							1
合計	11	1	5	8	3	3	47	37	8	4	8	135

第17表 土製品出土集計表

しているものが大部分で、器形を正確につかむことは難しい。施文されているものが多くあり、花文（第86図-5:L-98）、笹文（第149図-2:L-103）、丸に菱文（第149図-1:L-106）、三引両文（第147図-4:L-213、第71図-2:L-71）、丸に三つ柏（第116図-5:L-277）、水草（第116図-7:L-278）、梅花（第116図-3:L-281）等が見られる。また、椀に柄を差し込み、柄内に転用したものがある（第71図-1:L-72）。下駄は連歛下駄（第65図-3:L-517、第160図-2:L-8、第119図-4:L-361、第119図-5:L-362）、陰卯下駄（第160図-3:L-7）、露卯下駄（第119図-3:L-360、第65図-2:L-519、第65図-1:L-520、第119図-1:L-359）がある。連歛下駄と露卯下駄は丸型と角型の両方が出土している。V層SX49出土の下駄は露卯下駄で、IV a層SK49出土の下駄は露卯下駄と連歛下駄両方があり、陰卯下駄はⅢ b層整地層から出土していることから、露卯下駄から陰卯下駄への変遷が伺える。

木簡は4点出土している。SX1から出土した1点（第150図-1:L-126）は「御年貞米四斗五升」「名取北方柳生村」、SK49から出土した木簡（第117図-7:L-388）には「御者□」と記され、他2点は判読困難である。荷札木簡は仙台城三ノ丸（仙台市1985）、仙台城造酒屋敷跡2次調査（仙台市2011a）などで出土している。仙台城三ノ丸跡出土の荷札木簡では「文化□年宮城郡實沢村□」の墨書のあるものが出土している。造酒屋敷の調査ではKS746井戸跡から、木札木簡および荷札木簡が合計63点出土しており、荷札木簡の中では、植松村、名取笠崎村、名取四郎丸村、国分霸力村、下余田村等の地名が見られる。

8 石製品

石製品は碁石、硯、砥石、温石、火打石等が出土している。硯では、文字を刻印しているものがある。第159図-3:K-17は「十硯」の刻印があり、第135図-9:K-26も判読不能だが文字を刻んでいる。第89図-6:K-7は判読不能だが背面に墨書がある。また、碁石の出土量が比較的多く認められた。

9 ガラス製品

ガラス製品は簪、笄、トンボ玉等が出土している。第113図-1は花部分を青色に着色し、先端は耳かき状になつておらず、乳白色に呈色されている。簪の破片と思われる。第113図-2は黄色に着色された笄の破片と思われる。トンボ玉（第102図-4）は緑色に着色されている。

第7章 出土遺物と検出遺構について

	碗・皿	豆皿類品	漆器	重箱	箱	箱・函物	箸	しゃもし	ヘラ・毛	下駄	靴	金下駄履	調度品	陶瓦類	杭	部材	備具	その他	不明	合計
V層	3		3	1						1					1		2		11	
V層遺構	16		10			2				10						2	1	5	6	52
IV b 層	2		15						1	2					1		1	1	1	23
IV b 層遺構	19	1	10			2			1	10	1	1	1	1	1		1	7	3	58
IV a 層	3		27			1				1					1	3		2	38	
IV a 層遺構			3												7				10	
III b 層	1		3							3			1		2					10
III b 層遺構	7		15		1	7		1		3			3	1	3	6	1	1	48	
III a 層			2																2	
III a 層遺構			1				13								2				18	
範囲・括	6		7							1				2	2				21	
合計	57	1	96	1	1	12	13	1	2	31	1	1	1	4	6	22	2	21	18	291

第18表 木製品出土集計表

	碁石	硯	砥石	墨石	火打石	鍬	不明	合計	
V層	29			3			4	8	44
V層遺構	2		3	1	1	1			9
IV b 層	5	5	11			1	2		24
IV b 層遺構	3	8	1		1		3		16
IV a 層	5	3	4						12
IV a 層遺構	6	5	10		2	1	5		29
III b 層		5	1		1		3		10
III b 層遺構	1	8	3		2	1			15
III a 層		1	7						8
III a 層遺構		1							1
合計	52	45	34	1	7	8	21		168

第19表 石製品出土集計表

10 瓦

瓦は11,595点出土している。丸瓦2132点、平瓦8918点、その他の瓦98点、棟瓦56点、軒丸瓦108点、軒平瓦40点、その他軒瓦12点、不明231点を数える。西公園高架橋等1区では滴水瓦(第14図-3:G-1)が出土している。軒丸瓦は、連珠三巴文(第44図-2:F-1、第70図-6:F-11、第178図-7:F-77、F-100)、三引両(第135図-10:F-57)、菊文(第85図-2:F-65、第178図-6:F-68)、九曜文(第160図-4:F-66、第181図-2:F-99)が確認できる。軒平瓦では雪持ち笹唐草文(第131図-10:G-21)、笹唐草文(第181図-3:G-33)、菊唐草文(第44図-1:G-2)、等がある。SK56から出土した飾り瓦(第38図-1:H-2)は九曜文を中心配し、両脇に雲文を配す。九曜文の周囲には細いヘラ状工具等を用いて地紋を施している。また、金箔瓦が3点出土している。第70図-7:G-27は桔梗文軒平瓦で、文様部分に金箔がよく残存している。第70図-8:H-4は桐文の飾り瓦で、第103図-5:H-5は軒先の飾り瓦と思われる。金箔瓦は仙台城本丸跡(仙台市2005a)で57点出土しており、G-27と類似した桔梗文軒平瓦が出土している。

11 鱗瓦

「寛政三 圖〔〕」の紀年銘(寛政三年:1791年)をもつ鱗瓦は発乱坑から出土した(第181~182図:H-1、図版39-8)。「勇」字については、堤人形工人で、瓦師でもある初代庄子勇七(1732-1799)との関連も考えられ

第1節 出土遺物について

る（仙台市博物館 1989）。周辺での瓦の出土例は、仙台城本丸跡（仙台市 2005a）、仙台城二ノ丸第 10 地点（東北大 1998）、仙台城川内駅部（仙台市 2011d）、川内 B 遺跡（仙台市 2011c）ほか複数の出土例がある。仙台城本丸跡では、Ⅲ期石垣の裏込め、近世の整地層および遺構、近代盛土、表土層等から瓦が出土しており、その数は 206 点である。これには各部位が認められるが、今回のように瓦の頭部がほぼ完全な形で出土した例はない。一部には金箔のつく例もあり、Ⅲ期石垣の裏込め（石垣 B 面 21 段目の裏込め）から出土している。また、尾鱗部分が単独で二ノ丸第 10 地点、仙台城川内駅部、川内 B 遺跡から出土している。

桜ヶ岡公園遺跡の例は、複数坑の底面付近で目、耳、額部分、また、複数埋土中で鼻・頸部、胴部、胸鱗部、腹鱗部が出土し、接合すると一個体として復元できた（第 181～182 図）。背面の腹鱗部には紀年銘が刻字されている（第 182 図）。ただ尾鱗部は、今回の調査では 1 点も出土しておらず、別の地点から移動してきた可能性が考えられる。瓦が出土した複数坑は、仲の町崖面近くに位置していることから、東側崖上に位置していた武家屋敷に本来は作っていたと見ることもできよう。

形状

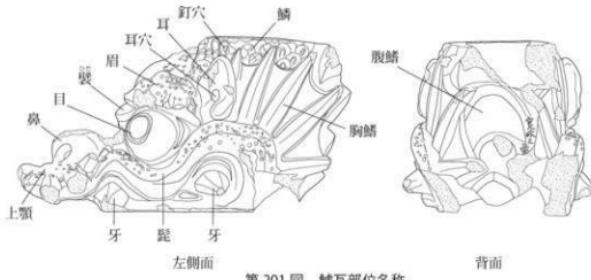
瓦の残存長は 153.5cm、最大幅 89cm、厚さ 4cm～18cm を測る。上顎には棘状の鈎が付いていたと思われるが欠失している。内面まで貫通する部分は鼻穴、耳穴、後方の牙の下にある。耳穴は長軸 35mm、短軸 17mm である。目は、中に円を割り黒目とし、目の上には眉を盛り上げ、眉間に襞を 1 段設けている。耳穴の上には径 8mm 程度の釘穴が左右に一対ある。胸鱗は 4 本確認できる。3 本は斜め上に向かい、下の 1 本は後ろに直線的に伸びている。腹鱗は 4 段となり、一番上の段は上半部が欠失している（第 201 図）。

製作技法（第 202 図-1～5）

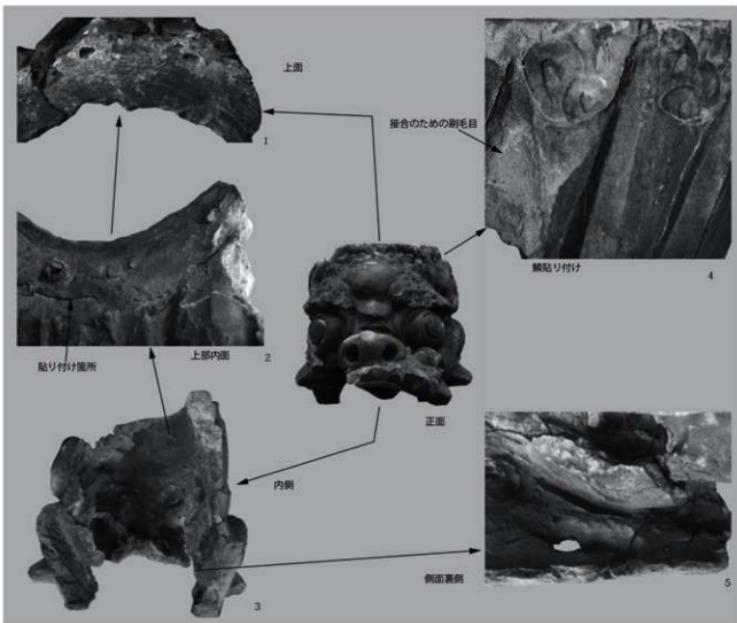
本例のような瓦は他の瓦類とは異なり量産は困難で、立体的に起伏も大きく特別な製作方法が必要とされるだろう。今回の例では内面全体に指頭による強いナデの痕跡（再調整）が多く、外表面は綿密な仕上げ調整が行われている事から第一段階の成形方法に結びつくような痕跡は確認できない。全体に起伏の大きいものであるから型づくりによる成形、あるいは部分的な型づくりの併用も考えられるがこの点は明確ではない。

① 内面

内面全体には指頭による強いナデの痕跡が残る。目、目下の鈎、鼻、耳、眉、眉間に襞、腹鱗等の突出部分の裏側はこの凹凸が著しい。胸鱗の内面は鱗に沿って強くナデを行っている。また側面の前後の牙は角柱状の部材を貼り付けしたもので、その内面は指押さえ程度の痕跡であり、上記のように強くナデを施したものではない。上顎の



第 201 図 瓦部位置名称



第202図 鱗瓦

数本の鰓は短く、貼り付けか掻き取りによるものと思われ、内面は平坦に近い。

上端部の平面形は円形に近く、端部は削り調整(一部刷毛目)により平坦につくり、端部幅3.8～4.5cmである(1)。この面は別づくりの尾鱗と結合するため面調整が丁寧である。上端部から約8cm下位の内面では粘土を補充した痕跡が認められ、上端からこの境にかけて器肉が厚くなる。尾鱗との結合部に対する補強ならびに接合面のずれ防止など安定性を考慮したものだろう(2)。なお補充粘土の境には貼り付け前に粗い刷毛目を行った痕跡が一部残る。

下面是左側面のみ残りがよく、その端部は肥厚し下端部に断面長方形の棒状部材を貼り付け補強していると思われる。この下端面は上面に比べて凹凸があり、精緻なつくりではない。

②外観

目、鼻側面、歯、側面尾上部、胸鱗、胸鱗上の鱗の境などにはヘラで鋭利な線を縁取りし、ヘラ器面調整を行う。各部位の境にはナデを行う。胸鱗上の間は逆向き半円状に低く段差をつけ、ここに複数の鱗を一枚ずつ貼り付いた手間のかかる手法が行われている。鱗は上から下へ順に貼り付けており、各鱗の中央部は二重に盛り上がる。

外観の文様についても貼りつけを行う前に粗い刷毛目をつけ、密着度の強化を行った部分がある。図と反対側の右側面では鱗を貼り付けた本体部分の面に刷毛目があり、また鱗の剥落面では、下方へ鱗継ぎ足しの際に若干粘土を盛りつけ、再度刷毛目をつけている。胸鱗の剥落部(4左下)にも刷毛目痕跡があり、これは表面に近い事から

第1節 出土遺物について

胸鱗欠落面のミス部分に粘土を補充したものであろう。

最終的な装飾として上顎、髭、眉部分に刺突文を施す。これには二種類用いられ、径8mm前後の先端の丸い棒状のものと、径4mm前後で先の尖った棒状のものである。

類例

鰐瓦の出土例について成形、組み合わせ、施文方法など一部について比較できるが、詳細な点では今後の追究課題も多い。

まず成形においては、仙台城本丸出土例では裏面に布目痕、指痕、ナデの痕跡、ハナレ砂が見られることから型づくりによるものと推測される。桜ヶ岡例では上述のようにこの点は明らかではない。

次に鰐瓦の頭部と尾鱗部を一体として製作したものと別々に製作して組み合わせた例がある。一体製作例としては広島県広島市、広島城の出土例、安土城の出土例などがあり、広島城では16世紀末、完形品としても現存する最古のもので、安土城も含めて初期の鰐瓦に属するとされる（佐藤2009）。組み合わせの例では仙台城本丸跡8A区の溝跡出土のものがあり、頭部上面の平坦面を残す。

施文の一部、鱗の表現では、立体的につくるものと、平面的な線書きのものがあり、前者の例としてでは今回の桜ヶ岡例のほか安土城、滋賀県津山城（津山市2005）等、後者では加賀藩上屋敷（追川2000）、浜松城（浜松市2010）等があげられる。

また出土例ではないが建物改修などの際に保管されたものがあり、大阪府高槻城の例は一体型で鱗は線描き、また、京都府丹波亀山城の例では組み合わせ型で鱗は貼り付けである。

各地の出土例は破片であるために一体型か組み合わせ型か不明なものが多く、製作技法や装飾においてもまだ系統的に把握できるとは言い難い。桜ヶ岡出土例は出土状態に難点があるが寛政3年（1791）銘の標識資料として、上記の鰐瓦の製作技法を整理するうえで貴重な資料と位置づけられる。

12 出土遺物のまとめ

桜ヶ岡公園遺跡で出土した遺物は量も多く、種類も豊富である。中国陶磁器は16～17世紀代の景德鎮青花、漳州窯色絵および青花等の伝世品と思われる製品が出土している。肥前産磁器の出土傾向としては18世紀後半までの遺物が多数出土しており、18世紀末から19世紀代の遺物は少なく、広東碗・端反碗の出土数は非常に少ない。瀬戸美濃産磁器はⅢa層段階において急増する傾向にある。17世紀代の志野産陶器や岸産陶器などの年代を特定しやすい遺物に関してⅤ層段階からⅢa層段階まで比較的均質に出土している。焼錆痕跡のある遺物については、下限を示すと思われる近代初頭の磁器の出土例などが認められた。木製品はSK49、SX49、SX1等で依存状態が良く、荷札木簡や傘下轆轤などの例が見られた。金属製品では刀の鷲や小柄など、刀剣関係の遺物が多く出土している。また金箔瓦、ガラス製品、紀年銘のある鰐瓦など珍しい遺物が出土した。

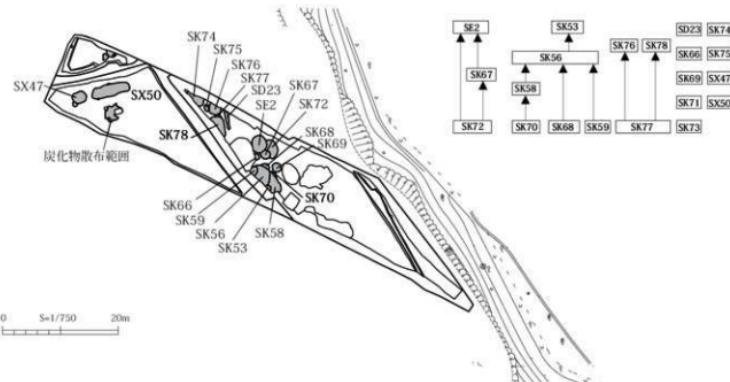
第2節 検出遺構について

桜ヶ岡公園遺跡では、154基の遺構が検出された。近世の整地面はⅢa層、Ⅲb層、Ⅳa層、Ⅳb層、Ⅴ層の5面が確認され、その他自然堆積層であるVI層・VII層上面および近代面のⅡ層上面で遺構が検出された。ここでは、検出された主要な遺構について検討し、桜ヶ岡公園遺跡の様相について概観してみたい。特に、層位的に整地面を捉えることが出来た西公園高架橋等Ⅱ区を中心に、土地利用の変遷について触れる。土地利用のあり方において、第203図から第208図に崖面の位置を示し、検出された方位を示す遺構が、崖面とどのような関係にあるのかを表示している。

1 VI・VII層上面遺構

自然堆積層であるVII層および旧表土と思われるVI層上面で確認された遺構群である。調査区中央部に土坑が集中している。SK56、SK58は遺物を伴うが、その他の遺構からの遺物の出土は少ない。また、調査区西側では、VI層上面に炭化物が堆積している範囲を確認し、同一のものと思われる炭化物はSX47、SX50の土層中に堆積していた。SX47、SX50は土地利用に先立つ周辺整備、整地等に伴う遺構の可能性がある。また、遺物を伴わない土坑は抜根などの整地の痕跡と見ることもできる。

西公園高架橋等Ⅰ区のSA1、SA2、西公園高架橋等Ⅰ区（排水管部）のSD1などもVII層上面で確認されている。これらは区画を示すものの可能性があるものの、上面の整地層が削平されてしまっているため正確な年代は不明である。



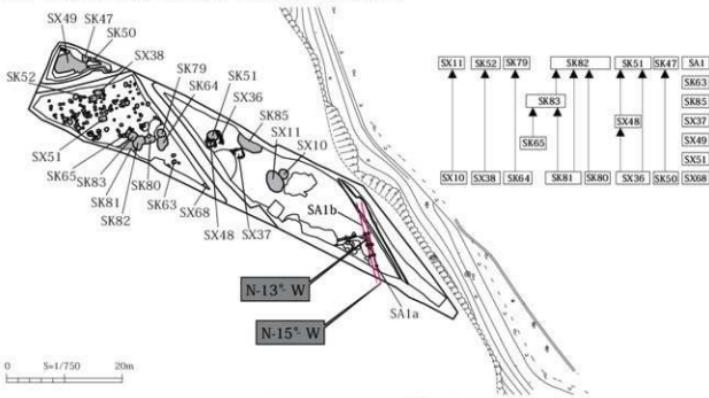
第203図 VI・VII層上面遺構分布図

2 V層上面遺構

今回の調査で確認された近世の整地面で、最も古いV層上面で確認された遺構群である。出土遺物の年代から18世紀前半まで機能していたと思われる。多数のピットが検出されており、建物として明確に組めるものは確認できなかったが、柵列などの遺構の痕跡の可能性はある。調査区中央西寄りには複数の土坑が重複して検出された（SK64、SK65、SK79～83）。平面形、断面形とともに不整形で性格は不明である。廃棄土坑としては遺物の量がま

第2節 検出遺構について

ばらで、埋め戻しの際に土と一緒に入り込んだものと思われ、土取り等の掘り起こし、埋戻しを繰り返し行なっていた可能性がある。調査区中央部では石組土坑が3基（SX36、SX37、SX48）確認された。底面に石敷き、粘土貼り付け等は見られず、利水関係とは考えにくく、ムロとして利用されていたものと思われる。調査区北側のSX49からは多数の木製品が出土した。また、調査区東側には2列7穴からなる柱列跡SA1が確認された。方位はN-13°-WおよびN-15°-Wを示し、区画施設の可能性がある。



第204図 V層上面遺構分布図

3 IV b層上面遺構

出土遺物の年代から18世紀後半まで機能していたと思われる。V層段階のSA1とほぼ同じ位置にSD3・4・5溝跡が位置する。これらの溝により方形区画をつくっているように思われるが区画内部と思われる部分は調査区外に延びており詳細は不明である。方位は南北方向がN-28°-Wで、崖面の方位に近く、東西方向はN-78°-Eを示す。SA3、SX40の南側では瓦組の暗渠と思われるSD22が検出されたが、周辺の建物跡として明確なものは認められなかった。調査区北西側には、道路状の硬化面を伴うSX77および側溝の可能性のあるSD21、柱列跡SA3、石列・石敷きを作った整地跡と思われるSX40によりつくられる区画が見られる。SX77・SD21はN-15°-Wを示し、SA3からSX40につながる直線はN-71°-Eを指す。

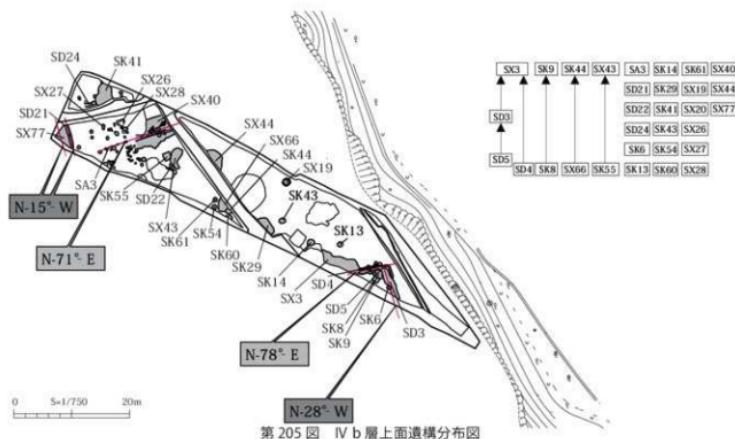
4 IV a層上面遺構

出土遺物の年代から18世紀後半から19世紀初頭まで機能していたと思われる。調査区の中央部には掘り方の径が6m近くある井戸跡SE1が確認された。SK49からは多数の木製品が良好な状態で出土しており、下駄や漆器皿の未製品、荷札木筒なども含まれていた。SK49を切るSK46からはガラス製品が出土している。また、調査区西側では、一分判金と中国錢が出土した。出土状況から、次段階のIII b層敷設直前に、地鎮等の目的により散布したものと思われる。

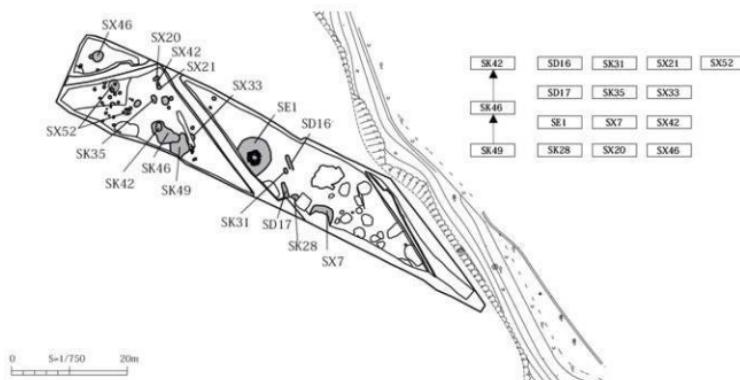
5 III b層上面遺構

出土遺物の年代から19世紀前半～中頃まで機能していたと思われる。調査区の西側ではやや蛇行して延びるSD7溝跡があり、方位はN-24°-Wを示す。SD7の東側にもほぼ同じ方位をとり、SD7の規模を小さくしたような

形状のSD19がある。また、調査区東側のSX1からは前段階のSK49と同様に依存状態のよい木製品が多数出土した。その中には木筒が3点含まれており、そのうち1点では「御年貢米四斗五升」「名取北方柳生村」の墨書が確認された。

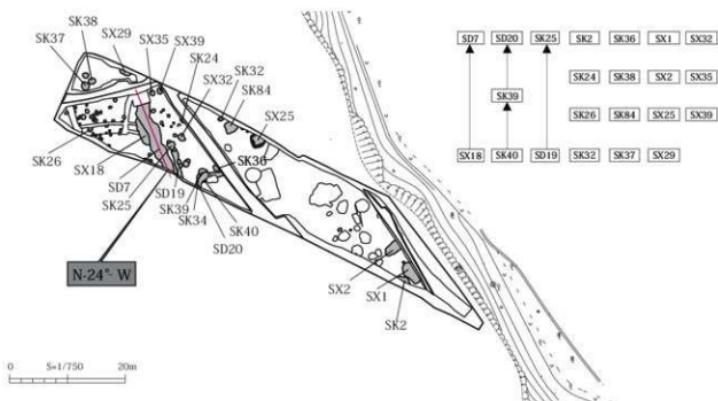


第205図 IV b層上面遺構分布図



第206図 IV a層上面遺構分布図

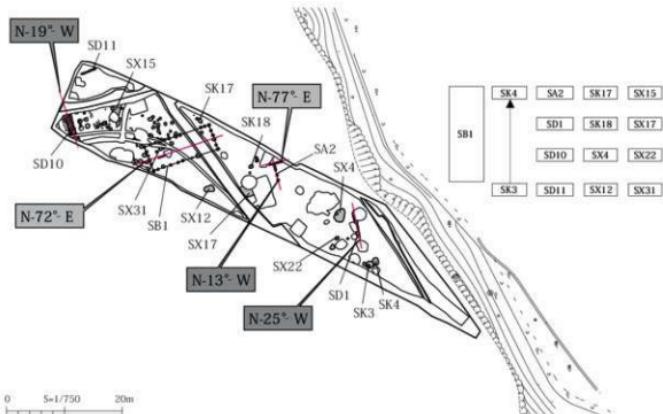
第2節 検出遺構について



第207図 III b層上面遺構分布図

6 III a層上面遺構

出土遺物の年代から19世紀中頃まで機能していたと思われる。調査区の西側では石組溝SD10が検出された。方位はN-19°-Wを示し、道路側溝の可能性もある。調査区東側にはSD1溝跡があり、方位N-25°-Wを示す。調査区中央では建物跡SB1が確認され、桁行方向の方位はN-72°-Eを示す。SB1は小さな掘り方に根石を据えており、間隔も一定でないため、横木を渡してその上に柱を建てる構造の建物であったと考えられる。SB1の南東側にはT字形に広がる石列SA2があり、東西方向の方位N-77°-E、南北方向の方位N-13°-Wを示す。SB1と同様に長屋風建物の一角を構成するものの可能性があるが、検出範囲が狭く明確ではない。



第208図 III a層上面遺構分布図

7 II層上面遺構

西公園高架橋等I区において検出された石敷きSX3、道路状遺構、建物跡、竹櫛、石組溝、石列等は出土遺物の年代から19世紀後半以降の年代と思われる。建物跡と道路を中心とした一連の施設と考えられる。

8 検出遺構のまとめ

西公園高架橋等II区では近世の整地面が5面確認されたが、年代の幅が比較的短く、一番古い整地層で18世紀前半までしか遡ることがでできず、17世紀代の様相は不明である。西公園高架橋等I区（排水管部）の遺構は、III a層段階の新しい時期の土坑が確認されたほか、VII層上面において時期不明の溝跡が検出されている。西公園高架橋等I区の調査では整地層が確認できず、近世の可能性のある遺構についても時期は不明である。

西公園高架橋等II区で確認された遺構の大半は、性格不明の土坑である。これらは土取りや抜根などの整地に伴うもののが可能があるが、判然としない。居住空間として利用されていたと判断できるものは比較的小なく、建物跡として明確なものはIII a層段階のSB1のみである。また、IV b層段階のSA3、SX40は居住空間に伴う施設の一端と思われ、SX77は道路跡の可能性が高い。また、V層段階のSA1、IV b層段階のSD3～5から推定される区画は、調査区の南側に展開しており、詳細は不明である。

VI・VII層段階のSE2井戸跡、V層段階の石組土坑SX36、SX37、SX48、IV a層段階のSE1井戸跡などは土地利用としては屋敷地の裏手にあたる施設のように思われる。以上のように西公園高架橋等II区の検出遺構は、調査区北西側の一部が居住空間として利用され、その他の大部分は裏手にあたる場所であったと考えられる。

方向性をもつ遺構を見ると、長軸を北西～南東方向にもつものと、それに直交する方向のものがある（第20表）。これらの遺構の南北方向は、N-13°-WからN-28°-Wの間にあり、その差は15°以内であり、近世各面の異なる時期においても大きな偏差は少ない。こうした点で長期を通じて何らかの土地割に関する制約を受けていた点が看守される。自然地形の仲の町屋の方向はこれらの遺構と大きく偏差がある点で、遺構の方位に直接影響した可能性は低く、土地利用の面的な制約に限られる。絵図などから見ると、むしろ道路方向に遺構方位が規制を受けていると思われる。こうした点で、今後道路延長線の検出が望まれるところとなる。

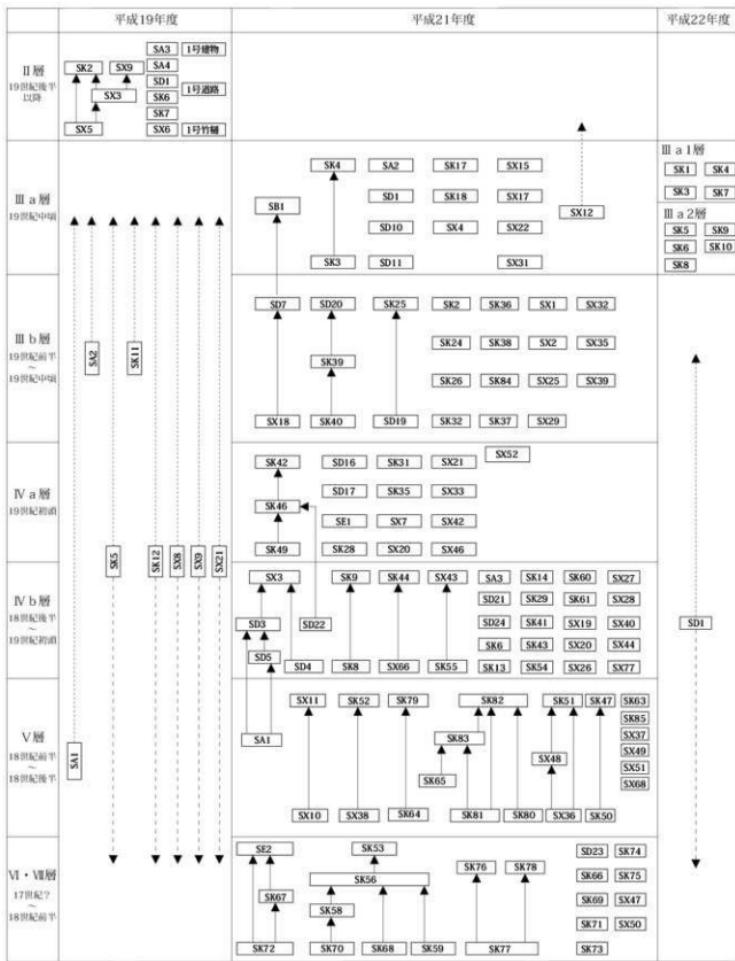
桜ヶ岡公園でのこれまでの調査は、第1次～4次調査および2回の試掘調査が行われている（第5図）。第1次調査は今回の調査と同じく地下鉄東西線関係の調査で、遺構面が3面確認された。武家屋敷に伴うと考えられる掘立柱建物、区画溝跡、地鎮遺構等が検出されている。第2次～4次調査は西公園再整備事業に伴うトレンチ調査で、第2次調査では武家屋敷に伴うと考えられる礎石建物や区画溝が検出され、第4次調査では景德鎮、漳州窯といった中国陶磁器、県内3例目となる鍋島焼等が出土している。

今回の調査地点は崖下の地区にあたり、土地の利用状況・居住者の性質とともに過年度の調査地点とは異なり、注目すべき点もある。下級武士の居住地として、たび重なる敷地剝の造成が繰り返され、廃棄場の状況と遺物のあり方等の一端が把握された。今後の調査により、さらに土地利用の変遷について解明していく必要がある。

	北西→南東	北東→南西
V層	N15°-W	
	N12°-W	
N' b層	N15°-W	N71°-E
	N15°-W	N78°-E
	N28°-W	
III b層	N24°-W	
III a層	N19°-W	N72°-E
	N13°-W	N77°-E
	N25°-W	

第20表 検出遺構の方位の移り変わり

第2節 検出遺構について



第209図 桜ヶ岡公園遺跡遺構変遷図

第8章 まとめ

1. 桜ヶ岡公園遺跡では総数 52,560 点の遺物が出土した。
2. 陶器は草南三彩、志野、織部、唐津、岸、嬉野、丹波、京・信楽系陶器、肥前陶器、瀬戸美濃、小野相馬、大堀相馬、堤、その他在地産のものが出土した。焼縫痕のある陶器は 3 点確認された。
3. 磁器は景德鎮、漳州窯磁器、肥前、瀬戸美濃、切込、平清水等が出土した。景德鎮は 32 点出土している。漳州窯磁器は 17 点出土し、3 個体に復元された。また焼縫痕のある磁器が多数出土し、磁器の製作年代では 18 世紀前半から 19 世紀中頃までの幅がある。19 世紀中頃の資料は焼縫の下限資料と思われる。
4. 土師質土器は皿、灯明皿が大部分を占め、金箔を貼り付けた皿が 1 点出土している。蚊遣りの蓋に転用したものが 9 点出土した。
5. 瓦質土器は火鉢が大部分を占める。外面に型紙によるものと思われる紗綾文を施す蚊遣りが出土している。
6. 金属製品では切羽、刀子、鐸、小柄などの刀装具が比較的多く出土している。小柄には細工の細かいものがみられる。小柄には未製品と思われるものが 1 点確認された。
7. 古銭では寛永通宝のほか、一分判金、中国銭が見られる。中国銭と一分判金は整地前の地鎮行為に使用されたと思われる状況で出土している。
8. 土製品は動物型、箱庭道具、土人形、碁石、土鈴などが見られ、社型の土製品の背面に文字が書かれているものが見られた。
9. 木製品は SK49、SX49、SX1 等から多量に出土している。碗や重箱、曲げ物、櫛、傘下輪轆のほか、漆器皿の未製品、下駄の未製品等が出土している。また、荷札木簡が 4 点出土した。
10. 石製品は刻字のある硯、温石のほか、碁石が 52 点出土している。
11. ガラス製品は簪、笄、トンボ玉が出土している。
12. 瓦は 11,595 点出土している。金箔瓦が 3 点、滴水瓦が 1 点、鍍瓦が 1 点出土した。鍍瓦は搅乱土坑からの出土だが、「寛政三」(1791 年) の紀年銘資料である。
13. 整地層は 5 面確認された。遺構面は、自然堆積層であるⅦ層および旧表土と思われるⅥ層上面の 1 面と、平成 19 年度調査区で確認したⅡ層上面の近代以降の面と合わせて 7 面ある。整地層の年代は出土遺物の傾向が判然とせず、明確に区分することは困難であったが、概ね 18 世紀前半から 19 世紀中頃までの変遷が伺える。
14. Ⅵ・Ⅶ層上面検出遺構は 18 世紀前半以前の年代が考えられる。井戸跡、土坑群などが検出された。炭化物の分布域が認められ、土地利用に際して整地等を行なった痕跡と思われる。
15. Ⅴ 層上面検出遺構は 18 世紀前半～後半頃に機能していたものと思われる。多数のビット、不整形の土坑群、柱列等が検出された。
16. Ⅳ b 層上面検出遺構は 19 世紀初頭以前に機能していたものと思われる。道路跡と思われる SX77、柱列跡、掘込地菜跡、区画を示すと思われる溝跡などが検出された。
17. Ⅳ a 層上面検出遺構は 19 世紀初頭を中心機能していたものと思われる。掘り方の径が 6m 近くある SE1 や、多数の木製品が出土した SK49 などが見られる。
18. Ⅲ b 層上面検出遺構は 19 世紀前半から中頃まで機能していたものと思われる。蛇行する溝跡や荷札木簡が出土した SX1 が見られる。
19. Ⅲ a 層上面検出遺構は 19 世紀中頃まで機能していたものと思われる。長屋風建物の基礎と思われる SB1 や石組溝などが確認された。

引用・参考文献

引用・参考文献

- 江戸遺跡研究会編 2001『図説 江戸考古学研究事典』柏書房
- 追川吉生 2000「本郷郷の御殿空間 - 考古学からのアプローチ -」『加賀殿再訪 東京大学本郷キャンパスの遺跡』東京大学コレクションX
- 西秋良宏編 東京大学出版会
- 大橋康二構成 2002『そば猪口事典』平凡社
- 学研 2006 歴史部像編集部編 銀座長洲屋協力「図解日本刀事典」
- 九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』
- 新宿区内藤町遺跡調査会 1994『内藤町遺跡 - 放射 5号線整備事業に伴う緊急発掘調査報告書 -』
- 芹沢長介ほか編 1981『日本やきもの集成 1 北海道 東北 関東』平凡社
- 仙台市教育委員会 1985『仙台城三ノ丸跡』仙台市文化財調査報告書第 76 集
- 仙台市教育委員会 2005a『仙台城本丸跡 1次調査』仙台市文化財調査報告書第 282 集
- 仙台市教育委員会 2005b『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(1)概要報告書』仙台市文化財調査報告書第 289 集
- 仙台市教育委員会 2006『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(2)概要報告書』仙台市文化財調査報告書第 302 集
- 仙台市教育委員会 2007a『川内 A 遺跡・仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書 I -』仙台市文化財調査報告書第 312 集
- 仙台市教育委員会 2007b『桜ヶ岡公園遺跡第 2 次調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 318 集
- 仙台市教育委員会 2008『桜ヶ岡公園遺跡第 3 次調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 335 集
- 仙台市教育委員会 2009a『仙台城跡 9』仙台市文化財調査報告書第 348 集
- 仙台市教育委員会 2009b『仙台城跡 -仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書 II-』仙台市文化財調査報告書第 342 集
- 仙台市教育委員会 2010a『桜ヶ岡公園遺跡 - 第 4 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 378 集
- 仙台市教育委員会 2010b『中野高柳遺跡第 1 ~ 5 次調査・宮城県仙台港背後地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書 IV』仙台市文化財調査報告書第 361 集
- 仙台市教育委員会 2010c『若林城跡 - 第 8 次・第 9 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 377 集
- 仙台市教育委員会 2011a『仙台城跡 11』仙台市文化財調査報告書第 395 集
- 仙台市教育委員会 2011b『桜ヶ岡公園遺跡 - 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書 IV-』仙台市文化財調査報告書第 384 集
- 仙台市教育委員会 2011c『川内 B 遺跡 - 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書 V-』仙台市文化財調査報告書第 385 集
- 仙台市教育委員会 2011d『仙台城跡 - 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書 VI-』仙台市文化財調査報告書第 386 集
- 仙台市史編さん委員会 1994『仙台市史 特別編 1 自然』
- 仙台市史編さん委員会 1995『仙台市史 特別編 2 考古資料』
- 仙台市史編さん委員会 2004『仙台市史 通史編 5 近世 3』
- 仙台市博物館 1989『堤人形の美』
- 高倉淳ほか編 1994『絵図・地図で見る仙台第一輯』今野印刷株式会社
- 高倉淳ほか編 2005『絵図・地図で見る仙台第二輯』今野印刷株式会社
- 地理学会共催秋季学术大会発表要旨『季刊地理学 Vol.63』
- 津山市企画部行政広報室 2005『津山城百間隠_58』『広報つやま』2005 年 1 月号
- 東北大大学理蔵文化財調査研究センター 1985『東北大大学理蔵文化財調査年報 1』
- 東北大大学理蔵文化財調査研究センター 1998『東北大大学理蔵文化財調査年報 9』
- 東北大大学理蔵文化財調査研究センター 2000『東北大大学理蔵文化財調査年報 13』
- 東北大大学理蔵文化財調査研究センター 2009『東北大大学理蔵文化財調査年報 19』
- 浜松市教委 2010『浜松市文化財情報』27
- 兵庫理蔵課調査会 1996『日本出土銭鑄目録』
- 松本秀明・熊谷真樹 2010『広瀬川中流部における完新世の河床高度変化に関する知見』東北地理学会・北海道地理学会共催秋季学术大会発表要旨『季刊地理学 Vol.63』
- 宮城県文化財保護協会 1990『切込窓跡』宮崎町文化財調査報告書第 3 集

写真図版



1. VII層上面全景（東から）



2. II層上面全景（西から）

図版1 西公園高架橋等Ⅰ区 全景

検出遺構写真



1. 調査区西壁（東から）



2. 調査区南壁（北から）



4.SA1 全景（北から）



3.SA1 検出（北から）



5.SA1 断面（南から）

図版2 西公園高架橋等Ⅰ区 VII層上面（1）



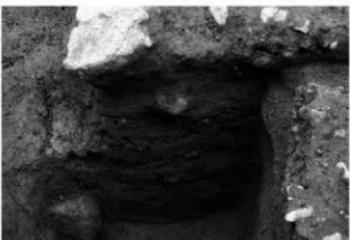
1.5A1 断面（南から）



2.5A2 全景（北から）



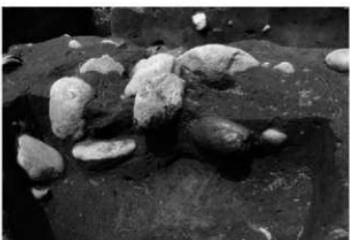
3.SK5 完掘（東から）



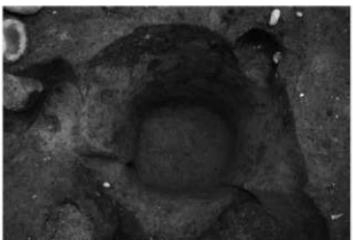
4.5K5 断面（北から）



5.SK11 断面（南から）



6.SK12 断面（南から）



7.SX8 完掘（東から）

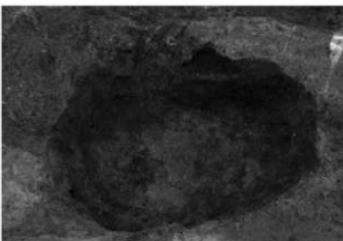


8.5X8 断面（東から）

検出遺構写真



1SX19 完掘（北から）



2SX21 完掘（東から）

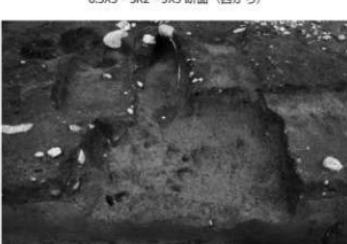
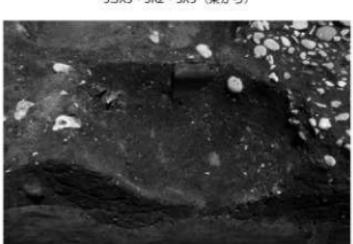
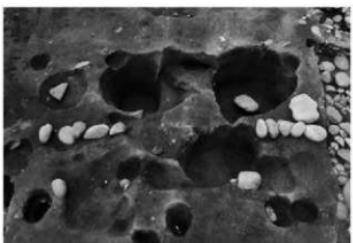


3SD1・SA3・1号道路跡（北から）



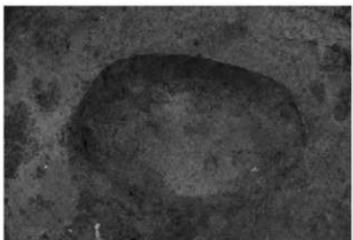
4SD1・SA3・1号道路跡断面（北から）

図版4 西公園高架橋等Ⅰ区 VII層上面(3)・II層上面(1)



図版5 西公園高架橋等Ⅰ区 II層上面(2)

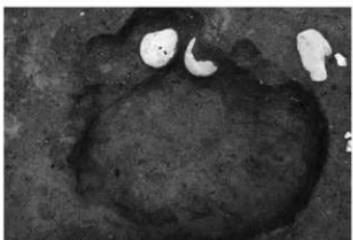
検出遺構写真



1.SK9 完掘（東から）



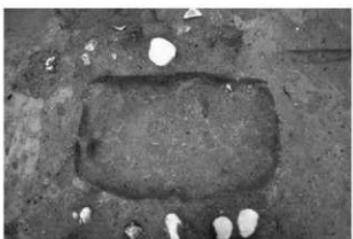
2.SK9 断面（東から）



3.SK7 完掘（南から）



4.SK7 断面（南から）



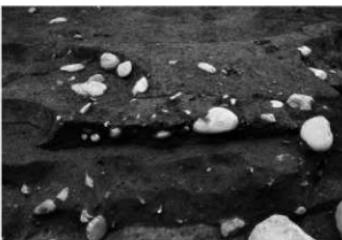
5.SK6 完掘（南から）



6.SK6 断面（南から）



7.SX6 完掘（西から）



8.SX6 断面（西から）

図版6 西公園高架橋等Ⅰ区 II層上面(3)



1. III a 層上面 北部全景（北西から）



2. III a 層上面 南西部全景（南東から）



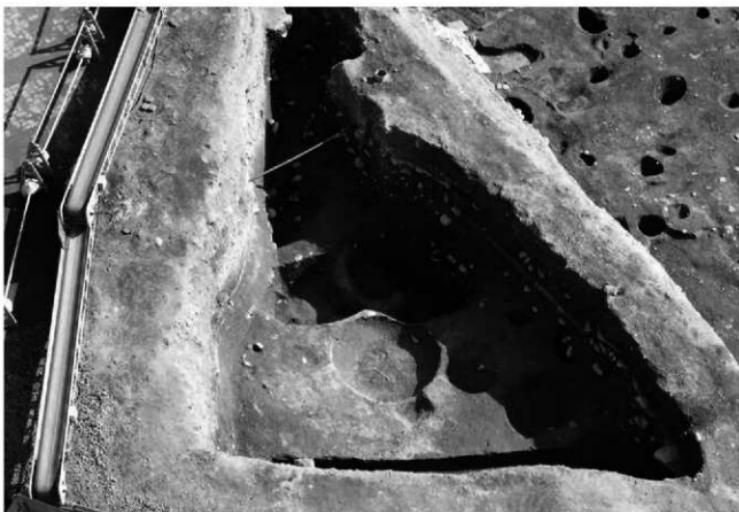
3. III b 層上面 北部全景（西から）

図版7 西公園高架橋等II区 全景（1）

検出遺構写真



4. VI・VII層上面 南部全景（北西から）

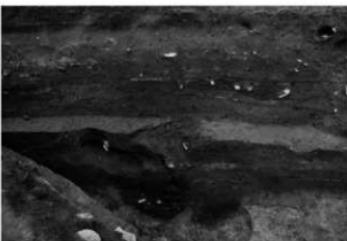


5. IV-a層上面 北部全景（北西から）

図版8 西公園高架橋等II区 全景（2）



1. 北壁 A 断面（南から）



2. 北壁 B 断面（南から）



3. 北壁 B 断面（南から）



4. 北壁 B 断面（南から）



5. 南壁 C 断面（北から）



6. 南壁 C 断面（北から）



7. 南壁 C 断面（北から）



8. 南壁 D 断面（北から）

図版9 西公園高架橋等II区 壁面（1）

検出遺構写真



1. 南壁 D・E 断面（北から）



2. 南壁 E 断面（北から）



3. 北西壁 F 断面（南東から）



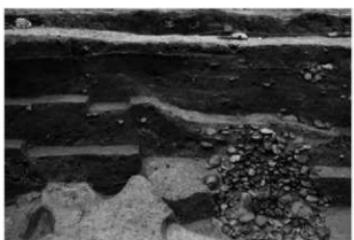
4. 東西ベルト G 断面（南から）



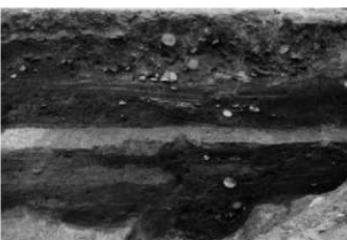
5. 東西ベルト H 断面（北から）



6. 南北ベルト I 断面（西から）



7. 南北ベルト J 断面（東から）

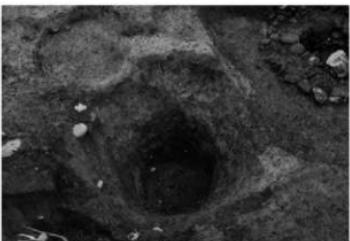


8. 南北ベルト J 断面（東から）

図版 10 西公園高架橋等 II 区 壁面（2）



1.SD23 完掘（北から）



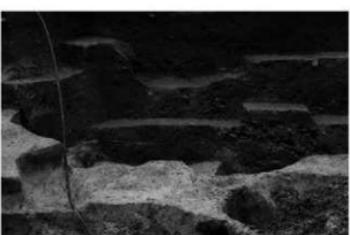
2.5E2 完掘（北から）



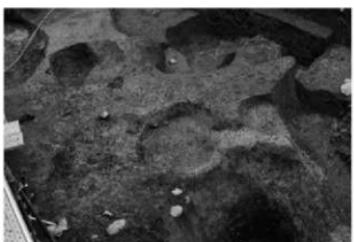
3.5E2 断面（西から）



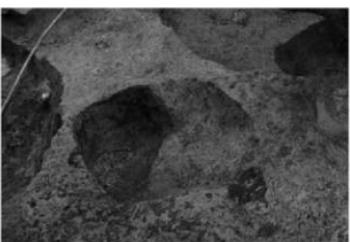
4.SK53・56・58・59・68・70 完掘（北から）



5.SK53・56・58・59 断面（東から）



6.SK66・67・72 完掘（北から）



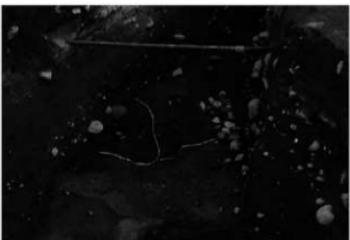
7.SK69 完掘（北から）

図版 11 西公園高架橋等 II 区 VI・VII 層上面 (1)

検出遺構写真



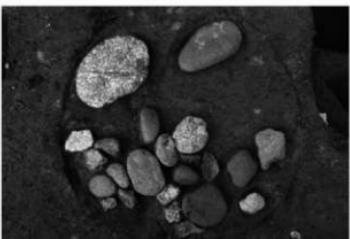
1.SK69 断面（南から）



2.SK71・73 完掘（南西から）



3.SK71 断面（北から）



4.SK73 上面礫分布（南から）



5.SK74～78・SD23 完掘（東から）

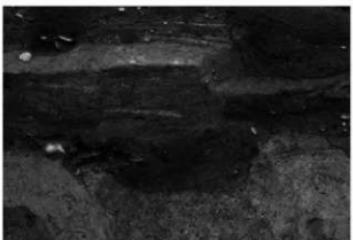
図版 12 西公園高架橋等 II 区 VI・VII 層上面 (2)



1.SK74 完損（北から）



2.SK74～78 完損（北から）



3.SK76 断面（東から）



4.SK78 断面（西から）



5.SX47・SX50 全景（西から）



6.SX47 断面（南から）



7.SX50 断面（南から）

図版 13 西公園高架橋等Ⅱ区 VI・VII層上面（3）

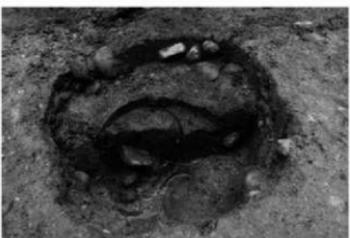
検出遺構写真



1.SA1 全景 (北から)



2.SA1-P1 断面 (東から)



3.SA1-P2 断面 (東から)



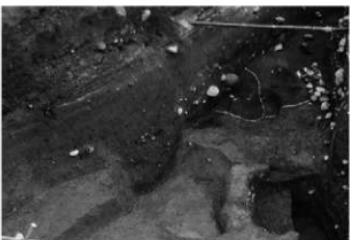
4.SA1-P3 断面 (東から)



5.SA1-P4 断面 (東から)



6.SK47 断面 (南から)

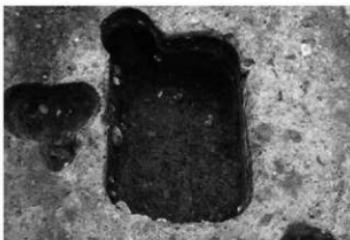


7.SK47・50 完掘 (南西から)

図版 14 西公園高架橋等 II 区 V 層上面 (1)



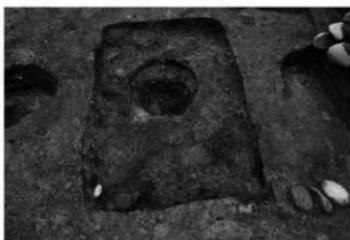
1.SK52 断面（西から）



2.SK52 完掘（東から）



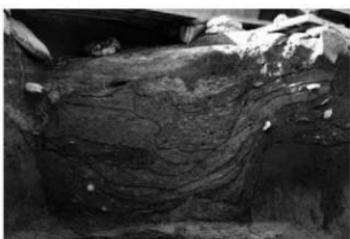
3.SX38 断面（南から）



4.SK38 完掘（東から）



5.SK63 断面（北から）

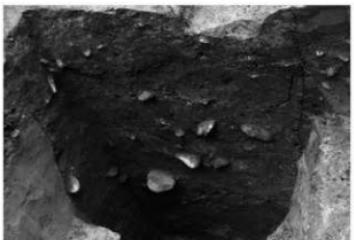


6.SK65・83 断面（南東から）



7.SK81 断面（東から）

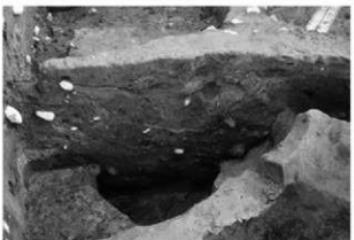
検出遺構写真



1.SK82 断面（東から）



2.SK80 断面（北から）



3.SK79 断面（北から）

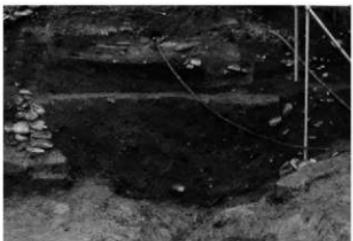


4.SK64 断面（東から）

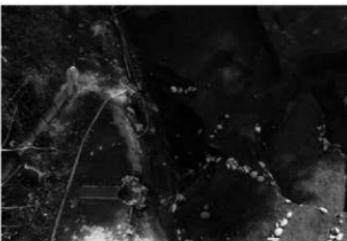


5.SK64・65・79～83 全景（北から）

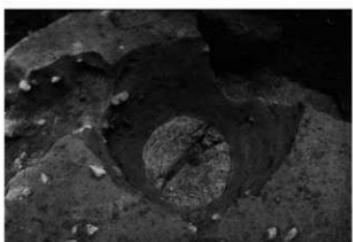
図版 16 西公園高架橋等 II 区 V 層上面（3）



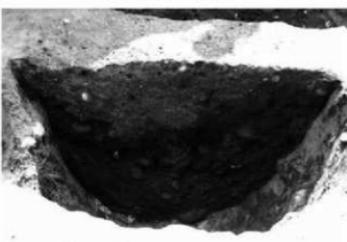
1.SK85 断面（南西から）



2.SK85 完掘（北から）



3.SX10 完掘（東から）



4.SX10 断面（東から）



5.SX11 完掘（北から）



6.SX11 断面（東から）



7.SK1 完掘（東から）



8.SX36 石組棟出（西から）

検出遺構写真



1.5X36 石組（西から）



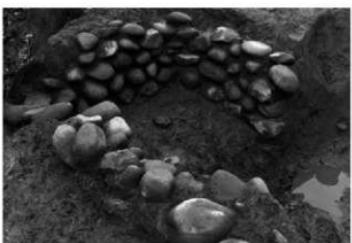
2.5X48 石組検出（東から）



3.5X37 検出（北から）



4.5X37 完掘（西から）



5.5X37 石組（北から）



6.5X68 完掘（北西から）



7.5X49 全景（西から）



8.5X49 断面（南から）

図版 18 西公園高架橋等 II 区 V 層上面 (5)



1.SX51 完掘 (西から)



2.SX51 断面 (東から)



3.SA3 P1 断面 (南から)



4.SA3 P2 断面 (南から)



5.SA3 全景 (東から)



6.SD3 完掘 (東から)

図版 19 西公園高架橋等 II 区 V 層上面 (6)・IV b 層上面 (1)

検出遺構写真



1.SD3 断面（西から）



2.SD4 断面（西から）



3.SD3・4・5 全景（北から）



4.SD22 瓦換出（南から）

図版 20 西公園高架橋等 II 区 IV b 層上面 (2)



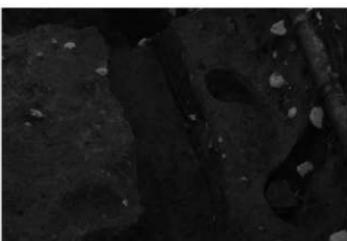
1.5D22 瓦検出（東から）



3.5D22 瓦検出（東から）



2.5D22 断面（西から）



5.5D24 完掘（西から）



4.5D24 断面（西から）

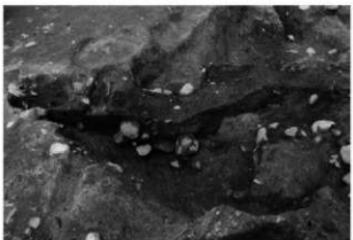


6.5K6 断面（北から）



7.5K8 断面（南から）

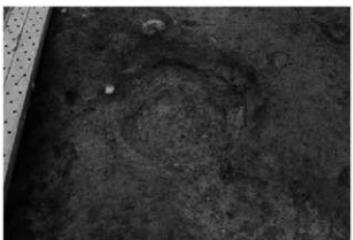
検出遺構写真



1.SK9 断面（西から）



2.SKB・9 全景（北東から）



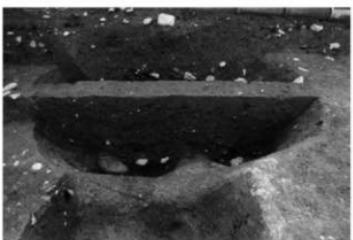
3.SK13 完掘（北から）



4.SK14 完掘（東から）



5.SK29 完掘（東から）

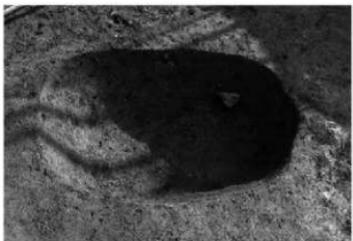


6.SK41 断面（北から）



7.SK41 完掘（北から）

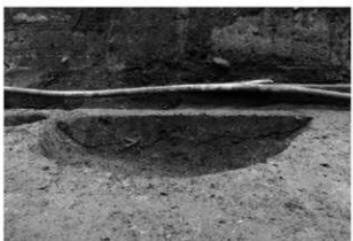
図版 22 西公園高架橋等 II 区 IV b 層上面 (4)



1.SK43 完整（東から）



2.SK43 断面（東から）



3.SK44 断面（西から）



4.SK60 断面（北から）



5.SK61 断面（北から）



6.SX66 断面（西から）



7.SX43 断面（西から）



8.SX43 断面（東から）

図版 23 西公園高架橋等 II 区 IV b 層上面 (5)

検出遺構写真



1.SX55 断面（北から）



2.SX43・SX55 全景（北から）



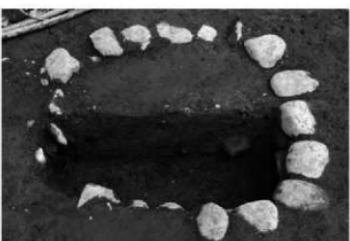
3.SX3 完掘（北東から）



4.SX3 断面（東から）



5.SX19 石組（北から）



6.SX19 断面（西から）



7.SX26 断面（東から）



8.SX28 完掘（東から）

図版 24 西公園高架橋等 II 区 IV b 層上面 (6)



1.SX28 断面（東から）



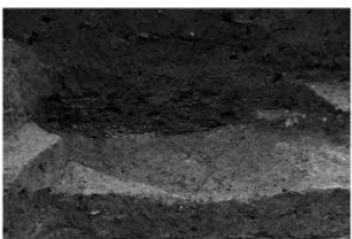
2.SX40 断面（東から）



3.SX40 梱出（北東から）



4.SX40 梱出（北東から）



5.SX44 完掘（東から）



6.SX44 完掘（北東から）

図版 25 西公園高架橋等 II 区 IV b 層上面 (7)

検出遺構写真



1.SX77・SD21 検出（北から）



2.SX77 断面（東から）

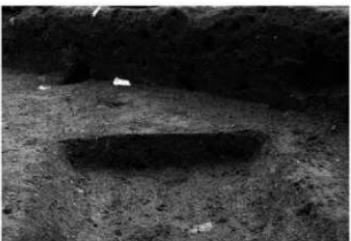


3.SX77・SD21 断面（南から）

図版 26 西公園高架橋等 II 区 IV b 層上面 (8)



1.SD16 完掘（北から）



2.SD16 断面（北から）



3.SD17 完掘（北から）



4.SD17 断面（北から）



5.SE1 石組（東から）



6.SE1 断ち割（東から）

図版 27 西公園高架橋等 II 区 IV a 層上面 (1)

検出遺構写真



1.5E1 断面（東から）



2.5E1 石組（東から）



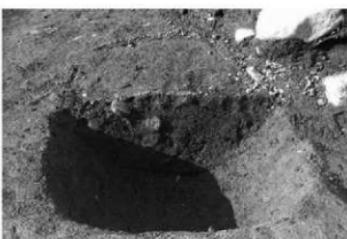
3.SK28 完掘（北から）



4.5K28 断面（東から）



5.SK31 完掘（北東から）



6.5K31 断面（北から）

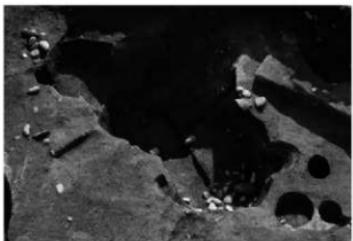


7.SK35 完掘（東から）

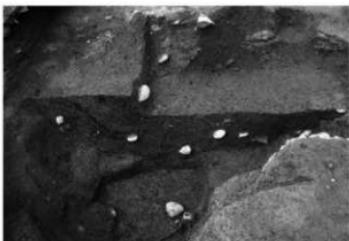


8.5K35 断面（西から）

図版 28 西公園高架橋等 II 区 IV a 層上面（2）



1.SK42・46 全景（北西から）



2.SK46 断面（東から）



3.SK46 ガラス製品出土（南から）



4.SK46 ガラス製品出土（南から）



5.SK49 断面（東から）



6.SK49 全景（北から）



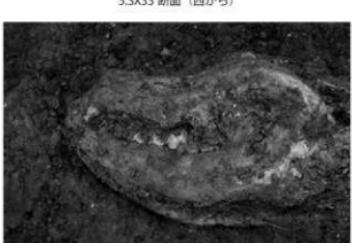
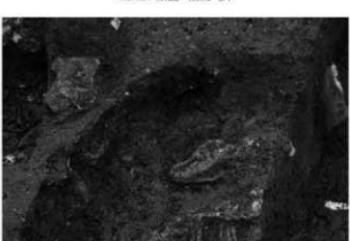
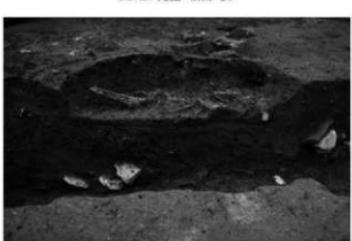
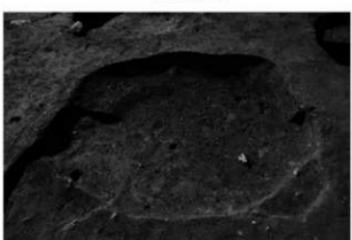
7.SK49 伞下触触出土（北から）



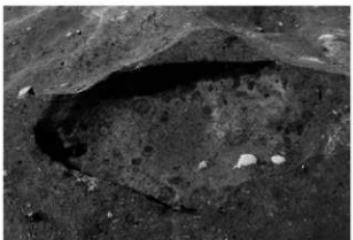
8.SK7 完掘（東から）

図版 29 西公園高架橋等 II 区 IV a 層上面 (3)

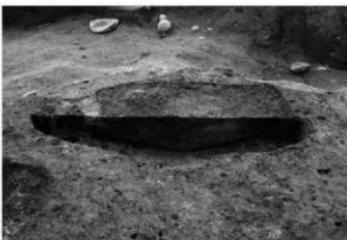
検出遺構写真



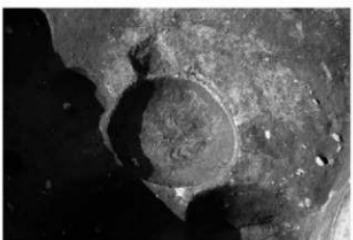
図版 30 西公園高架橋等 II 区 IV a 層上面 (4)



1.5X42 完掘（東から）



2.5X42 断面（東から）



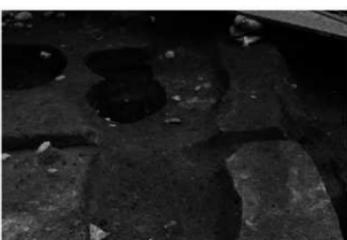
3.5X46 完掘（北から）



4.5X46 断面（南から）



5.5X52 一分判金出土（西から）



7.5D19・SK25 完掘（北から）



6. IV a 層遺物出土（北から）

検出遺構写真



1.SD7・SX18全景（東から）



2.SD7・SX18断面（北から）



3.SX18 遺物出土（北東から）



4.SD19 断面（北から）



5.SK25 断面（北から）

図版 32 西公園高架橋等 II 区 IV a 層上面 (6)・III b 層上面 (1)



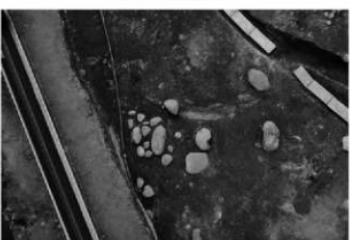
1.SD20・SK36・39・40全景（北から）



2.SK36断面（西から）



3.SK2断面（北から）



4.SK24検出（北から）



5.SK24断面（西から）



6.SK24出土遺物（北から）



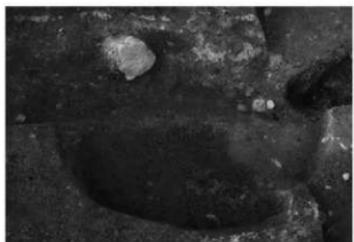
7.SK26完掘（東から）



8.SK26断面（東から）

図版 33 西公園高架橋等 II 区 III b 層上面 (2)

検出遺構写真



1.SK32 完掘（北から）



2.SK37 完掘（西から）



3.SK37 断面（西から）



4.SK38 完掘（北から）



5.SK38 断面（北から）



6.SK84 完掘（北から）



7.SK84 断面（南西から）



8.SK1 完掘（北から）

図版 34 西公園高架橋等Ⅱ区 III b 層上面（3）



1.SX1 断面（東から）



2.5X2 完成（北から）



3.SX2 断面（北から）



4.SX25 石組（北から）



5.SX25 断面（西から）



6.SX29 完成（北から）



7.SX32 断面（西から）



8.SX35 断面（西から）

図版 35 西公園高架橋等 II 区 III b 層上面 (4)

検出遺構写真



1.SX39 断面（西から）



2.SD1 断面（北から）

3.SD1 完底（北東から）



4.SB1 全景（北から）

図版 36 西公園高架橋等 II 区 III b 層上面 (5) • III a 層上面 (1)



1.SA2 梱出（北から）



2.SA2 石組（南から）



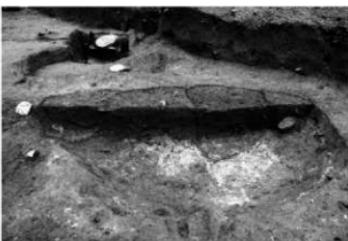
3.SD10 全景（南から）



4.SD11 完掘（東から）



5.SD10 断面（南から）



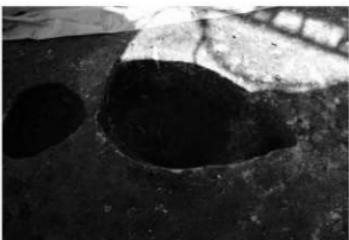
6.SK3 断面（北から）

図版 37 西公園高架橋等 II 区 III a 層上面 (2)

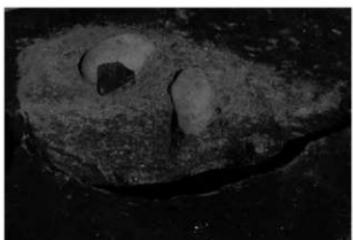
検出遺構写真



1.SK3+4 全景（北から）



2.SK17 完掘（西から）



3.SK17 断面（西から）



4.SK18 完掘（南から）



5.SK18 断面（東から）



6.SX4 断面（東から）



7.SX4 遺物出土（北東から）



8.SX12 石組（南から）

図版 38 西公園高架橋等 II 区 III a 層上面 (3)



1.SX12 断面（南から）



2.SX15 完成（南から）



3.SX15 断面（西から）



4.SX17 検出（東から）



5.SX17 断面（東から）



6.SX22 断面（東から）



7.SX31 断面（北から）



8. 瓦出土状況（北から）

図版 39 西公園高架橋等 II 区 III a 層上面 (4)

検出遺構写真



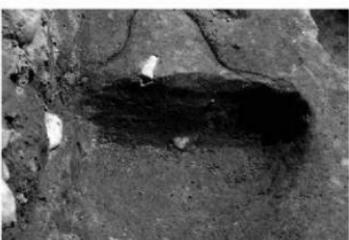
1. トレンチ 1 VII層上面（南から）



2. トレンチ 1 SD1 断面（西から）



3. トレンチ 1 III a2 層上面（南から）



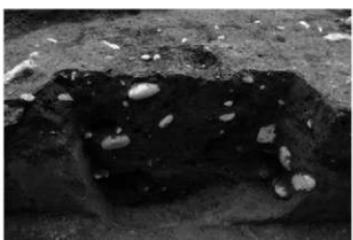
4. トレンチ 1 SK5 断面（北から）



5. トレンチ 1 SK6 断面（南から）



6. トレンチ 1 SK8 断面（東から）



7. トレンチ 1 SK1 断面（東から）



8. トレンチ 1 SK3 断面（南から）

図版 40 西公園高架橋等 I 区（排水管部）（1）



1. トレンチ 1 SK4 断面（東から）



2. トレンチ 1 SK7 断面（東から）



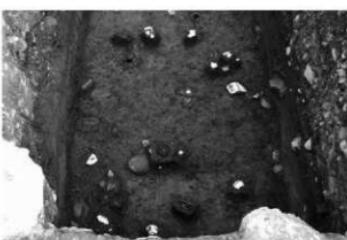
3. トレンチ 2 全景（北から）



4. トレンチ 2 SK9 断面（東から）



5. トレンチ 2 SK10 断面（北から）



6. トレンチ 2 III a2 層遺物出土（北から）



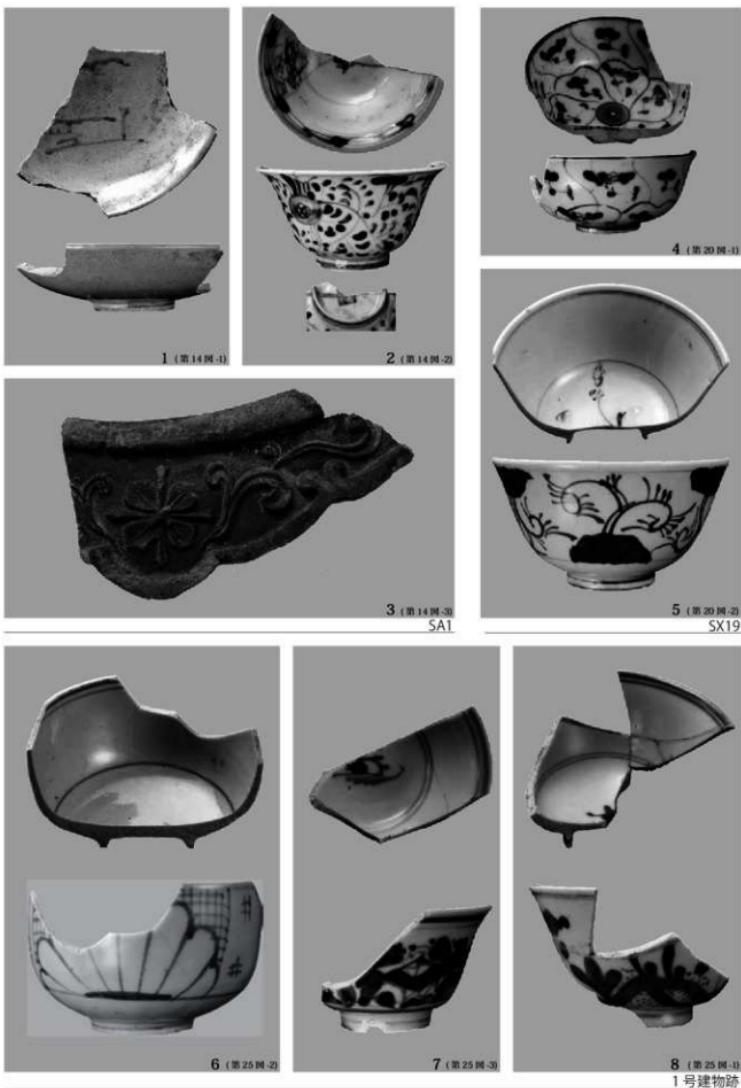
7. トレンチ 3（東から）



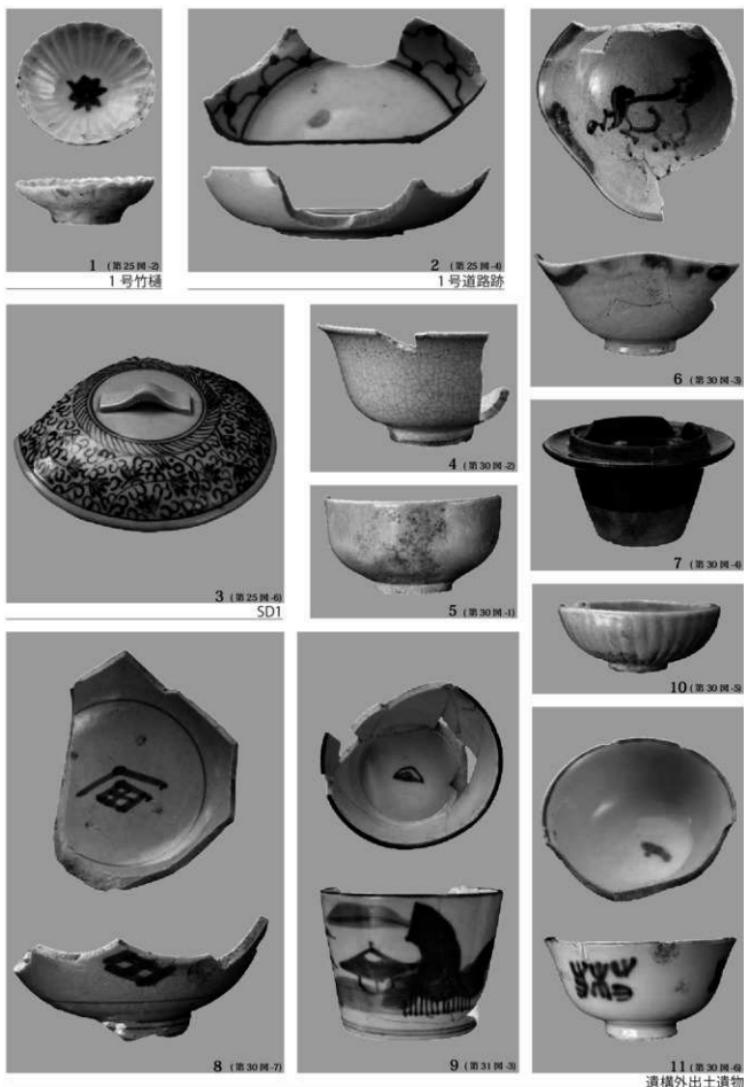
8. トレンチ 3 全景（南から）

図版 41 西公園高架橋等 I 区（排水管部）（2）

出土遺物写真

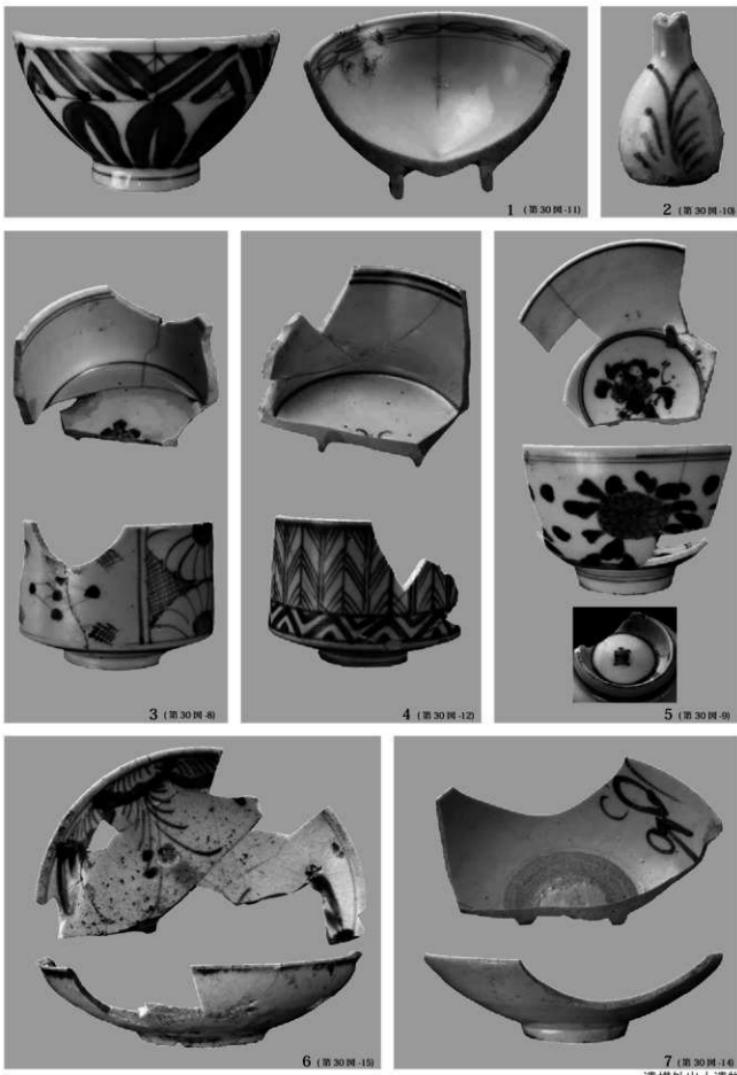


図版 42 西公園高架橋等 I 区 VII層上面遺構出土遺物(1)

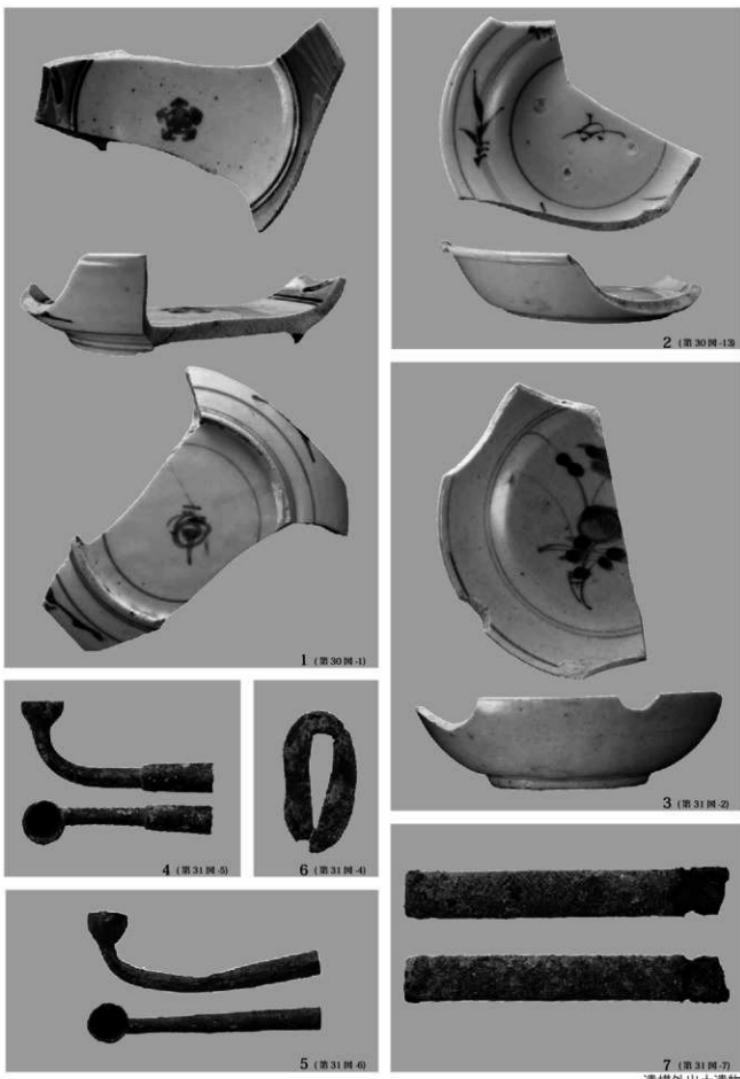


図版 43 西公園高架橋等 I 区 VII層・II層上面遺構出土遺物・遺構外出土遺物(1)

出土遺物写真

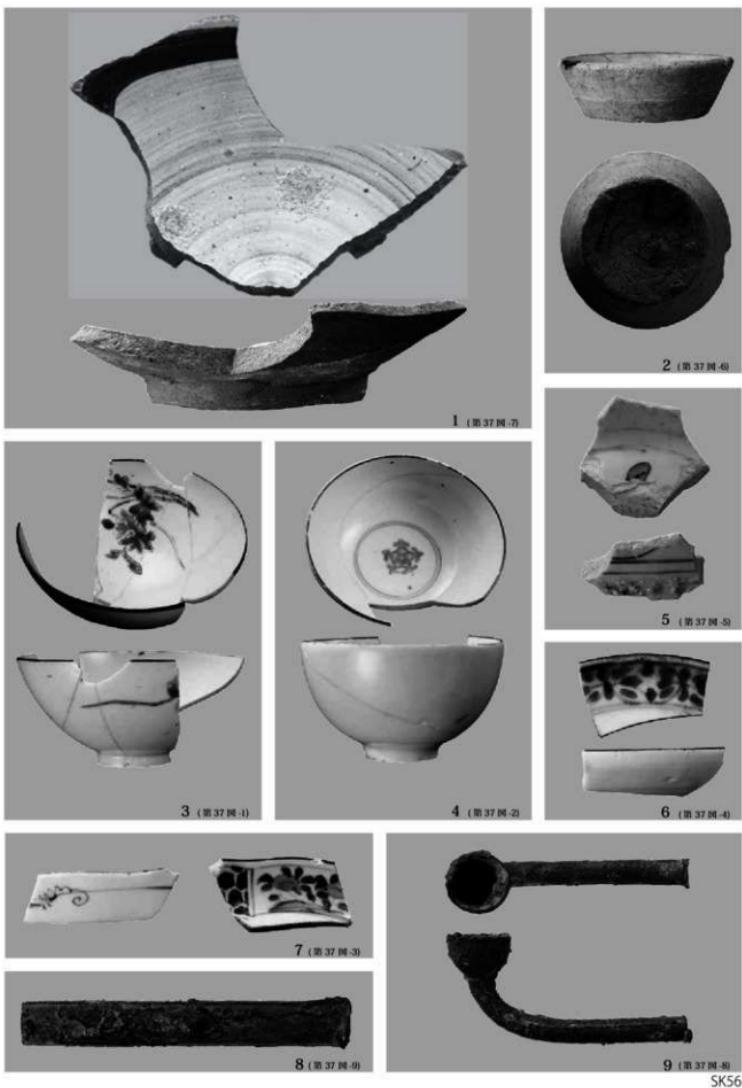


図版 44 西公園高架橋等1区 遺構外出土遺物(2)

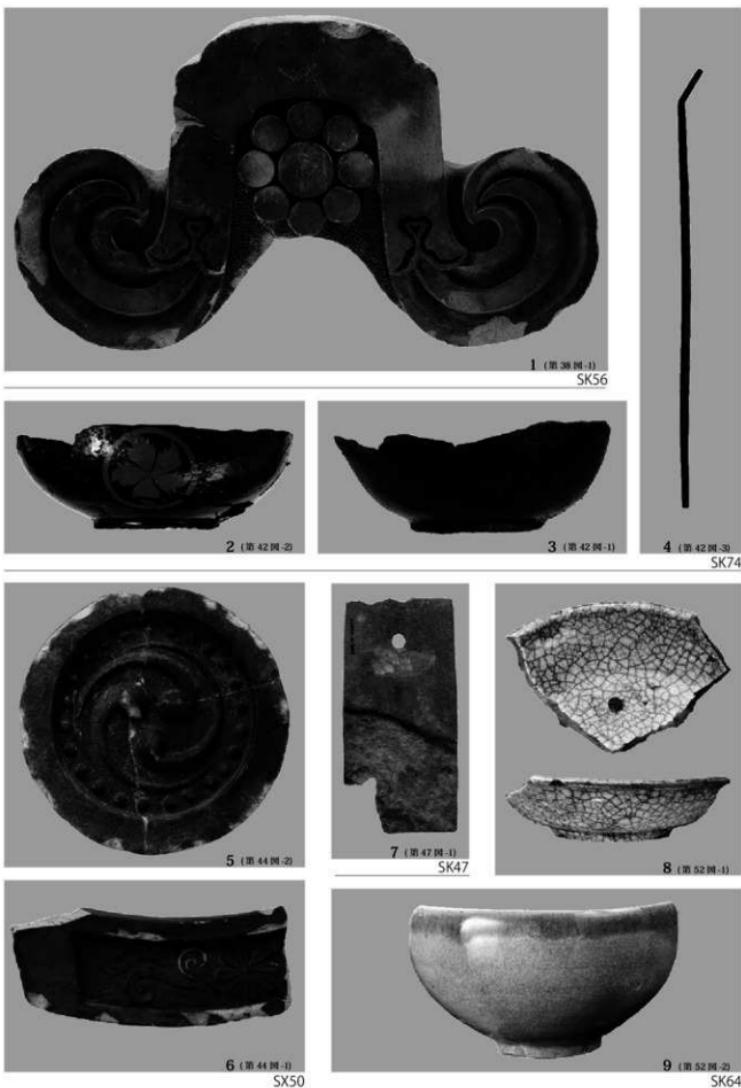


図版 45 西公園高架橋等 I 区 遺構外出土遺物 (3)

出土遺物写真

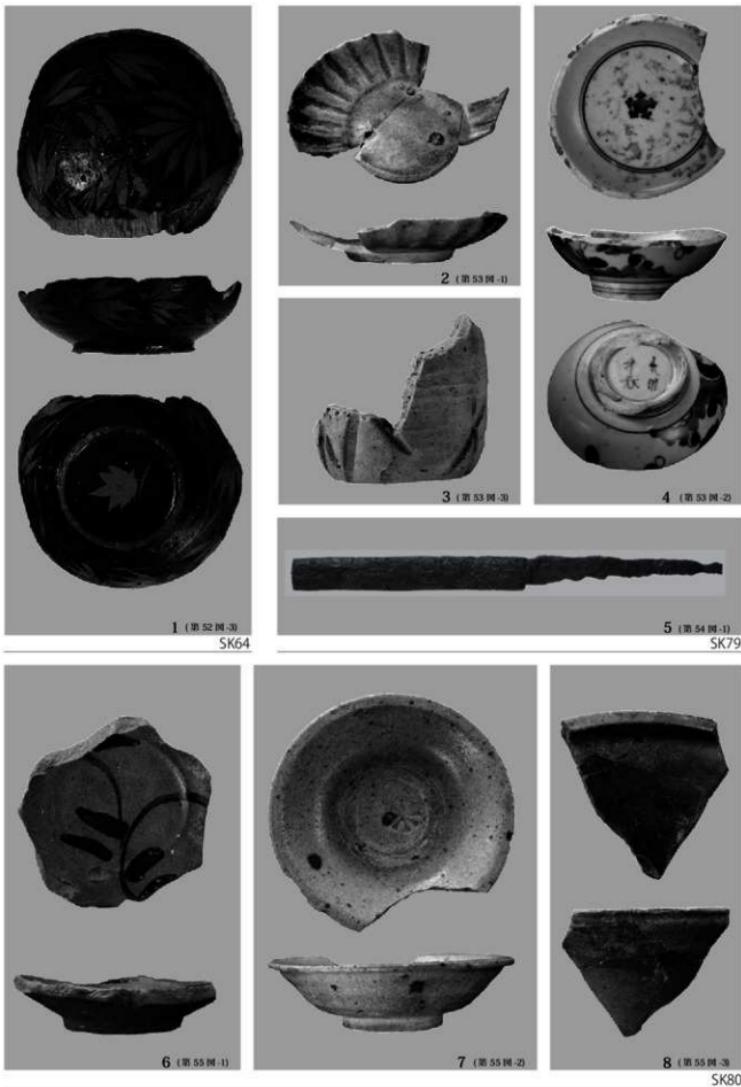


図版 46 西公園高架橋等 II 区 VI・VII 層上面遺構出土遺物 (1)



図版 47 西公園高架橋等 II 区 VI・VII 層上面遺構出土遺物 (2)・V 層上面遺構出土遺物 (1)

出土遺物写真

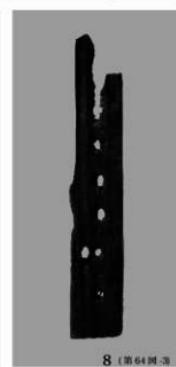
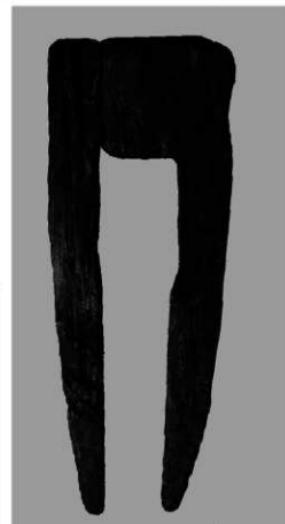
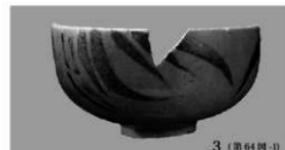


図版 48 西公園高架橋等 II 区 V 層上面遺構出土遺物 (2)

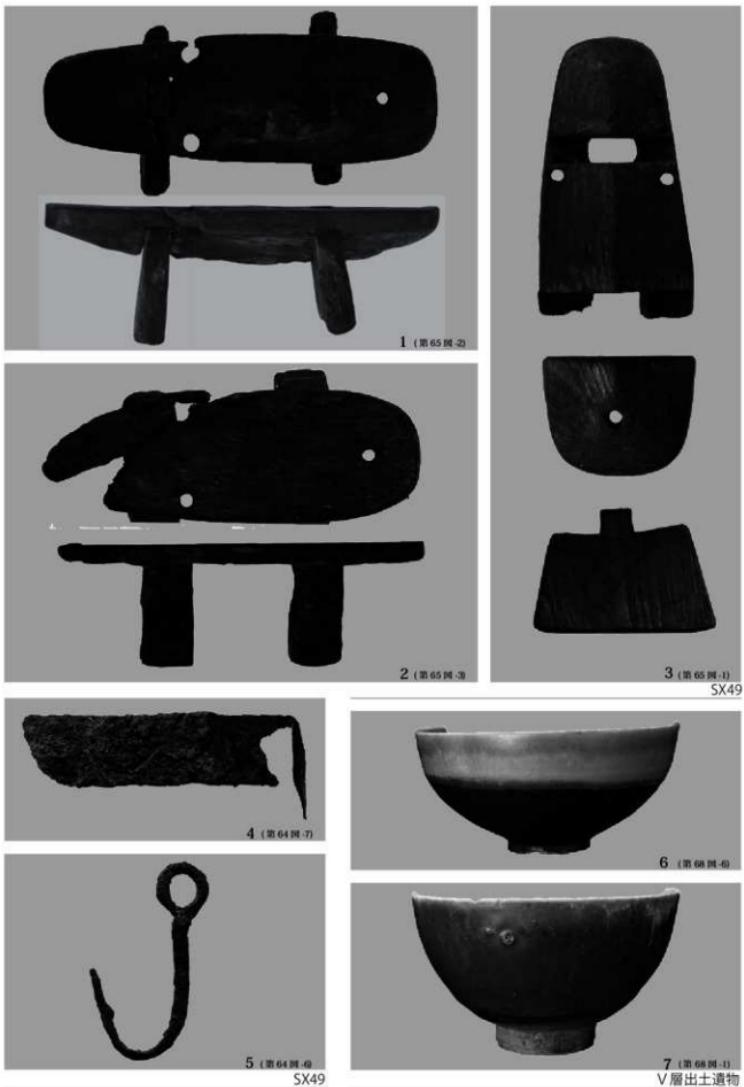


図版 49 西公園高架橋等 II 区 V 層上面遺構出土遺物 (3)

出土遺物写真



図版 50 西公園高架橋等 II 区 V 層上面遺構出土遺物 (4)

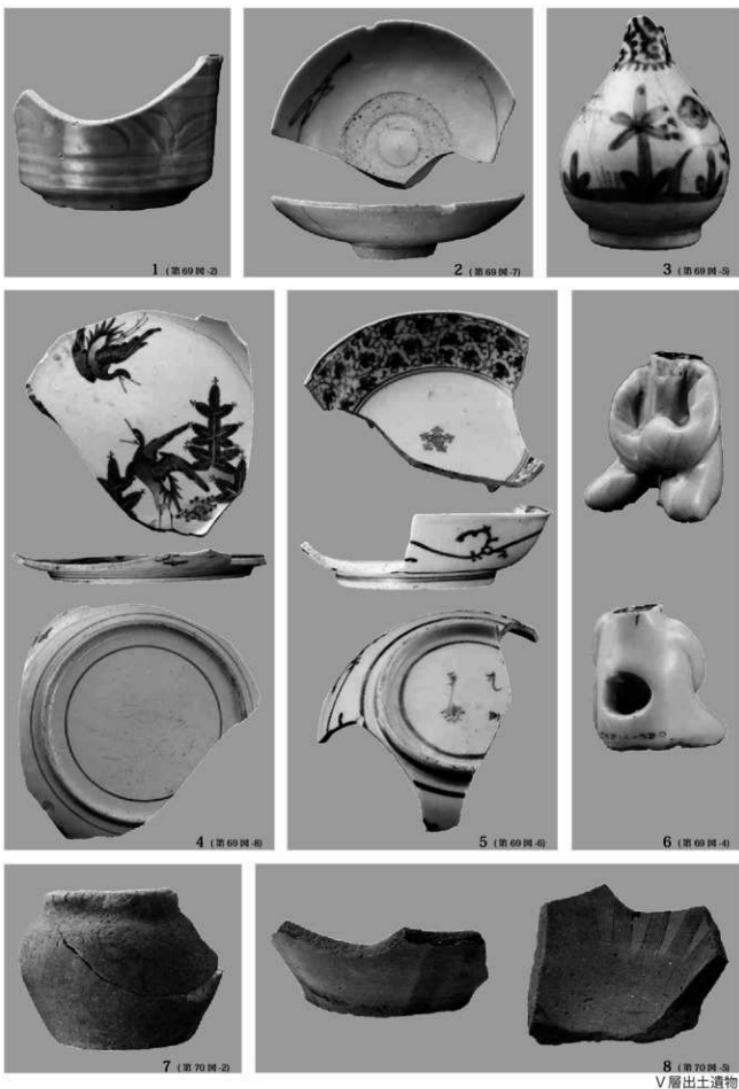


図版 51 西公園高架橋等 II 区 V 層上面遺構出土遺物 (5)・遺構外出土遺物 (1)

出土遺物写真

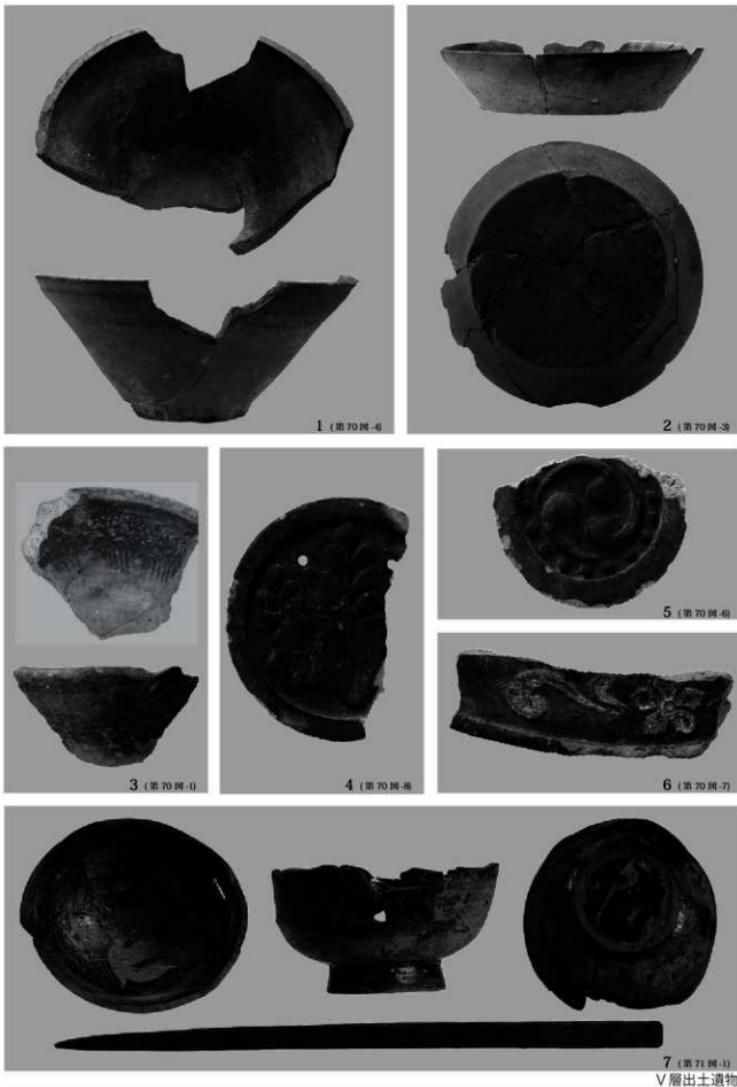


図版 52 西公園高架橋等 II 区 V 層遺構外出土遺物 (2)

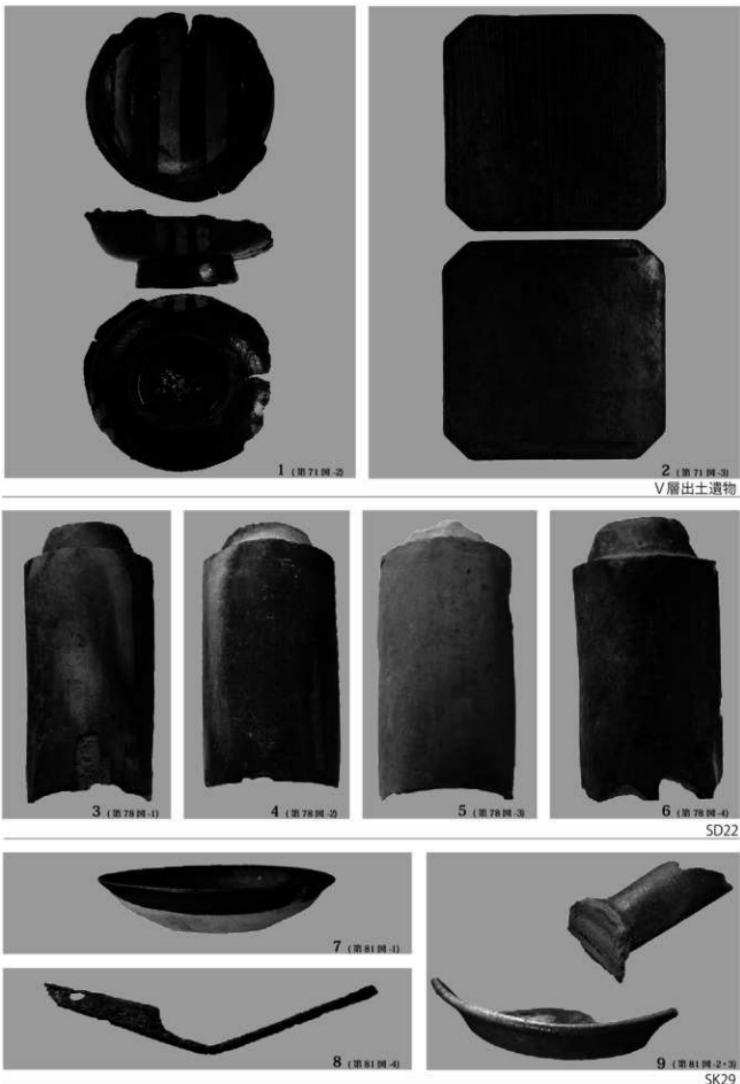


図版 53 西公園高架橋等 II 区 V 層遺構外出土遺物 (3)

出土遺物写真



図版 54 西公園高架橋等II区 V層遺構外出土遺物(4)

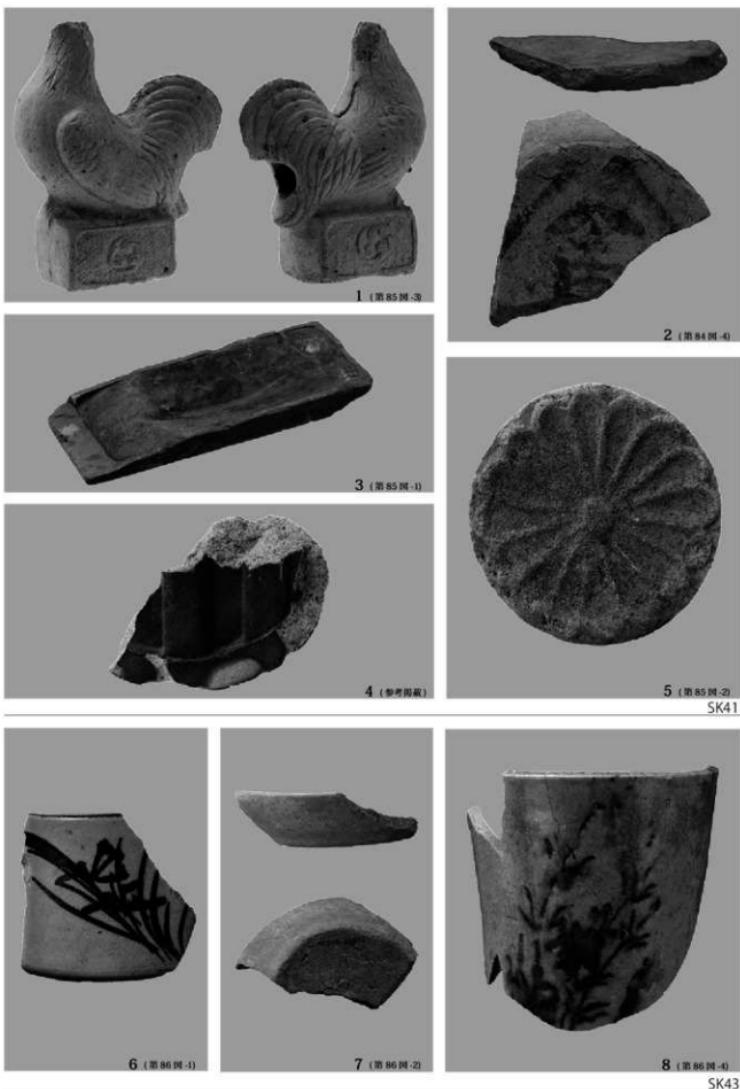


図版 55 西公園高架橋等 II 区 V 層遺構外出土遺物 (5)・IV b 層上面遺構出土遺物 (1)

出土遺物写真

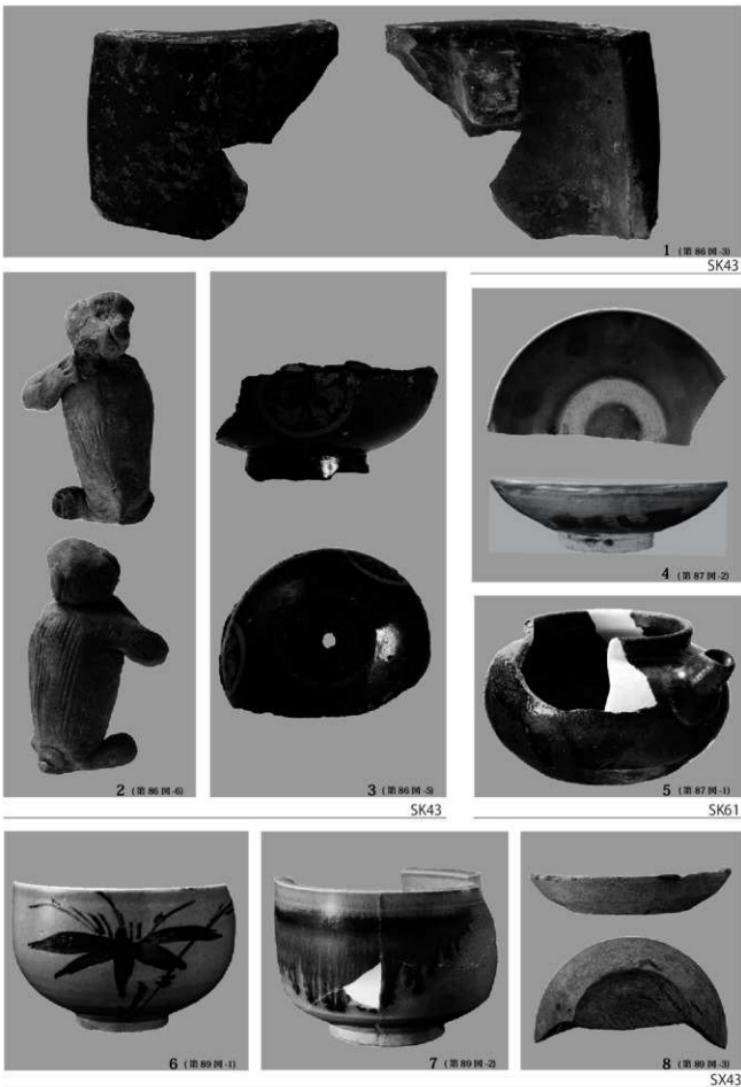


図版 56 西公園高架橋等 II 区 IV b 層上面遺構出土遺物 (2)

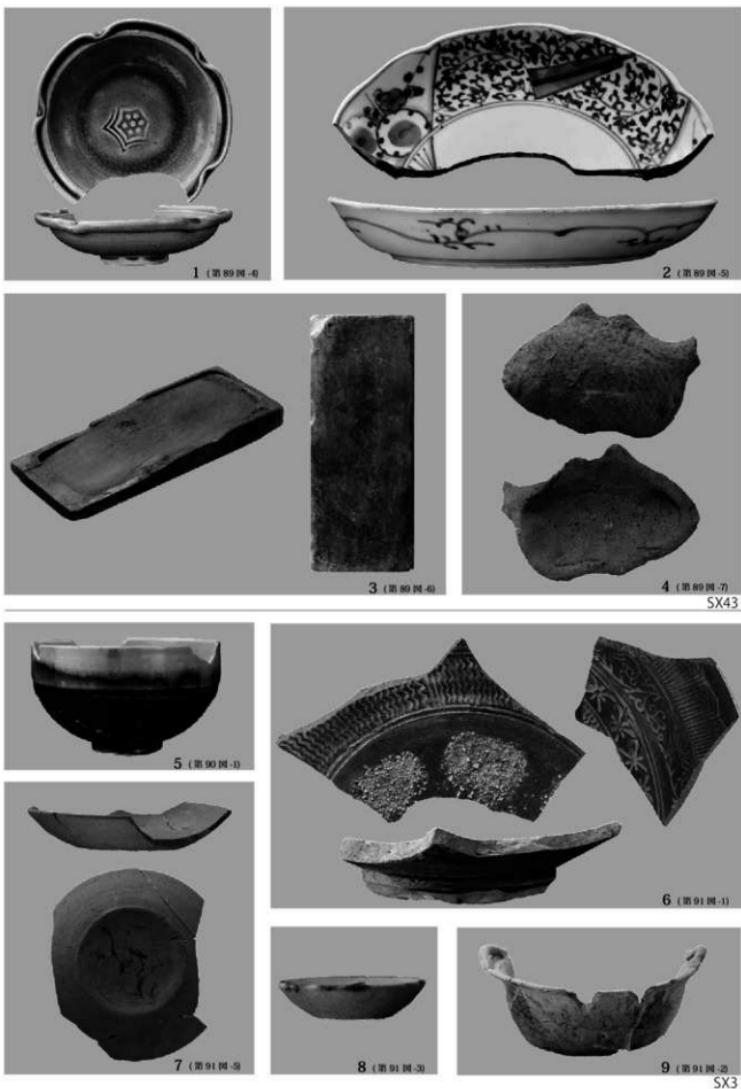


図版 57 西公園高架橋等 II 区 IV b 層上面遺構出土遺物 (3)

出土遺物写真



図版 58 西公園高架橋等 II 区 IV b 層上面遺構出土遺物 (4)

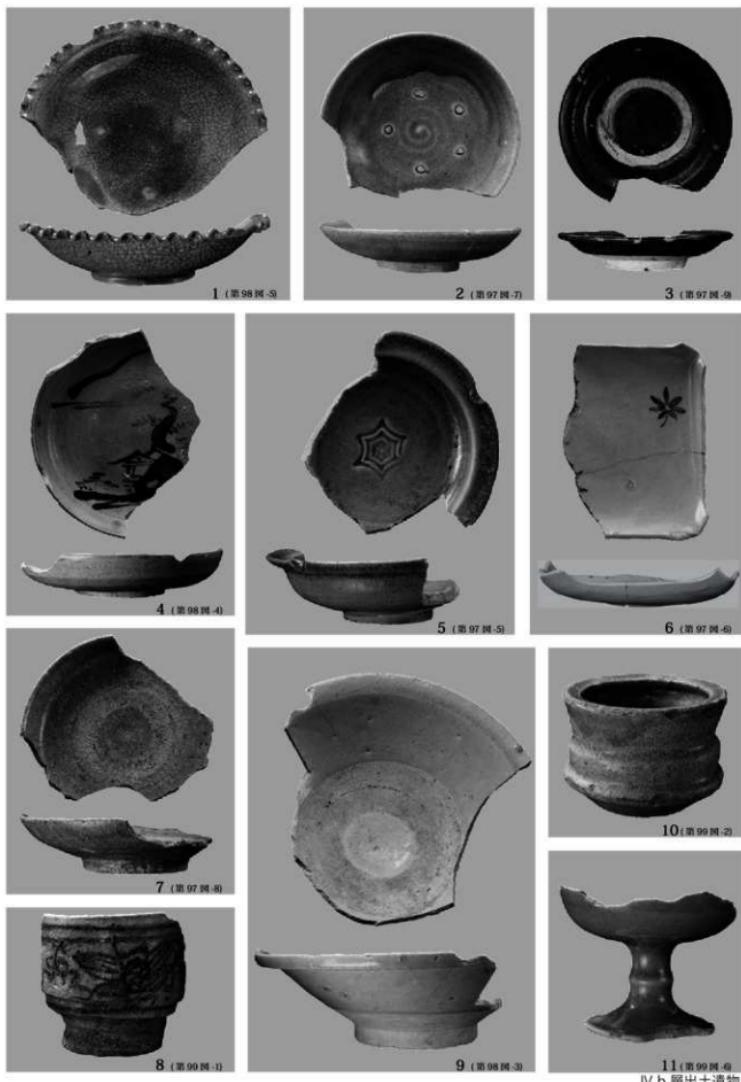


図版 59 西公園高架橋等 II 区 IV b 層上面遺構出土遺物 (5)

出土遺物写真



図版 60 西公園高架橋等 II 区 IV b 層上面遺構出土遺物 (6)・遺構外出土遺物 (1)



図版 61 西公園高架橋等 II 区 IV b 層遺構外出土遺物 (2)

出土遺物写真

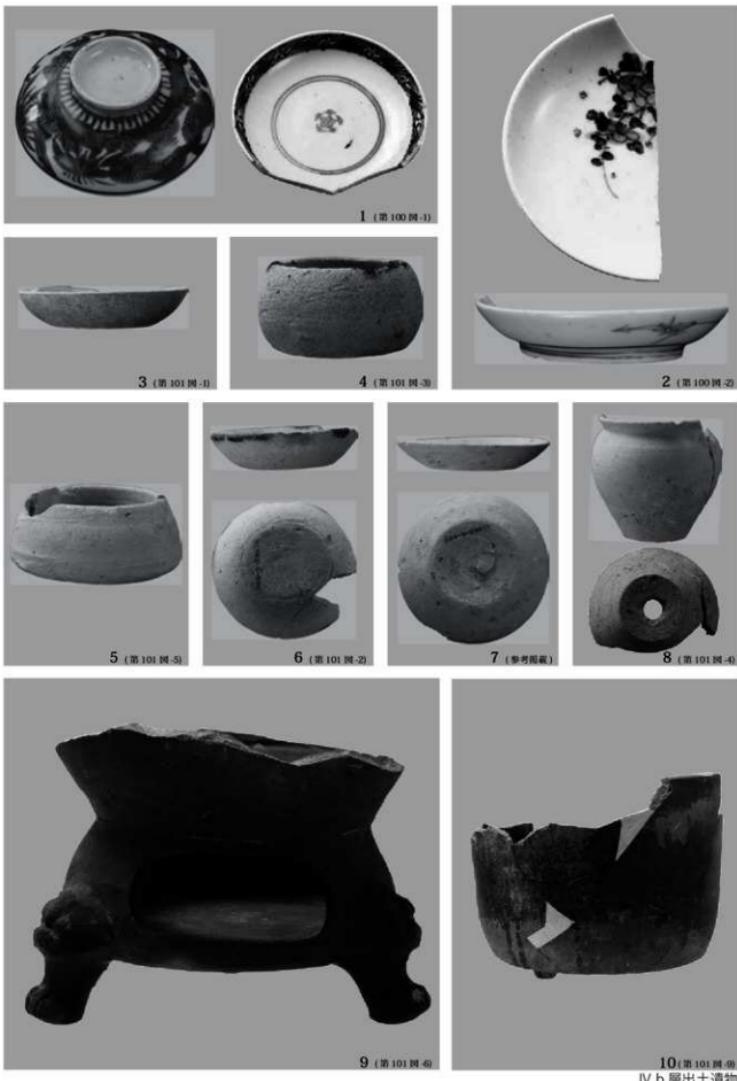


図版 62 西公園高架橋等 II 区 IV b 層遺構外出土遺物 (3)



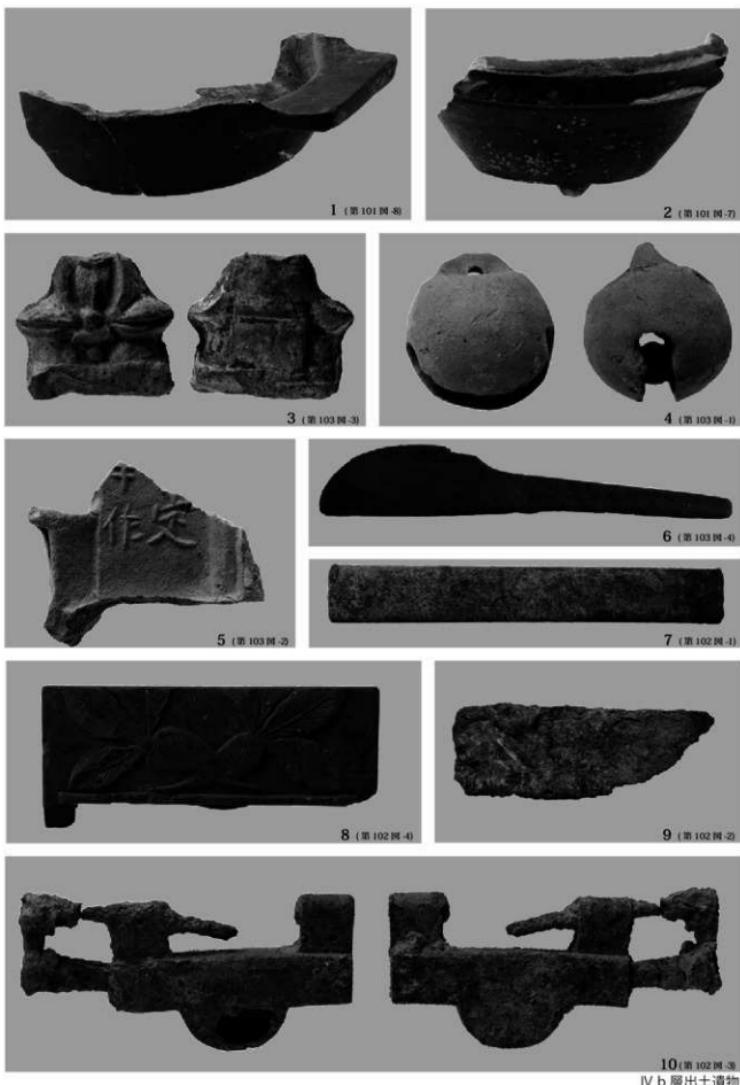
図版 63 西公園高架橋等 II 区 IV b 層遺構外出土遺物 (4)

出土遺物写真



図版 64 西公園高架橋等 II 区 IV b 層遺構外出土遺物 (5)

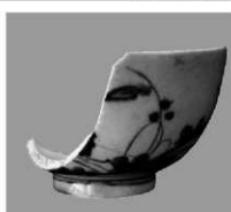
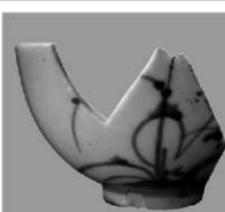
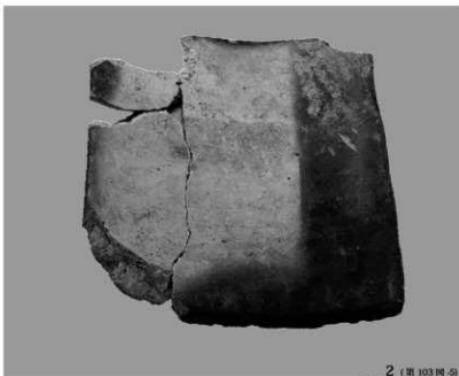
IV b 層出土遺物



図版 65 西公園高架橋等 II 区 IV b 層遺構外出土遺物 (6)

IV b 層出土遺物

出土遺物写真



図版 66 西公園高架橋等 II 区 IV b 層遺構外出土遺物 (7)・IV a 層上面遺構出土遺物 (1)



図版 67 西公園高架橋等 II 区 IV a 層上面遺構出土遺物 (2)

出土遺物写真



1 (第112図-3)



2 (第112図-9)



3 (第112図-8)



4 (第112図-4)



5 (第112図-7)

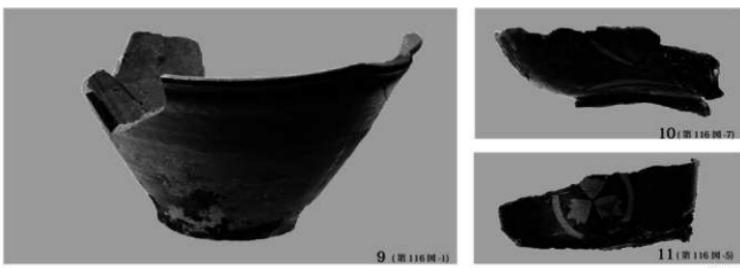
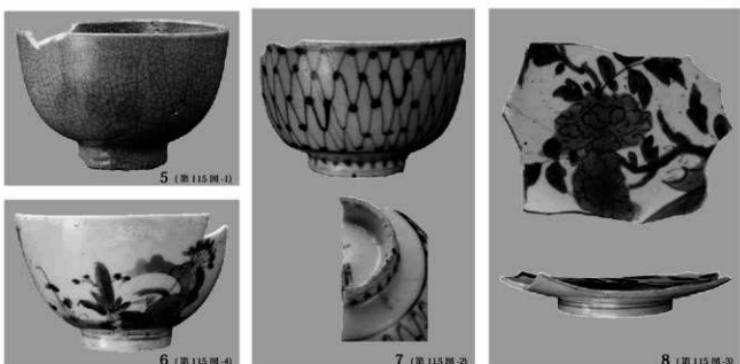


6 (第112図-6)
SK46

図版 68 西公園高架橋等 II 区 IV a 層上面遺構出土遺物 (3)



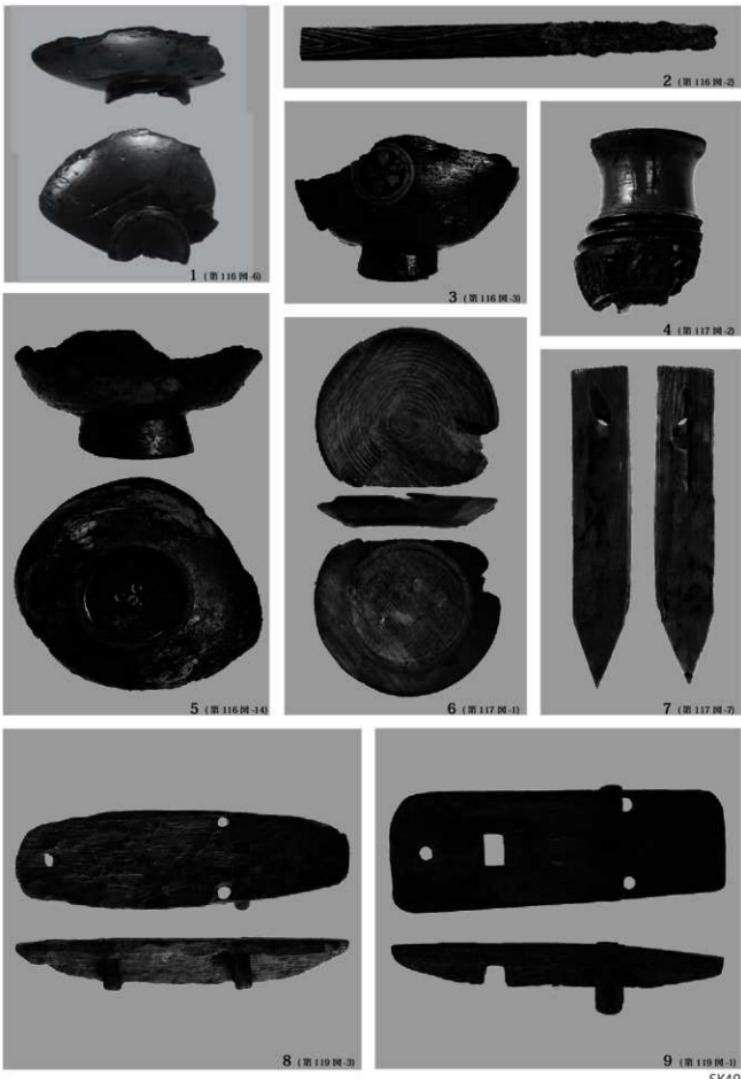
SK46



SK49

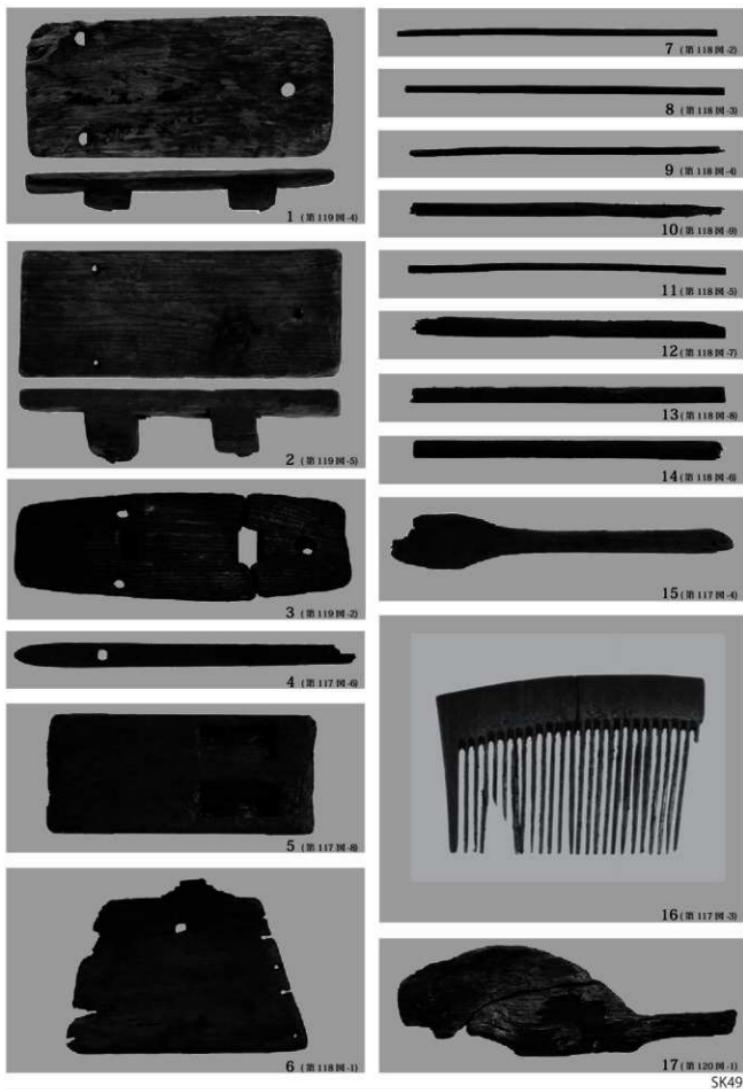
図版 69 西公園高架橋等 II 区 IV a 層上面遺構出土遺物 (4)

出土遺物写真



図版 70 西公園高架橋等 II 区 IV a 層上面遺構出土遺物 (5)

SK49



図版 71 西公園高架橋等 II 区 IV a 層上面遺構出土遺物 (6)

出土遺物写真



1 (第117図-5)



2 (第120図-2)
SK49



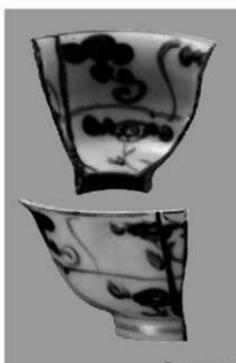
3 (第124図-1)



4 (第124図-2)



5 (第124図-3)



6 (第124図-3)



7 (第124図-4)

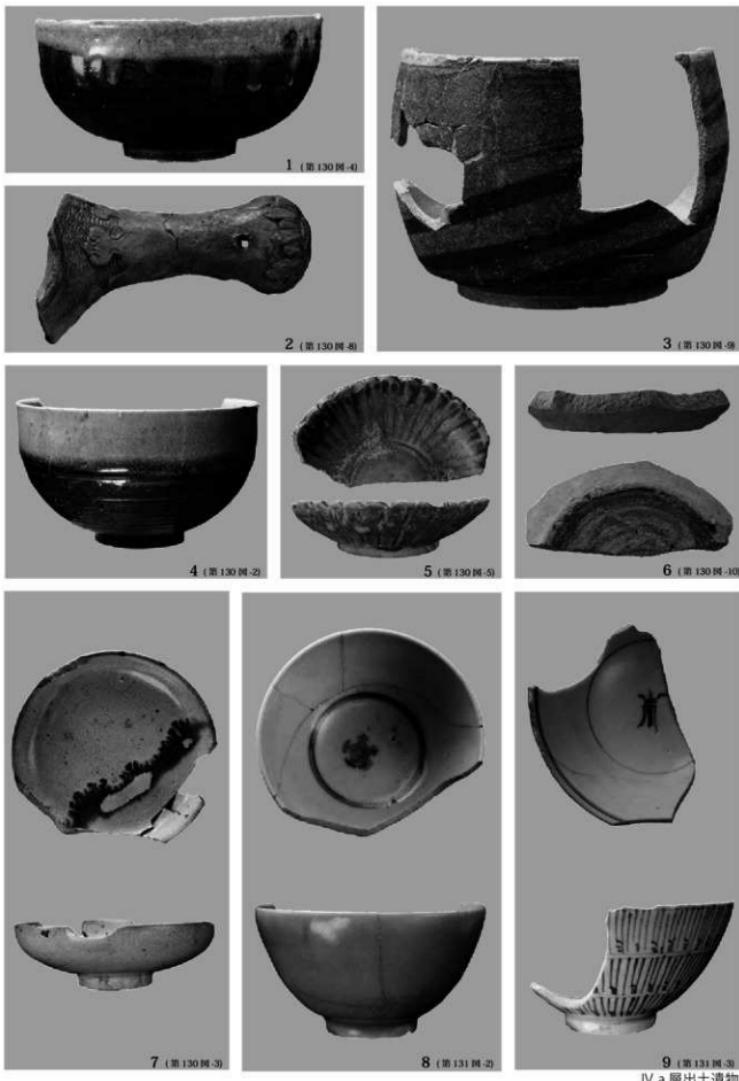


8 (第124図-5)
SX21

図版 72 西公園高架橋等 II 区 IV a 層上面遺構出土遺物 (7)



出土遺物写真



図版 74 西公園高架橋等 II 区 IV a 層遺構外出土遺物 (2)



1 (第 131 図-5)



2 (第 131 図-1)



3 (第 131 図-8)



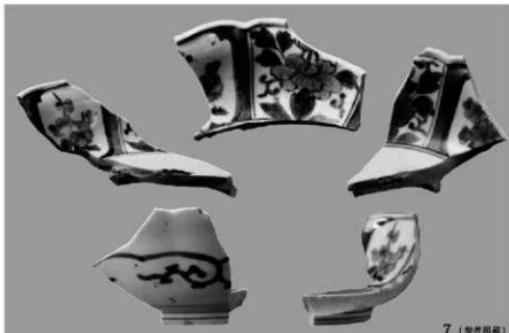
4 (第 131 図-7)



5 (第 131 図-6)



6 (第 131 図-9)



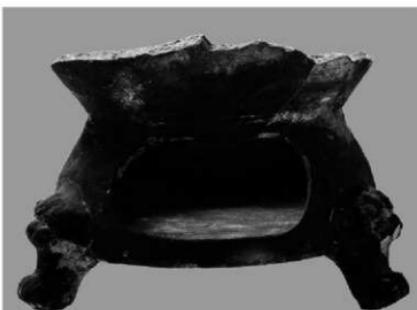
7 (参考撮影)
IV a 層出土遺物

図版 75 西公園高架橋等 II 区 IV a 層遺構外出土遺物 (3)

出土遺物写真



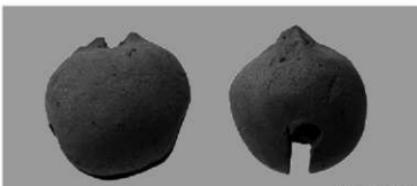
1 (第131図-4)



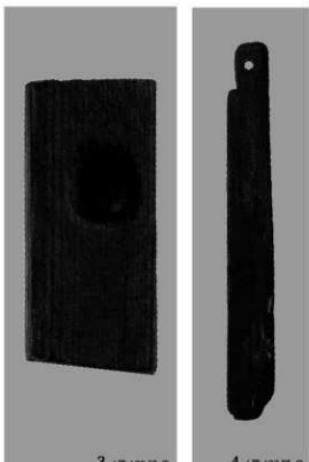
2 (参考撮影)



5 (第132図-1)



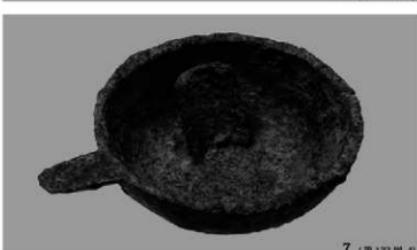
6 (第132図-2)



3 (第132図-3)

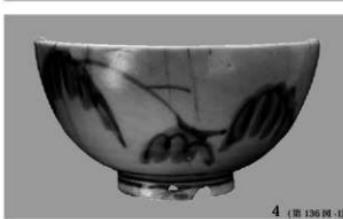


4 (第132図-4)



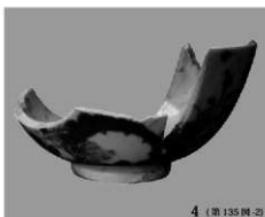
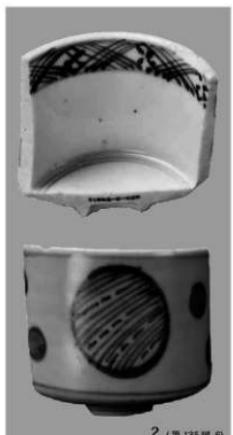
7 (第132図-5)
IV a 層出土遺物

図版 76 西公園高架橋等II区 IV a 層遺構外出土遺物 (4)

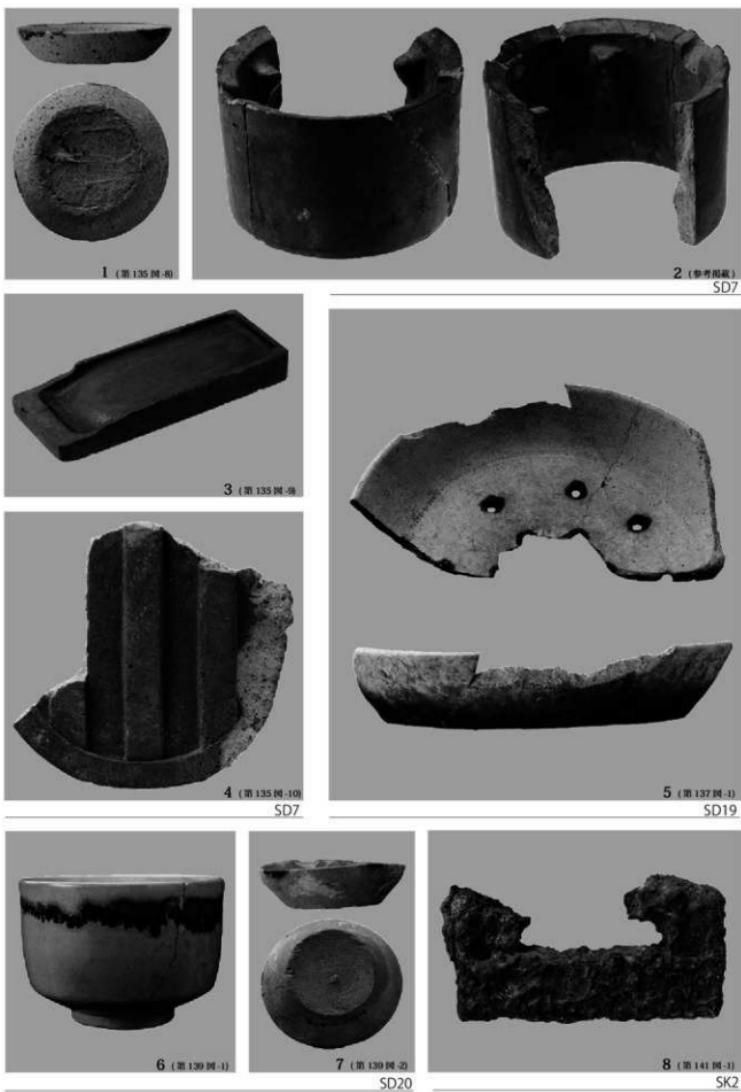


図版 77 西公園高架橋等 II 区 IV a 層遺構外出土遺物 (5)・III b 層上面遺構出土遺物 (1)

出土遺物写真



図版 78 西公園高架橋等 II 区 III b 層上面遺構出土遺物 (2)

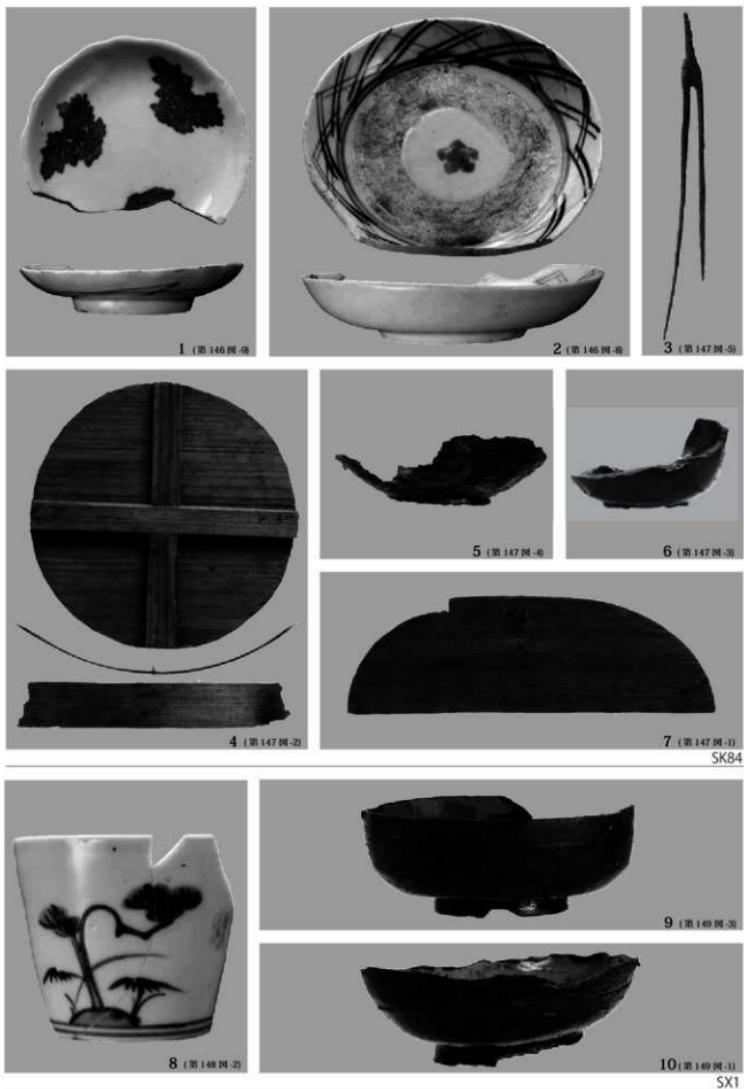


図版 79 西公園高架橋等II区 III b層上面遺構出土遺物(3)

出土遺物写真

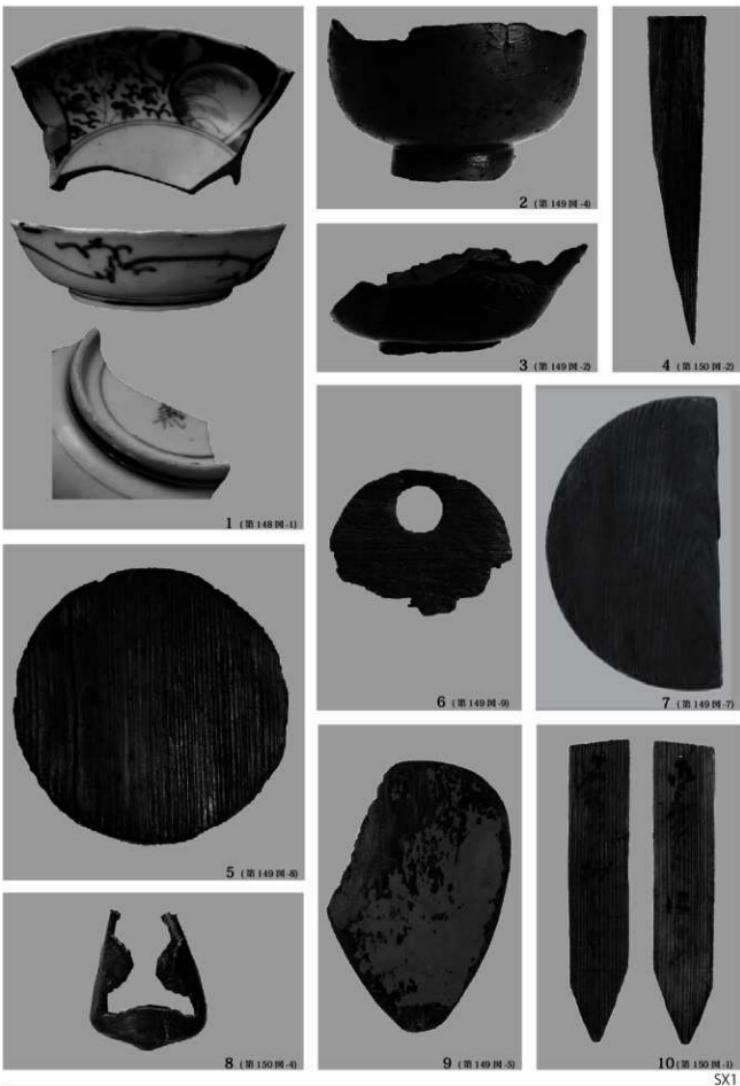


図版 80 西公園高架橋等 II 区 III b 層上面遺構出土遺物 (4)

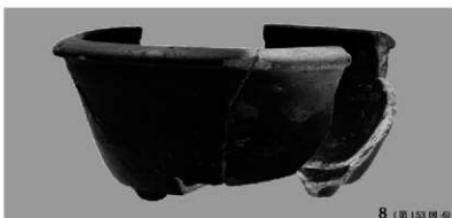
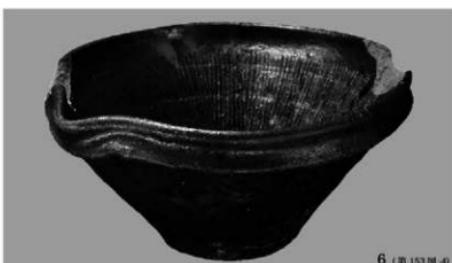
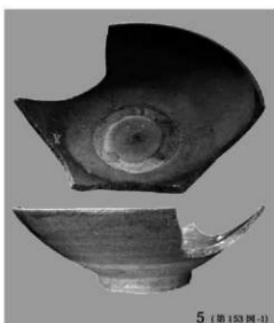
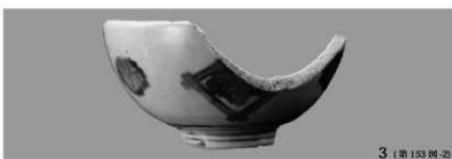
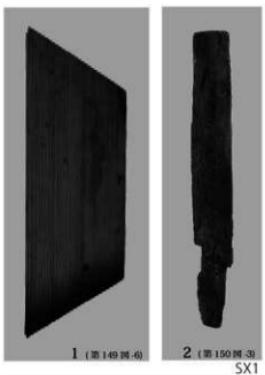


図版 81 西公園高架橋等 II 区 III b 層上面遺構出土遺物 (5)

出土遺物写真

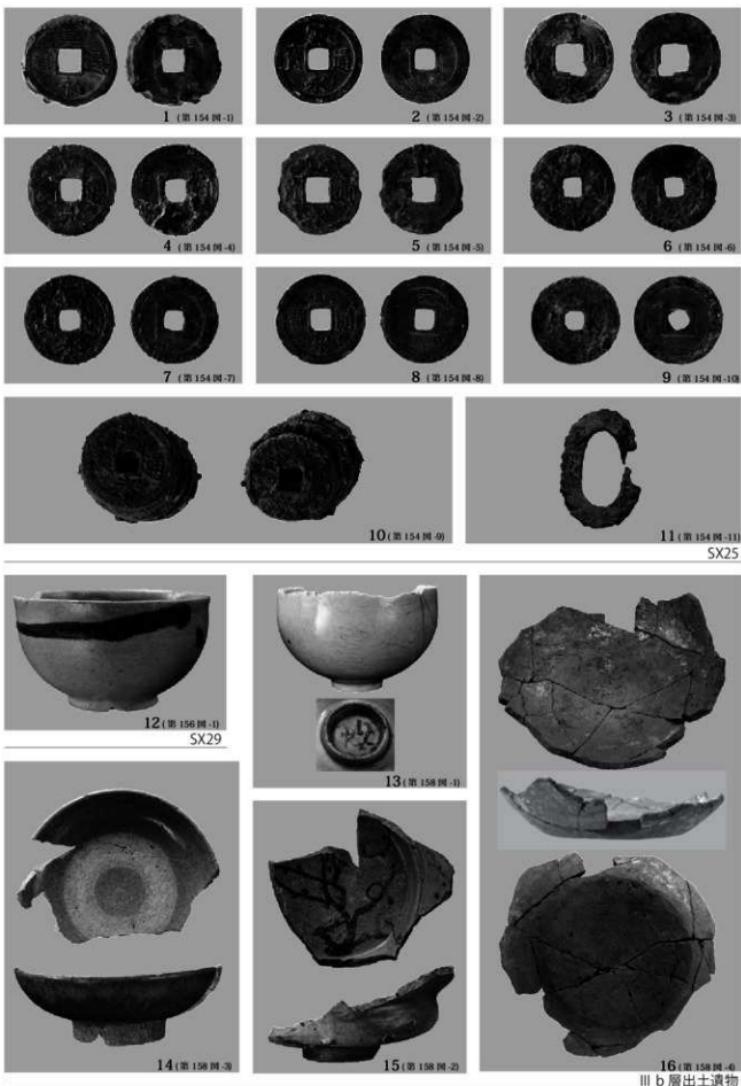


図版 82 西公園高架橋等 II 区 III b 層上面遺構出土遺物 (6)



図版 83 西公園高架橋等 II 区 III b 層上面遺構出土遺物 (7)

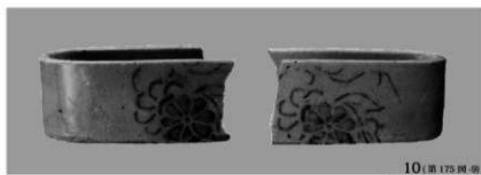
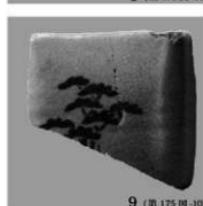
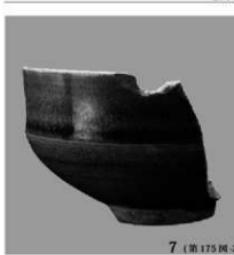
出土遺物写真



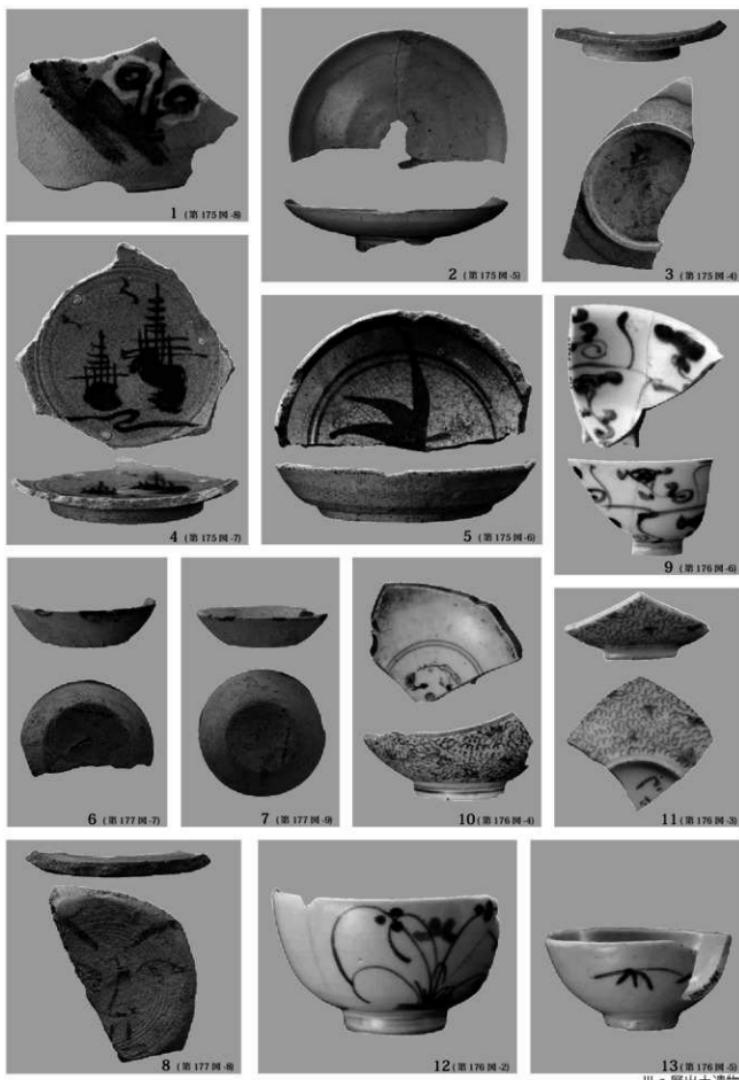


図版 85 西公園高架橋等 II 区 III b 層構造外出土遺物 (2)

出土遺物写真



図版 86 西公園高架橋等 II 区 III a 層上面遺構出土遺物・遺構外出土遺物 (1)

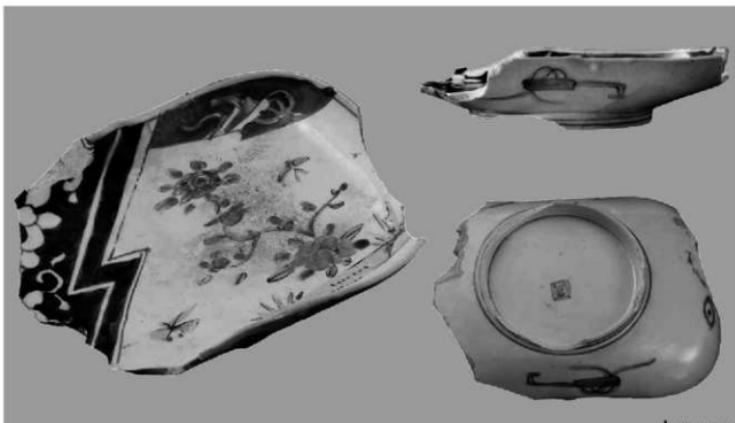


図版 87 西公園高架橋等 II 区 III a 層遺構外出土遺物 (2)

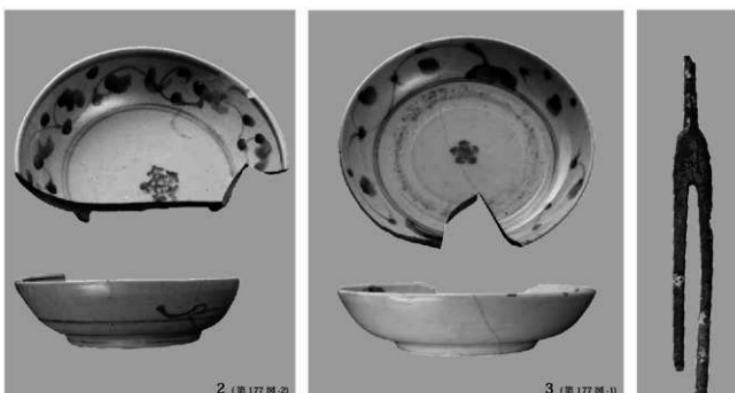
出土遺物写真



図版 88 西公園高架橋等 II 区 III a 層造構外出土遺物 (3)



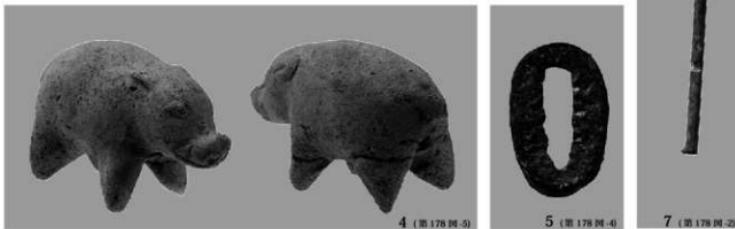
1 (第 176 図-10)



2 (第 177 図-2)

3 (第 177 図-3)

III a 層出土遺物



4 (第 178 図-3)

5 (第 178 図-4)

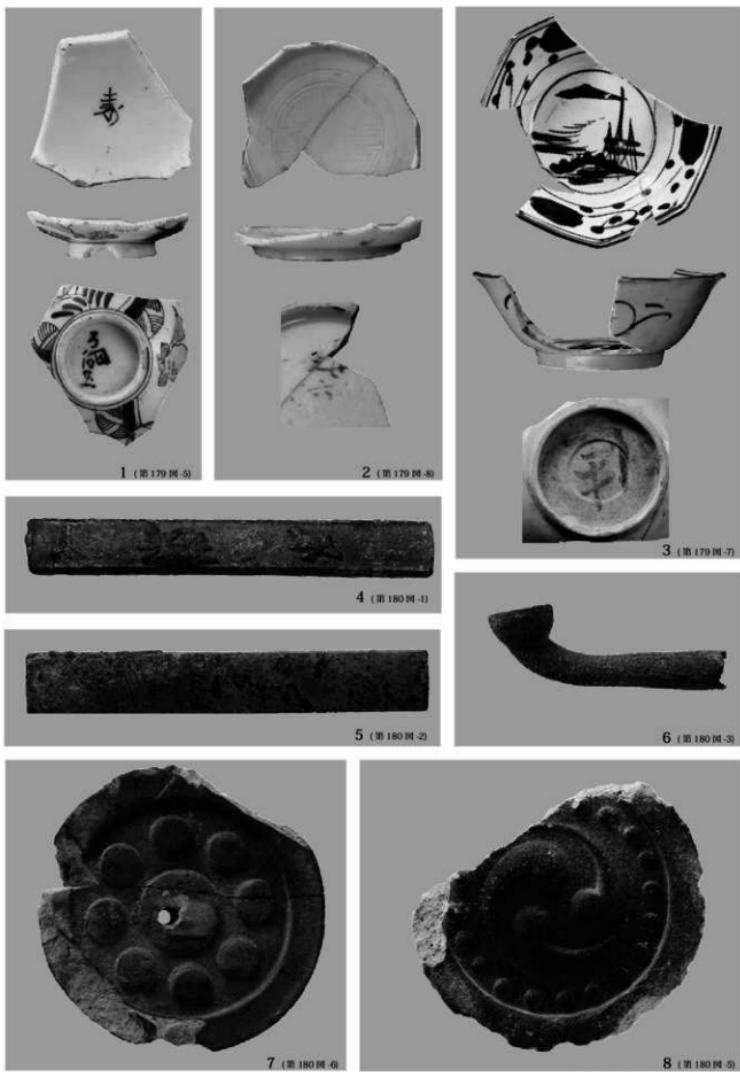
III a 層出土遺物

図版 89 西公園高架橋等 II 区 III a 層造構外出土遺物 (4)

出土遺物写真



図版 90 西公園高架橋等 II 区 I 層・II 層・擾乱出土遺物 (1)



図版 91 西公園高架橋等 II 区 I 層・II 層・撲乱出土遺物 (2)

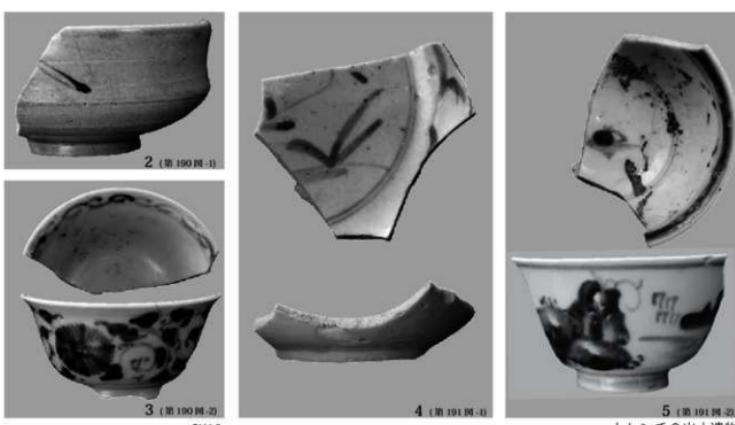
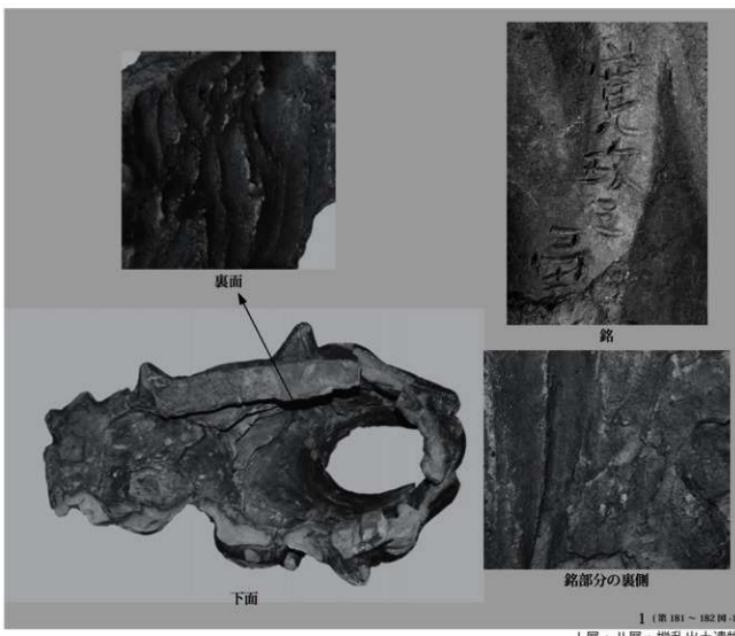
I 層・II 層・撲乱出土遺物

出土遺物写真



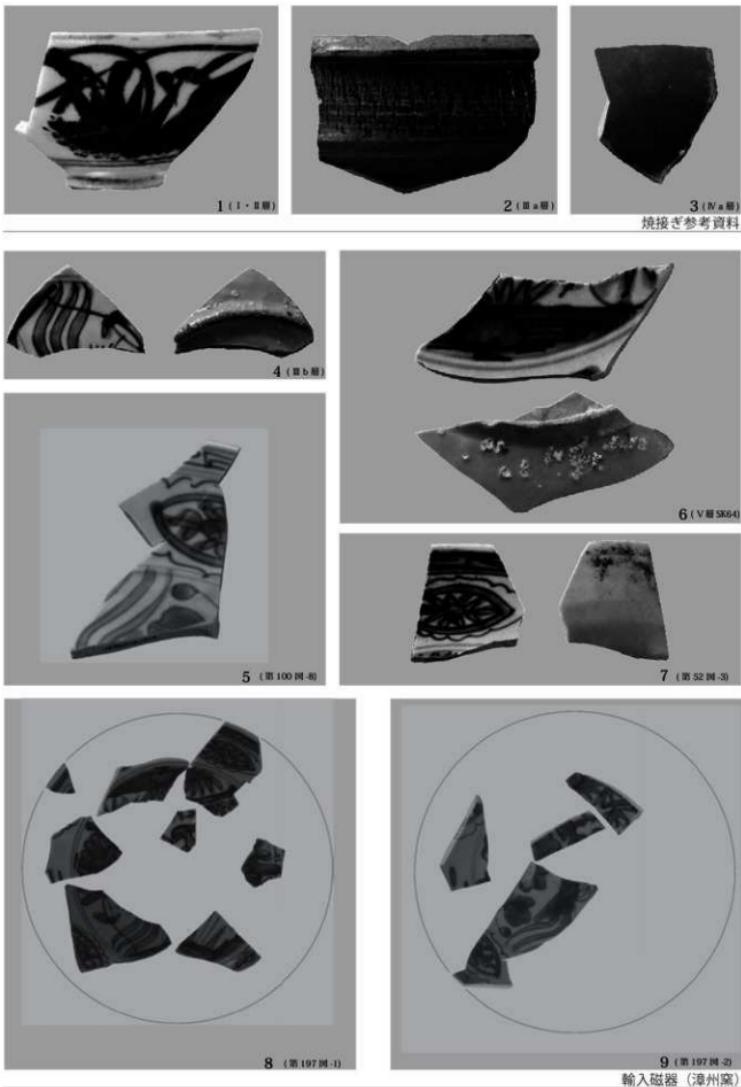
3 (第181)～(第182図-0)
I層・II層・撲乱出土遺物

図版 92 西公園高架橋等 II 区 I 層・II 層・撲乱出土遺物 (3)



図版 93 西公園高架橋等 II 区 I 層・II 層・搅乱出土遺物 (4)・西公園高架橋等 I 区 (排水管部) トレンチ 2 出土遺物

出土遺物写真



図版 94 焼接ぎ資料・漳州窯

報告書抄録

報告書抄録

ふりがな	さくらがおかこうえんせいきⅡせんだいしこうそくでつどうとうさいんかんけいいせきはつくつちょうさほうこくしまきゅう一							
書名	桜ヶ岡公園遺跡Ⅱ —仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅳ—							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番	第403集							
編著者名	渡部紀 工藤信一郎 水野一夫 山本信夫 土橋尚起 武田芳雅							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区二日町1番1号 TEL 022 (214) 8839							
発行年月日	2012年3月9日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
さくらがおかこうえんせいき 桜ヶ岡公園遺跡	みやぎやんせんだいし 宮城県仙台市 あおば区 青葉区 さくらがおかこうえんせいき 桜ヶ岡公園地内	4100	01562	38° 26° 00°	140° 86° 00°	平成19年5月10日～平成19年8月15日 (平成19年度現地調査) 平成21年7月13日～平成22年1月6日 (平成21年度現地調査) 平成22年5月26日～平成22年6月10日 (平成22年度現地調査)	248m ² 789m ² 25m ²	仙台市高速鉄道東西線建設事業に伴う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
さくらがおかこうえんせいき 桜ヶ岡公園遺跡	武家屋敷	江戸時代	柱跡 建物跡 溝跡 井戸跡 土坑 道路状遺構 祭祀遺構 性格不明遺構		陶器 磁器 瓦 金属製品 土製品 木製品 石製品	金箔瓦、金箔土師質土器、「寛政三」銘鉢瓦、一分判金、小柄、荷札 木簡等多量の遺物が出土。		
要約	<p>桜ヶ岡公園遺跡は、広瀬川左岸、仙台中町段丘に立地する遺跡で、標高は32m～32.5mである。報告対象の調査区は、桜ヶ岡公園天文台跡地の西側にある崖下、旧市民プール周辺となる。</p> <p>平成19年度・21年度・22年度に3地点、計1062m²の調査を行なった結果、江戸時代の整地面(V層、IV b層、IV a層、III b層、III a層)を5面、整地前の遺構面(VI・VII層)を1面検出した。また、出土遺物の年代から、VI・VII層～18世紀前半以前、V層～18世紀前半～後半、IV b層～19世紀初頭以前、IV a層～19世紀初頭、III b層～19世紀前半～中頃、III a層～19世紀中頃に相当すると考えられる。</p> <p>平成21年度調査(西公園高架橋等II区)においては、IV b層、III a層上面で建物跡等居住域として利用されていた痕跡が確認された。VI・VII層およびV層・IV a層は土坑群が多く検出され、III b層は蛇行する溝跡などがあり、各遺構面において利用状態に差異が認められた。整地層からの出土遺物のうち特筆すべきものとして、金箔瓦、金箔土師質土器がある。また、一分判金と銅錢が面的に散布する地点があり、地鏡の可能性が考えられた。小柄が比較的多く出土し、製作技法の一端が判明した。また、撲乱からではあるが「寛政三」銘鉢瓦が出土している。</p> <p>平成19年度調査(西公園高架橋等I区)では大部分が近代に削平され、近世のものと思われる遺構は検出されているものの、正確な帰属層は不明である。平成22年度調査(西公園高架橋等I区(排水管部))では3箇所のトレンチ調査で、近世と考えられる土坑や、整地層が確認されている。</p>							

仙台市文化財調査報告書 第403集

桜ヶ岡公園遺跡Ⅱ 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書IX

2012年3月

発行 仙台市教育委員会
宮城県仙台市青葉区二日町1番1号
文化財課022(214)8839

印刷 今野印刷株式会社
宮城県仙台市若林区六丁の目西町2-10
022(288)6123